

西東京市

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第10期)・

認知症施策推進計画

策定のためのアンケート調査報告書

令和8年3月

西東京市

目次

第1章 調査概要.....	1
1 調査概要.....	3
2 各調査の目的と調査項目.....	5
3 報告書の見方.....	14
第2章 調査結果.....	17
1 高齢者一般調査.....	19
(1) 基本属性.....	19
(2) 日頃の生活.....	22
(3) 困りごとや相談先.....	34
(4) 健康管理.....	37
(5) 医療や介護.....	45
(6) 生きがい.....	52
(7) 認知症.....	58
(8) 高齢者虐待.....	62
(9) 高齢者を支える仕組み.....	63
2 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査.....	66
(1) 基本属性.....	66
(2) 家族や生活の状況.....	69
(3) 身体機能の状況.....	71
(4) 食事の状況.....	77
(5) 毎日の生活.....	80
(6) 地域での活動.....	87
(7) 助け合い.....	90
(8) 健康管理・予防.....	93
(9) 認知症.....	103
(10) 高齢者を支える仕組み.....	107
3 在宅介護実態調査.....	110
(1) A票 調査対象者（本人）の状況.....	110
(2) B票 主な介護者の状況.....	114
4 介護サービス事業者調査.....	120
(1) サービスの提供状況.....	120
(2) 事業の運営状況.....	122
(3) サービスの質の向上への取組.....	136
(4) 職員の処遇.....	146
(5) サービス提供における課題.....	151
(6) 地域生活課題の状況.....	156

(7) 災害時等の対応.....	160
(8) 西東京市への要望.....	161
5 医療機関調査.....	163
(1) 医療機関の現況.....	163
(2) 在宅医療の取組状況（病院以外）.....	165
(3) 医療と介護の連携.....	169
(4) 認知症.....	173
(5) 看取り.....	176
(6) 災害時等の体制.....	180
(7) 身寄りのない方への支援.....	182
(8) 西東京市の施策.....	183
資料編 アンケート調査票及び集計結果.....	187
1 高齢者一般調査.....	189
2 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査.....	197
3 在宅介護実態調査.....	205
4 介護サービス事業者調査.....	208
5 医療機関調査.....	218

第1章 調査概要

1 調査概要

(1) 調査目的

要介護認定を受けていない一般高齢者や総合事業対象者、在宅生活を送る要介護認定者等の生活実態のほか、介護サービス事業者や医療機関の実態等を把握し、西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第10期）・認知症施策推進計画の策定に向けたデータを得ることを目的として実施した。

(2) 調査の全体構成

調査の対象は、「高齢者等調査」、「介護サービス事業者調査」、「医療機関調査」の3つから構成される。

対象	属性	一般高齢者	要支援認定者	要介護認定者
高齢者等		調査1 高齢者一般調査		
		調査2 介護予防・日常生活圏域二ーズ調査		
			調査3 在宅介護実態調査	
介護サービス事業者		調査4 介護サービス事業者調査		
医療機関		調査5 医療機関調査		

(3) 調査対象

調査名	調査対象
調査1 高齢者一般調査	要介護認定を受けていない介護保険第1号被保険者 1,000人
調査2 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	介護予防・日常生活支援総合事業対象者・要支援認定を受けている介護保険第1号被保険者 1,000人 要介護認定を受けていない第1号被保険者 1,000人 計 2,000人
調査3 在宅介護実態調査	在宅で生活している要介護認定第1号被保険者 1,000人
調査4 介護サービス事業者調査	市内介護サービス事業者 191事業所
調査5 医療機関調査	市内医療機関 263機関

(4) 調査方法

調査1、調査2、調査3：郵送による配布・回収（礼状兼督促1回）

調査4、調査5：WEB調査

(5) 調査時期

令和7年11月4日（火）～11月25日（火）

(6) 回収数・回収率

調査名	発送数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
調査1 高齢者一般調査	1,000	721 (72.1%)	721 (72.1%)
調査2 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	2,000	1,523 (76.2%)	1,523 (76.2%)
調査3 在宅介護実態調査	1,000	693 (69.3%)	693 (69.3%)
調査4 介護サービス事業者調査	191	101 (52.9%)	101 (52.9%)
調査5 医療機関調査	263	112 (42.6%)	112 (42.6%)
計	4,454	3,150 (70.7%)	3,150 (70.7%)

2 各調査の目的と調査項目

調査1 高齢者一般調査

① 調査の目的

要介護認定を受けていない第1号被保険者の意識・意向や生活実態、介護予防・健康づくりの取組状況や社会活動への参加状況等を幅広く把握し、高齢者のニーズや課題を把握する。

② 調査項目

★：新規に追加した項目

(1) 基本属性
記入不可の理由 問1 性別 問2 年齢 問3 居住地区 問4 居住形態 ★問5 今後の西東京市への居住継続意向 問6 家族構成
(2) 日頃の生活
問7 何歳からが高齢者と考えているか 問8 働いているか ★問8-1 働いている又は働きたい主な理由 問8-2 何歳まで働きたいか 問9 介護・介助等をしている家族等の有無 問9-1 介護形態 問9-2 介護の困りごと 問10 福祉情報の入手先 ★問10-1 情報が入手できず困っていること 問11 使用している情報通信機器 ★問12 インターネット上で利用しているサービス 問13 情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向 問14 外出の頻度 問15 利用している交通手段 問16 地域の行事や活動への参加状況
(3) 困りごとや相談先
問17 日常生活で困っていること 問18 困りごとの相談先 ★問19 将来の備えとして不安に感じる事
(4) 健康管理
問20 健康状態（主観的健康感） 問21 食事の状況 問22 誰かと食事をする機会 問23 体調を維持するために行っていること 問24 健康維持のために利用したい場所 ★問25 トレーニングマシンの一般開放の認知度 問26 フレイルの認知度

(4) 健康管理 (続き)
問 27 フレイルチェックの利用経験・利用意向 ★問 27-1 今後は受けなくてよいと思う理由 問 28 短期集中予防サービスの利用意向 問 29 自覚症状
(5) 医療や介護
問 30 かかりつけ医の有無 問 31 かかりつけ歯科医の有無 問 32 かかりつけ薬局の有無 問 33 現在治療中の病気やけが 問 34 人生の最期を迎えたい場所 問 34-1 在宅での最期の実現可能性 問 34-2 在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由 問 35 延命治療についての希望 問 36 今後の希望について家族等へ意向を伝えているか 問 36-1 今後の希望についての意向の伝え方 問 36-2 今後の希望についての意向を伝えていない理由 ★問 37 人生の最終段階の医療・ケアを家族や医療・介護従事者と話し合っているか ★問 37-1 話し合ったことがない理由
(6) 生きがい
問 38 通いの場への参加経験 問 39 現在継続して行っていること、もしくは今後行いたいこと ★問 39-1 どのようにゲームを楽しんでいるか ★問 40 eスポーツの体験意向 ★問 40-1 eスポーツを体験しようと思った理由 ★問 40-2 eスポーツを体験してよかったこと 問 41 できると思う地域等の活動 問 42 現在の幸福度 ★問 43 幸せと感じる上で重要だと思うもの
(7) 認知症
★問 44 認知症についての認知度 ★問 45 認知症に関する知識 ★問 46 認知症について知りたいこと ★問 47 認知症になった場合の暮らしへの意向 ★問 48 地域で暮らす認知症のある人にできる(できそうな)支援 ★問 49 自身や家族が認知症になったときに相談する(した)場所・人 ★問 50 認知症のある人や家族への支援について今後望むこと
(8) 高齢者虐待
問 51 高齢者虐待につながる可能性があると思うもの 問 52 高齢者虐待の通報先の認知度
(9) 高齢者を支える仕組み
問 53 地域包括支援センターの認知度 ★問 54 高齢者福祉サービスの利用の有無 ★問 54-1 今後利用したい・必要だと思う高齢者福祉サービス 問 55 増大する高齢者福祉サービスへの対応方法 問 56 今後地域で暮らしていくために必要だと思うこと

調査2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（国調査）

① 調査の目的

一般高齢者や介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援認定者のリスクや生活状況等を調査し、地域の高齢者の抱える課題やニーズを把握する。

② 調査項目

★：新規に追加した項目

(1) 基本属性
記入不可の理由 問1 記入日 問2 調査票の記入者 問3 性別 問4 年齢 問5 要支援認定の状況 問6 居住地区
(2) 家族や生活の状況
問7 家族構成 問8 介護・介助の必要性 問8-1 介護・介助が必要になった原因 問9 現在の経済状況 問10 居住形態 ★問11 今後の西東京市への居住継続意向
(3) 身体機能の状況
問12 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること 問13 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること 問14 15分位続けて歩くこと 問15 過去1年以内に転んだ経験 問16 転倒に対する不安 問17 外出の頻度 問18 昨年と比較した外出の頻度 問19 外出を控えているか 問19-1 外出を控えている理由 問20 外出する際の移動手段
(4) 食事の状況
問21 身長・体重 問22 半年前に比べ固いものが食べにくくなったか 問23 お茶や汁物等でむせることがあるか 問24 口の渇きが気になるか 問25 歯の数と入れ歯の利用状況 問26 6か月間で2～3kgの体重減少があったか 問27 誰かと食事をする機会
(5) 毎日の生活
問28 物忘れが多いと感じるか 問29 バスや電車を使って1人で外出しているか 問30 自分で食品・日用品の買物をしているか 問31 自分で食事の用意をしているか 問32 自分で請求書の支払いをしているか 問33 自分で預貯金の出し入れをしているか 問34 年金などの書類が書けるか 問35 新聞を読んでいるか

(5) 毎日の生活 (続き)	
問 36	本や雑誌を読んでいるか
問 37	健康についての記事や番組に関心があるか
問 38	友人の家を訪ねているか
問 39	家族や友人の相談にのっているか
問 40	病人を見舞うことができるか
問 41	若い人に自分から話しかけることがあるか
問 42	使用している情報通信機器
★問 43	インターネット上で利用しているサービス
問 44	情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向
(6) 地域での活動	
問 45	地域での活動への参加頻度
問 46	地域活動への参加者としての参加意向
問 47	地域活動への企画・運営としての参加意向
(7) 助け合い	
問 48	心配事や愚痴を聞いてくれる人
問 49	心配事や愚痴を聞いてあげる人
問 50	看病や世話をしてくれる人
問 51	看病や世話をしてあげる人
問 52	何かあった時に相談する相手
問 53	友人・知人と会う頻度
(8) 健康管理・予防	
問 54	健康状態 (主観的健康感)
問 55	現在の幸福度
問 56	この1か月で気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあるか
問 57	この1か月で物事に興味がわかない、楽しめないことがあったか
問 58	喫煙習慣の有無
★問 59	飲酒習慣の有無
問 60	現在治療中又は後遺症のある病気
問 61	「フレイル」の認知度
問 62	フレイルチェックの利用経験・利用意向
★問 62-1	今後は受けなくてよいと思う理由
★問 63	コンピューターや家庭用ゲーム機を用いたゲームを楽しんでいるか
★問 63-1	どのようにゲームを楽しんでいるか
★問 64	eスポーツの体験意向
★問 64-1	eスポーツを体験しようと思った理由
★問 64-2	eスポーツを体験してよかったこと
問 65	短期集中予防サービスの利用意向
(9) 認知症	
★問 66	認知症についての認知度
★問 67	認知症に関する知識
★問 68	認知症について知りたいこと
★問 69	認知症になった場合の暮らしへの意向
★問 70	地域で暮らす認知症のある人にできる (できそうな) 支援
★問 71	自身や家族が認知症になったときに相談する (した) 場所・人
★問 72	認知症のある人や家族への支援について今後望むこと
(10) 高齢者を支える仕組み	
問 73	地域包括支援センターの認知度
★問 74	高齢者福祉サービスの利用の有無
★問 74-1	今後利用したい・必要だと思う高齢者福祉サービス
問 75	増大する高齢者福祉サービスへの対応方法

調査3 在宅介護実態調査（国調査）

① 調査の目的

「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けたサービスのあり方を検討するため、主に在宅で生活する要介護認定者を対象に、在宅での介護の状況を把握する。

② 調査項目

A票 [調査対象者（本人）の状況]	
問1	回答記入者
問2	世帯類型
問3	性別
問4	年齢
問5	要介護度
問6	施設等への入所・入居の検討状況
問7	介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）の利用の有無
問8	介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）の利用状況
問9	介護者の介護の頻度
B票 [主な介護者の状況]	
問1	介護者の介護のための離職の有無
問2	主な介護者の年齢
問3	今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護
問4	主な介護者の勤務形態
問5	主な介護者の働き方の調整状況
問6	主な介護者の就業継続の可否に係る意識

調査4 介護サービス事業者調査

① 調査の目的

西東京市の介護保険事業の適切な運営に向けた方策を検討するため、市内の介護サービス事業者について、今後の事業展開や事業課題、市への意見や要望等を把握する。

② 調査項目

★：新規に追加した項目

(1) サービスの提供状況
問1 事業所名 問2 介護事業所番号 問3 回答する事業所のサービス種別 問4 提供している介護保険サービス
(2) 事業の運営状況
問5 事業運営上で困難に感じていること 問6 職員の充足状況 問7 職員の就職・離職状況 問8(1) 現在行っている人材確保の取組 問8(2) 今後行いたい人材確保の取組 問9 問8でその他と回答した場合の具体的な内容 問10 特に確保が困難な職種 ★問11 人材不足の影響を受けていると感じる業務 問12 実施している早期離職防止や定着促進策 問13 キャリア形成支援のために行っている研修や資格取得支援 ★問14 外国人人材の雇用に向けた取組や考え方 ★問15 外国人人材の雇用にあたり行っている支援・工夫 ★問16 外国人人材の受入の意向がない理由 問17 医療的ケアへの対応状況 問18 医療機関との連携で取り組んでいること 問19 医療機関との連携における課題
(3) サービスの質の向上への取組
問20(1) サービス向上に向けた現在の課題 問20(2) サービス向上に向けた今後の取組 問21 問20でその他と回答した場合の具体的な内容 問22 利用者の自立支援を意識したサービス提供の実施状況 問23 介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービス提供の有無 問24 介護予防・日常生活支援総合事業の課題 問25 今後のサービス提供の見通し 問26 ICT機器や介護ロボット等の活用状況 問27 ICT機器の活用状況 問28 問27でその他と回答した場合の具体的な内容 問29 介護ロボットの活用状況 問30 ICT機器や介護ロボット等の活用意向がない理由 問31 LIFE（科学的介護情報システム）への登録・活用状況 問32 LIFE（科学的介護情報システム）を活用する場面 ★問33 ケアプランデータ連携システムの普及のために期待する支援

(4) 職員の処遇
問 34 前年比の収支状況 問 35 前年比の収支変化の理由 ★問 36 職員の処遇改善新加算の取得の有無 ★問 37 取得した効果 ★問 38 取得していない理由 問 39 各種手当の引き上げ、新設 問 40 処遇全般、教育・研修、職場環境の改善策 問 41 職員の処遇改善を行う上での課題
(5) サービス提供における課題
★問 42 サービス提供をする上で困難だったこと ★問 43 困難なケースへの対応 ★問 44 認知症のある人へのサービス提供にあたって配慮していること ★問 45 認知症のある人に対応する際に心がけていること ★問 46(1) 量的に不足しているサービス ★問 46(2) ケアプランに組み入れにくいサービス
(6) 地域生活課題の状況
★問 47 行いたい地域交流・地域貢献 問 48 問 47 でその他と回答した場合の具体的な内容 問 49 利用者支援の側からみた地域課題 問 50 地域課題解決のために必要なこと
(7) 災害時等の対応
★問 51 高齢者の災害時におけるリスク
(8) 西東京市への要望
問 52 保険者としての西東京市に望むこと 問 53 介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきこと

調査5 医療機関調査

① 調査の目的

「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」及び「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」等の趣旨を踏まえ、医療機関の在宅療養支援や認知症対応の実態・課題を把握する。

② 調査項目

★：新規に追加した項目

(1) 医療機関の現況	
問1	記入者の職種
問2	医療機関の種類
問3	在宅医療実施に対する考え方
問4	在宅医療を実施する上での課題
(2) 在宅医療の取組状況（病院以外）	
問5	一般診療所の在宅医療の実施状況（令和7年11月1日現在）
問6	歯科診療所の在宅医療の実施状況（令和7年11月1日現在）
問7	薬局の在宅医療の実施状況（令和7年11月1日現在）
問8	令和7年10月の1か月間における在宅医療患者数
問9	問8でその他に回答した場合の具体的な内容
問10	さらに対応できる在宅医療患者数
問11	在宅医療を行う区域や距離の設定
問12	問11で設定している区域や距離の具体的な内容
問13	在宅医療を行う時間帯の設定
(3) 医療と介護の連携	
問14	医療と介護の連携状況
問15	医療と介護の連携方法
問16	連携が不十分だと思う理由
問17	患者に関わる関係機関、職種との連携状況
問18	在宅療養連携支援センターの認知度
問19	在宅療養連携支援センターに期待すること
問20	医療と介護の連携についての意向
(4) 認知症	
問21	認知症のある人の受診・治療にあたり配慮していること
問22	認知症のある人の治療にあたり連携している機関
問23	認知症のある人も含めた医療職と介護職の連携のために充実すべきこと
(5) 看取り	
問24	1年間（令和6年11月1日から令和7年10月31日）に在宅で看取った人数
問25	在宅での看取りが可能な条件
問26	在宅での看取りに関する課題等
問27	ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実践
問28	ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を進める上で必要なこと
(6) 災害時等の体制	
★問29	災害時の診療を継続するための体制
★問30	災害時等の対応として取り組んでいること
★問31	高齢者の災害時におけるリスク

(7) 身寄りのない方への支援
★問 32 身寄りのない方への支援で困ること
★問 33 ガイドラインの認知度
(8) 西東京市の施策
問 34 地域包括ケアシステム構築に向けた課題
問 35 西東京市の在宅医療・介護連携や介護保険制度についての意見・要望

3 報告書の見方

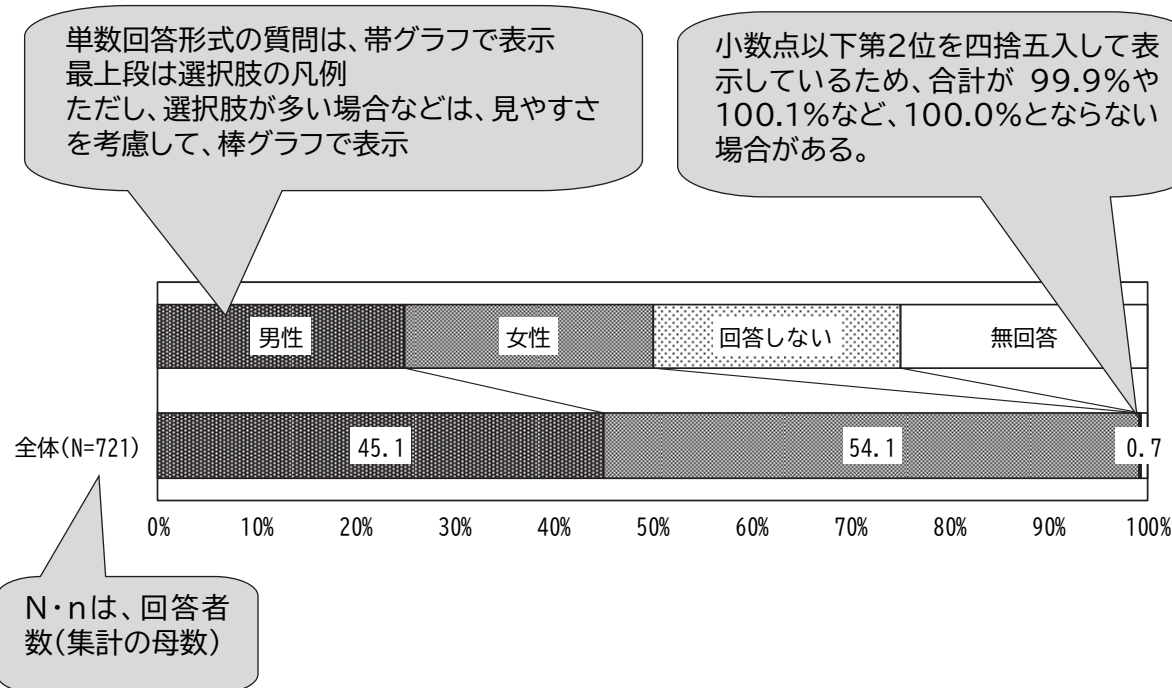
(1) 集計結果の表記方法

- ・ 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN、それ以外の場合にはnと表記している。
- ・ %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも100%にならない場合がある。
- ・ 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%(割合)の合計は100%にならない。複数回答のグラフ、表については、原則、%(割合)が高い順に並び替えている。順番に意味がある場合には選択肢順となっている。
- ・ 性別、年代別の集計結果などでは、無回答を除いているため、合計が全体とは一致しない。全体は、性別、年代やそれらの無回答者を足し合わせたものである。また、複数回答の質問では、すべての回答比率を合計しても100%にならない場合がある。
- ・ 本文、グラフ、表の選択肢の表現は一部省略されている場合がある。
- ・ 本報告書における「圏域」は地域包括支援センターの地域割りを指す。各圏域を所管する地域包括支援センターと担当地域は次のとおりである。

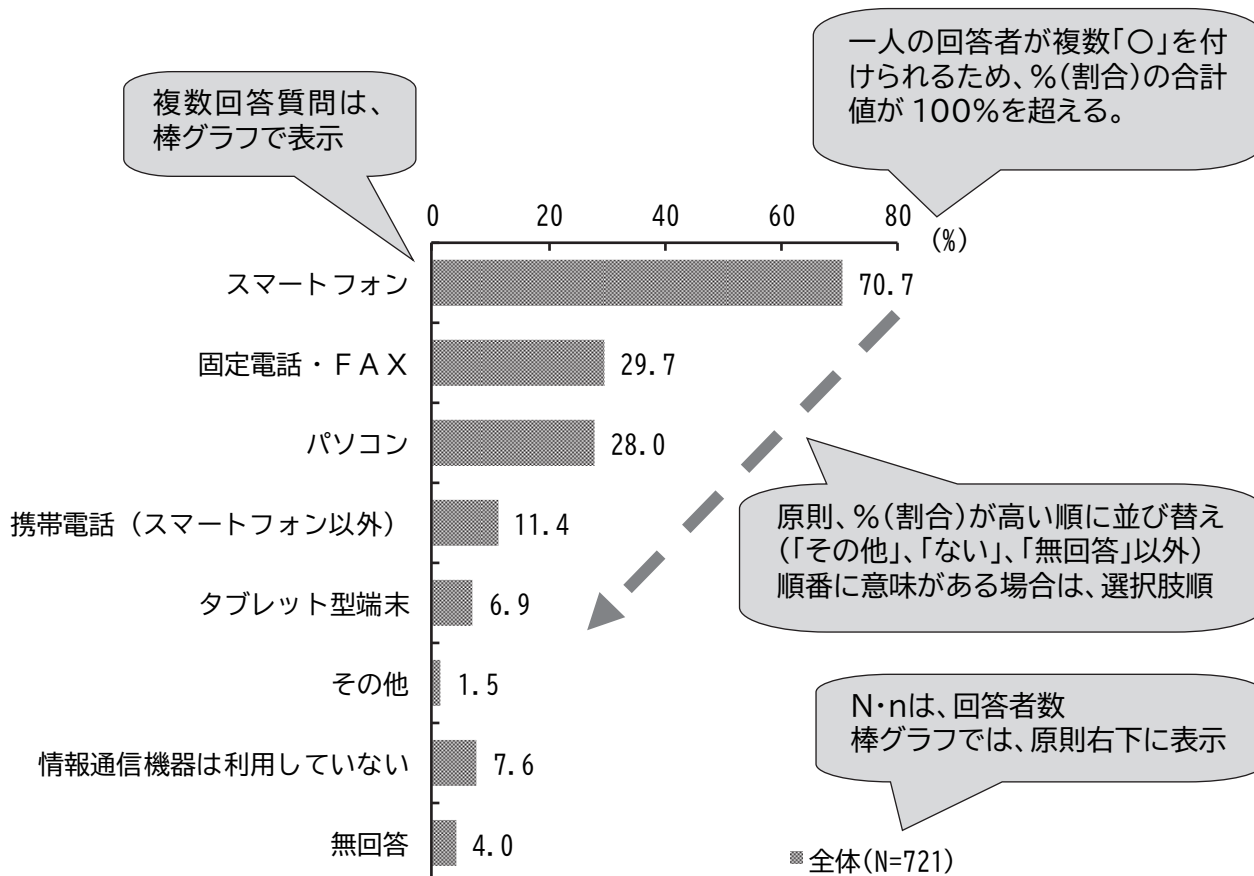
圏域	地域包括支援センター名	担当地域
栄町包括圏域	栄町地域包括支援センター	ひばりが丘北
		北町
		栄町
		下保谷
富士町包括圏域	富士町地域包括支援センター	東町
		中町
		富士町
泉町包括圏域	泉町地域包括支援センター	北原町
		泉町
		住吉町
田無町包括圏域	田無町地域包括支援センター	田無町
		保谷町
緑町包括圏域	緑町地域包括支援センター	緑町
		谷戸町
		ひばりが丘
西原町包括圏域	西原町地域包括支援センター	西原町
		芝久保町
向台町包括圏域	向台町地域包括支援センター	南町
		向台町
新町包括圏域	新町地域包括支援センター	新町
		柳沢
		東伏見

(2) グラフ・表の見方

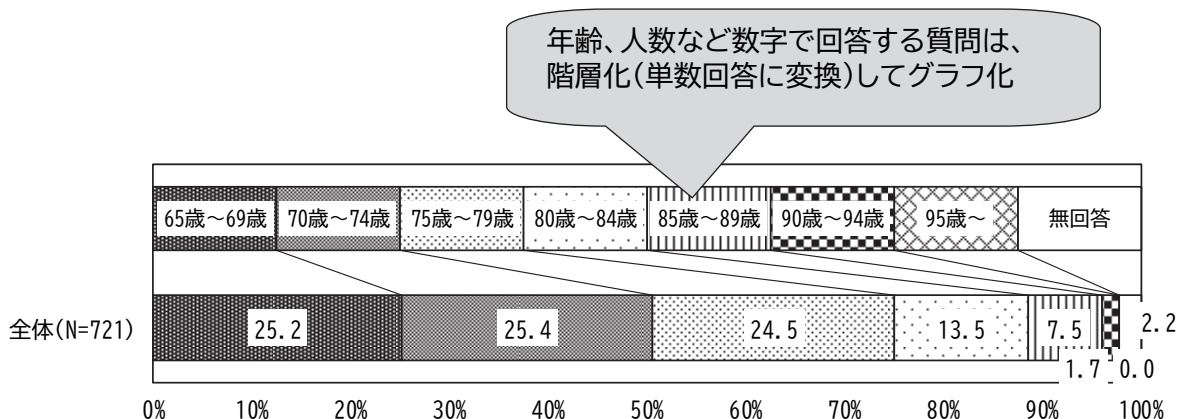
① 単数回答（「1つに○」形式の質問）



② 複数回答（「いくつでも○」、「3つまで○」形式の質問）



③ 数量（年齢、人数など数値で回答する質問）



④ クロス集計表

回答者数(人数)は、無回答を除いているため、性・年代別等の合計が全体とは一致しない
 全体は、性別、年代やそれらの無回答者を足し合わせたもの

複数回答の質問は、原則、全体の% (割合)が高い順に並び替え(「その他」、「ない」、「無回答」以外)
 順番に意味がある場合は、選択肢順

		回答者数	スマートフォン	固定電話・FAX	パソコン	携帯電話(スマートフォン以外)	タブレット型端末	その他	情報通信機器は利用していない	無回答
全体		721	70.7	29.7	28.0	11.4	6.9	1.5	7.6	4.0
性・年代別	男性-65～74歳	171	83.0	28.1	50.9	9.9	10.5	0.6	3.5	0.6
	男性-75～84歳	118	67.8	23.7	33.9	11.9	7.6	0.8	11.9	3.4
	男性-85歳以上	33	30.3	42.4	15.2	12.1	0.0	6.1	21.2	9.1
	女性-65～74歳	193	86.0	29.0	21.8	5.7	7.8	0.5	4.1	2.6
	女性-75～84歳	155	61.3	32.9	16.1	15.5	4.5	2.6	8.4	7.1
	女性-85歳以上	33	27.3	42.4	0.0	33.3	0.0	6.1	12.1	6.1

第2章 調査結果

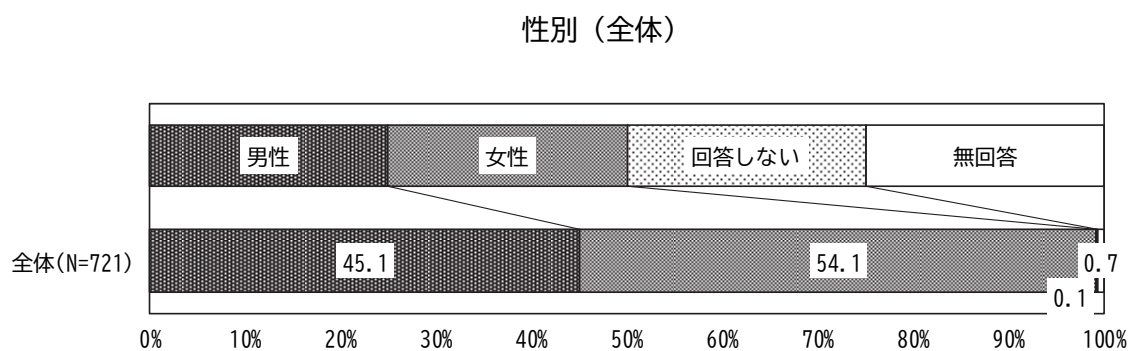
1 高齢者一般調査

※問番号は調査票の質問を表しています。

(1) 基本属性

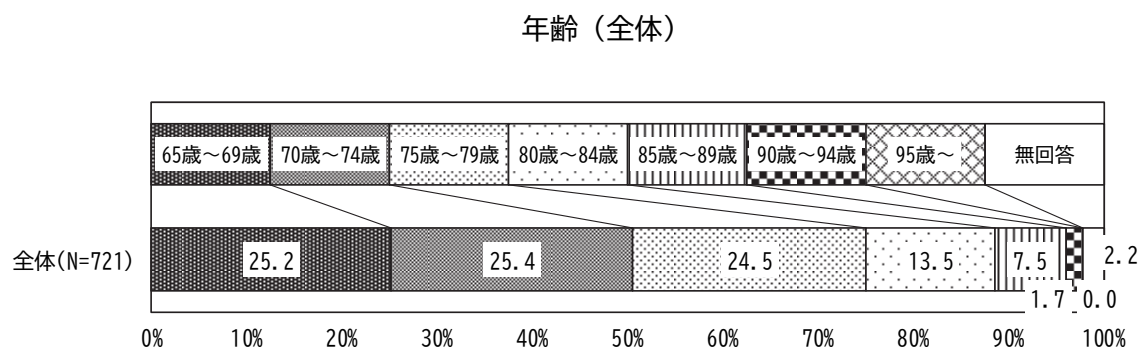
① 性別 (問1)

性別は、「男性」が45.1%、「女性」が54.1%となっている。



② 年齢 (問2)

年齢は、前期高齢者 (65～74 歳) が 50.6%、後期高齢者 (75 歳以上) が 47.2%となっている。



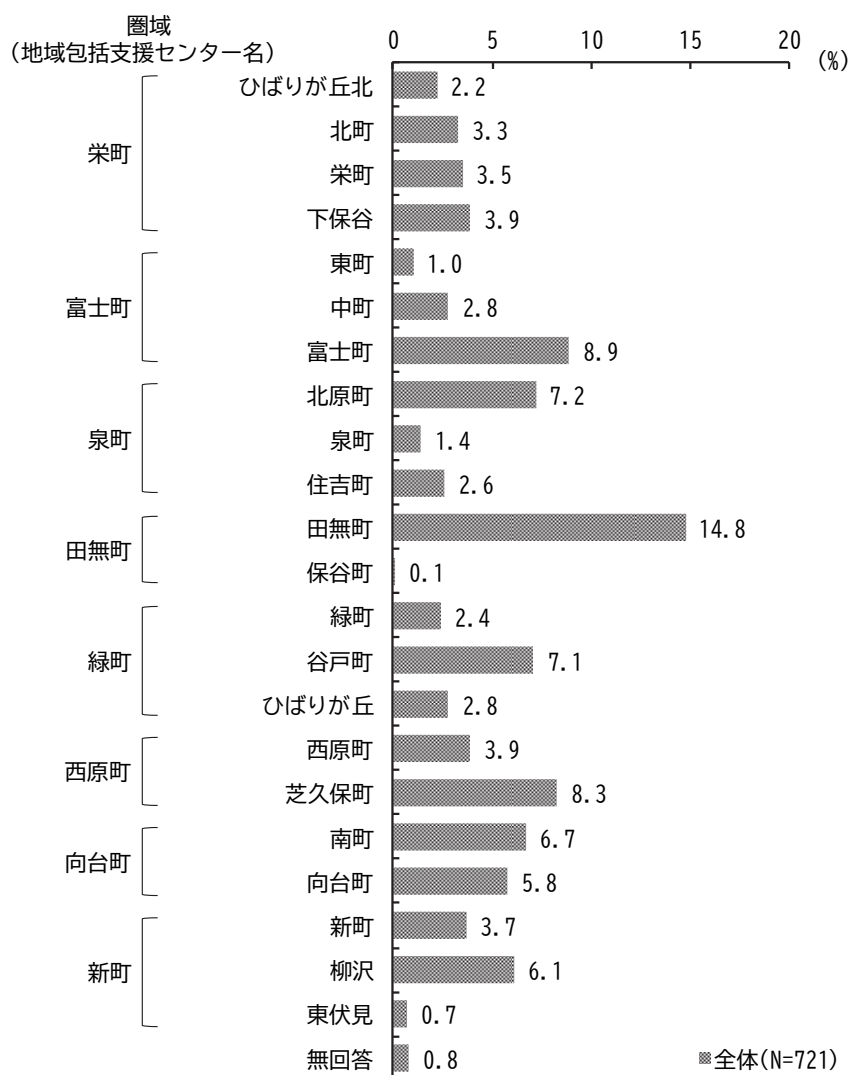
第2章 調査結果

③ 居住地区（問3）

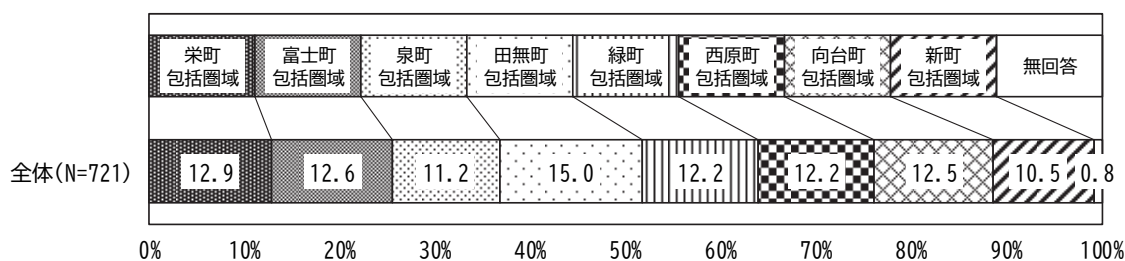
居住地区は、「田無町」（14.8%）が最も高く、「富士町」（8.9%）、「芝久保町」（8.3%）の順で続いている。

居住圏域で見ると、「田無町包括圏域」（15.0%）が最も高く、「柴町包括圏域」（12.9%）、「富士町包括圏域」（12.6%）、「向台町包括圏域」（12.5%）の順で続いている。

居住地区（全体）



居住圏域（全体）

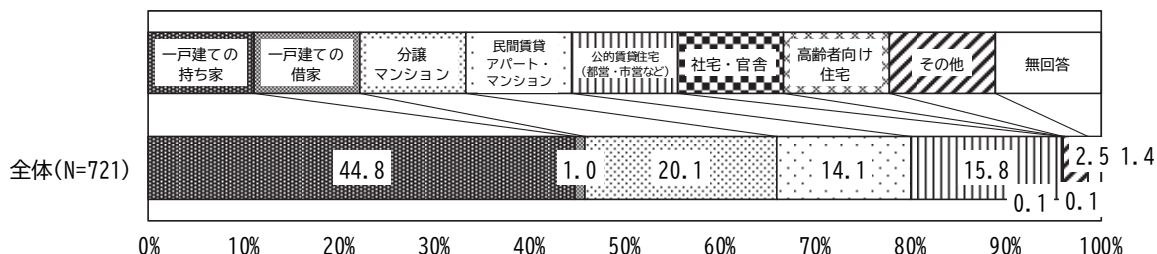


※居住圏域の割合(%)は、該当する居住地区の回答者数を合計して割合(%)を算出しているため、グラフ記載の割合(%)を合計した値と異なる場合がある

④ 居住形態（問4）

居住形態は、「一戸建ての持ち家」（44.8%）が最も高く、「分譲マンション」（20.1%）、「公的賃貸住宅（都営・市営など）」（15.8%）の順で続いている。

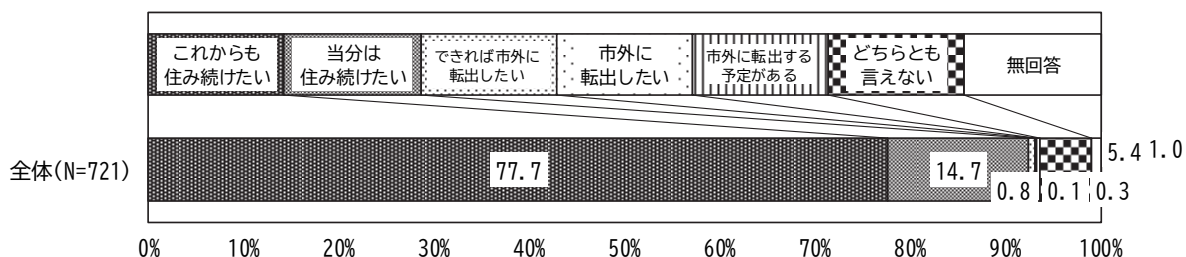
居住形態（全体）



⑤ 今後の西東京市への居住継続意向（問5）

今後の西東京市への居住継続意向は、「これからも住み続けたい」（77.7%）が最も高く、「当分は住み続けたい」（14.7%）、「どちらとも言えない」（5.4%）の順で続いている。

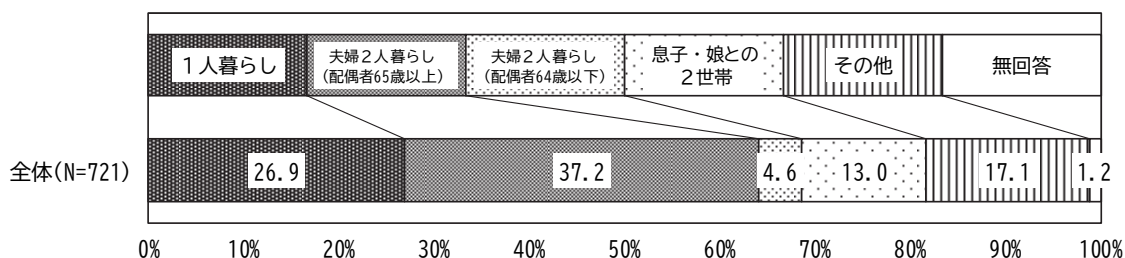
今後の西東京市への居住継続意向（全体）



⑥ 家族構成（問6）

家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（37.2%）が最も高く、「1人暮らし」（26.9%）、「息子・娘との2世帯」（13.0%）の順で続いている。

家族構成（全体）



(2) 日頃の生活

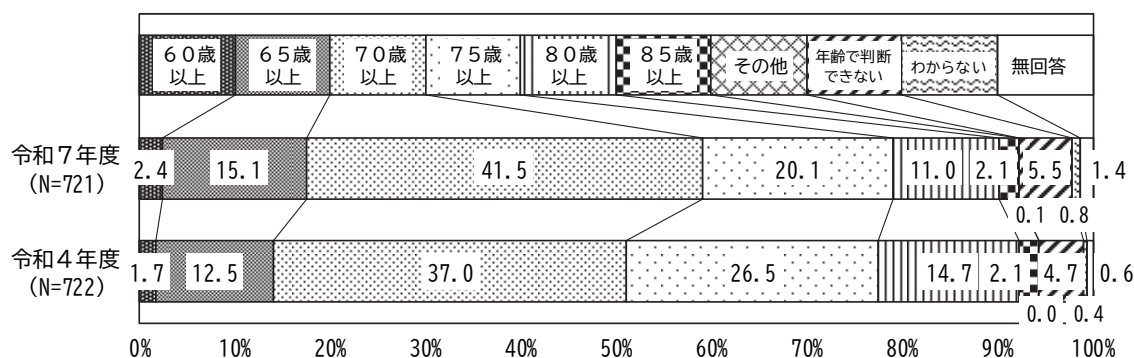
① 何歳からが高齢者と考えているか（問7）

何歳からが高齢者と考えているかは、「70歳以上」が41.5%、「75歳以上」が20.1%であり、高齢者は、70歳以上であると考えている人が過半数となっている。

前回の調査と比較すると、「70歳以上」（今回：41.5%、前回：37.0%）が最も高いことは変わらないが、「65歳以上」（今回：15.1%、前回：12.5%）の割合が2.6ポイント高くなっており、「75歳以上」（今回：20.1%、前回：26.5%）の割合が6.4ポイント低くなっている。

性・年代別にみると、【男女ともに65～74歳】、【男女ともに75～84歳】、【男性85歳以上】では「70歳以上」が最も高く、【女性85歳以上】では「80歳以上」（36.4%）が最も高くなっている。

何歳からが高齢者と考えているか（全体）【前回比較】



何歳からが高齢者と考えているか（全体、性・年代別）

		回答者数	60歳以上	65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	その他	年齢で判断できない	わからない	無回答
全体		721	2.4	15.1	41.5	20.1	11.0	2.1	0.1	5.5	0.8	1.4
性・年代別	男性-65～74歳	171	5.8	18.7	44.4	18.1	6.4	0.6	0.0	5.3	0.6	0.0
	男性-75～84歳	118	0.8	11.9	44.9	22.0	12.7	0.8	0.0	5.1	0.8	0.8
	男性-85歳以上	33	0.0	15.2	27.3	21.2	9.1	24.2	0.0	3.0	0.0	0.0
	女性-65～74歳	193	2.6	22.3	45.1	15.5	6.7	0.0	0.0	6.2	1.0	0.5
	女性-75～84歳	155	0.0	7.7	40.0	27.7	15.5	2.6	0.0	5.2	0.0	1.3
	女性-85歳以上	33	3.0	3.0	24.2	15.2	36.4	0.0	3.0	6.1	3.0	6.1

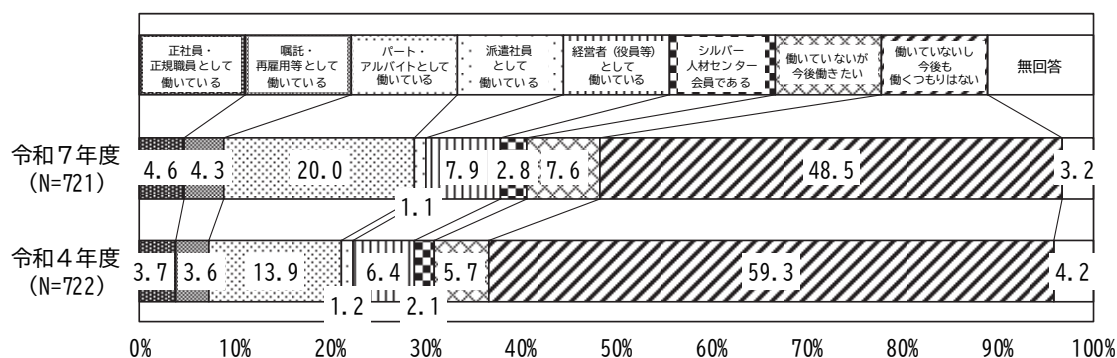
② 働いているか（問8）

働いているかは、「働いていないし今後も働くつもりはない」（48.5%）が約半数であり、働いている人では、「パート・アルバイトとして働いている」（20.0%）が最も高く、「経営者（役員等）として働いている」（7.9%）が続いている。

前回調査と比較すると、「正社員・正規職員として働いている」から「シルバー人材センター会員である」までを合計した現在働いている人の割合は、30.9%から40.7%と9.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高いほど、現在働いている割合は低くなる。その割合は、【男女ともに65～74歳】では50%台、【男性75～84歳】では32.9%、【女性75～84歳】では25.1%、【男性85歳以上】では18.2%、【女性85歳以上】では12.0%となっている。

働いているか（全体）【前回比較】



働いているか（全体、性・年代別）

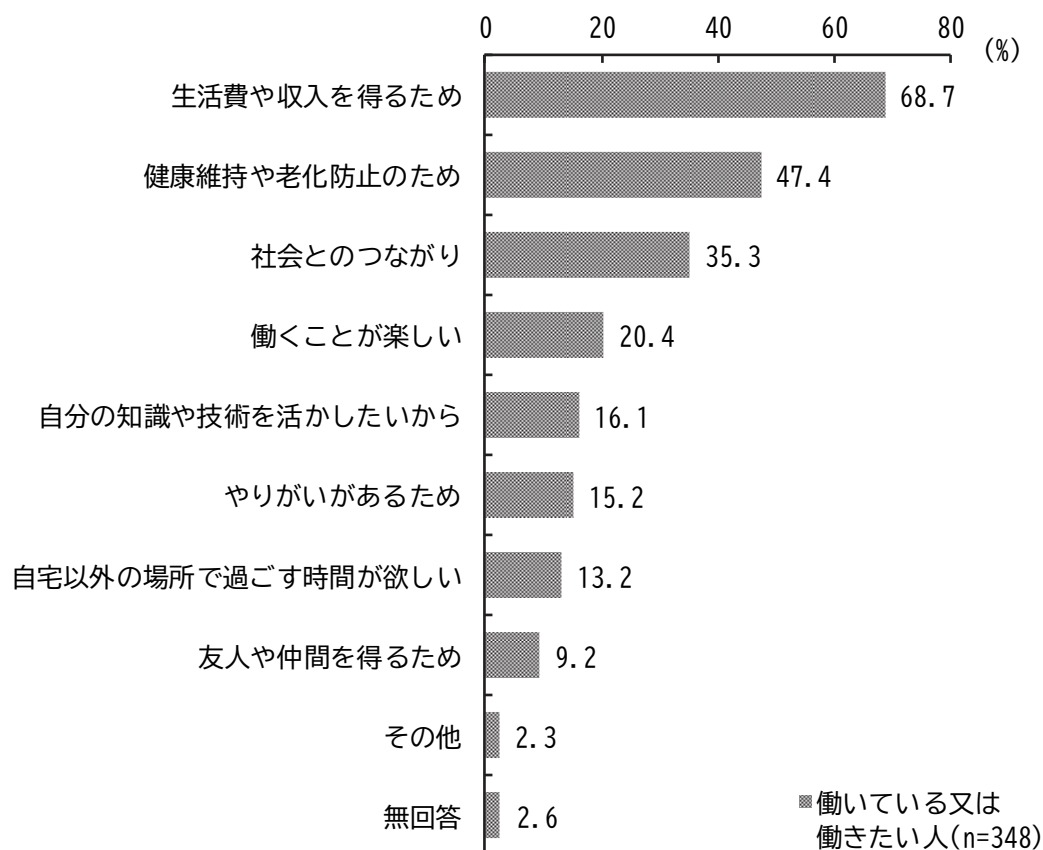
		(人、%)									
	回答者数	と正社員・働いて正規職員	と嘱託・働いて再雇用等	とパート・働いてアルバイト	と派遣社員として働いている	と経営者（役員等）として働いている	シルバー人材センターである	今後働きたいが働いていない	今後働かないつもりはない	無回答	
全体	721	4.6	4.3	20.0	1.1	7.9	2.8	7.6	48.5	3.2	
性・年代別	男性-65～74歳	171	10.5	10.5	21.1	2.3	11.7	1.8	9.9	32.2	0.0
	男性-75～84歳	118	2.5	2.5	12.7	0.8	10.2	4.2	5.9	59.3	1.7
	男性-85歳以上	33	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	75.8	6.1
	女性-65～74歳	193	4.7	4.7	36.3	1.6	4.1	1.6	9.3	36.8	1.0
	女性-75～84歳	155	0.6	0.0	12.9	0.0	8.4	3.2	7.1	61.3	6.5
	女性-85歳以上	33	3.0	0.0	3.0	0.0	3.0	3.0	0.0	87.9	0.0

第2章 調査結果

③ 働いている又は働きたい主な理由（問8-1）

働いている又は働きたい人に働いている又は働きたい主な理由をたずねたところ、「生活費や収入を得るため」（68.7%）が最も高く、「健康維持や老化防止のため」（47.4%）、「社会とのつながり」（35.3%）の順で続いている。

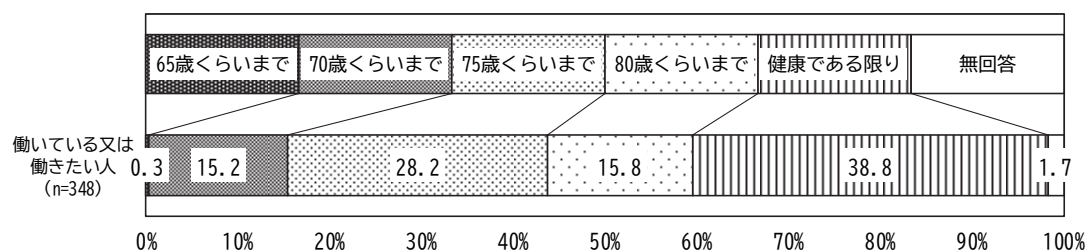
働いている又は働きたい主な理由（働いている又は働きたい人：複数回答）



④ 何歳まで働きたいか（問8-2）

働いている又は働きたい人に何歳まで働きたいかたずねたところ、「健康である限り」（38.8%）、「75歳くらいまで」（28.2%）が高くなっている。

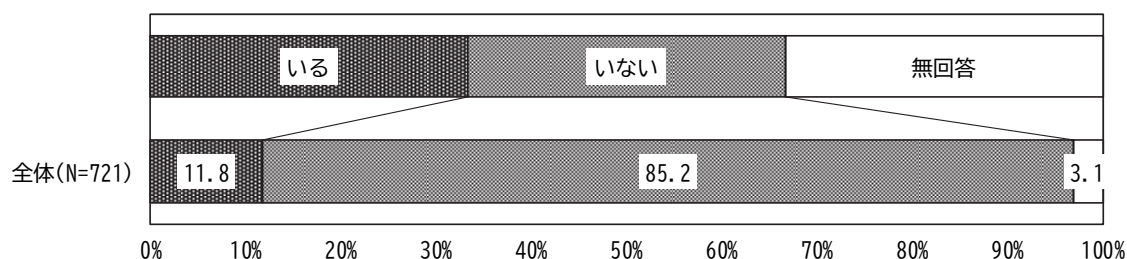
何歳まで働きたいか（働いている又は働きたい人）



⑤ 介護・介助等をしている家族等の有無（問9）

介護・介助等をしている家族等の有無は、「いる」が11.8%となっている。

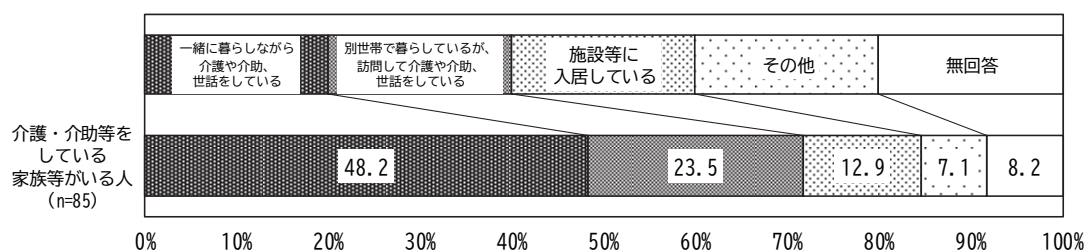
介護・介助等をしている家族等の有無（全体）



⑥ 介護形態（問9-1）

介護・介助等をしている家族等がいる人に介護形態をたずねたところ、「一緒に暮らしながら介護や介助、世話をしている」(48.2%) が約半数であり、「別世帯で暮らしているが、訪問して介護や介助、世話をしている」(23.5%)、「施設等に入居している」(12.9%) の順で続いている。

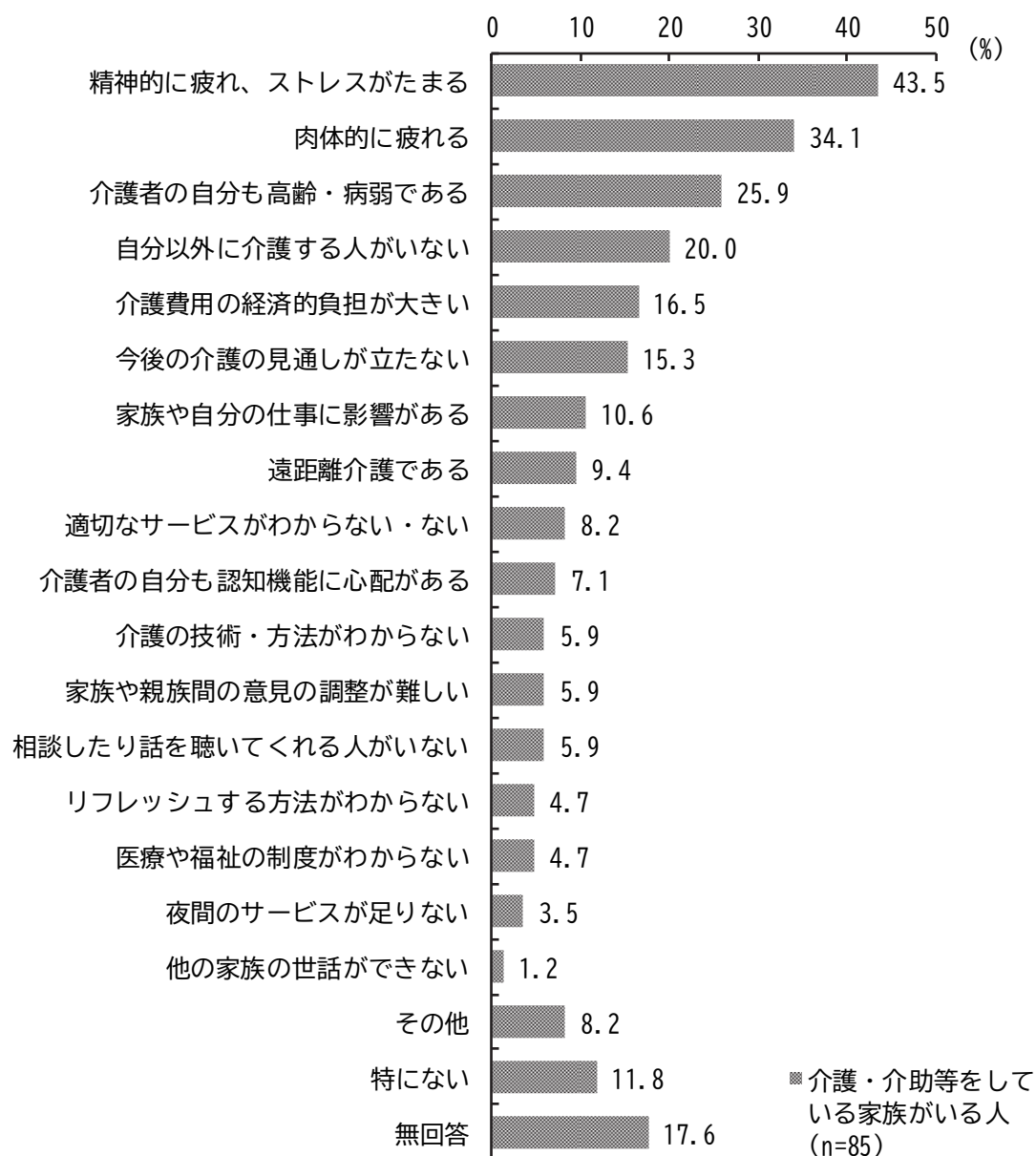
介護形態（介護・介助等をしている家族等がいる人）



⑦ 介護の困りごと（問9-2）

介護・介助等をしている家族がいる人に介護の困りごとをたずねたところ、「精神的に疲れ、ストレスがたまる」（43.5%）が最も高く、「肉体的に疲れる」（34.1%）、「介護者の自分も高齢・病弱である」（25.9%）、「自分以外に介護する人がいない」（20.0%）の順で続いている。なお、「その他」（8.2%）の具体的な内容は、本人と介護者の関係に関する意見等であった。

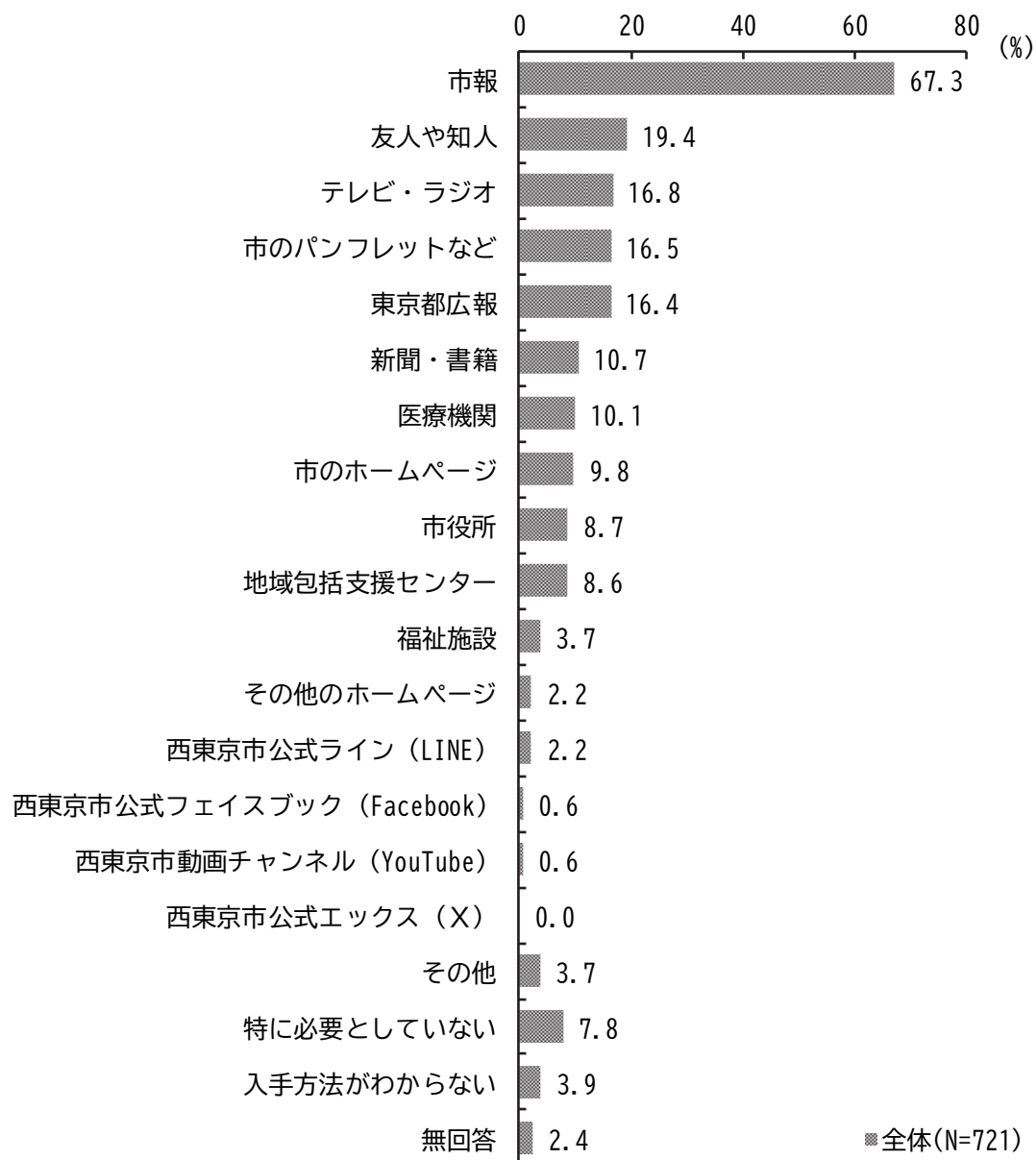
介護の困りごと（介護・介助等をしている家族がいる人：複数回答）



⑧ 福祉情報の入手先（問10）

福祉情報の入手先は、「市報」（67.3%）が最も高く、「友人や知人」（19.4%）の順で続いている。なお、「特に必要としていない」は7.8%、「入手方法がわからない」は3.9%となっている。

福祉情報の入手先（全体：複数回答）

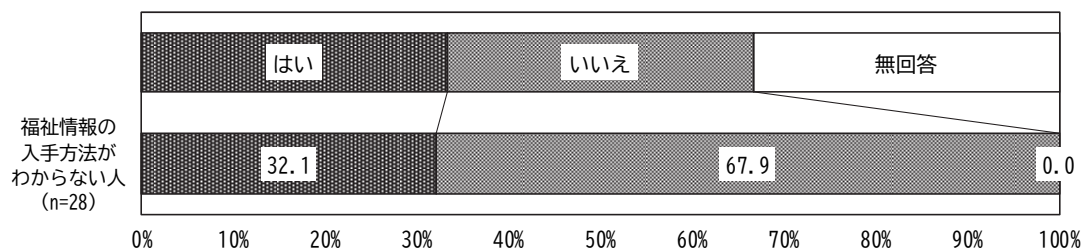


第2章 調査結果

⑨ 情報が入手できず困っているか（問 10-1）

福祉情報の入手方法がわからない人に情報が入手できず困っているかをたずねたところ、「はい」が32.1%となっている。

情報が入手できず困っているか（福祉情報の入手方法がわからない人）

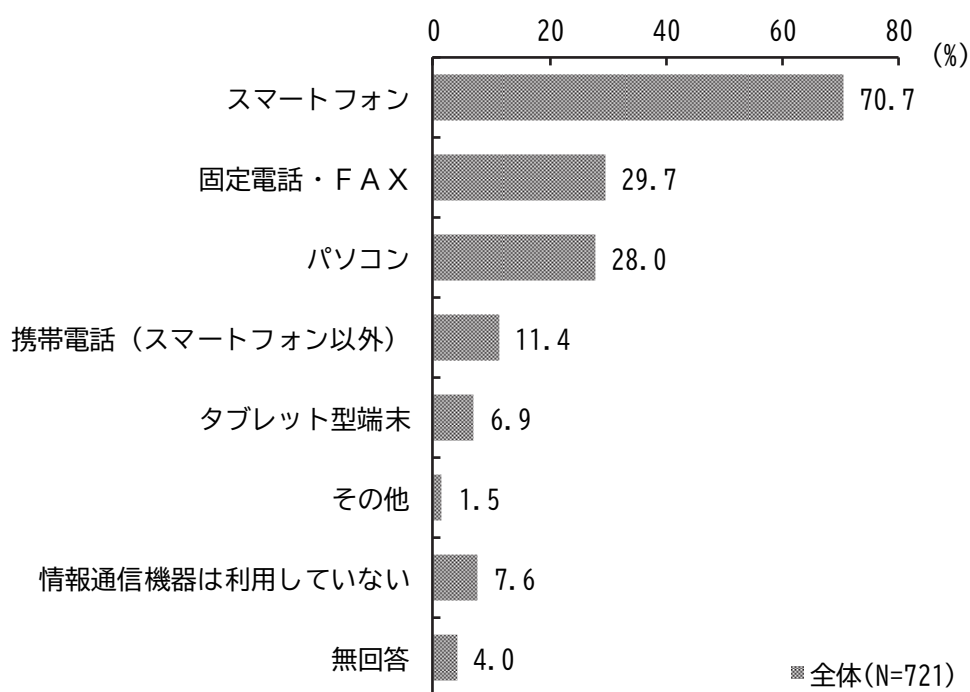


⑩ 使用している情報通信機器（問 11）

使用している情報通信機器は、「スマートフォン」(70.7%)が最も高く、「固定電話・FAX」(29.7%)、「パソコン」(28.0%)の順で続いている。

性・年代別にみると、「スマートフォン」、「タブレット型端末」、「パソコン」は、男女ともに年代が高いほど低くなる傾向がみられる。一方で、「携帯電話（スマートフォン以外）」は、男女ともに年代が高いほど高くなる傾向がみられる。

使用している情報通信機器（全体：複数回答）



使用している情報通信機器（全体、性・年代別：複数回答）

(人、%)

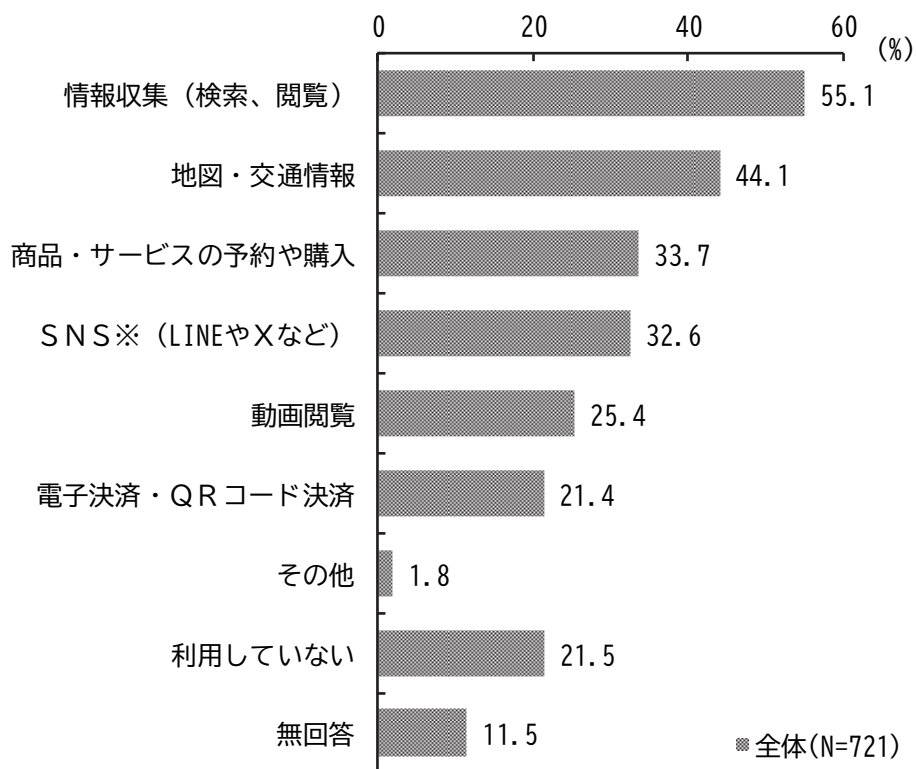
		回答者数	スマートフォン	固定電話・FAX	パソコン	携帯電話 (スマートフォン以外)	タブレット型端末	その他	情報通信機器は 利用していない	無回答
全体		721	70.7	29.7	28.0	11.4	6.9	1.5	7.6	4.0
性・年代別	男性-65~74歳	171	83.0	28.1	50.9	9.9	10.5	0.6	3.5	0.6
	男性-75~84歳	118	67.8	23.7	33.9	11.9	7.6	0.8	11.9	3.4
	男性-85歳以上	33	30.3	42.4	15.2	12.1	0.0	6.1	21.2	9.1
	女性-65~74歳	193	86.0	29.0	21.8	5.7	7.8	0.5	4.1	2.6
	女性-75~84歳	155	61.3	32.9	16.1	15.5	4.5	2.6	8.4	7.1
	女性-85歳以上	33	27.3	42.4	0.0	33.3	0.0	6.1	12.1	6.1

第2章 調査結果

⑪ インターネット上で利用しているサービス（問 12）

インターネット上で利用しているサービスは、「情報収集（検索、閲覧）」（55.1%）が最も高く、「地図・交通情報」（44.1%）、「商品・サービスの予約や購入」（33.7%）、「SNS※（LINEやXなど）」（32.6%）の順で続いている。

インターネット上で利用しているサービス（全体：複数回答）



※SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）、ネットワーク上のコミュニケーション機能を持ったサービス全般を指す

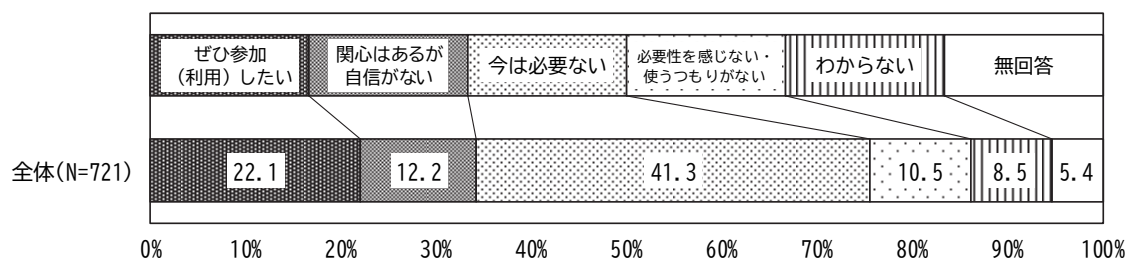
⑫ 情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向（問 13）

情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向は、「今は必要ない」（41.3%）が最も高く、「ぜひ参加（利用）したい」（22.1%）、「関心はあるが自信がない」（12.2%）、「必要性を感じない・使うつもりがない」（10.5%）、「わからない」（8.5%）の順で続いている。

性・年代別にみると、【男女ともに 65～74 歳】は「今は必要ない」が半数弱となっている。また、「必要性を感じない・使うつもりがない」は、男女ともに年代が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。

家族構成別にみると、【夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）】では、「ぜひ参加（利用）したい」（17.9%）は 20%に満たず、他の家族構成に比べて低くなっている。また、【息子・娘との 2 世帯】では「関心はあるが自信がない」、「必要性を感じない・使うつもりがない」（それぞれ 8.5%）が、10%未満となっている。

情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向（全体）



情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向（全体、性・年代別、家族構成別）

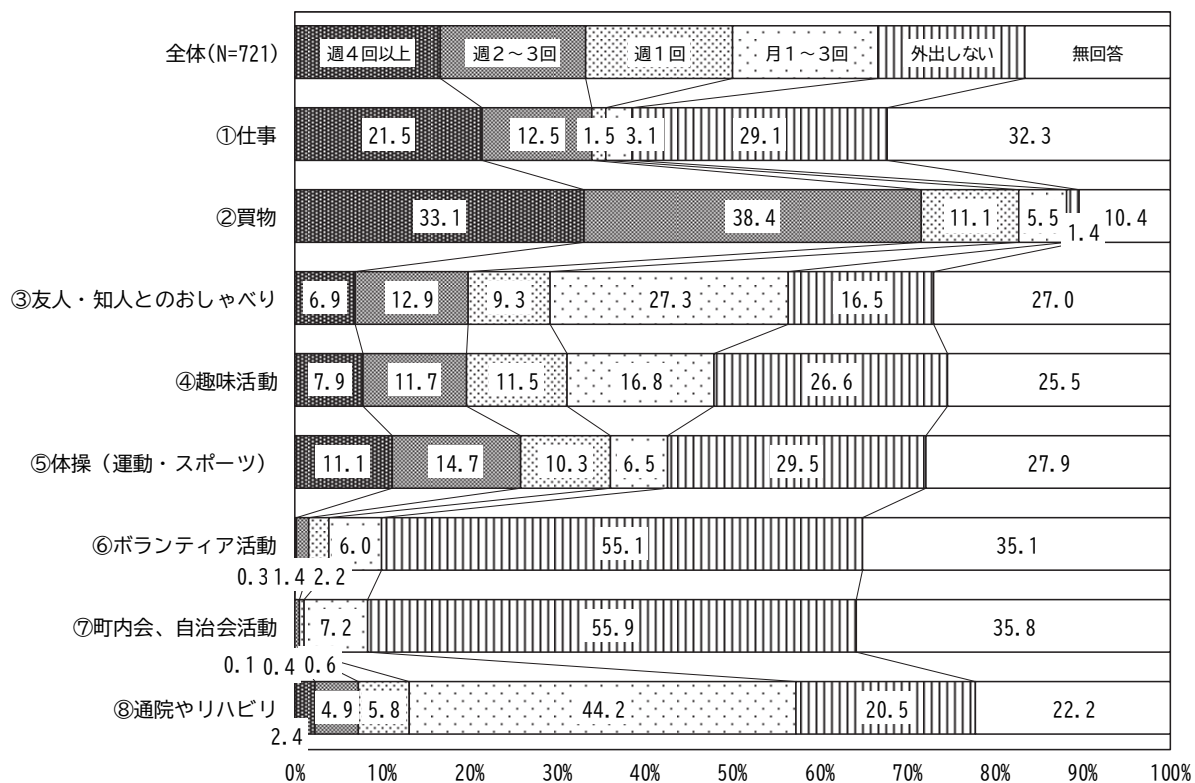
		(人、%)						
		回答者数	ぜひ参加（利用）したい	関心はあるが自信がない	今は必要ない	・必要性を感じない	わからない	無回答
全体		721	22.1	12.2	41.3	10.5	8.5	5.4
性・年代別	男性－65～74歳	171	25.7	8.8	49.7	9.9	4.1	1.8
	男性－75～84歳	118	23.7	16.1	33.9	13.6	6.8	5.9
	男性－85歳以上	33	6.1	15.2	36.4	21.2	12.1	9.1
	女性－65～74歳	193	22.3	12.4	47.2	6.7	10.4	1.0
	女性－75～84歳	155	25.2	11.6	34.8	9.0	7.7	11.6
	女性－85歳以上	33	6.1	15.2	27.3	27.3	18.2	6.1
家族構成別	1人暮らし	194	25.3	12.4	41.2	11.9	5.2	4.1
	夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）	268	17.9	13.8	41.0	11.2	10.8	5.2
	夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）	33	24.2	15.2	45.5	12.1	3.0	0.0
	息子・娘との 2 世帯	94	23.4	8.5	41.5	8.5	11.7	6.4
	その他	123	25.2	11.4	41.5	8.1	8.1	5.7

第2章 調査結果

⑬ 外出の頻度（問 14）

外出の頻度は、「週4回以上」と回答する割合は、『買物』(33.1%)で最も高く、『仕事』(21.5%)、『体操（運動・スポーツ）』(11.1%)の順で続いている。

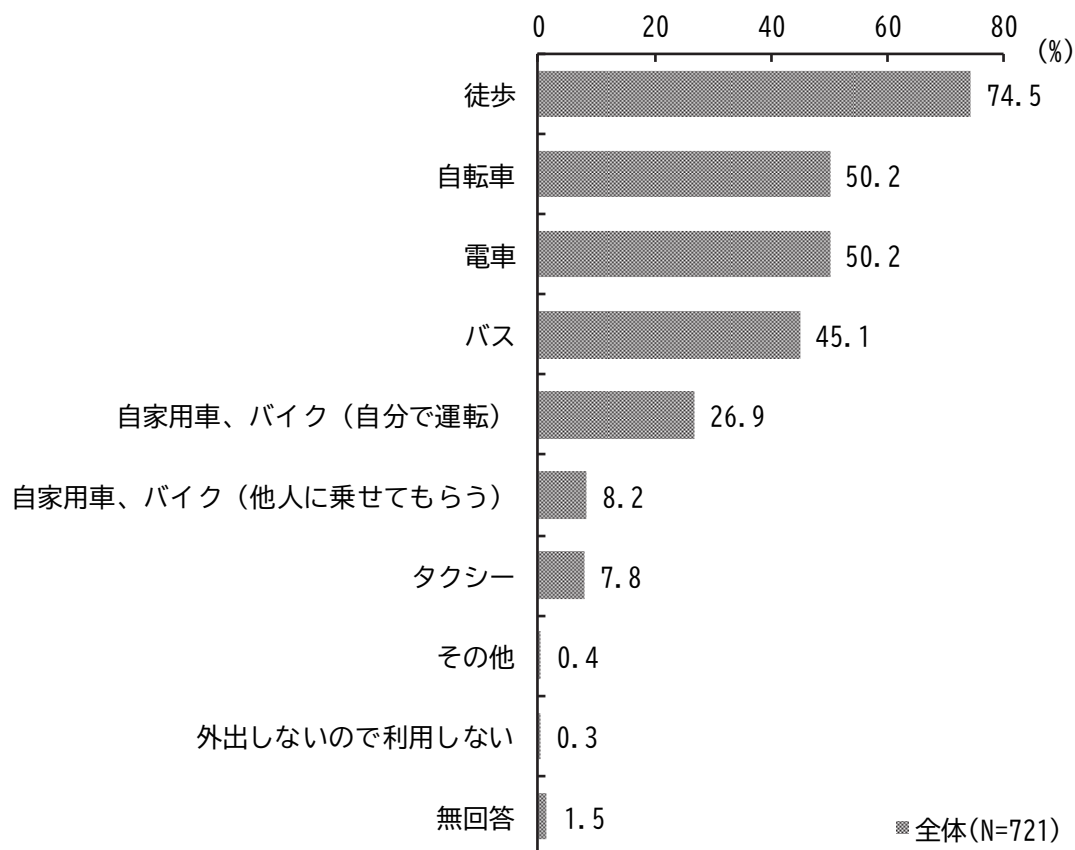
外出の頻度（全体）



⑭ 利用している交通手段（問 15）

利用している交通手段は、「徒歩」(74.5%)が最も高く、「自転車」、「電車」(それぞれ 50.2%)、「バス」(45.1%)の順で続いている。

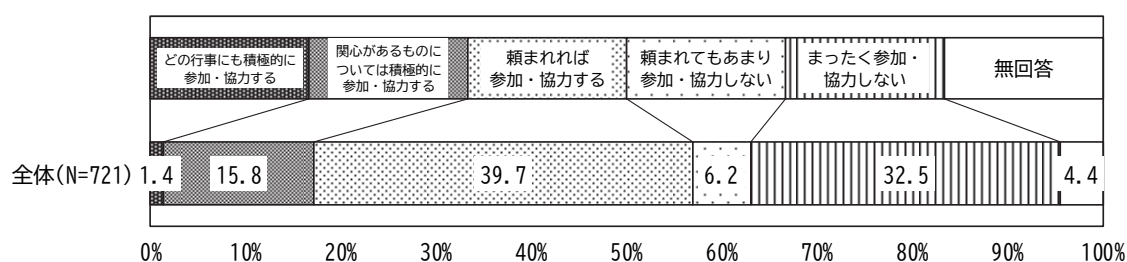
利用している交通手段（全体：複数回答（3つまで））



⑮ 地域の行事や活動への参加状況（問 16）

地域の行事や活動への参加状況は、「頼まれれば参加・協力する」(39.7%)が最も高く、「まったく参加・協力しない」(32.5%)、「関心があるものについては積極的に参加・協力する」(15.8%)の順で続いている。「どの行事にも積極的に参加・協力する」から「頼まれれば参加・協力する」まで合計した参加意向は、56.9%となっている。

地域の行事や活動への参加状況（全体）

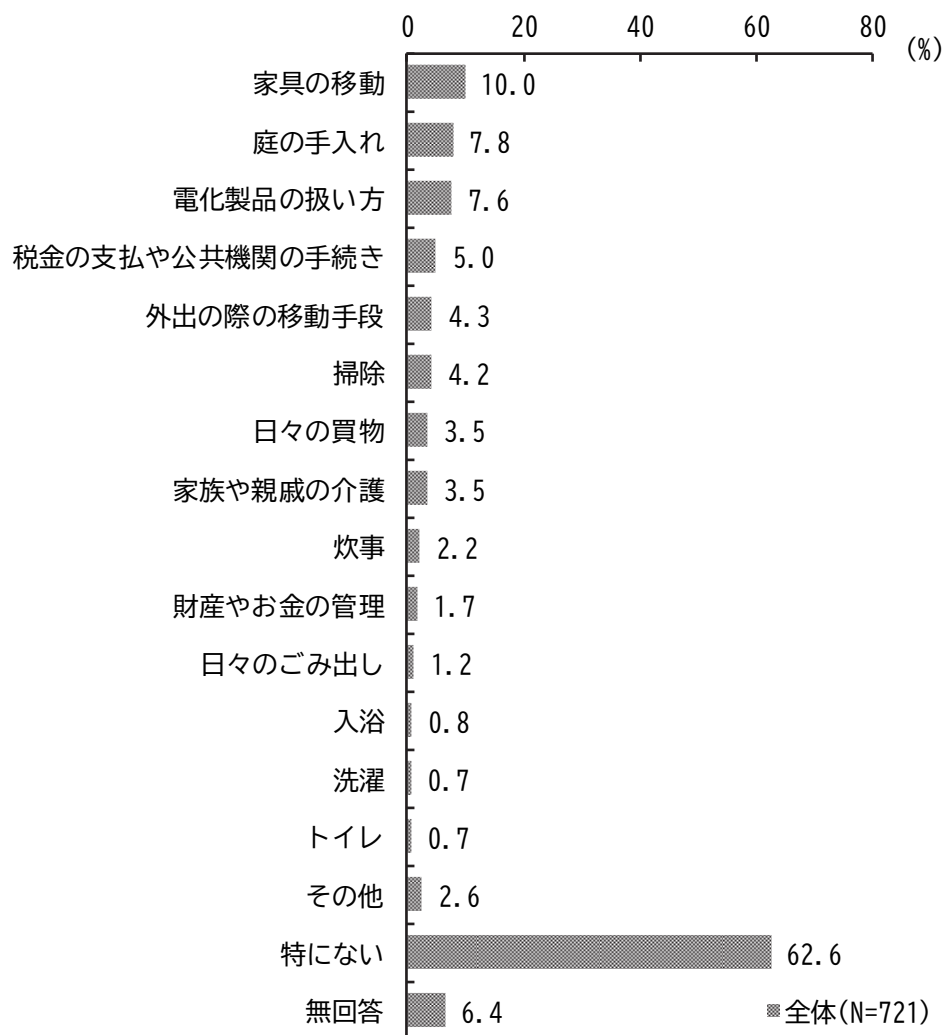


(3) 困りごとや相談先

① 日常生活で困っていること (問 17)

日常生活で困っていることは、「特にない」が 62.6%となっており、困っていることでは、「家具の移動」(10.0%) が最も高く、「庭の手入れ」(7.8%)、「電化製品の扱い方」(7.6%) の順で続いている。

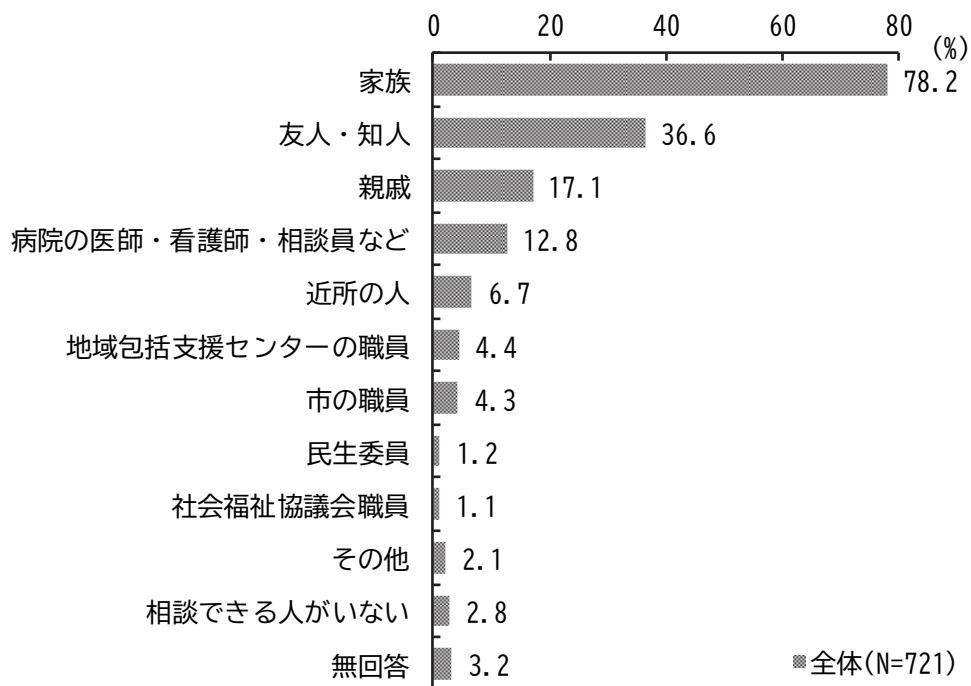
日常生活で困っていること (全体：複数回答 (3つまで))



② 困りごとの相談先（問 18）

困りごとの相談先は、「家族」(78.2%)が最も高く、「友人・知人」(36.6%)、「親戚」(17.1%)、「病院の医師・看護師・相談員など」(12.8%)の順で続いている。なお、「相談できる人がいない」は2.8%となっている。

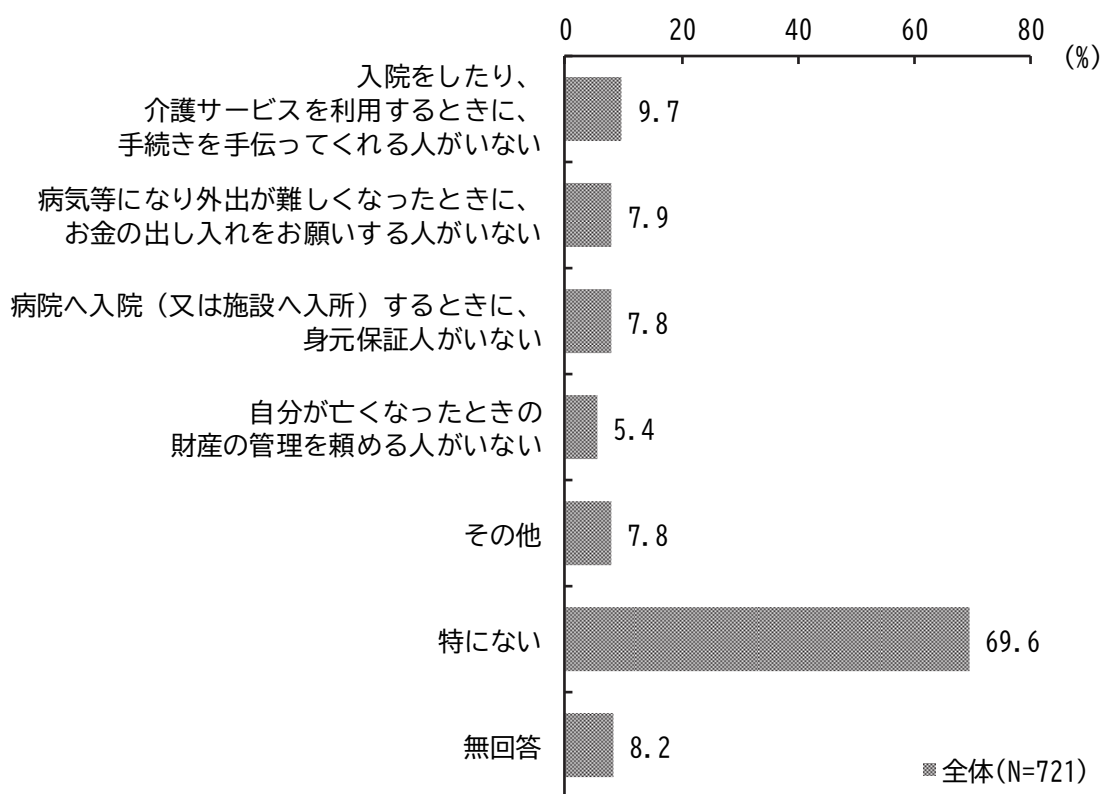
困りごとの相談先（全体：複数回答）



③ 将来の備えとして不安に感じること（問 19）

将来の備えとして不安に感じることは、「特にない」が 69.6%となっており、不安に感じることでは、「入院をしたり、介護サービスを利用するときに、手続きを手伝ってくれる人がいない」(9.7%) が最も高く、「病気等になり外出が難しくなったときに、お金の出し入れをお願いする人がいない」(7.9%)、「病院へ入院（又は施設へ入所）するときに、身元保証人がいない」、「その他」(それぞれ 7.8%)、「自分が亡くなったときの財産の管理を頼める人がいない」(5.4%) の順で続いている。

将来の備えとして不安に感じること（全体：複数回答）



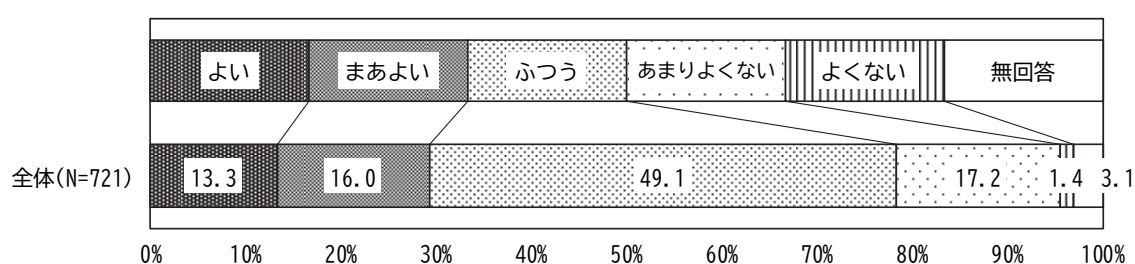
(4) 健康管理

① 健康状態（主観的健康感）（問 20）

健康状態（主観的健康感）は、「よい」（13.3%）と「まあよい」（16.0%）を合計した、よいとする割合が 29.3%、「ふつう」が 49.1%、「あまりよくない」（17.2%）と「よくない」（1.4%）を合計した、よくないとする割合が 18.6%となっている。

性・年代別にみると、「よい」と「まあよい」を合計した割合は、【男性 65～74 歳】、【男女ともに 75～84 歳】で 30%台と高くなっている。

健康状態（主観的健康感）（全体）



健康状態（主観的健康感）（全体、性・年代別）

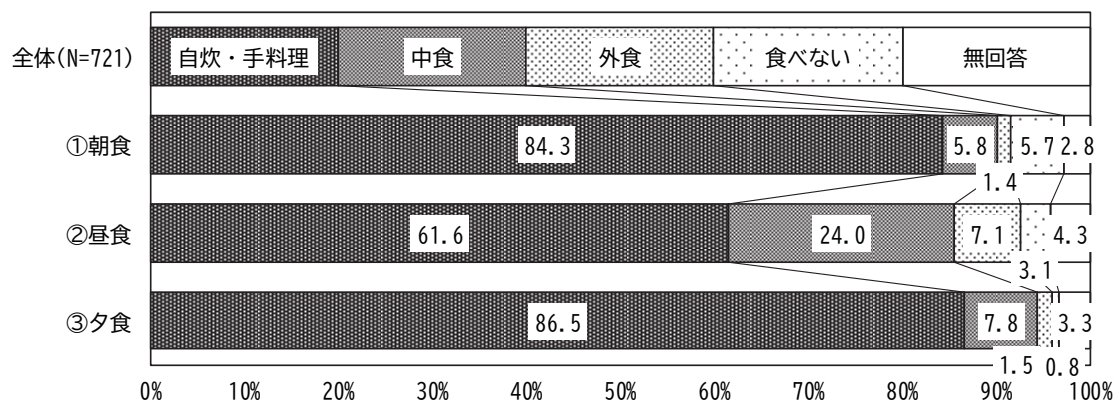
		(人、%)						
		回答者数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
全体		721	13.3	16.0	49.1	17.2	1.4	3.1
性・年代別	男性-65～74歳	171	15.2	17.5	48.0	17.0	1.8	0.6
	男性-75～84歳	118	16.1	14.4	39.8	24.6	1.7	3.4
	男性-85歳以上	33	6.1	12.1	54.5	18.2	0.0	9.1
	女性-65～74歳	193	14.0	15.0	57.0	11.9	1.0	1.0
	女性-75～84歳	155	11.6	18.7	47.1	18.1	1.3	3.2
	女性-85歳以上	33	9.1	15.2	45.5	18.2	3.0	9.1

第2章 調査結果

② 食事の状況（問 21）

食事の状況は、朝食、夕食では「自炊・手料理」が80%台となっている。昼食では「自炊・手料理」が61.6%、「中食※」が24.0%、「外食」が7.1%となっている。

食事の状況（全体）

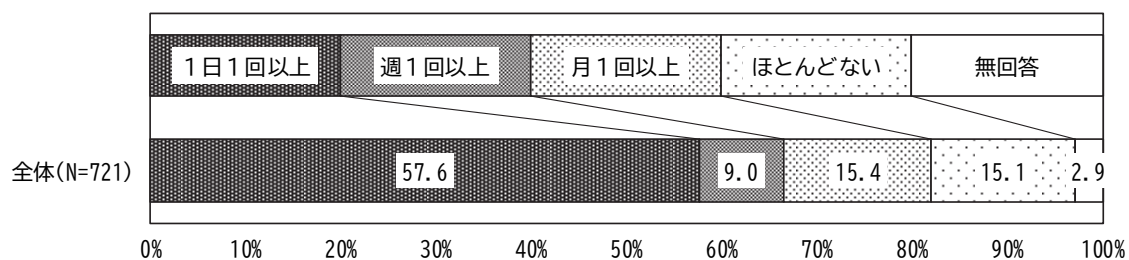


※中食とは、家庭外で調理されたものを、購入もしくは配達等によって家庭内で食べること（冷凍食品、カップラーメンなどのインスタント食品を含む）。

③ 誰かと食事をする機会（問 22）

誰かと食事をする機会は、「1日1回以上」が57.6%で過半数となっており、「週1回以上」が9.0%、「月1回以上」が15.4%、「ほとんどない」が15.1%となっている。

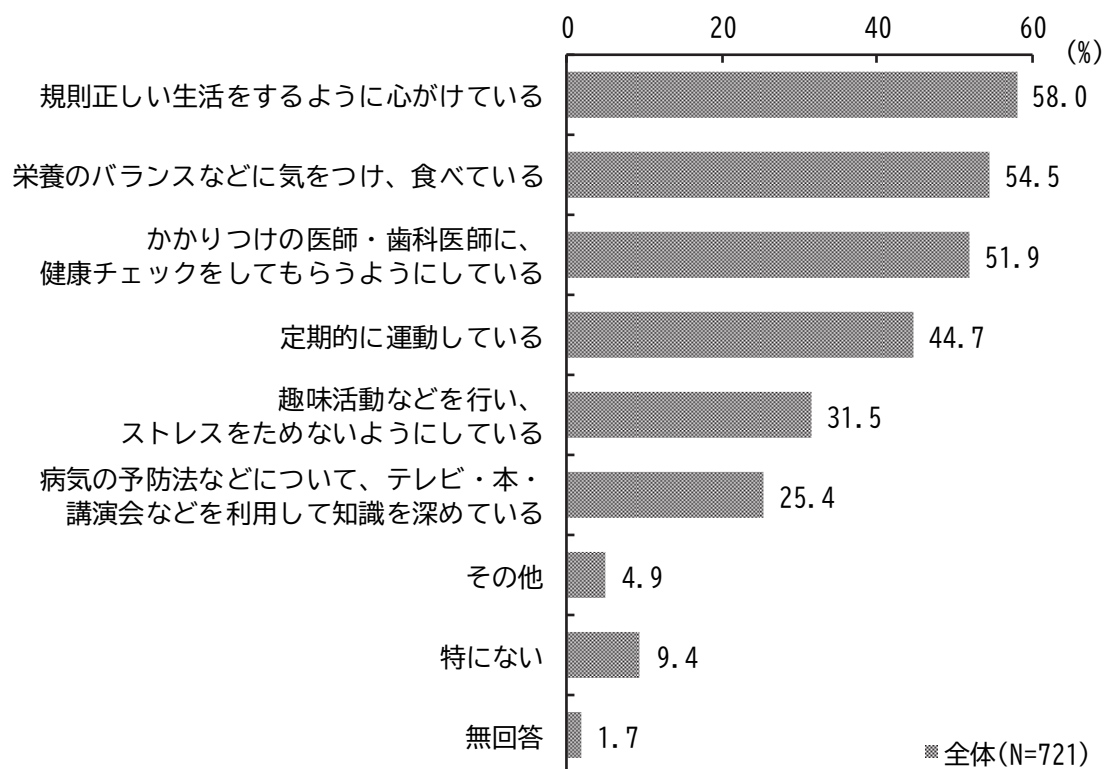
誰かと食事をする機会（全体）



④ 体調を維持するために行っていること（問23）

体調を維持するために行っていることは、「規則正しい生活をするように心がけている」（58.0%）が最も高く、「栄養のバランスなどに気をつけ、食べている」（54.5%）、「かかりつけの医師・歯科医師に、健康チェックをしてもらうようにしている」（51.9%）、「定期的に運動している」（44.7%）の順で続いている。

体調を維持するために行っていること（全体：複数回答）

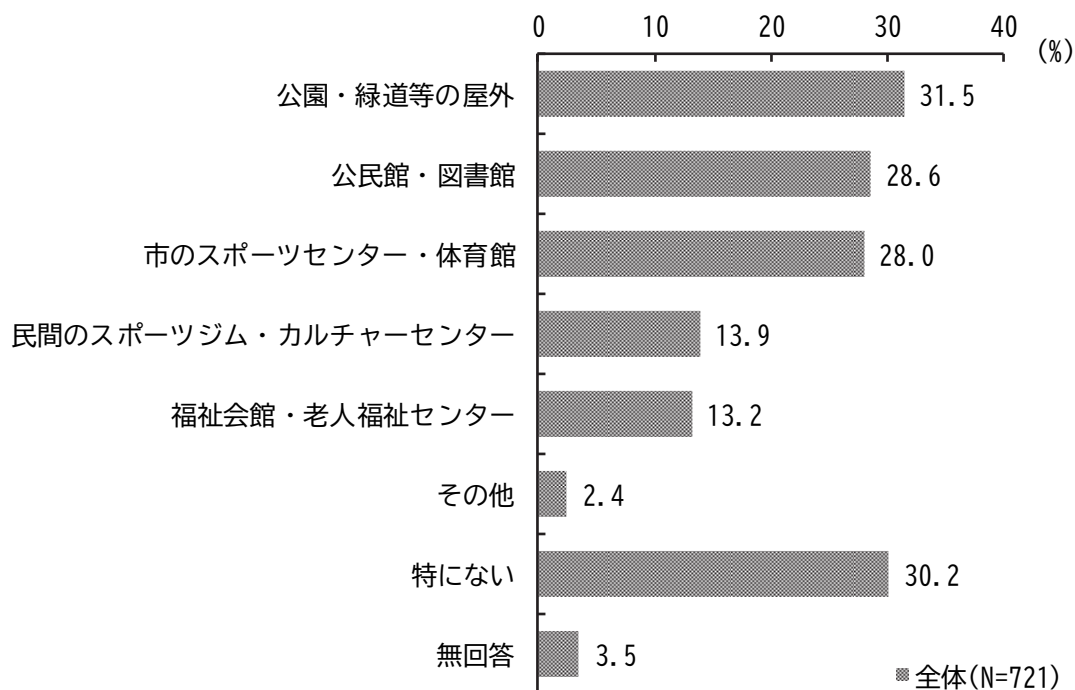


第2章 調査結果

⑤ 健康維持のために利用したい場所（問 24）

健康維持のために利用したい場所は、「公園・緑道等の屋外」（31.5%）が最も高く、「公民館・図書館」（28.6%）、「市のスポーツセンター・体育館」（28.0%）の順で続いている。なお、「特にない」は30.2%となっている。

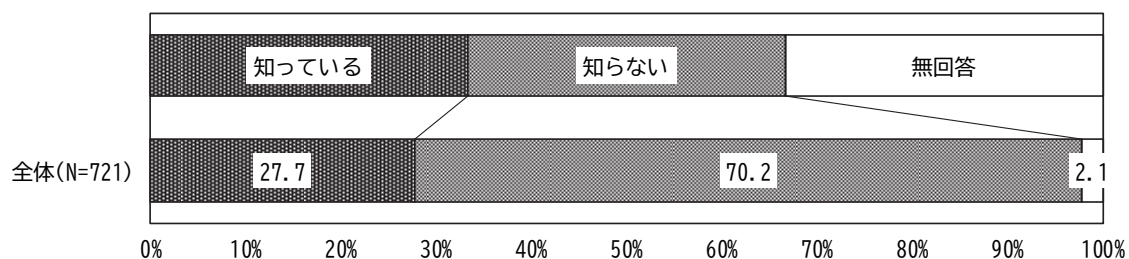
健康維持のために利用したい場所（全体：複数回答）



⑥ トレーニングマシンの一般開放の認知度（問 25）

トレーニングマシンの一般開放の認知度は、「知っている」が27.7%となっている。

トレーニングマシンの一般開放の認知度（全体）

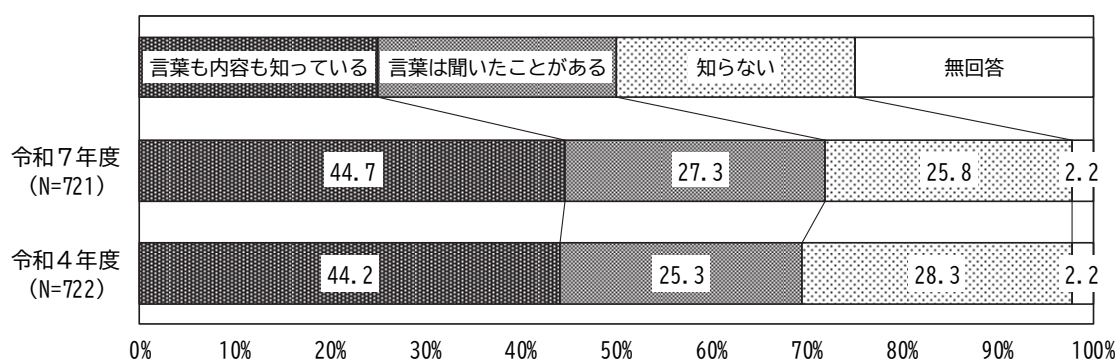


⑦ フレイルの認知度（問 26）

フレイルの認知度は、「言葉も内容も知っている」が 44.7%、「言葉は聞いたことがある」が 27.3%であり、合計すると 72.0%が言葉を聞いたことがある。なお、「知らない」は 25.8%となっている。

前回調査と比較すると、「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがある」を合計した割合は、69.5%から 72.0%と 2.5 ポイント高くなっている。

フレイルの認知度（全体）【前回比較】



⑧ フレイルチェックの利用経験・利用意向（問 27）

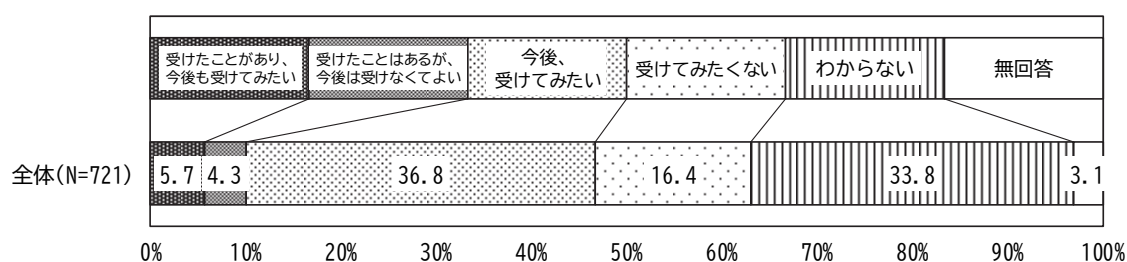
フレイルチェックの利用経験・利用意向は、「今後、受けてみたい」(36.8%)が最も高く、「わからない」(33.8%)、「受けてみたくない」(16.4%)の順で続いている。

「受けたことがあり、今後も受けてみたい」(5.7%)と「今後、受けてみたい」(36.8%)を合計した、受けてみたいとする割合が 42.5%、「受けたことはあるが、今後は受けなくてよい」(4.3%)と「受けてみたくない」(16.4%)を合計した、受けなくてよいとする割合が 20.7%となっている。

性・年代別にみると、「受けたことがあり、今後も受けてみたい」は【女性 75～84 歳】(11.0%)で 10%を超え、他の性・年代に比べて高くなっている。また、「今後、受けてみたい」は【男女ともに 65～74 歳】で 40%台と高くなっている。

居住圏域別にみると、【富士町包括圏域】、【泉町包括圏域】、【向台町包括圏域】、【新町包括圏域】で「今後、受けてみたい」が 40%を超えて高くなっている。

フレイルチェックの利用経験・利用意向（全体）



第2章 調査結果

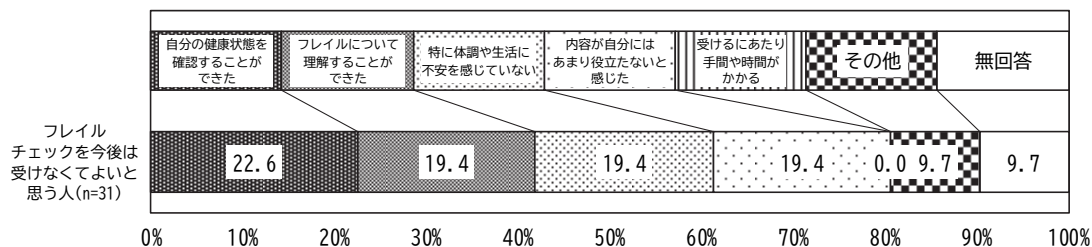
フレイルチェックの利用経験・利用意向（全体、性・年代別、居住圏域別）

		回答者数	今後受けたことがあり、 今後も受けてみたい	受けたことはあるが、 今後は受けなくてよい	今後、受けてみたい	受けてみたくない	わからない	無回答
全体		721	5.7	4.3	36.8	16.4	33.8	3.1
性・年代別	男性－65～74歳	171	2.3	2.9	40.9	19.9	32.2	1.8
	男性－75～84歳	118	2.5	3.4	28.8	15.3	47.5	2.5
	男性－85歳以上	33	9.1	6.1	21.2	24.2	33.3	6.1
	女性－65～74歳	193	6.2	3.1	44.6	14.0	31.6	0.5
	女性－75～84歳	155	11.0	8.4	34.2	14.8	26.5	5.2
	女性－85歳以上	33	6.1	3.0	27.3	18.2	36.4	9.1
居住圏域別	栄町包括圏域	93	4.3	6.5	22.6	19.4	45.2	2.2
	富士町包括圏域	91	5.5	1.1	45.1	13.2	30.8	4.4
	泉町包括圏域	81	7.4	3.7	45.7	8.6	32.1	2.5
	田無町包括圏域	108	6.5	3.7	30.6	22.2	34.3	2.8
	緑町包括圏域	88	6.8	9.1	38.6	11.4	31.8	2.3
	西原町包括圏域	88	5.7	3.4	31.8	18.2	37.5	3.4
	向台町包括圏域	90	2.2	1.1	42.2	20.0	32.2	2.2
	新町包括圏域	76	7.9	6.6	42.1	17.1	25.0	1.3

⑨ 今後は受けなくてよいと思う理由（問27-1）

フレイルチェックを今後は受けなくてよいと思う人に今後は受けなくてよいと思う理由をたずねたところ、「自分の健康状態を確認することができた」（22.6%）が最も高く、「フレイルについて理解することができた」、「特に体調や生活に不安を感じていない」、「内容が自分にはあまり役立たないと感じた」、「受けるにあたり手間や時間がかかる」（それぞれ19.4%）の順で続いている。

今後は受けなくてよいと思う理由（フレイルチェックを今後は受けなくてよいと思う人）



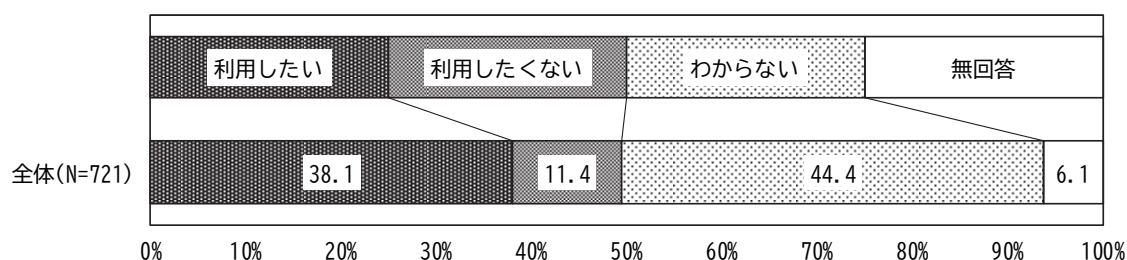
⑩ 短期集中予防サービス※の利用意向（問 28）

短期集中予防サービスの利用意向は、「わからない」が 44.4%、「利用したい」が 38.1%、「利用したくない」が 11.4%となっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高いほど「利用したい」の割合が低くなる傾向がみられる。

居住圏域別にみると、「利用したい」の割合は、【富士町包括圏域】、【泉町包括圏域】、【緑町包括圏域】、【向台町包括圏域】で 40%を超えている。

短期集中予防サービスの利用意向（全体）



短期集中予防サービスの利用意向（全体、性・年代別、居住圏域別）

		(人、%)				
		回答者数	利用したい	利用したくない	わからない	無回答
全体		721	38.1	11.4	44.4	6.1
性・年代別	男性-65~74歳	171	40.9	11.1	46.8	1.2
	男性-75~84歳	118	28.0	10.2	54.2	7.6
	男性-85歳以上	33	21.2	21.2	42.4	15.2
	女性-65~74歳	193	45.6	6.7	46.6	1.0
	女性-75~84歳	155	42.6	14.2	31.6	11.6
	女性-85歳以上	33	24.2	18.2	45.5	12.1
居住圏域別	栄町包括圏域	93	32.3	14.0	48.4	5.4
	富士町包括圏域	91	45.1	7.7	41.8	5.5
	泉町包括圏域	81	44.4	12.3	40.7	2.5
	田無町包括圏域	108	29.6	18.5	43.5	8.3
	緑町包括圏域	88	43.2	3.4	48.9	4.5
	西原町包括圏域	88	37.5	10.2	47.7	4.5
	向台町包括圏域	90	42.2	14.4	38.9	4.4
新町包括圏域	76	35.5	9.2	46.1	9.2	

※短期集中予防サービスとは、心身の状態が落ちてしまった方が、もう一度自分らしい暮らしを取り戻せるよう、リハビリ専門職等との週1回の面談・指導を通して、自ら立てた目標に向かい、短期間（約3か月間）でその目標の達成を目指すサービスである。

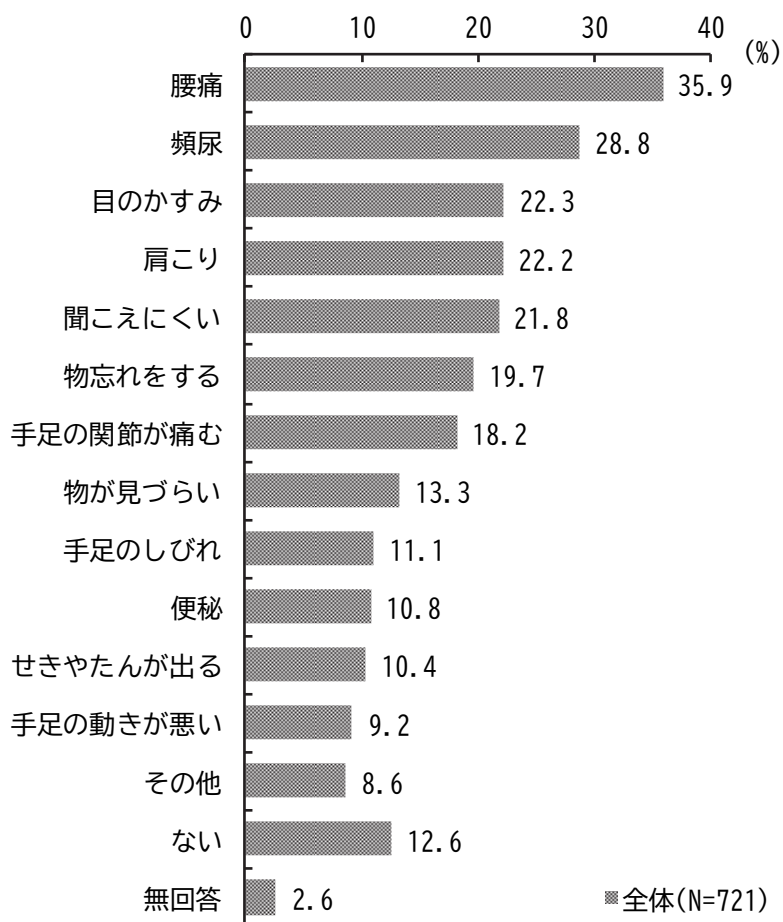
第2章 調査結果

⑪ 自覚症状（問 29）

自覚症状は、「腰痛」（35.9%）が最も高く、「頻尿」（28.8%）、「目のかすみ」（22.3%）、「肩こり」（22.2%）、「聞こえにくい」（21.8%）の順で続いている。なお、「ない」は12.6%となっている。

なお、「その他」（8.6%）の具体的な内容は、「めまい」、「歩行困難」、「手足の冷え」等であった。

自覚症状（全体：複数回答）

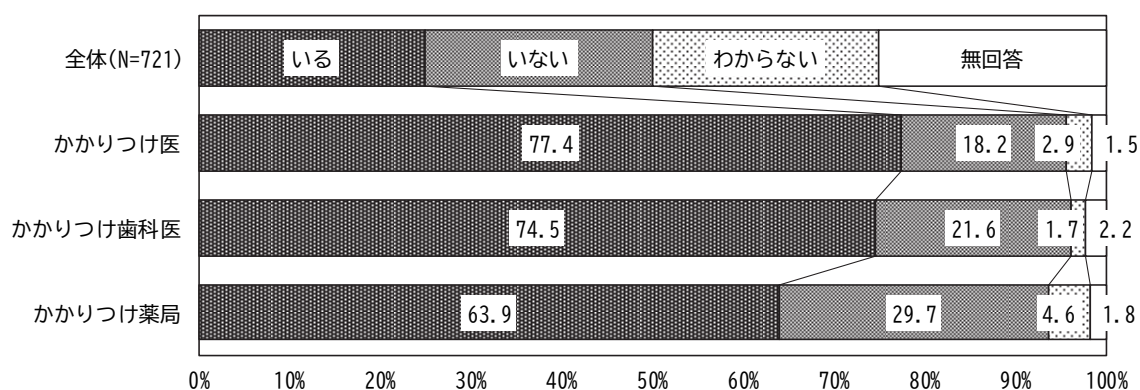


(5) 医療や介護

① かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局※の有無（問 30～32）

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無は、「いる」の割合は、かかりつけ医が 77.4%、かかりつけ歯科医が 74.5%、かかりつけ薬局が 63.9%となっている。

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（全体）



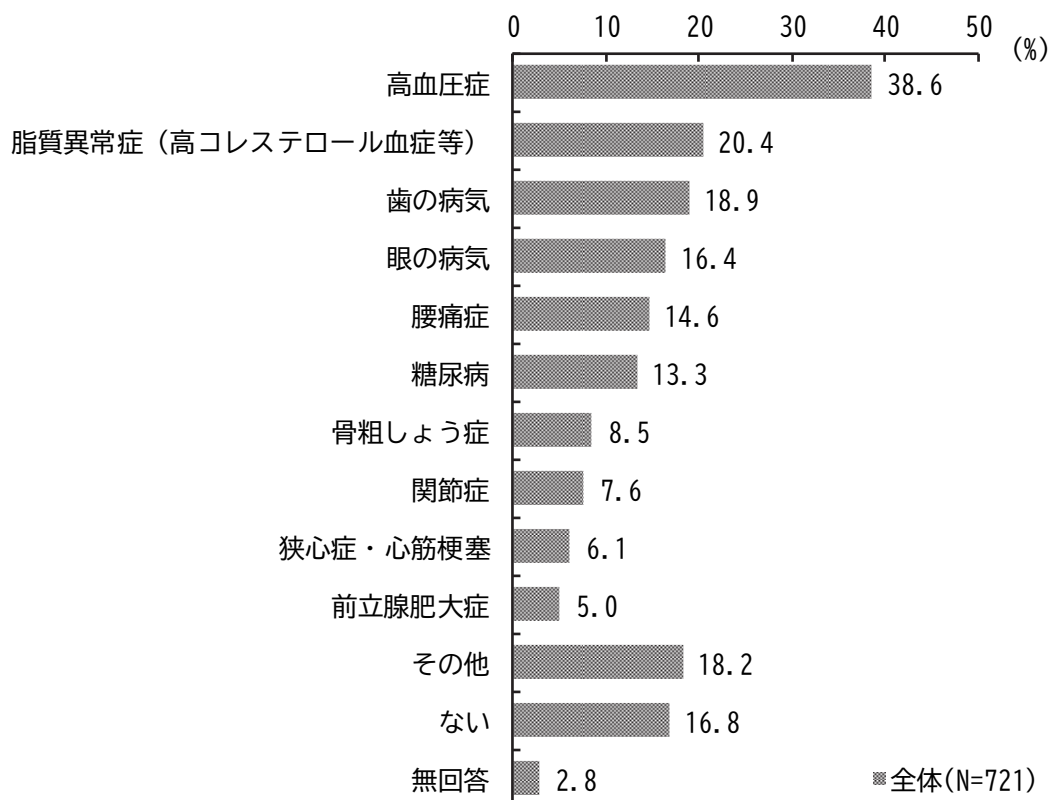
※「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」とは、あなたの生活の状況などを理解していて、健康や病気のことを日ごろから気軽に相談できるような身近な開業医、歯科医、薬局を指します。

② 現在治療中[※]の病気やけが（問 33）

現在治療中の病気やけがは、「高血圧症」（38.6%）が最も高く、「脂質異常症（高コレステロール血症等）」（20.4%）、「歯の病気」（18.9%）の順で続いている。なお、「ない」は16.8%となっている。

なお、「その他」（18.2%）の具体的な内容は、「がん」、「心臓病」、「肺疾患」、「甲状腺」、「肝機能」、「心療内科（うつ）」等であった。

現在治療中の病気やけが（全体：複数回答）



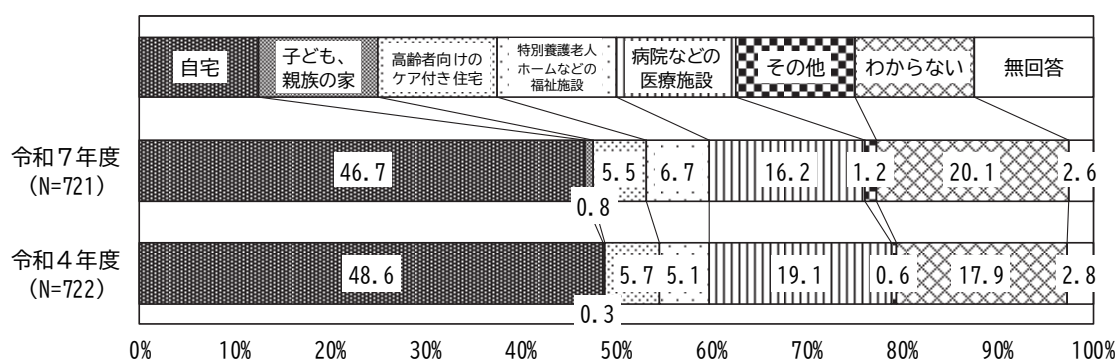
※はり、あんま、きゅう、柔道整復師による施術を含む。

③ 人生の最期を迎えたい場所（問 34）

人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」(46.7%)が最も高く、「病院などの医療施設」(16.2%)、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」(6.7)、「高齢者向けのケア付き住宅」(5.5%)の順で続いている。なお、「わからない」は20.1%となっている。

前回調査と比較すると、「病院などの医療施設」の割合は19.1%から16.2%と2.9ポイント低くなっており、「わからない」の割合は、17.9%から20.1%と2.2ポイント高くなっている。

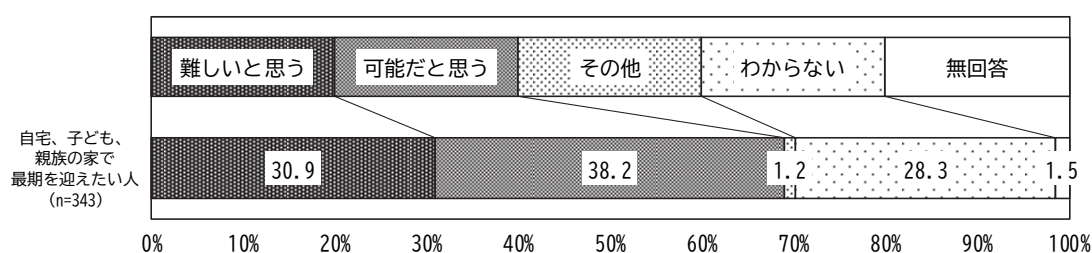
人生の最期を迎えたい場所（全体）



④ 在宅での最期の実現可能性（問 34-1）

自宅、子ども、親族の家で最期を迎えたい人に、在宅での最期の実現可能性をたずねたところ、「可能だと思う」が38.2%、「難しいと思う」が30.9%、「わからない」が28.3%となっている。

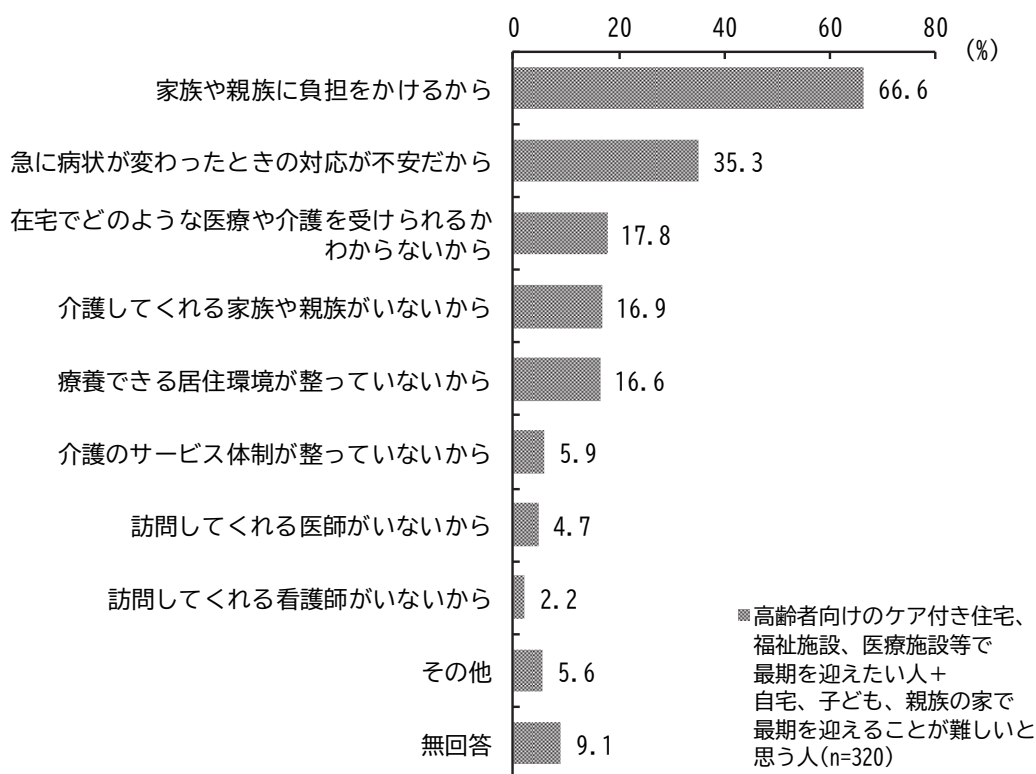
在宅での最期の実現可能性（自宅、子ども、親族の家で最期を迎えたい人）



⑤ 在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由（問 34-2）

高齢者向けのケア付き住宅、福祉施設、医療施設等で最期を迎えたい人、又は自宅、子ども、親族の家で最期を迎えることが難しいと思う人に、在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由をたずねたところ、「家族や親族に負担をかけるから」(66.6%)が最も高く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」(35.3%)、「在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから」(17.8%)の順で続いている。

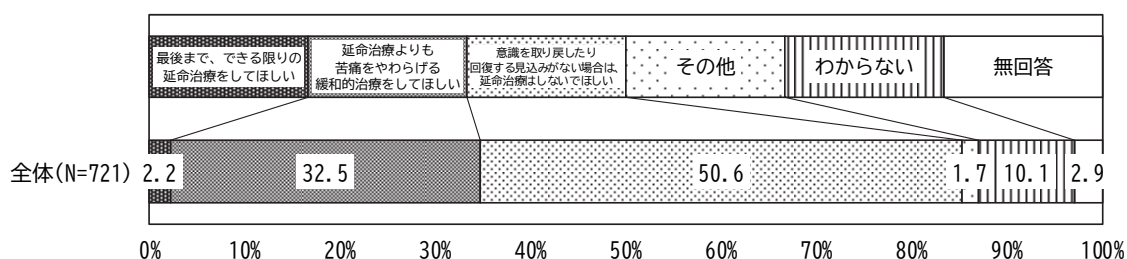
在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由
 (高齢者向けのケア付き住宅、福祉施設、医療施設等で最期を迎えたい人+自宅、子ども、親族の家で最期を迎えることが難しいと思う人：複数回答(3つまで))



⑥ 延命治療についての希望（問 35）

延命治療についての希望は、「意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療はしないでほしい」(50.6%)が約半数であり、「延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい」(32.5%)が続いている。

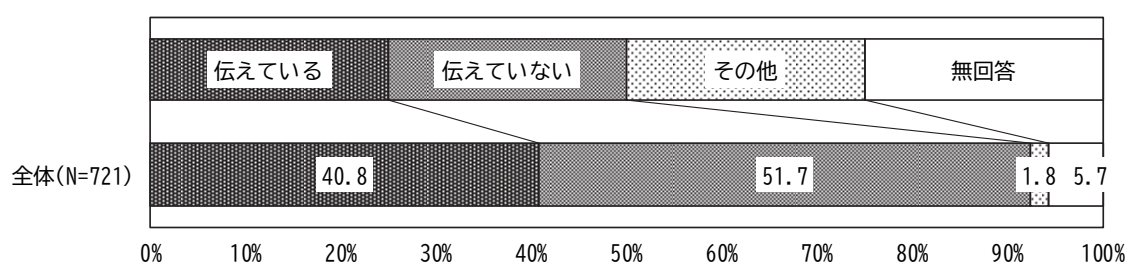
延命治療についての希望（全体）



⑦ 今後の希望について家族等へ意向を伝えているか（問 36）

人生の最期を迎えたい場所、延命治療についての希望など（問 34～35）の今後の希望について家族等へ意向を伝えているかは、「伝えていない」が 51.7%で過半数であり、「伝えている」が 40.8%となっている。

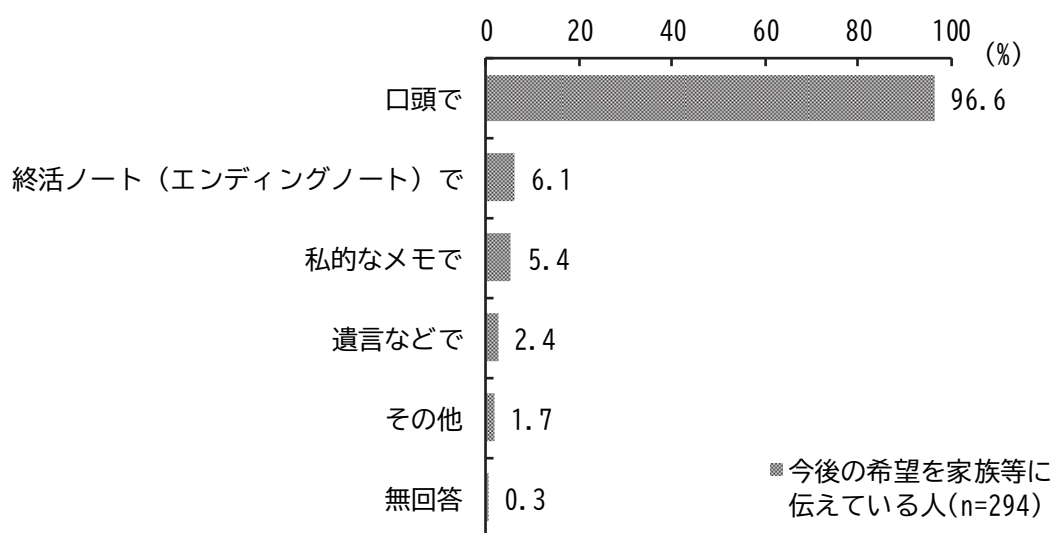
今後の希望について家族等へ意向を伝えているか（全体）



⑧ 今後の希望についての意向の伝え方（問 36-1）

人生の最期を迎えたい場所、延命治療についての希望など（問 34～35）の今後の希望を家族等に伝えている人に伝え方をたずねたところ、今後の希望についての意向の伝え方は、「口頭で」(96.6%)が最も高い。

今後の希望についての意向の伝え方（今後の希望を家族等に伝えている人：複数回答）

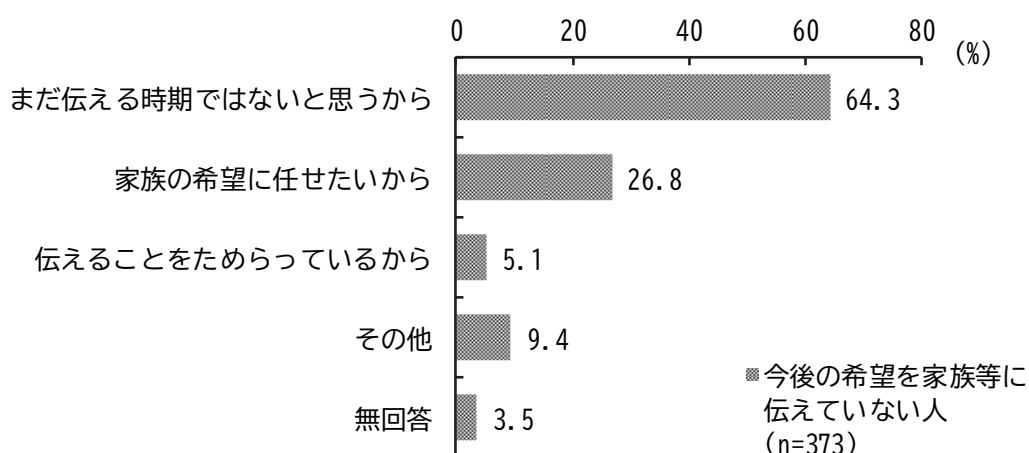


⑨ 今後の希望についての意向を伝えていない理由（問 36-2）

人生の最期を迎えたい場所、延命治療についての希望など（問 34～35）の今後の希望を家族等に伝えていない人に伝えていない理由をたずねたところ、「まだ伝える時期ではないと思うから」（64.3%）が最も高く、「家族の希望に任せたいから」（26.8%）、「その他」（9.4%）、「伝えることをためらっているから」（5.1%）の順で続いている。

性・年代別にみると、女性は年代が高いほど「まだ伝える時期ではないと思うから」の割合が低くなっている。また、男女ともに年代が高いほど「家族の希望に任せたいから」の割合が高くなっている。

今後の希望についての意向を伝えていない理由
（今後の希望を家族等に伝えていない人：複数回答）



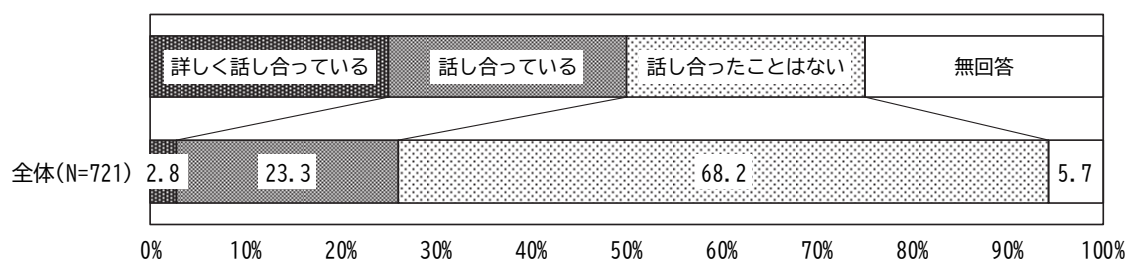
今後の希望についての意向を伝えていない理由
（今後の希望を家族等に伝えていない人、性・年代別：複数回答）

		回答者数	まだ い だ と 伝 え る か 時 期 で は	家 族 の 希 望 に 任 せ た い か ら	た め え ら る こ と を し る か ら	そ の 他	無 回 答
今後の希望を家族等に伝えていない人		373	64.3	26.8	5.1	9.4	3.5
性・ 年 代 別	男性-65～74歳	104	72.1	17.3	1.9	12.5	1.0
	男性-75～84歳	63	63.5	34.9	1.6	4.8	4.8
	男性-85歳以上	15	73.3	40.0	6.7	0.0	6.7
	女性-65～74歳	100	70.0	19.0	5.0	13.0	1.0
	女性-75～84歳	67	52.2	31.3	13.4	9.0	7.5
	女性-85歳以上	16	31.3	68.8	0.0	0.0	6.3

⑩ 人生の最終段階の医療・ケアを家族や医療・介護従事者と話し合っているか (問 37)

人生の最終段階の医療・ケアを家族や医療・介護従事者と話し合っているかは、「詳しく話し合っている」が2.8%、「話し合っている」が23.3%であり、合計すると26.1%が話し合っている。なお、「話し合ったことはない」は68.2%となっている。

人生の最終段階の医療・ケアを家族や医療・介護従事者と話し合っているか (全体)

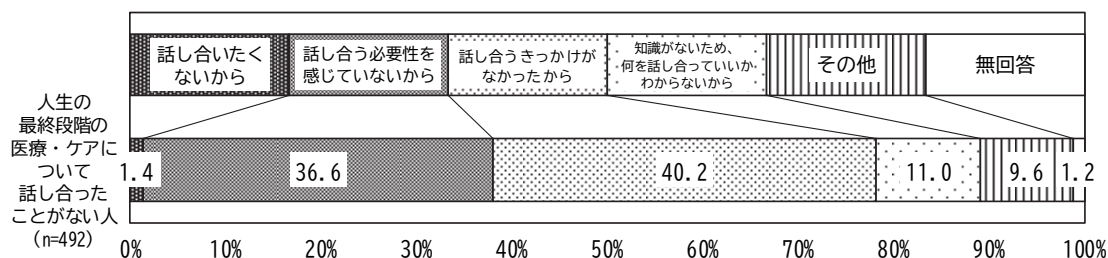


⑪ 話し合ったことがない理由 (問 37-1)

人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ったことがない人に、話し合ったことがない理由をたずねたところ、「話し合うきっかけがなかったから」(40.2%)が最も高く、「話し合う必要性を感じていないから」(36.6%)、「知識がないため、何を話し合っているかわからないから」(11.0%)の順で続いている。

話し合ったことがない理由

(人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ったことがない人)



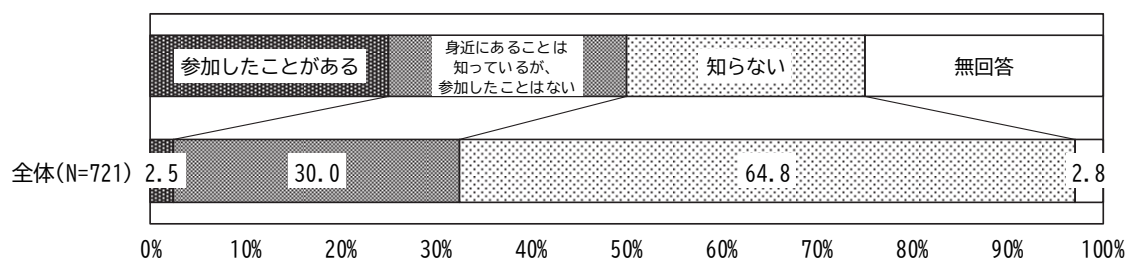
(6) 生きがい

① 通いの場への参加経験（問 38）

住んでいる地域で、街中いきいーなサロン、認知症カフェなどの住民同士が交流できる「通いの場」への参加経験があるかたずねたところ、「知らない」が 64.8%、「参加したことがある」が 2.5%、「身近にあることは知っているが、参加したことはない」が 30.0%となっている。

居住圏域別にみると、【新町包括圏域】では「身近にあることは知っているが、参加したことはない」が 38.2%で他の圏域に比べ高くなっている。また、【向台町包括圏域】では「知らない」が 78.9%と他の圏域に比べ高くなっている。

通いの場への参加経験（全体）



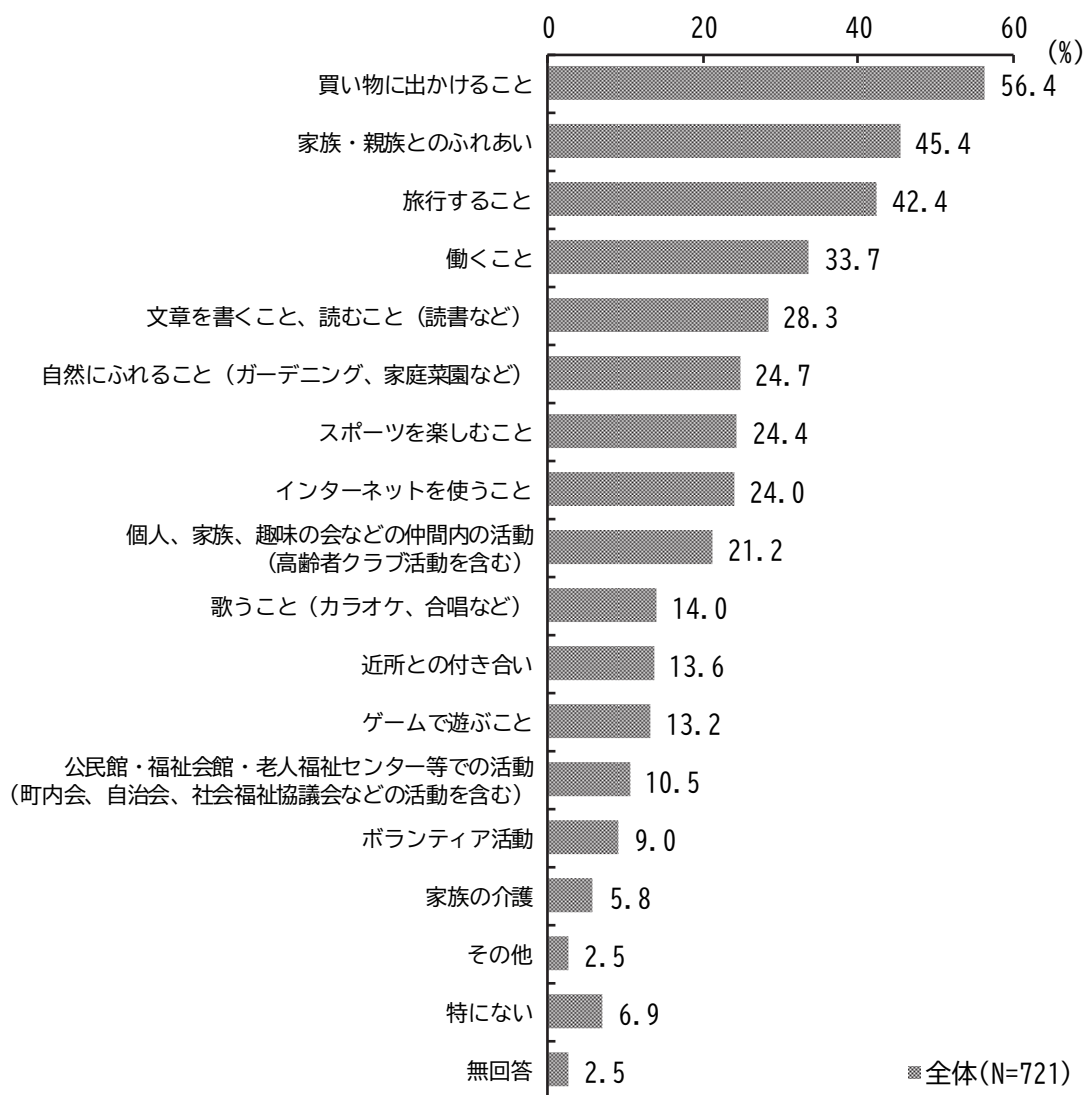
通いの場への参加経験（全体、居住圏域別）

		(人、%)				
		回答者数	参加したことがある	参加したことはないが、身近にあることは知らない	知らない	無回答
全体		721	2.5	30.0	64.8	2.8
居住圏域別	柴町包括圏域	93	5.4	32.3	60.2	2.2
	富士町包括圏域	91	3.3	29.7	64.8	2.2
	泉町包括圏域	81	1.2	30.9	64.2	3.7
	田無町包括圏域	108	2.8	29.6	64.8	2.8
	緑町包括圏域	88	2.3	34.1	62.5	1.1
	西原町包括圏域	88	3.4	29.5	63.6	3.4
	向台町包括圏域	90	1.1	18.9	78.9	1.1
	新町包括圏域	76	0.0	38.2	57.9	3.9

② 現在継続して行っていること、もしくは今後行いたいこと（問 39）

現在継続して行っていること、もしくは今後行いたいことは、「買い物に出かけること」(56.4%) が最も高く、「家族・親族とのふれあい」(45.4%)、「旅行すること」(42.4%)、「働くこと」(33.7%)、「文章を書くこと、読むこと（読書など）」(28.3%) の順で続いている。

現在継続して行っていること、もしくは今後行いたいこと（全体：複数回答）



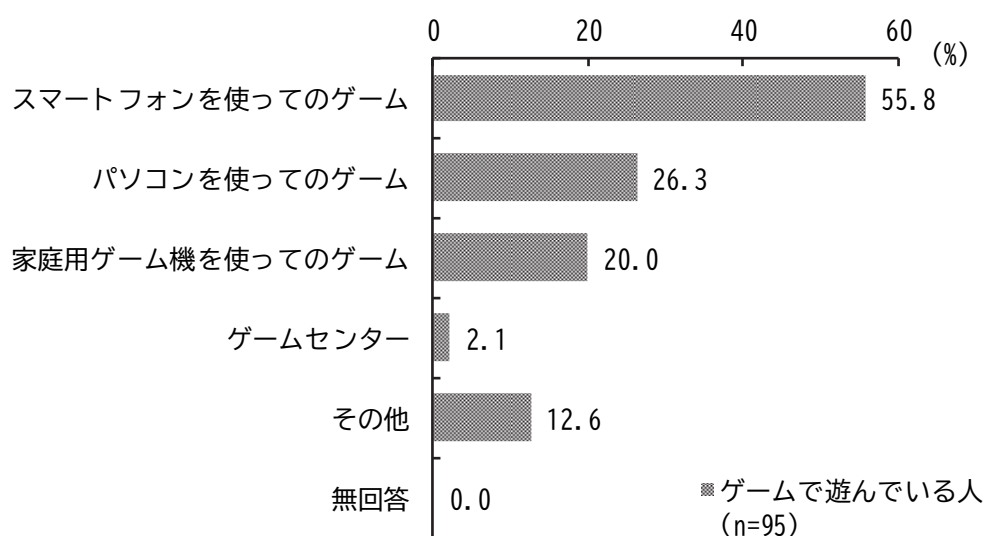
第2章 調査結果

③ どのようにゲームを楽しんでいるか（問 39-1）

ゲームで遊んでいる人にどのようにゲームを楽しんでいるかをたずねたところ、「スマートフォンを使ってのゲーム」(55.8%) が最も高く、「パソコンを使ってのゲーム」(26.3%)、「家庭用ゲーム機を使ってのゲーム」(20.0%)、「その他」(12.6%)、「ゲームセンター」(2.1%)の順で続いている。

「その他」(12.6%) の内容は、「健康麻雀」、「i P a d」、「数独」、「クロスワード」、「漢字パズル」などであった。

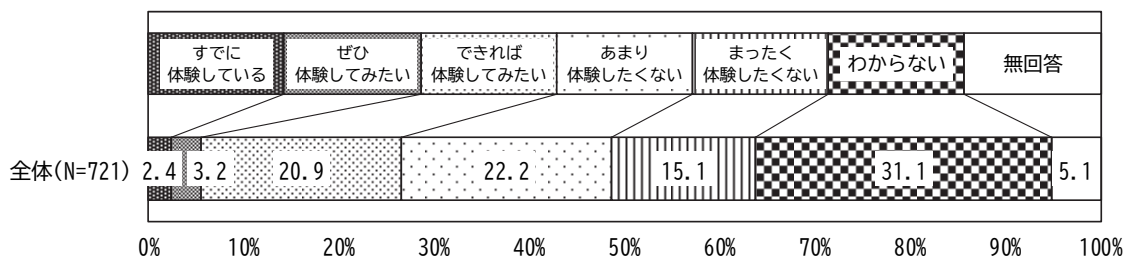
どのようにゲームを楽しんでいるか（ゲームで遊んでいる人：複数回答）



④ eスポーツ※の体験意向（問 40）

eスポーツの体験意向は、「すでに体験している」が2.4%、「ぜひ体験してみたい」(3.2%)と「できれば体験してみたい」(20.9%)を合計した、体験してみたいとする割合が24.1%、「あまり体験したくない」(22.2%)と「まったく体験したくない」(15.1%)を合計した、体験したくないとする割合が37.3%、「わからない」が31.1%となっている。

eスポーツの体験意向（全体）

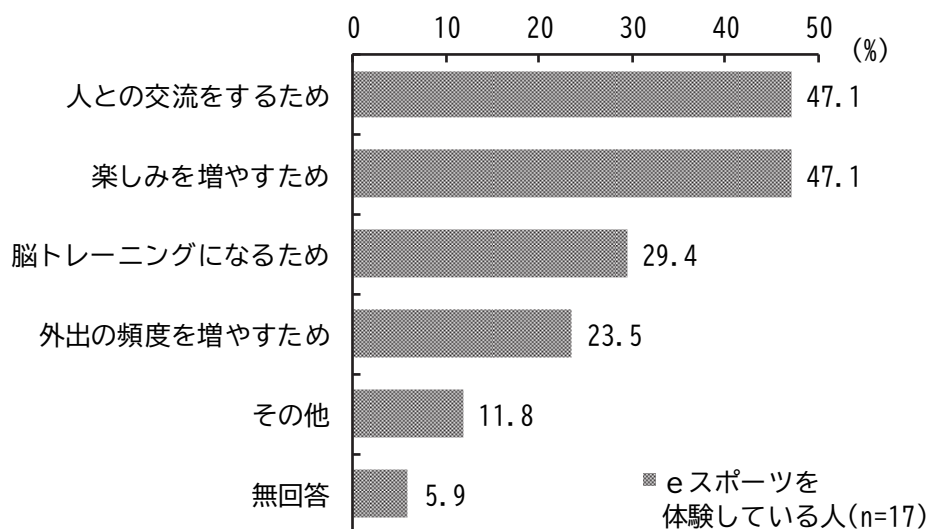


※コンピューターや家庭用ゲーム機を用いて、競技性のあるゲームをスポーツのように楽しむ活動

⑤ eスポーツを体験しようと思った理由（問40-1）

eスポーツを体験している人にeスポーツを体験しようと思った理由をたずねたところ、「人との交流をするため」、「楽しみを増やすため」（それぞれ47.1%）が最も高く、「脳トレーニングになるため」（29.4%）、「外出の頻度を増やすため」（23.5%）の順で続いている。

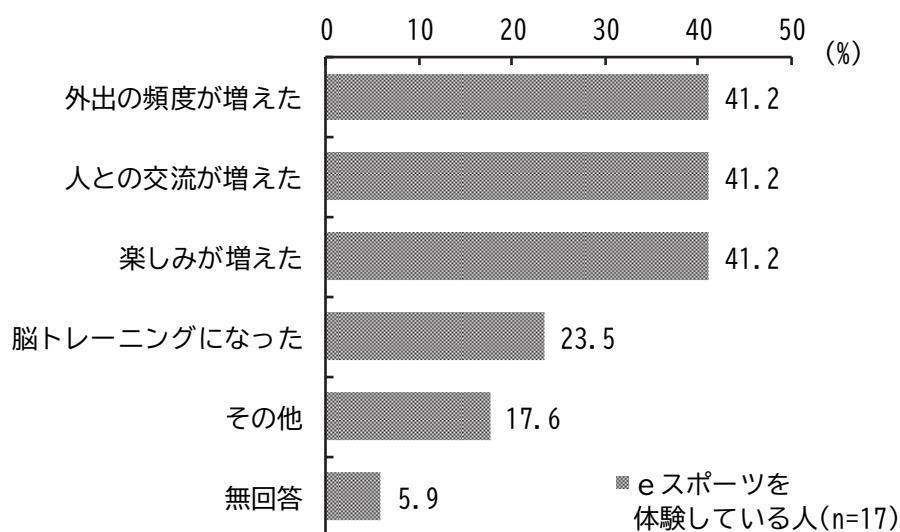
eスポーツを体験しようと思った理由（eスポーツを体験している人：複数回答）



⑥ eスポーツを体験してよかったこと（問40-2）

eスポーツを体験している人にeスポーツを体験してよかったことをたずねたところ、「外出の頻度が増えた」、「人との交流が増えた」、「楽しみが増えた」（それぞれ41.2%）が最も高く、「脳トレーニングになった」（23.5%）の順で続いている。

eスポーツを体験してよかったこと（eスポーツを体験している人：複数回答）

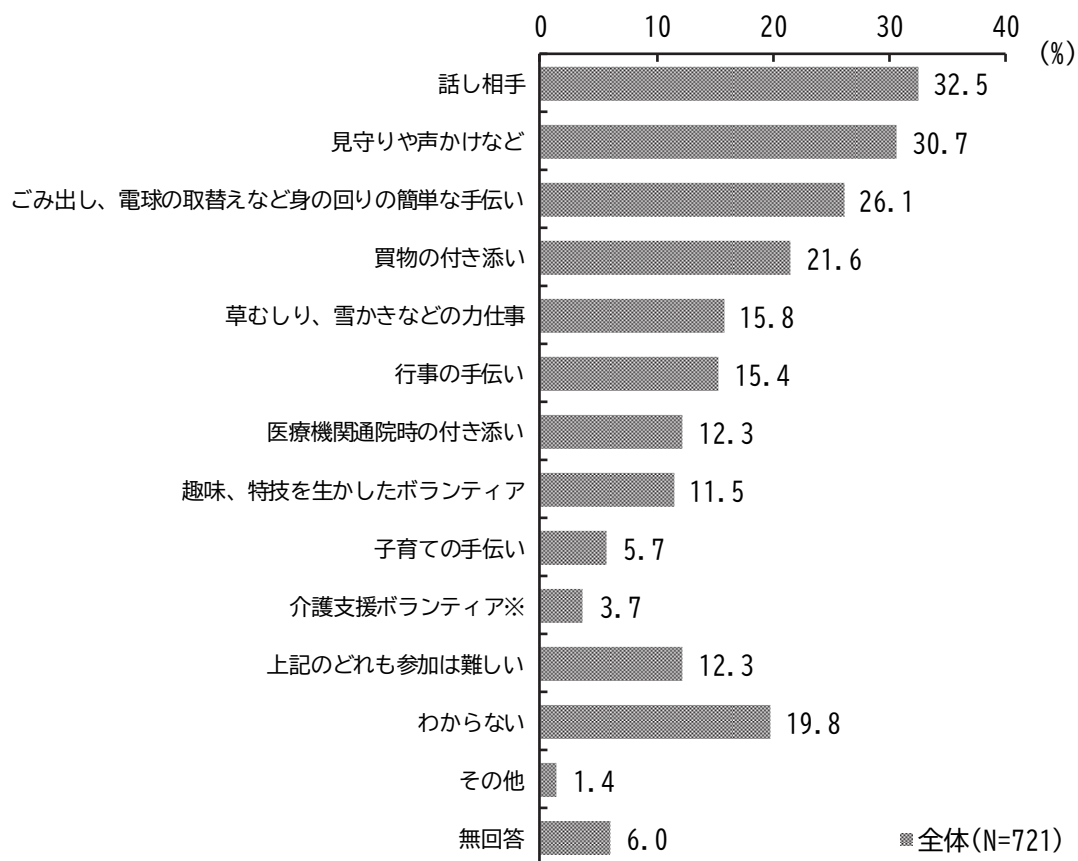


第2章 調査結果

⑦ できると思う地域等の活動（問 41）

できると思う地域等の活動は、「話し相手」（32.5%）が最も高く、「見守りや声かけなど」（30.7%）、「ごみ出し、電球の取替えなど身の回りの簡単な手伝い」（26.1%）、「買物の付き添い」（21.6%）の順で続いている。

できると思う地域等の活動（全体：複数回答）



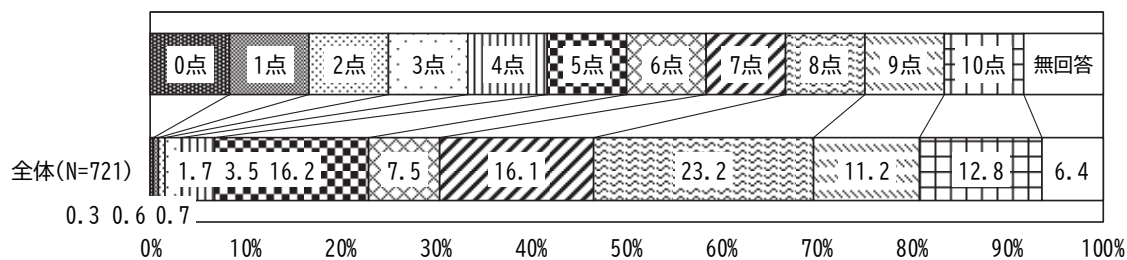
※介護に関連する各種のボランティア活動によって、年間 60 ポイント（6 千円）を上限として換金できるポイントを得られる仕組み（60 歳以上）

⑧ 現在の幸福度（問 42）

主観的な幸福感としての幸福度（とても不幸を0点、とても幸せを10点とした場合の評価）は、「8点」（23.2%）が最も高く、「5点」（16.2%）、「7点」（16.1%）の順で続いている。

性・年代別にみると、【女性85歳以上】で「10点」が24.2%と高くなっている。その他の性・年代別では「8点」が最も高くなっている。

現在の幸福度（全体）



現在の幸福度（全体、性・年代別）

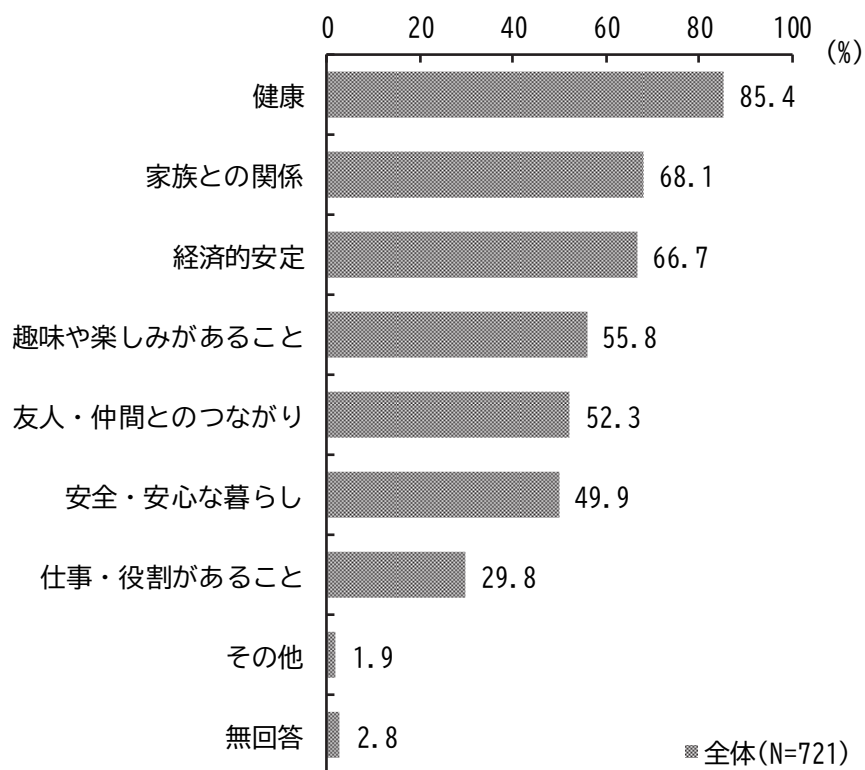
		回答者数	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全体		721	0.3	0.6	0.7	1.7	3.5	16.2	7.5	16.1	23.2	11.2	12.8	6.4
性・年代別	男性-65~74歳	171	0.0	0.0	1.2	2.3	3.5	19.9	10.5	15.2	22.8	11.7	9.4	3.5
	男性-75~84歳	118	0.8	0.8	0.0	4.2	3.4	19.5	6.8	17.8	21.2	5.1	12.7	7.6
	男性-85歳以上	33	3.0	0.0	0.0	0.0	3.0	24.2	9.1	18.2	27.3	6.1	3.0	6.1
	女性-65~74歳	193	0.0	0.0	1.0	1.0	5.2	13.0	5.7	19.7	21.2	16.1	14.0	3.1
	女性-75~84歳	155	0.0	1.3	0.6	0.6	2.6	11.0	7.7	12.9	27.7	11.0	15.5	9.0
	女性-85歳以上	33	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	3.0	12.1	21.2	6.1	24.2

第2章 調査結果

⑨ 幸せと感じる上で重要だと思うもの（問 43）

幸せと感じる上で重要だと思うものは、「健康」（85.4%）が最も高く、「家族との関係」（68.1%）、「経済的安定」（66.7%）の順で続いている。

幸せと感じる上で重要だと思うもの（全体：複数回答）

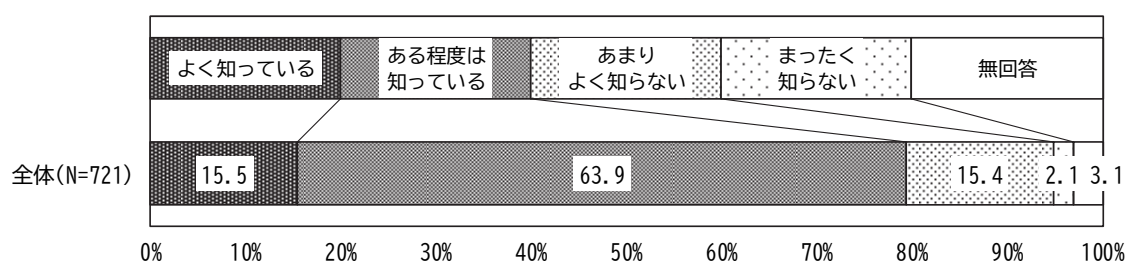


（7）認知症

① 認知症についての認知度（問 44）

認知症についての認知度は、「よく知っている」（15.5%）と「ある程度は知っている」（63.9%）を合計した、知っているとする割合が 79.4%、「あまりよく知らない」（15.4%）と「まったく知らない」（2.1%）を合計した、知らないとする割合が 17.5%となっている。

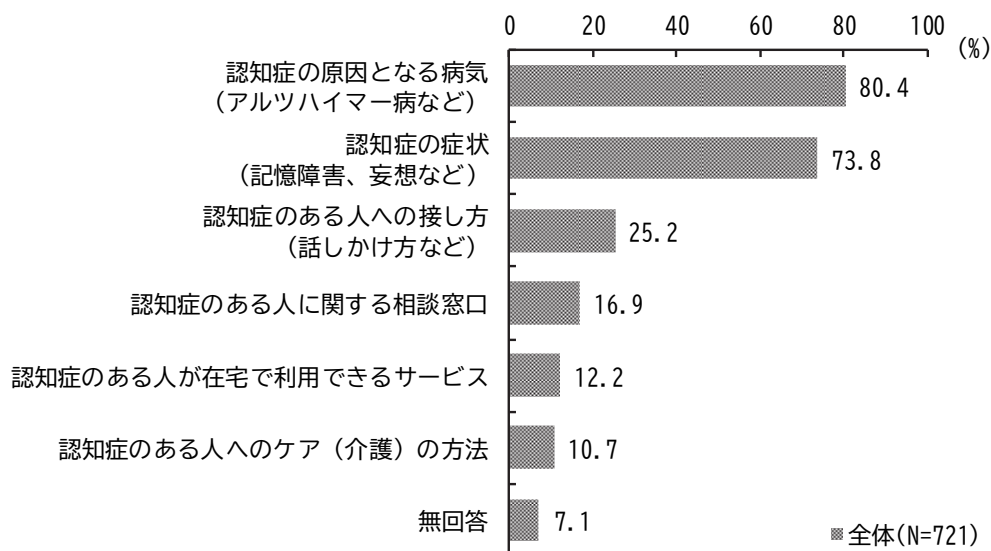
認知症についての認知度（全体）



② 認知症に関する知識（問 45）

認知症に関する知識は、「認知症の原因となる病気（アルツハイマー病など）」（80.4%）が最も高く、「認知症の症状（記憶障害、妄想など）」（73.8%）、「認知症のある人への接し方（話しかけ方など）」（25.2%）の順で続いている。

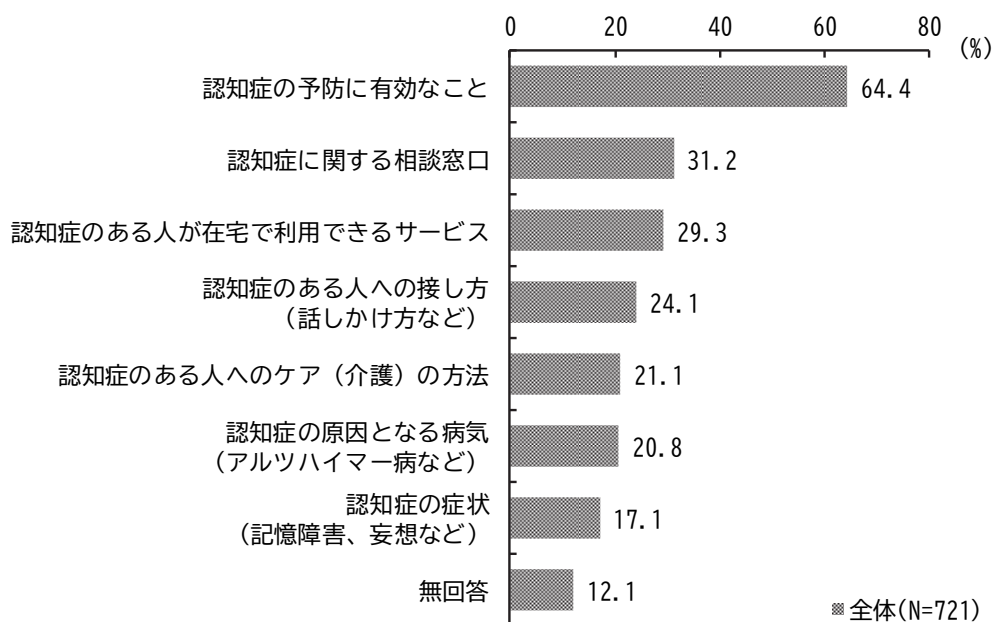
認知症に関する知識（全体：複数回答）



③ 認知症について知りたいこと（問 46）

認知症について知りたいことは、「認知症の予防に有効なこと」（64.4%）が最も高く、「認知症に関する相談窓口」（31.2%）、「認知症のある人が在宅で利用できるサービス」（29.3%）の順で続いている。

認知症について知りたいこと（全体：複数回答）

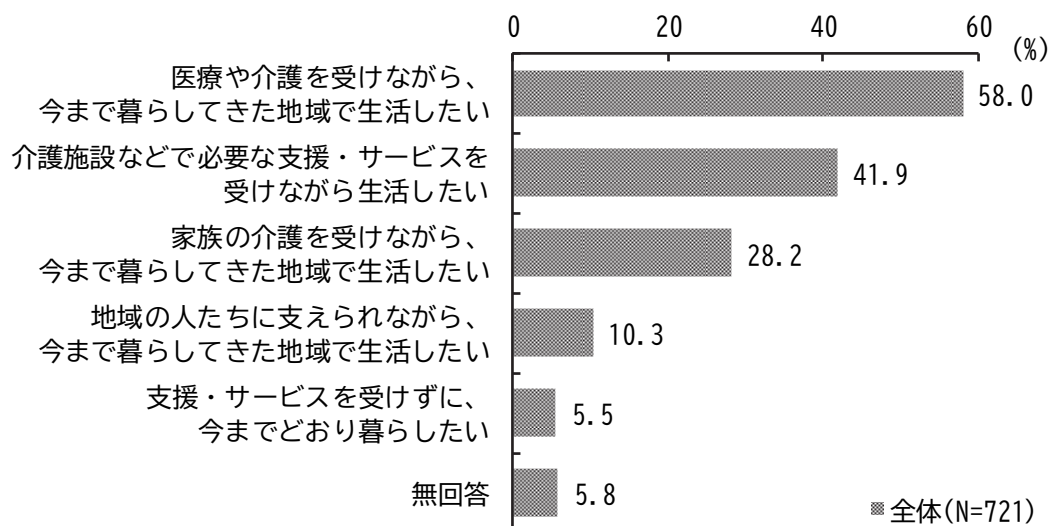


第2章 調査結果

④ 認知症になった場合の暮らしへの意向（問 47）

認知症になった場合の暮らしへの意向は、「医療や介護を受けながら、今まで暮らしてきた地域で生活したい」（58.0%）が最も高く、「介護施設などで必要な支援・サービスを受けながら生活したい」（41.9%）、「家族の介護を受けながら、今まで暮らしてきた地域で生活したい」（28.2%）の順で続いている。

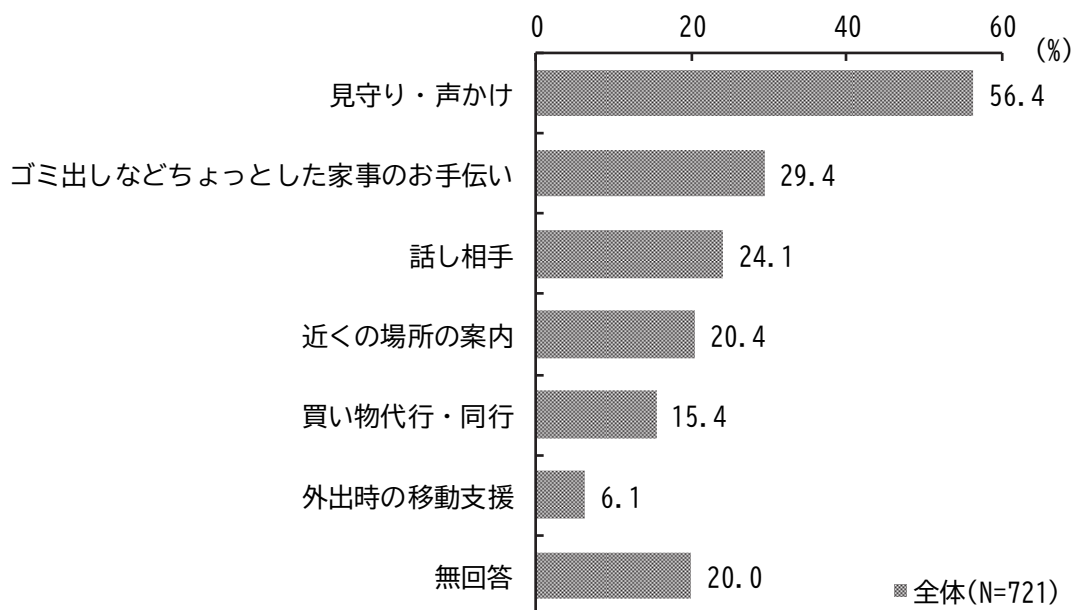
認知症になった場合の暮らしへの意向（全体：複数回答）



⑤ 地域で暮らす認知症のある人にできる（できそうな）支援（問 48）

地域で暮らす認知症のある人にできる（できそうな）支援は、「見守り・声かけ」（56.4%）が最も高く、「ゴミ出しなどちょっとした家事のお手伝い」（29.4%）、「話し相手」（24.1%）の順で続いている。

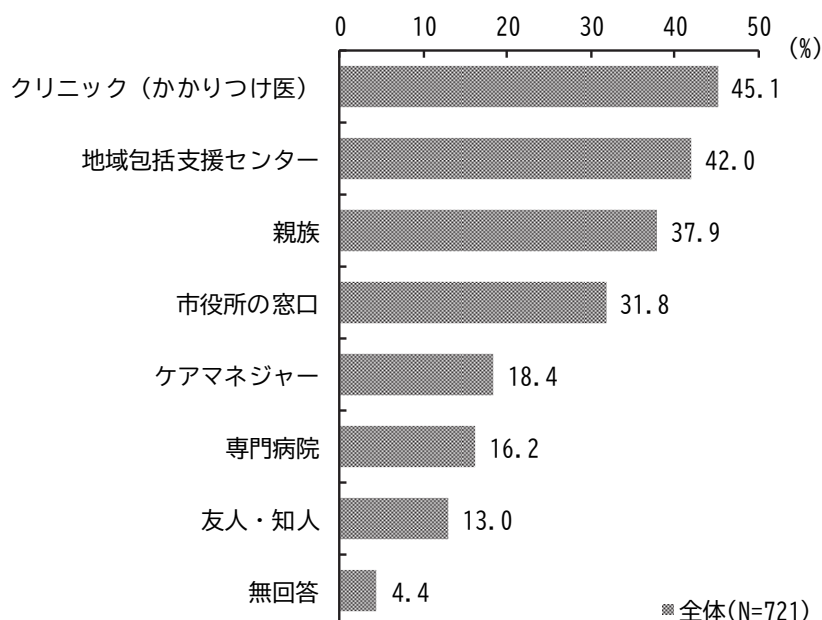
地域で暮らす認知症のある人にできる（できそうな）支援（全体：複数回答）



⑥ 自身や家族が認知症になったときに相談する（した）場所・人（問 49）

自身や家族が認知症になったときに相談する（した）場所・人は、「クリニック（かかりつけ医）」（45.1%）が最も高く、「地域包括支援センター」（42.0%）、「親族」（37.9%）、「市役所の窓口」（31.8%）の順で続いている。

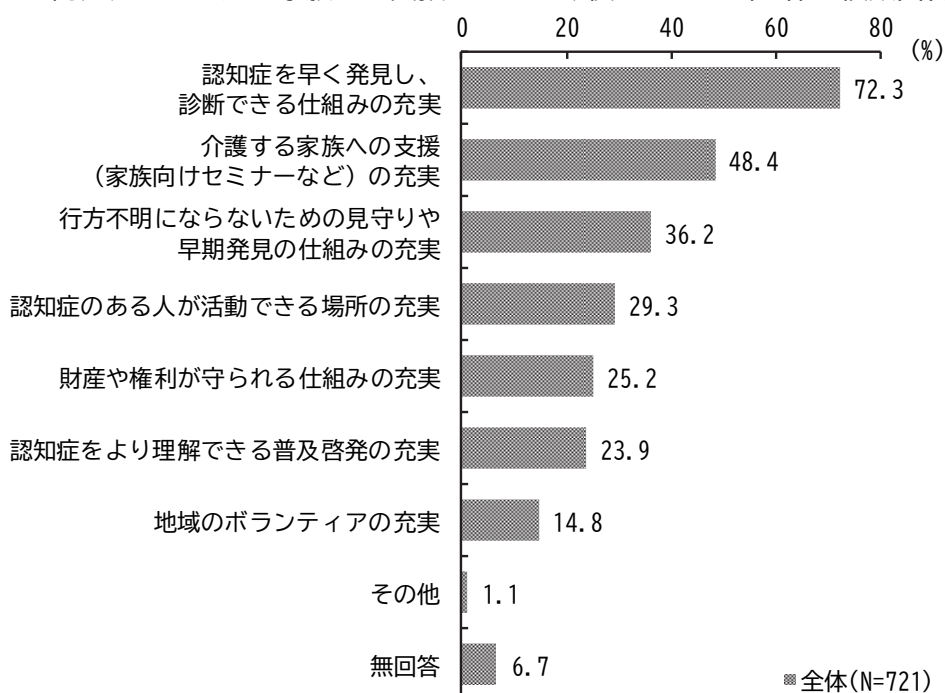
自身や家族が認知症になったときに相談する（した）場所・人（全体：複数回答）



⑦ 認知症のある人や家族への支援について今後望むこと（問 50）

認知症のある人や家族への支援について今後望むことは、「認知症を早く発見し、診断できる仕組みの充実」（72.3%）が最も高く、「介護する家族への支援（家族向けセミナーなど）の充実」（48.4%）、「行方不明にならないための見守りや早期発見の仕組みの充実」（36.2%）の順で続いている。

認知症のある人や家族への支援について今後望むこと（全体：複数回答）

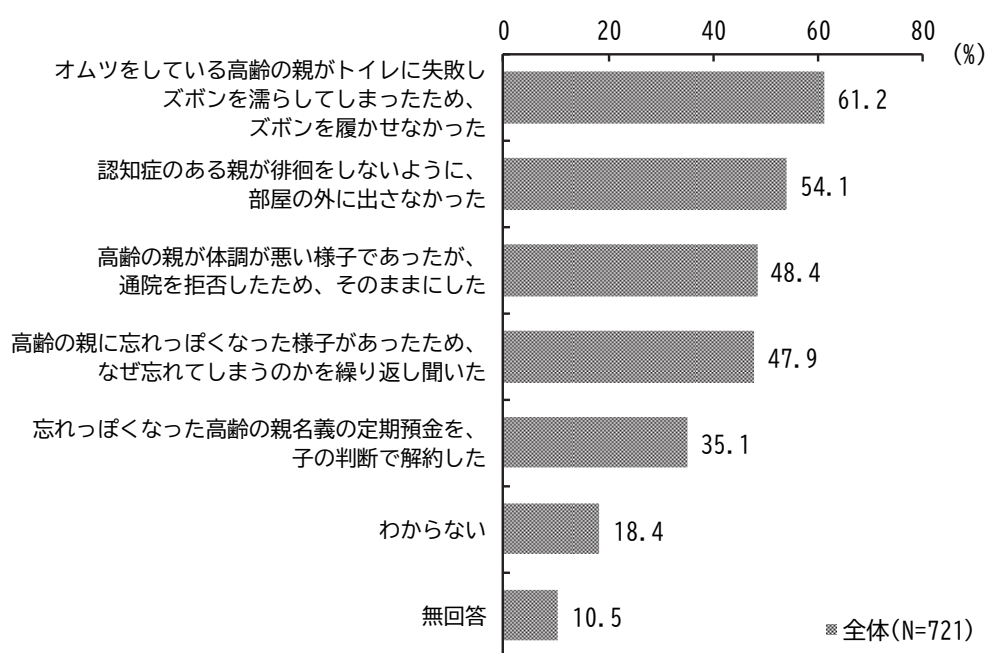


(8) 高齢者虐待

① 高齢者虐待につながる可能性があると思うもの（問 51）

高齢者虐待につながる可能性があると思うものは、「オムツをしている高齢の親がトイレに失敗しズボンを濡らしてしまったため、ズボンを履かせなかった」(61.2%) が最も高く、「認知症のある親が徘徊をしないように、部屋の外に出さなかった」(54.1%)、「高齢の親が体調が悪い様子であったが、通院を拒否したため、そのままにした」(48.4%)、「高齢の親に忘れっぽくなった様子があったため、なぜ忘れてしまうのかを繰り返し聞いた」(47.9%) の順で続いている。なお、「わからない」は 18.4% となっている。

高齢者虐待につながる可能性があると思うもの（全体：複数回答）

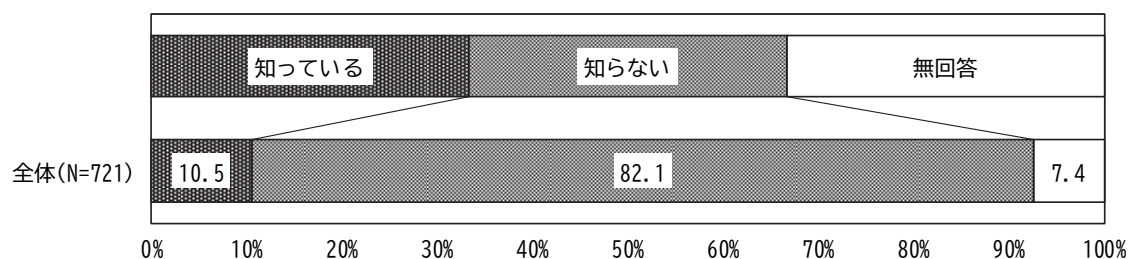


② 高齢者虐待の通報先の認知度（問 52）

高齢者虐待の通報先の認知度は、「知っている」が 10.5% となっている。

「知っている」(10.5%) と回答した人に、具体的な相談先をたずねたところ、「地域包括支援センター」、「市役所」が多く、「警察」との回答もあった。

高齢者虐待の通報先の認知度（全体）



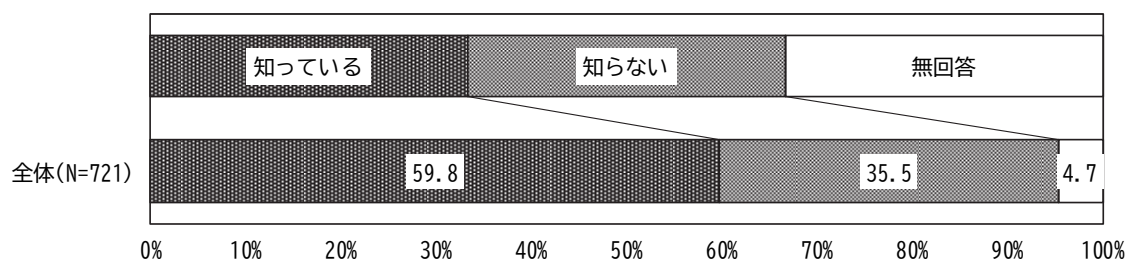
(9) 高齢者を支える仕組み

① 地域包括支援センター※の認知度（問 53）

地域包括支援センターの認知度は、「知っている」が 59.8%で過半数となっている。

居住圏域別にみると、【富士町包括圏域】で「知っている」が 65.9%と高くなっている。

地域包括支援センターの認知度（全体）



地域包括支援センターの認知度（全体、居住圏域別）

		(人、%)			
		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		721	59.8	35.5	4.7
居住圏域別	栄町包括圏域	93	59.1	37.6	3.2
	富士町包括圏域	91	65.9	27.5	6.6
	泉町包括圏域	81	60.5	32.1	7.4
	田無町包括圏域	108	59.3	39.8	0.9
	緑町包括圏域	88	61.4	38.6	0.0
	西原町包括圏域	88	59.1	36.4	4.5
	向台町包括圏域	90	57.8	36.7	5.6
	新町包括圏域	76	56.6	35.5	7.9

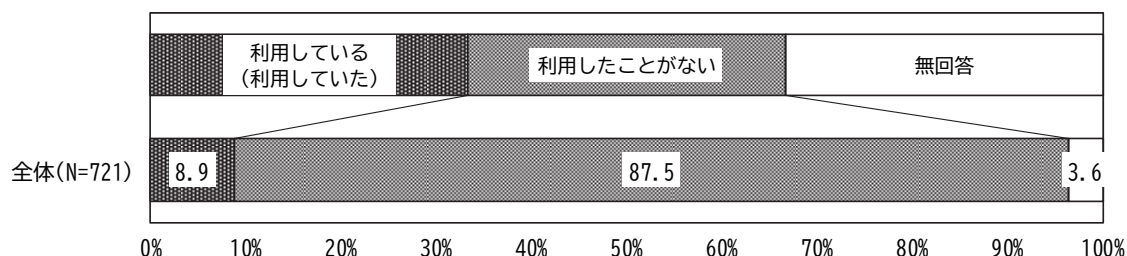
※高齢者の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、介護・福祉・健康・医療など様々な面から関係機関との連携をとりながら、総合的に支えていく機関

第2章 調査結果

② 高齢者福祉サービスの利用の有無（問 54）

高齢者福祉サービスの利用の有無は、「利用している（利用していた）」が 8.9%、「利用したことがない」が 87.5%となっている。

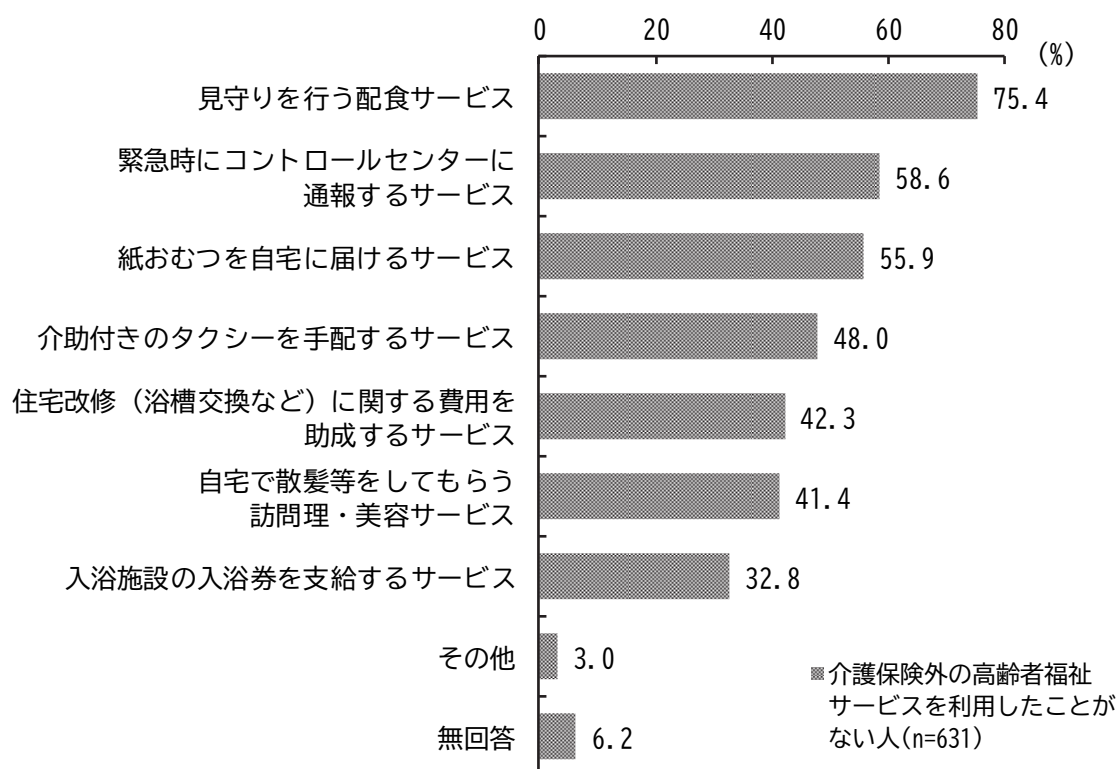
高齢者福祉サービスの利用の有無（全体）



③ 今後利用したい・必要だと思う高齢者福祉サービス（問 54-1）

介護保険外の高齢者福祉サービスを利用したことがない人に今後利用したい・必要だと思う高齢者福祉サービスをたずねたところ、「見守りを行う配食サービス」（75.4%）が最も高く、「緊急時にコントロールセンターに通報するサービス」（58.6%）、「紙おむつを自宅に届けるサービス」（55.9%）の順で続いている。

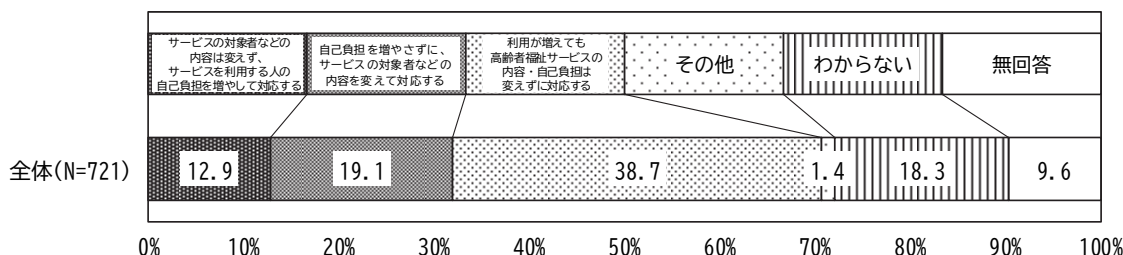
今後利用したい・必要だと思う高齢者福祉サービス
（介護保険外の高齢者福祉サービスを利用したことがない人：複数回答）



④ 増大する高齢者福祉サービスへの対応方法（問 55）

増大する高齢者福祉サービスへの対応方法は、「利用が増えても高齢者福祉サービスの内容・自己負担は変えずに対応する」（38.7%）が最も高く、「自己負担を増やさずに、サービスの対象者などの内容を変えて対応する」（19.1%）、「わからない」（18.3%）の順となっている。

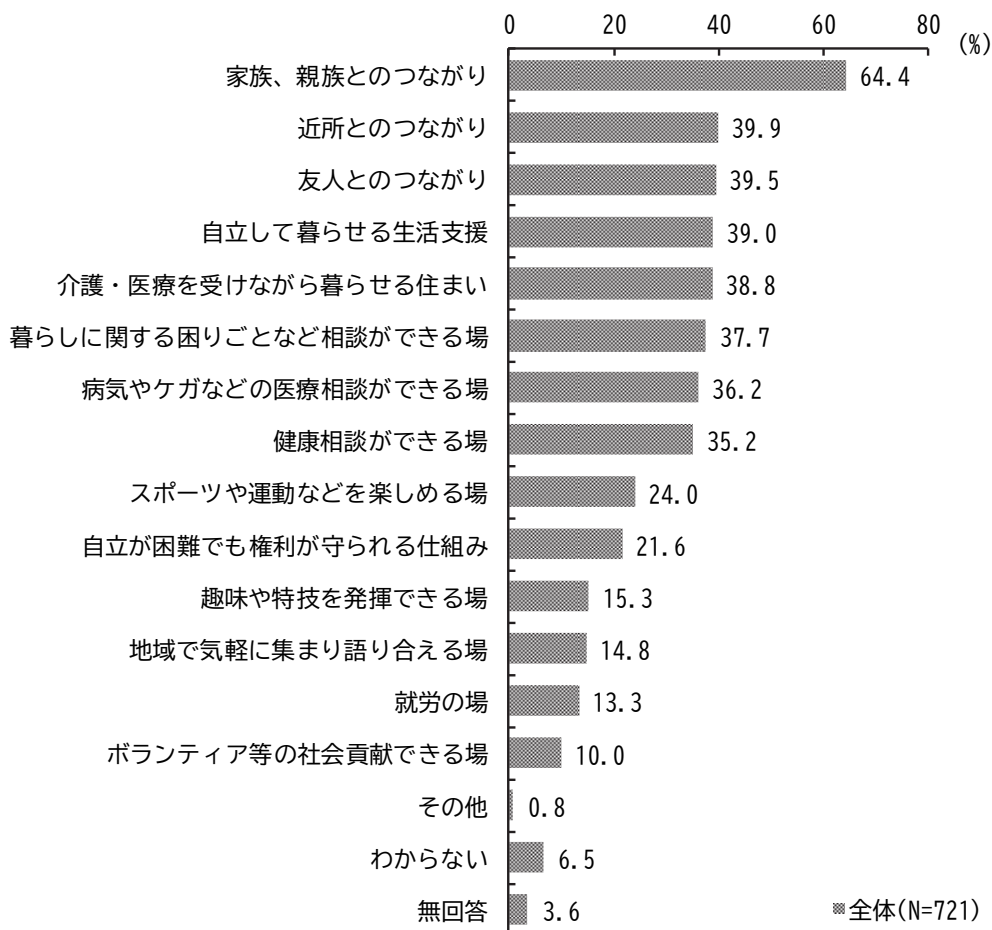
増大する高齢者福祉サービスへの対応方法（全体）



⑤ 今後地域で暮らしていくために必要だと思うこと（問 56）

今後地域で暮らしていくために必要だと思うことは、「家族、親族とのつながり」（64.4%）が最も高く、「近所とのつながり」（39.9%）、「友人とのつながり」（39.5%）、「自立して暮らせる生活支援」（39.0%）、「介護・医療を受けながら暮らせる住まい」（38.8%）の順で続いている。

今後地域で暮らしていくために必要だと思うこと（全体：複数回答）



2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

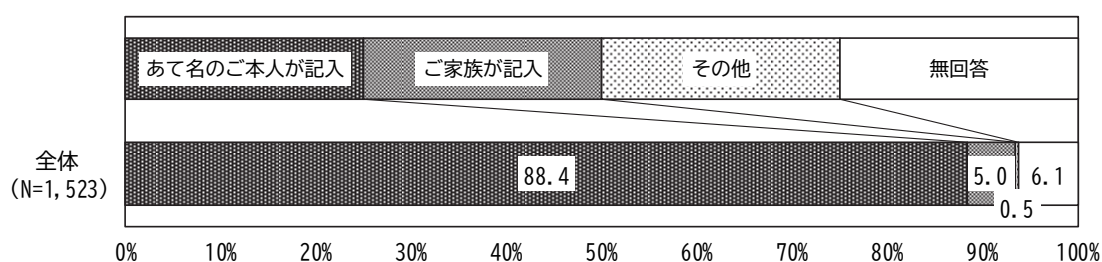
※問番号は調査票の質問を表しています。

(1) 基本属性

① 記入者（問2）

調査票の記入者は、「本人」が88.4%、「家族」が5.0%となっている。

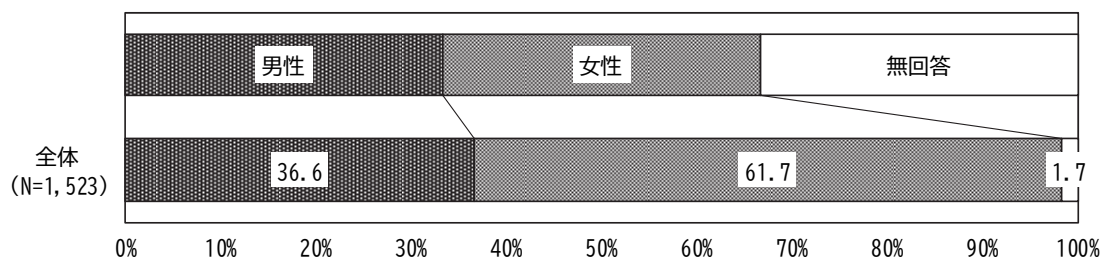
記入者（全体）



② 性別（問3）

性別は、「男性」が36.6%、「女性」が61.7%となっている。

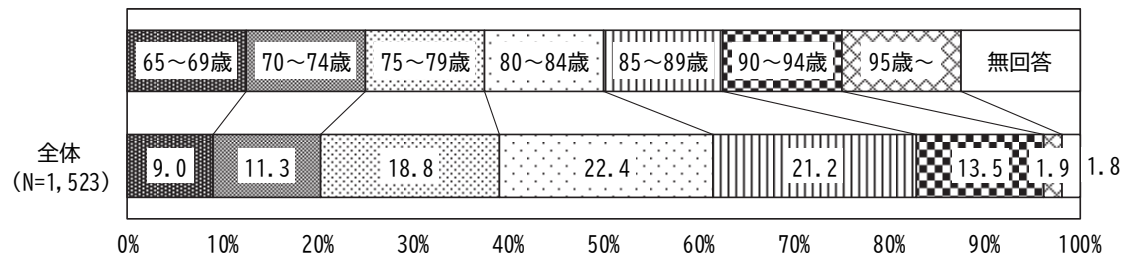
性別（全体）



③ 年齢（問4）

年齢は、「80～84歳」（22.4%）が最も高く、「85～89歳」（21.2%）、「75～79歳」（18.8%）、「90～94歳」（13.5%）の順で続いている。

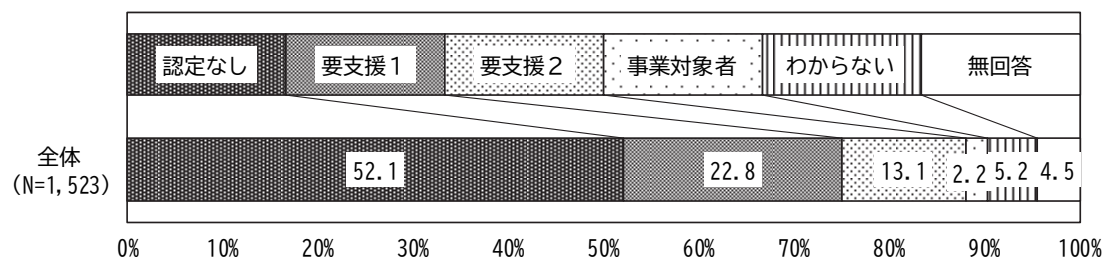
年齢（全体）



④ 要支援認定の状況（問5）

要支援認定の状況は、「認定なし」（52.1%）が最も高く、「要支援1」（22.8%）、「要支援2」（13.1%）、「わからない」（5.2%）の順で続いている。

要支援認定の状況（全体）



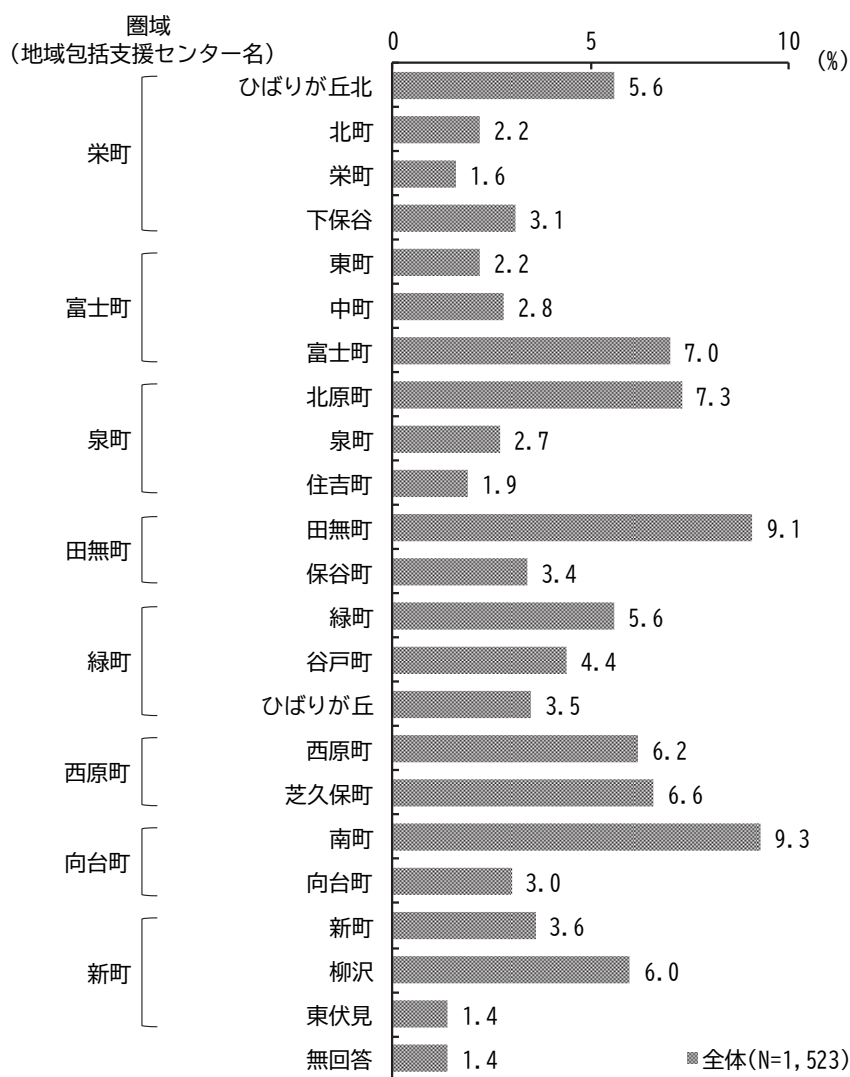
第2章 調査結果

⑤ 居住地区（問6）

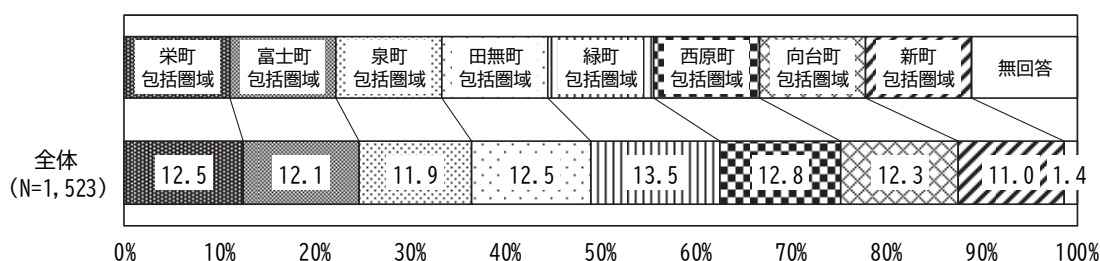
居住地区は、「南町」（9.3%）が最も高く、「田無町」（9.1%）、「北原町」（7.3%）、「富士町」（7.0%）の順で続いている。

圏域でみると、「緑町包括圏域」（13.5%）が最も高く、「西原町包括圏域」（12.8%）、「栄町包括圏域」、「田無町包括圏域」（それぞれ 12.5%）、「向台町包括圏域」（12.3%）の順で続いている。

居住地区（全体）



居住圏域（全体）

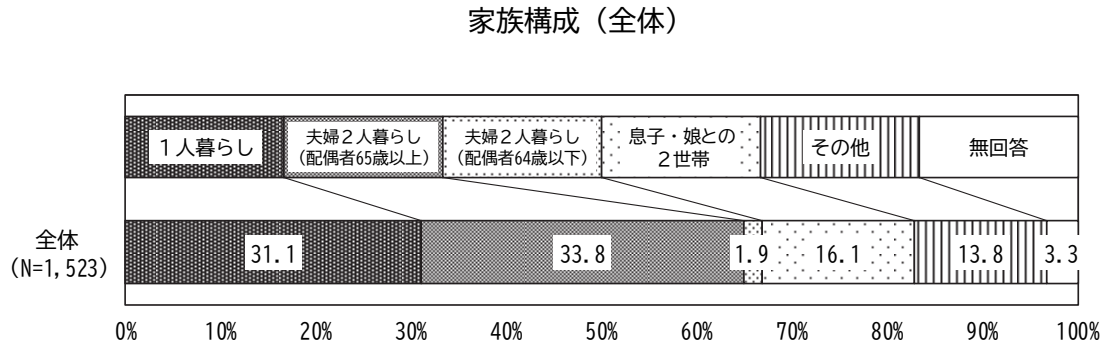


※居住圏域の割合 (%) は、該当する居住地区の回答者数を合計して割合 (%) を算出しているため、グラフ記載の割合 (%) を合計した値と異なる場合がある

(2) 家族や生活の状況

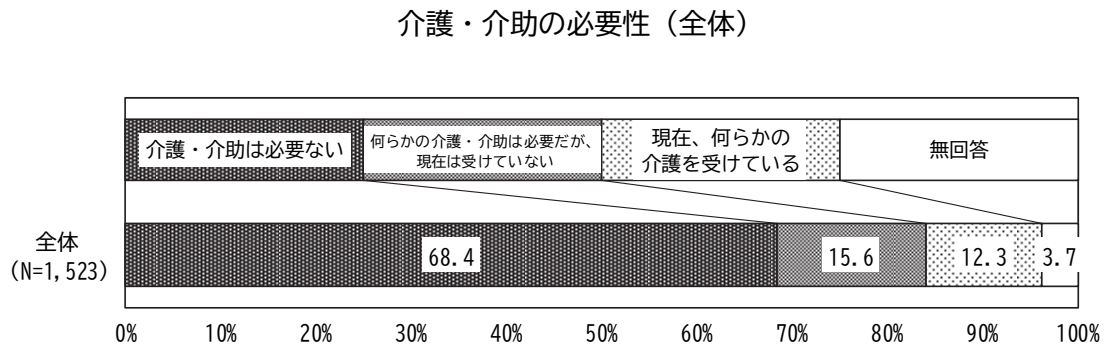
① 家族構成（問7）

家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」（33.8%）が最も高く、「1人暮らし」（31.1%）、「息子・娘との2世帯」（16.1%）の順で続いている。



② 介護・介助の必要性（問8）

介護・介助の必要性は、「介護・介助は必要ない」が 68.4%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 15.6%、「現在、何らかの介護を受けている」が 12.3%となっている。



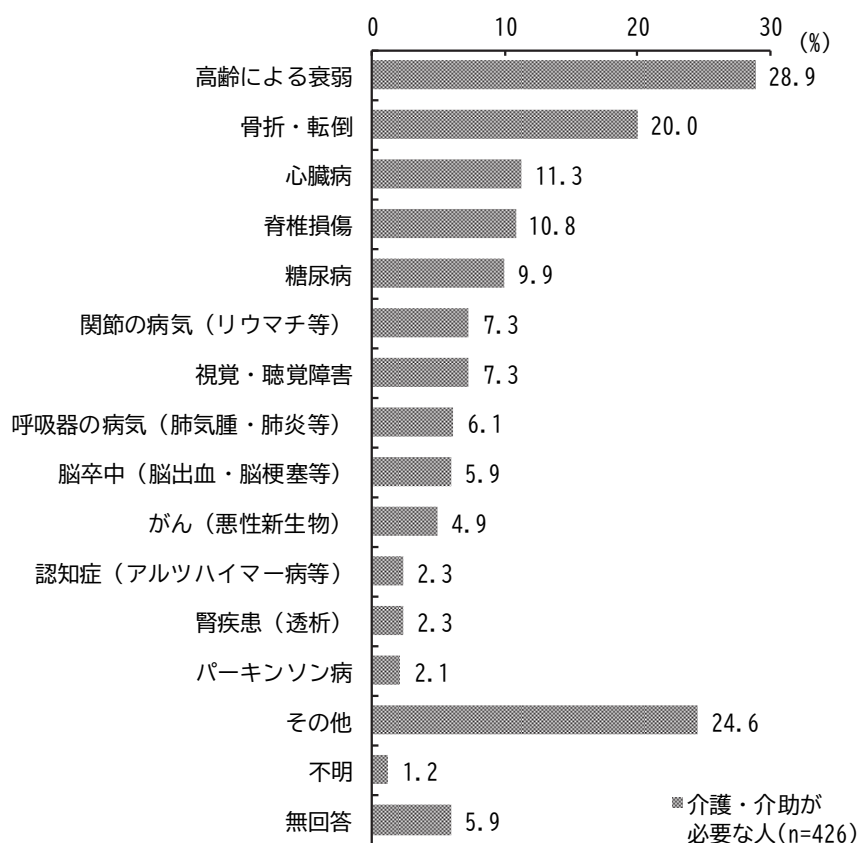
第2章 調査結果

③ 介護・介助が必要になった原因（問8-1）

介護・介助が必要な人（問8で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」又は「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人）に介護・介助が必要になった原因をたずねたところ、「高齢による衰弱」（28.9%）が最も高く、「骨折・転倒」（20.0%）、「心臓病」（11.3%）、「脊椎損傷」（10.8%）、「糖尿病」（9.9%）の順で続いている。

「その他」（24.6%）の内容は、「足腰の痛み」、「ひざ関節」、「歩行困難（不安）」、「脊柱管狭窄症」などが多くみられた。

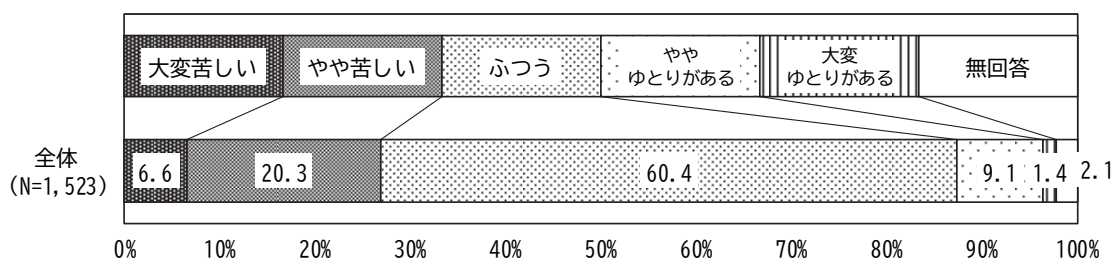
介護・介助が必要になった原因（介護・介助が必要な人：複数回答）



④ 現在の経済状況（問9）

現在の経済状況は、「ふつう」が60.4%で最も高く、「やや苦しい」（20.3%）、「ややゆとりがある」（9.1%）、「大変苦しい」（6.6%）、「大変ゆとりがある」（1.4%）の順で続いている。

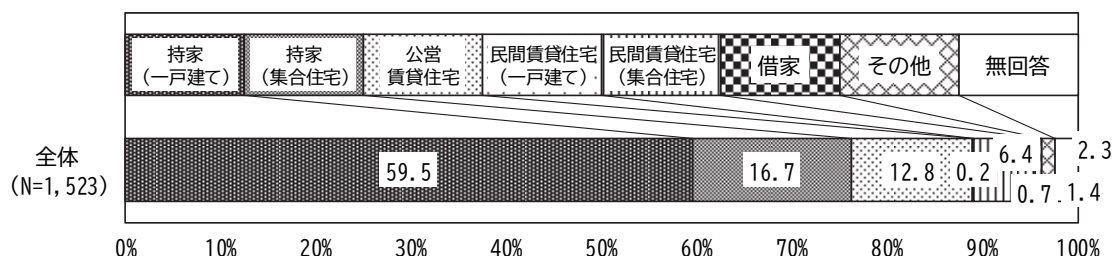
現在の経済状況（全体）



⑤ 居住形態（問 10）

居住形態は、「持家（一戸建て）」（59.5%）が最も高く、「持家（集合住宅）」（16.7%）、「公営賃貸住宅」（12.8%）の順で続いている。

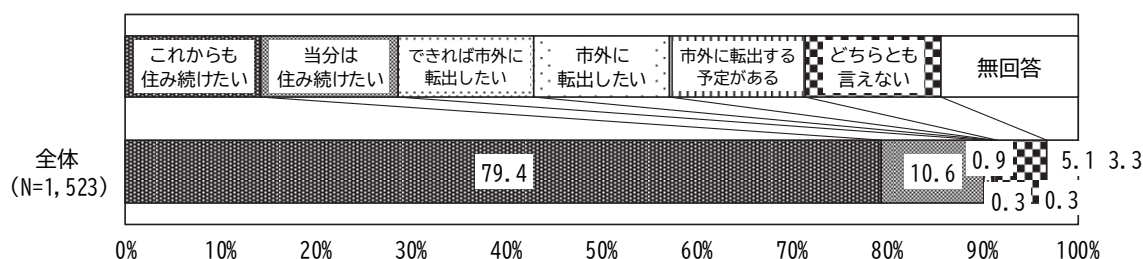
居住形態（全体）



⑥ 今後の西東京市への居住継続意向（問 11）

今後の西東京市への居住継続意向は、「これからも住み続けたい」（79.4%）が最も高く、「当分は住み続けたい」（10.6%）、「どちらとも言えない」（5.1%）の順で続いている。

今後の西東京市への居住継続意向（全体）

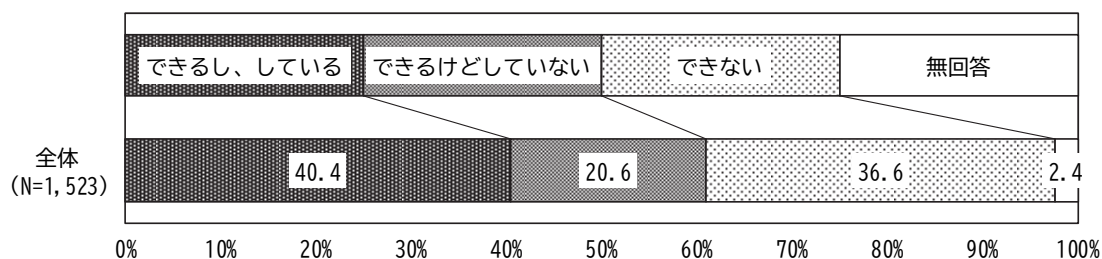


(3) 身体機能の状況

① 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること（問 12）

階段を手すりや壁をつたわずに昇ることは、「できるし、している」が 40.4%、「できるけどしていない」が 20.6%、「できない」が 36.6%となっている。

階段を手すりや壁をつたわずに昇ること（全体）

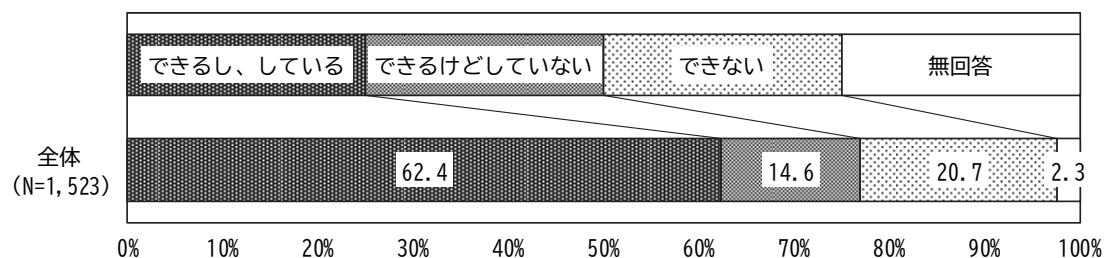


第2章 調査結果

② 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること（問 13）

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることは、「できるし、している」が 62.4%、「できるけどしていない」が 14.6%、「できない」が 20.7%となっている。

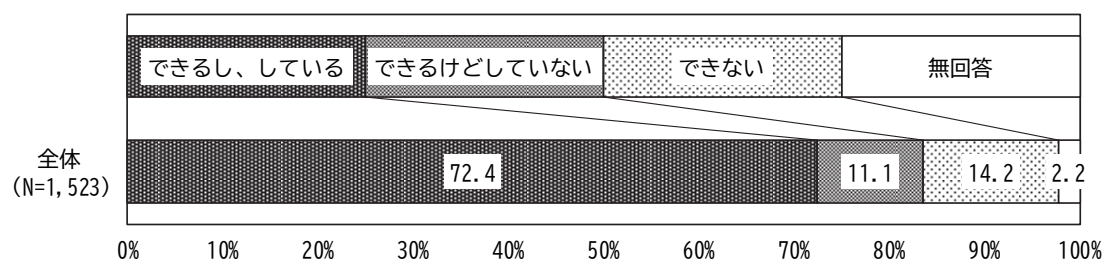
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること（全体）



③ 15分位続けて歩くこと（問 14）

15分位続けて歩くことは、「できるし、している」が 72.4%、「できるけどしていない」が 11.1%、「できない」が 14.2%となっている。

15分位続けて歩くこと（全体）

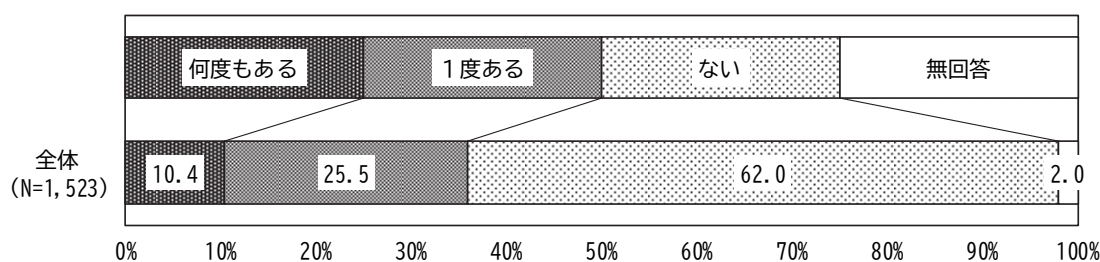


④ 過去1年以内の転んだ経験（問15）

過去1年以内の転んだ経験は、「ない」（62.0%）が最も高く、「1度ある」（25.5%）、「何度もある」（10.4%）の順で続いている。

性・年代別にみると、女性では年代が高いほど「何度もある」が高くなる傾向がみられる。「ない」は、男女ともに年代が低いほど高くなる傾向がみられ、特に【女性65～74歳】では72.6%と高くなっている。

過去1年以内の転んだ経験（全体）



過去1年以内の転んだ経験（全体、性・年代別）

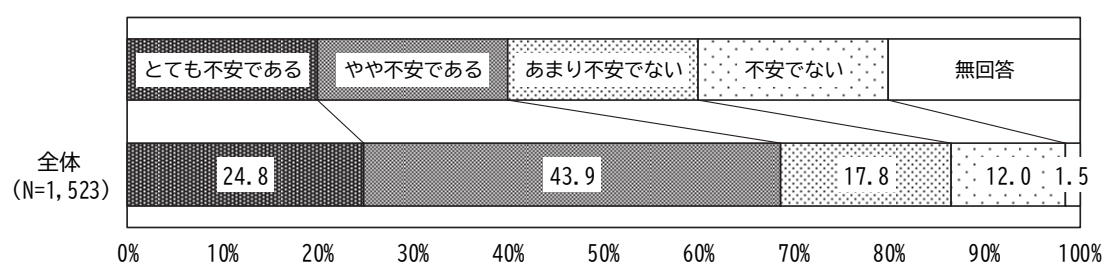
		(人、%)				
		回答者数	何度もある	1度ある	ない	無回答
全体		1,523	10.4	25.5	62.0	2.0
性・年代別	男性-65～74歳	134	11.2	18.7	69.4	0.7
	男性-75～84歳	222	8.6	25.7	65.3	0.5
	男性-85歳以上	197	12.7	29.9	57.4	0.0
	女性-65～74歳	175	5.1	21.1	72.6	1.1
	女性-75～84歳	404	10.1	26.0	62.1	1.7
	女性-85歳以上	359	13.1	28.4	56.5	1.9

第2章 調査結果

⑤ 転倒に対する不安（問16）

転倒に対する不安は、「やや不安である」(43.9%)が最も高く、「とても不安である」(24.8%)、「あまり不安でない」(17.8%)、「不安でない」(12.0%)の順で続いている。「(とても・やや)不安である」(68.7%)は「(あまり)不安でない」(29.8%)より高くなっている。

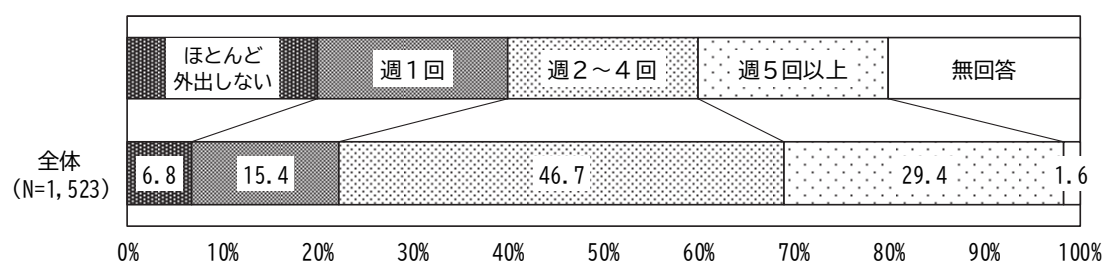
転倒に対する不安（全体）



⑥ 外出の頻度（問17）

外出の頻度は、「週2～4回」(46.7%)が最も高く、「週5回以上」(29.4%)、「週1回」(15.4%)、「ほとんど外出しない」(6.8%)の順で続いている。

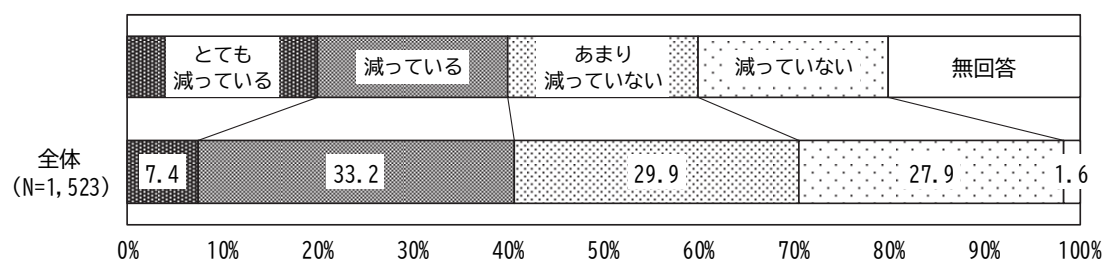
外出の頻度（全体）



⑦ 昨年と比較した外出の頻度（問18）

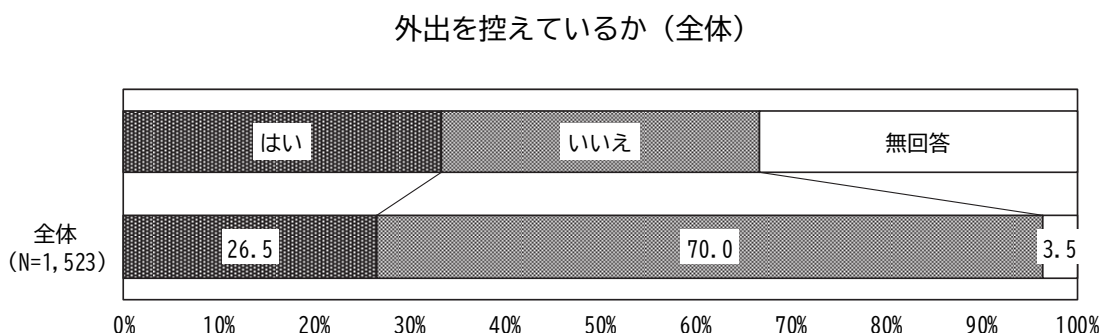
昨年と比較した外出の頻度は、「減っている」(33.2%)が最も高く、「あまり減っていない」(29.9%)、「減っていない」(27.9%)、「とても減っている」(7.4%)の順で続いている。

昨年と比較した外出の頻度（全体）



⑧ 外出を控えているか（問 19）

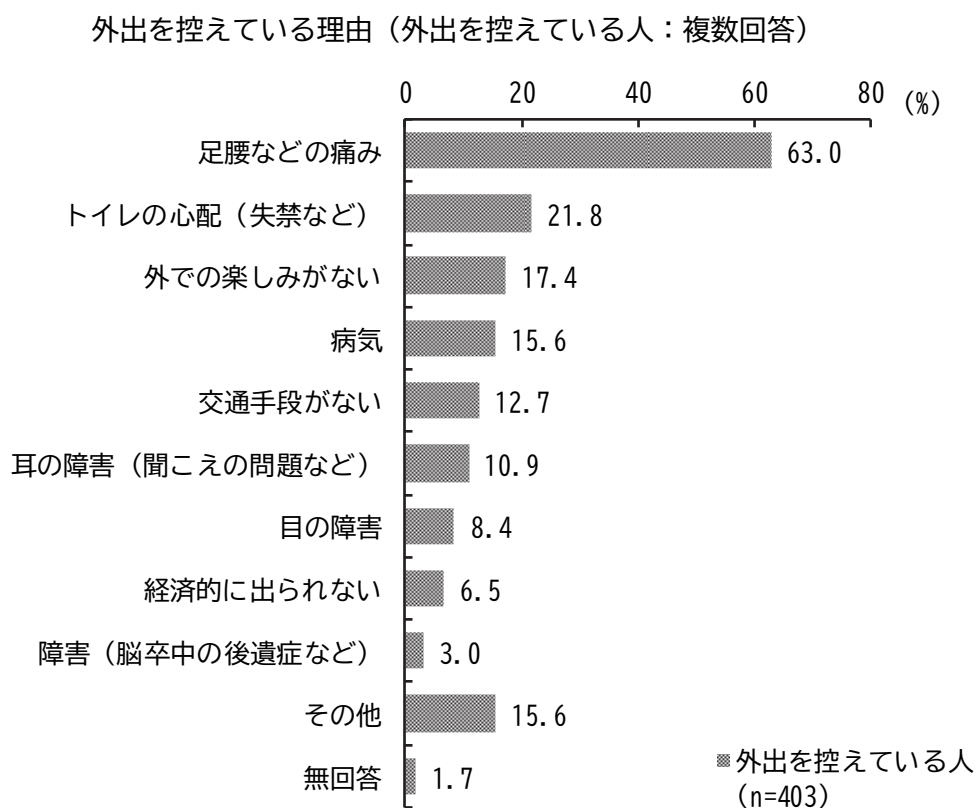
外出を控えているかは、「はい（控えている）」が 26.5%、「いいえ（控えていない）」が 70.0% となっている。



⑨ 外出を控えている理由（問 19-1）

外出を控えている人（問 19 で「はい」と回答した人）にその理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」（63.0%）が最も高く、「トイレの心配（失禁など）」（21.8%）、「外での楽しみがない」（17.4%）の順で続いている。

「その他」（15.6%）の内容は、「転倒での骨折」、「難聴」、「ふらつき」、「熱中症」、「一人での行動に自信がない」などであった。

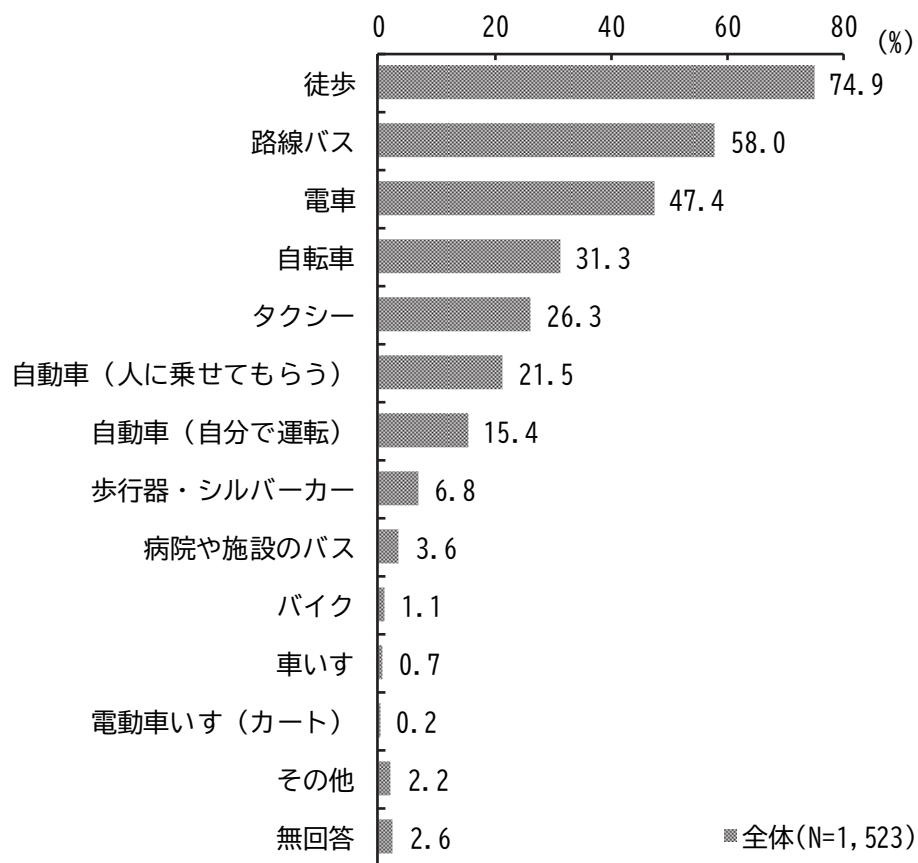


第2章 調査結果

⑩ 外出する際の移動手段（問 20）

外出する際の移動手段は、「徒歩」(74.9%)が最も高く、「路線バス」(58.0%)、「電車」(47.4%)、「自転車」(31.3%)の順が続いている。

外出する際の移動手段（全体：複数回答）



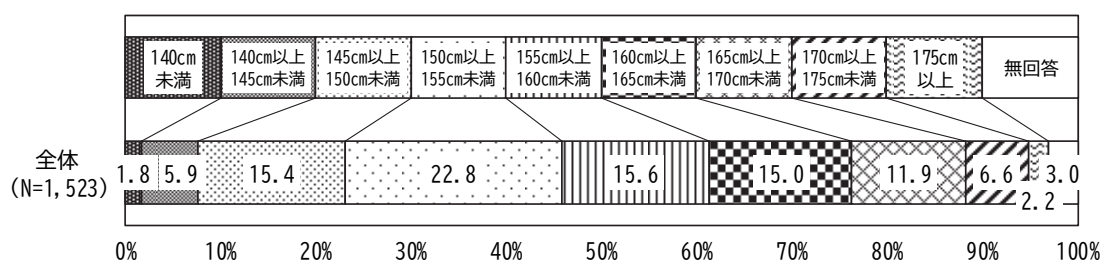
(4) 食事の状況

① 身長・体重 (問 21)

■身長

身長は、「150cm 以上 155cm 未満」(22.8%) が最も高く、「155cm 以上 160cm 未満」(15.6%)、「145cm 以上 150cm 未満」(15.4%)、「160cm 以上 165cm 未満」(15.0%) の順で続いている。

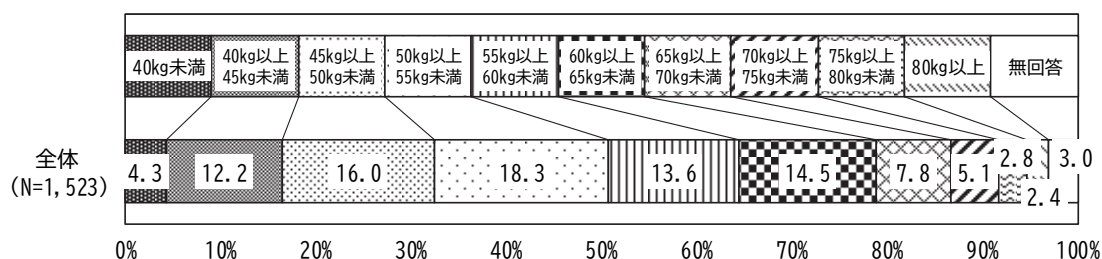
身長 (全体)



■体重

体重は、「50kg 以上 55kg 未満」(18.3%) が最も高く、「45kg 以上 50kg 未満」(16.0%)、「60kg 以上 65kg 未満」(14.5%)、「55kg 以上 60kg 未満」(13.6%) の順で続いている。

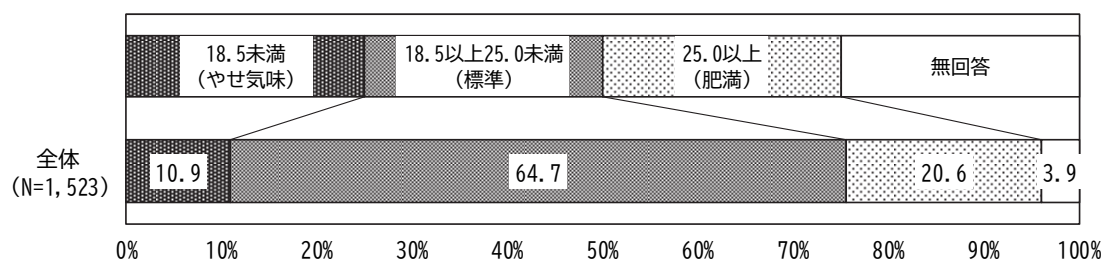
体重 (全体)



■体格指数 (BMI)

低栄養リスクの指標となる体格指数 (BMI = 体重(kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m)) は、「18.5 以上 ~ 25.0 未満 (標準)」(64.7%) が最も高く、「25.0 以上 (肥満)」(20.6%)、「18.5 未満 (やせ気味)」(10.9%) の順で続いている。

体格指数 (BMI) (全体)

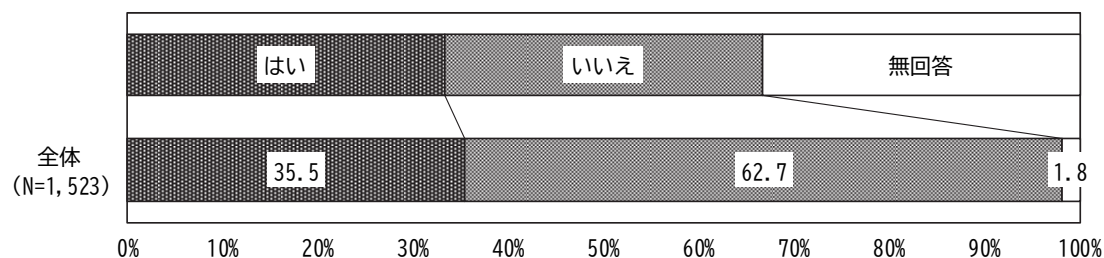


第2章 調査結果

② 半年前に比べ固いものが食べにくくなったか（問 22）

半年前に比べ固いものが食べにくくなったかは、「はい」が 35.5%、「いいえ」が 62.7%となっている。

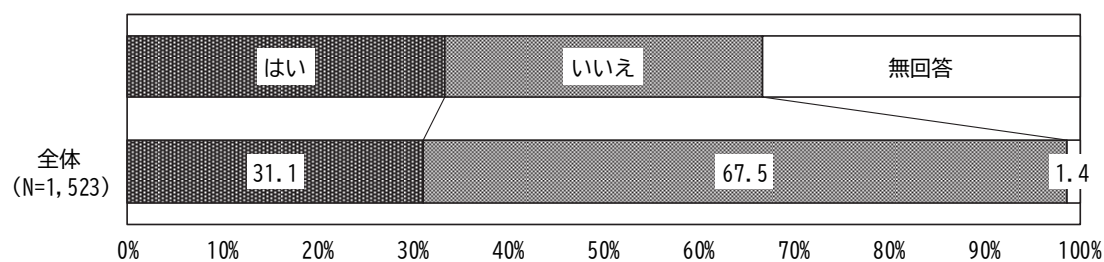
半年前に比べ固いものが食べにくくなったか（全体）



③ お茶や汁物等でむせることがあるか（問 23）

お茶や汁物等でむせることがあるかは、「はい」が 31.1%、「いいえ」が 67.5%となっている。

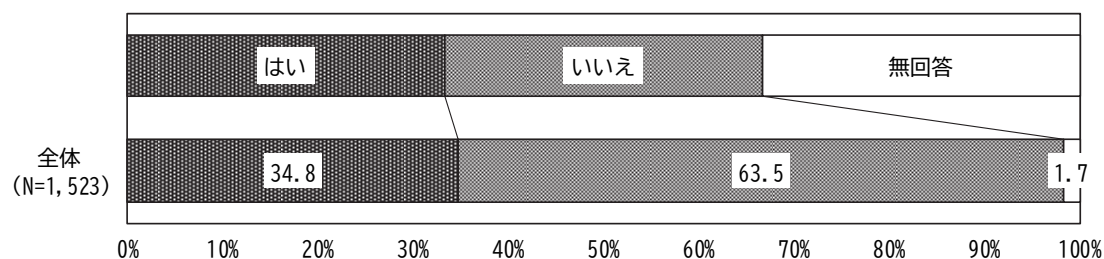
お茶や汁物等でむせることがあるか（全体）



④ 口の渇きが気になるか（問 24）

口の渇きが気になるかは、「はい」が 34.8%、「いいえ」が 63.5%となっている。

口の渇きが気になるか（全体）

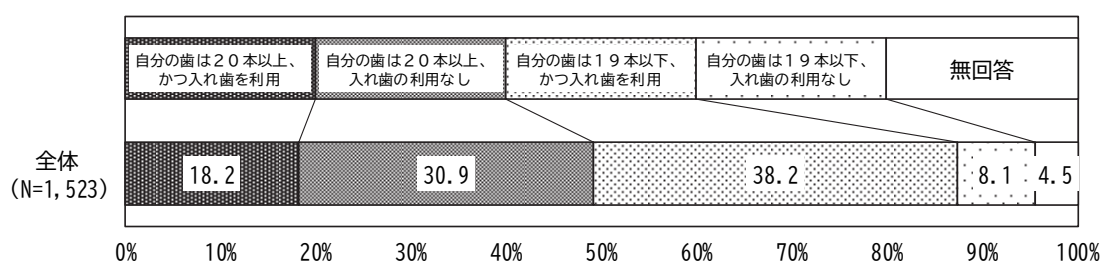


⑤ 歯の数と入れ歯の利用状況（問 25）

自分の歯が 20 本以上ある人（入れ歯の利用に関わらず「自分の歯は 20 本以上」と回答した人）は 49.1%、自分の歯は 19 本以下の人（入れ歯の利用に関わらず「自分の歯は 19 本以下」と回答した人）は 46.3%となっている。

入れ歯の利用状況は、利用している人（自分の歯の本数に関わらず「入れ歯を利用」と回答した人）が 56.4%、利用していない人（自分の歯の本数に関わらず「入れ歯の利用なし」と回答した人）が 39.0%となっている。

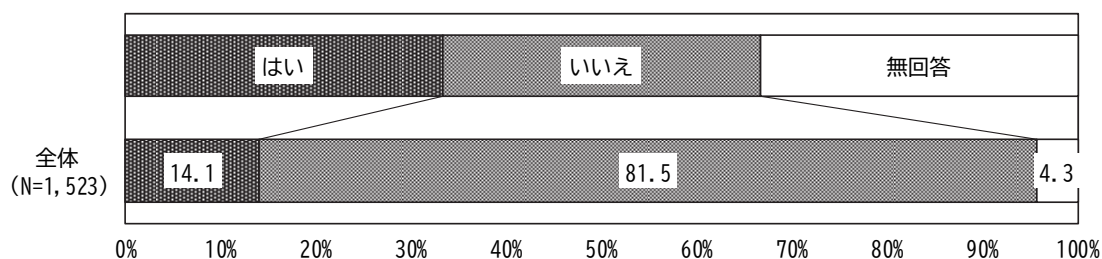
歯の数と入れ歯の利用状況（全体）



⑥ 6か月間で2～3kgの体重減少があったか（問 26）

6か月間で2～3kgの体重減少があったかは、「はい（あった）」が 14.1%、「いいえ（なかった）」が 81.5%となっている。

6か月間で2～3kgの体重減少があったか（全体）

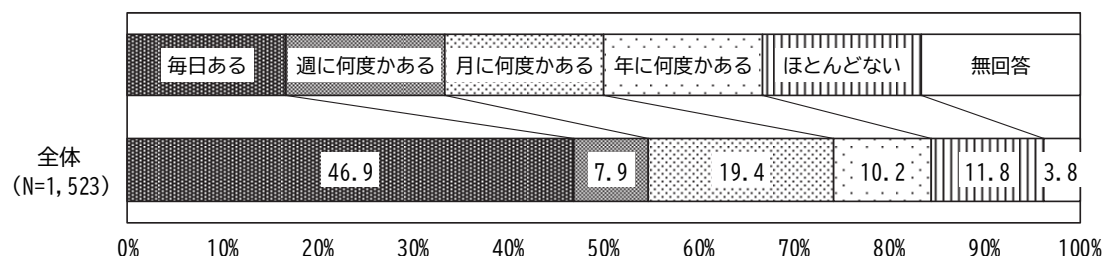


第2章 調査結果

⑦ 誰かと食事をする機会（問 27）

誰かと食事をする機会は、「毎日ある」（46.9%）が最も高く、「月に何度かある」（19.4%）、「ほとんどない」（11.8%）、「年に何度かある」（10.2%）、「週に何度かある」（7.9%）の順で続いている。

誰かと食事をする機会（全体）

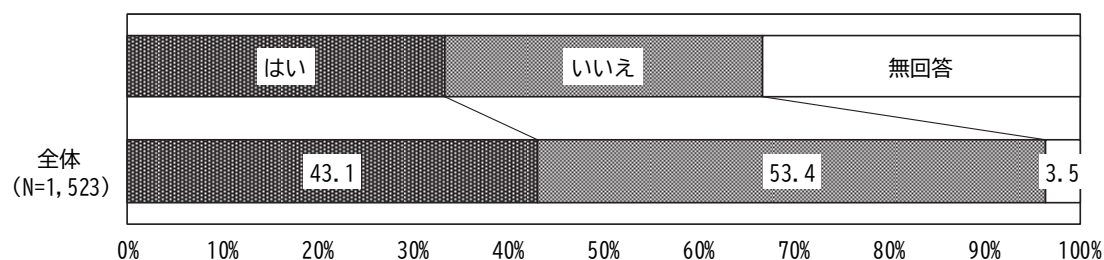


（5）毎日の生活

① 物忘れが多いと感じるか（問 28）

物忘れが多いと感じるかは、「はい」が43.1%、「いいえ」が53.4%となっている。

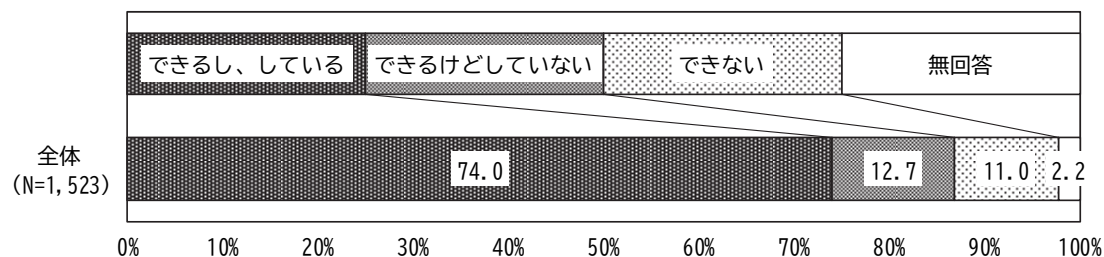
物忘れが多いと感じるか（全体）



② バスや電車を使って1人で外出しているか（問 29）

バスや電車を使って1人で外出しているかは、「できるし、している」が74.0%、「できるけどしていない」が12.7%、「できない」が11.0%となっている。

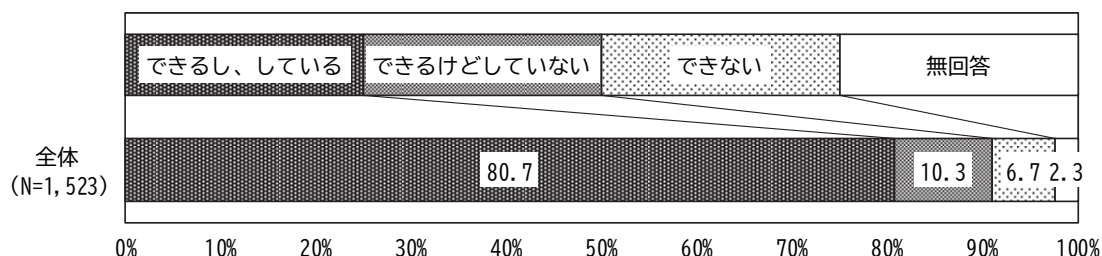
バスや電車を使って1人で外出しているか（全体）



③ 自分で食品・日用品の買物をしているか（問 30）

自分で食品・日用品の買物をしているかは、「できるし、している」が 80.7%、「できるけどしていない」が 10.3%、「できない」が 6.7%となっている。

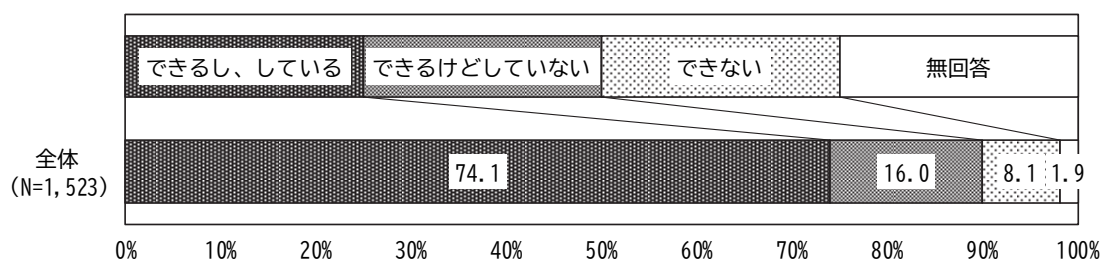
自分で食品・日用品の買物をしているか（全体）



④ 自分で食事の用意をしているか（問 31）

自分で食事の用意をしているかは、「できるし、している」が 74.1%、「できるけどしていない」が 16.0%、「できない」が 8.1%となっている。

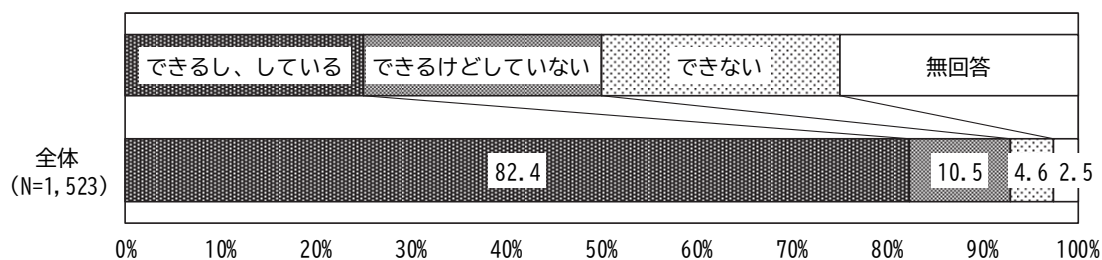
自分で食事の用意をしているか（全体）



⑤ 自分で請求書の支払いをしているか（問 32）

自分で請求書の支払いをしているかは、「できるし、している」が 82.4%、「できるけどしていない」が 10.5%、「できない」が 4.6%となっている。

自分で請求書の支払いをしているか（全体）

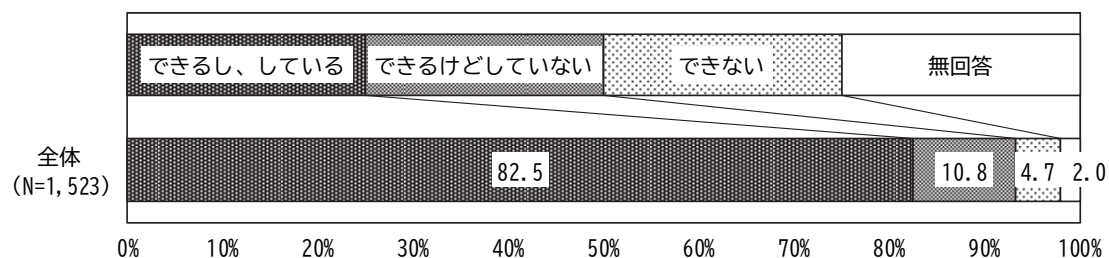


第2章 調査結果

⑥ 自分で預貯金の出し入れをしているか（問 33）

自分で預貯金の出し入れをしているかは、「できるし、している」が 82.5%、「できるけどしていない」が 10.8%、「できない」が 4.7%となっている。

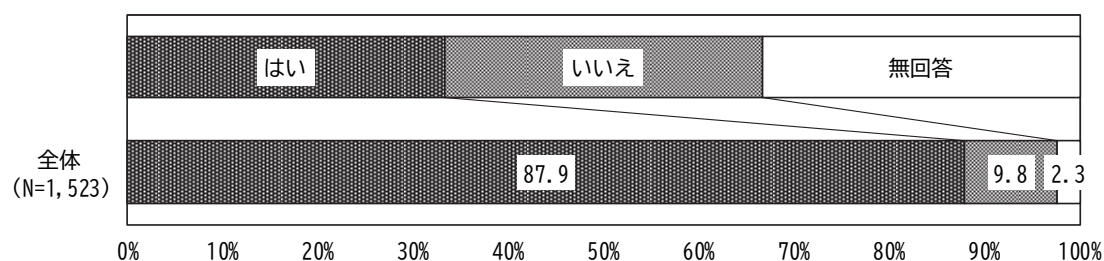
自分で預貯金の出し入れをしているか（全体）



⑦ 年金などの書類が書けるか（問 34）

年金などの書類が書けるかは、「はい」が 87.9%、「いいえ」が 9.8%となっている。

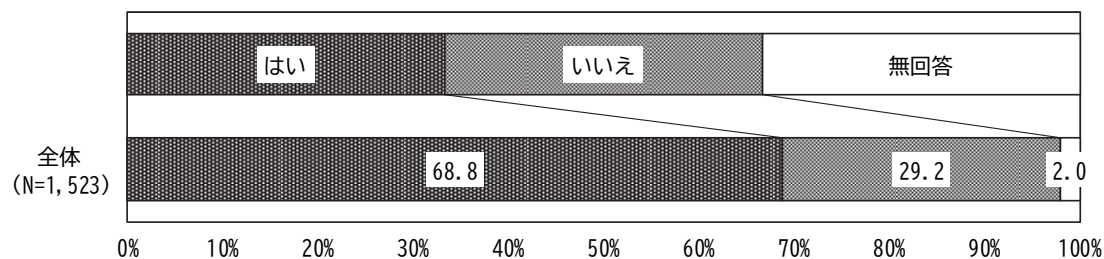
年金などの書類が書けるか（全体）



⑧ 新聞を読んでいるか（問 35）

新聞を読んでいるかは、「はい」が 68.8%、「いいえ」が 29.2%となっている。

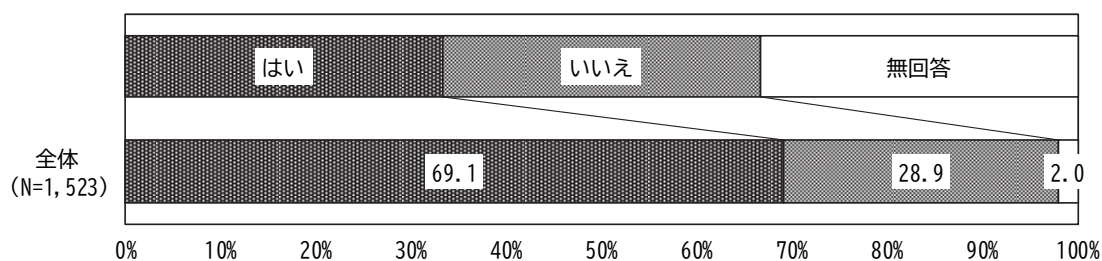
新聞を読んでいるか（全体）



⑨ 本や雑誌を読んでいるか（問 36）

本や雑誌を読んでいるかは、「はい」が69.1%、「いいえ」が28.9%となっている。

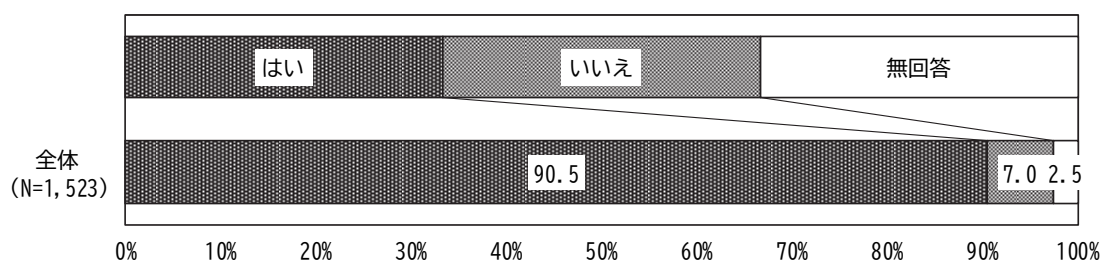
本や雑誌を読んでいるか（全体）



⑩ 健康についての記事や番組に関心があるか（問 37）

健康についての記事や番組に関心があるかは、「はい」が90.5%、「いいえ」が7.0%となっている。

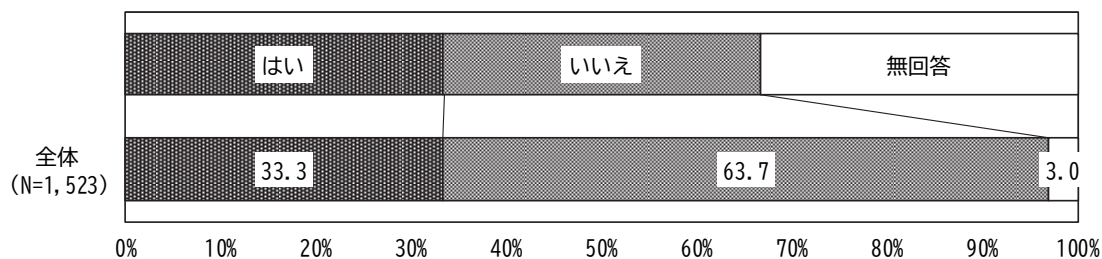
健康についての記事や番組に関心があるか（全体）



⑪ 友人の家を訪ねているか（問 38）

友人の家を訪ねているかは、「はい」が33.3%、「いいえ」が63.7%となっている。

友人の家を訪ねているか（全体）

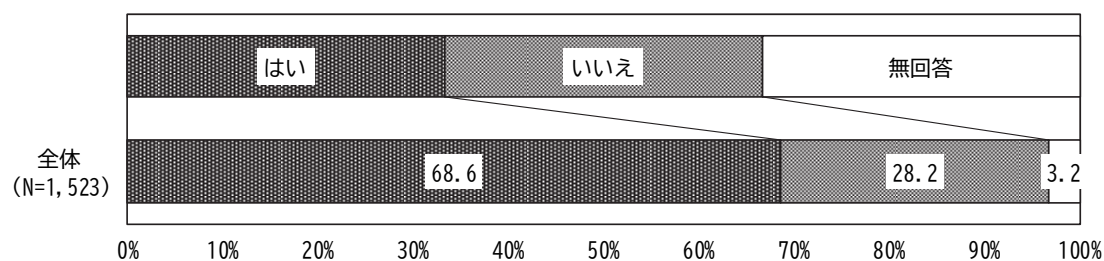


第2章 調査結果

⑫ 家族や友人の相談にのっているか（問 39）

家族や友人の相談にのっているかは、「はい」が68.6%、「いいえ」が28.2%となっている。

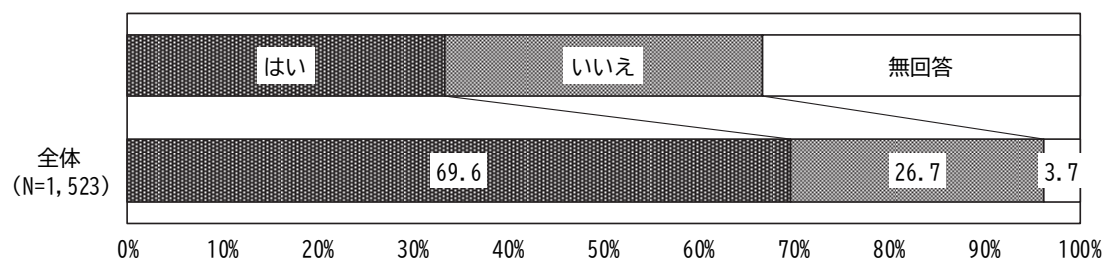
家族や友人の相談にのっているか（全体）



⑬ 病人を見舞うことができるか（問 40）

病人を見舞うことができるかは、「はい」が69.6%、「いいえ」が26.7%となっている。

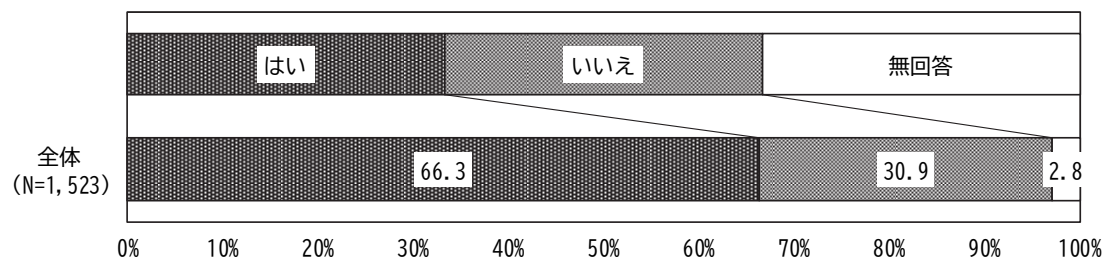
病人を見舞うことができるか（全体）



⑭ 若い人に自分から話しかけることがあるか（問 41）

若い人に自分から話しかけることがあるかは、「はい」が66.3%、「いいえ」が30.9%となっている。

若い人に自分から話しかけることがあるか（全体）

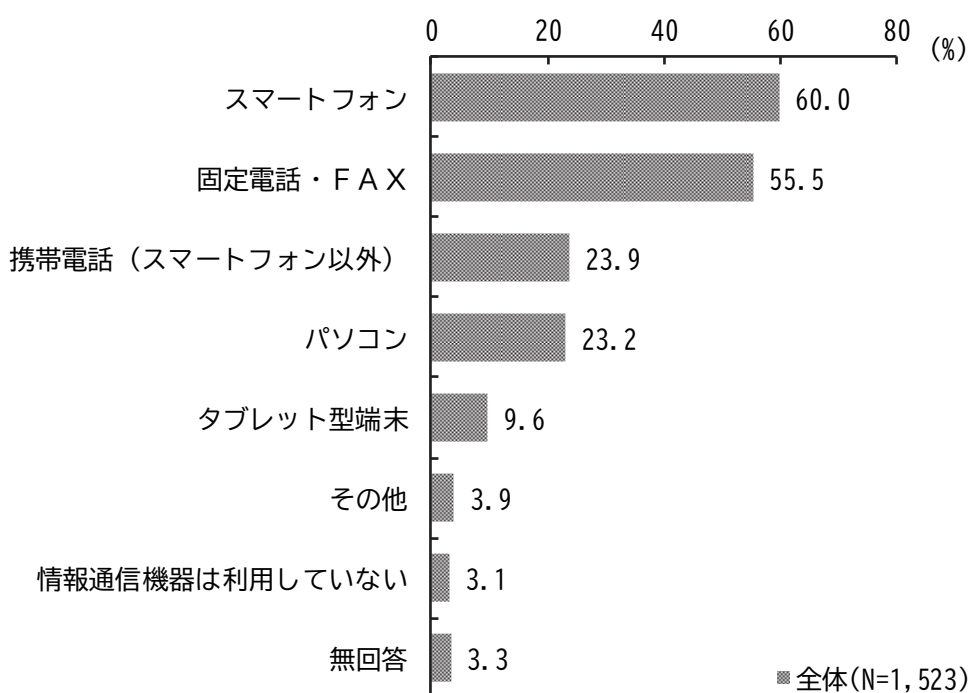


⑮ 使用している情報通信機器（問 42）

使用している情報通信機器としては、「スマートフォン」（60.0%）が最も高く、「固定電話・FAX」（55.5%）、「携帯電話（スマートフォン以外）」（23.9%）、「パソコン」（23.2%）の順で続いている。

性・年代別にみると、男女ともに「スマートフォン」、「パソコン」は年代が低いほど高くなる一方、「携帯電話（スマートフォン以外）」、「固定電話・FAX」は年代が高いほど高くなる傾向がみられる。

使用している情報通信機器（全体：複数回答）



使用している情報通信機器（全体、性・年代別）

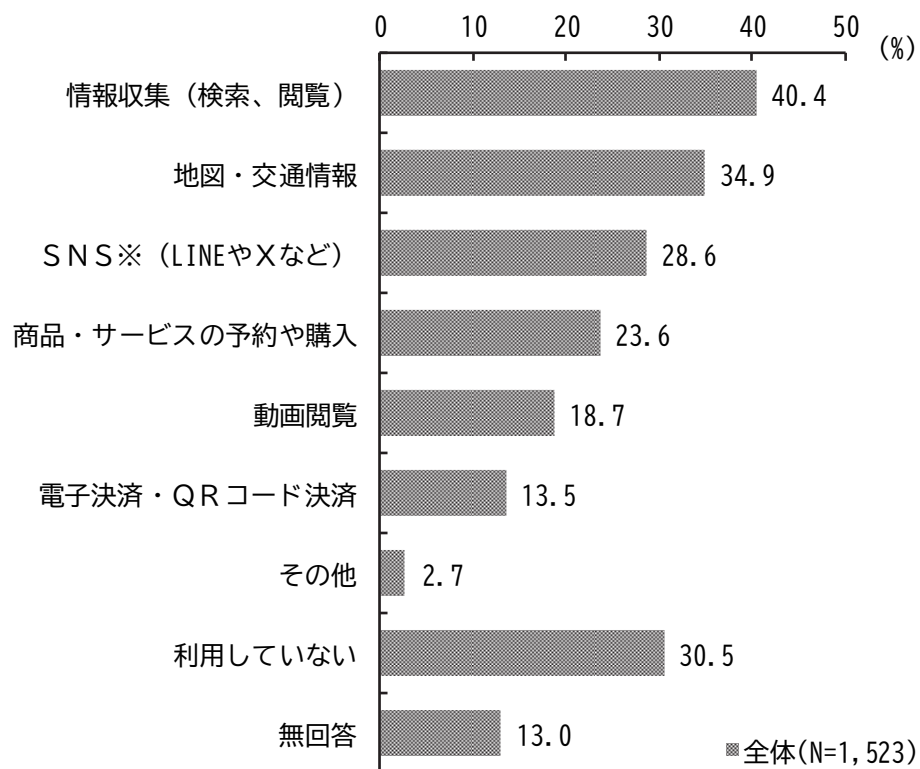
		回答者数	スマートフォン	固定電話・FAX	携帯電話（スマートフォン以外）	パソコン	タブレット型端末	その他	情報通信機器は利用していない	無回答
全体		1,523	60.0	55.5	23.9	23.2	9.6	3.9	3.1	3.3
性・年代別	男性-65~74歳	134	87.3	35.8	11.9	59.0	16.4	3.7	0.7	0.0
	男性-75~84歳	222	70.7	46.4	18.0	35.6	9.5	3.2	5.9	1.8
	男性-85歳以上	197	38.6	62.4	27.9	32.0	10.7	4.6	4.6	5.6
	女性-65~74歳	175	87.4	50.3	14.3	28.6	17.7	2.9	0.6	1.1
	女性-75~84歳	404	65.6	58.7	25.7	14.6	8.7	4.0	2.2	3.5
	女性-85歳以上	359	38.2	66.6	32.3	5.0	3.9	5.0	3.9	2.2

第2章 調査結果

⑩ インターネット上で利用しているサービス（問 43）

インターネット上で利用しているサービスは、「情報収集（検索、閲覧）」（40.4%）が最も高く、「地図・交通情報」（34.9%）、「利用していない」（30.5%）の順が続いている。

インターネット上で利用しているサービス（全体：複数回答）

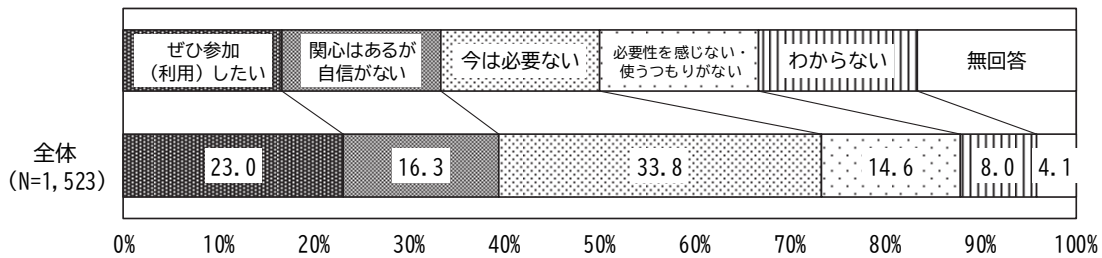


※SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）、ネットワーク上のコミュニケーション機能を持ったサービス全般を指す

⑰ 情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向（問 44）

情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向は、「今は必要ない」（33.8%）が最も高く、「ぜひ参加（利用）したい」（23.0%）、「関心はあるが自信がない」（16.3%）、「必要性を感じない・使うつもりがない」（14.6%）、「わからない」（8.0%）の順で続いている。

情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向（全体）



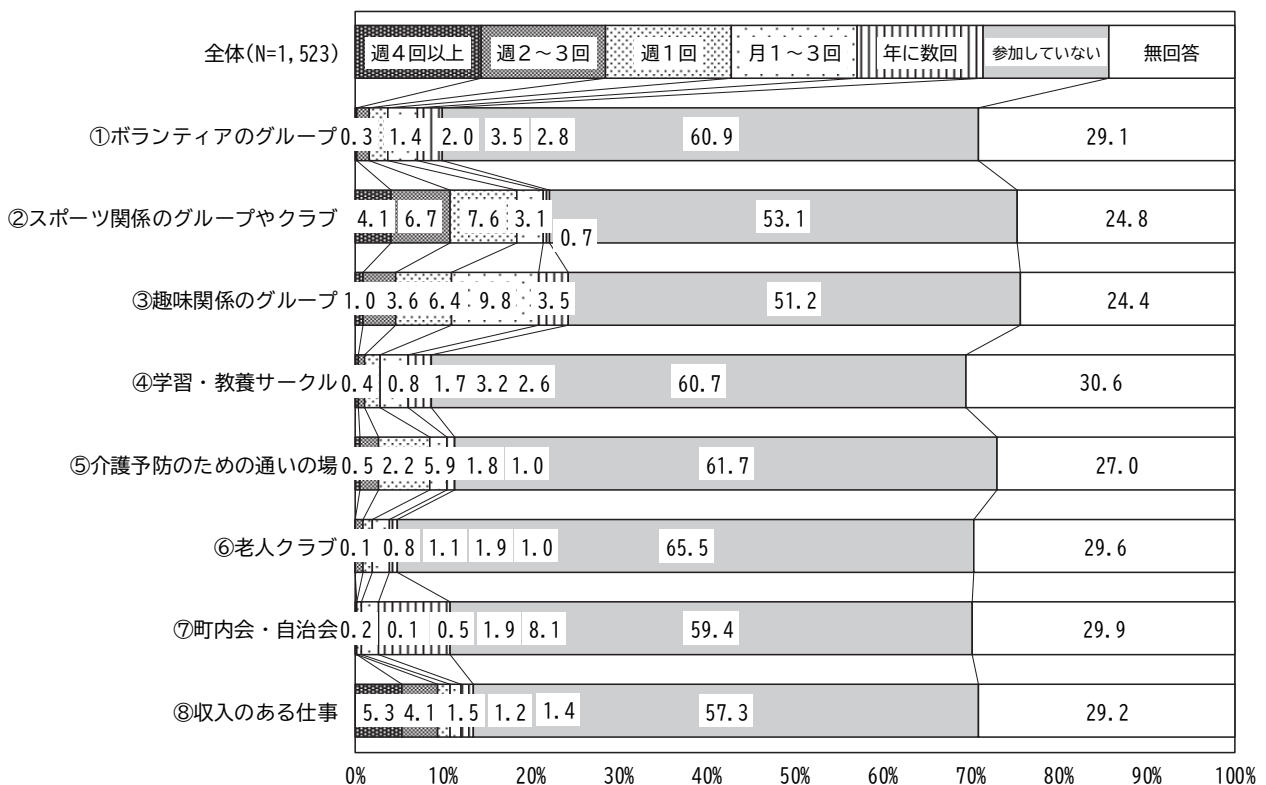
（6）地域での活動

① 地域での活動への参加頻度（問 45）

地域での活動への参加頻度は、8つの活動すべて「参加していない」が最も高くなっている。

参加している人が多い活動は『趣味関係のグループ』で、頻度は「月1～3回」（9.8%）が最も高くなっている。比較的多い『スポーツ関係のグループやクラブ』への参加頻度は、「週1回」（7.6%）、「週4回以上」（5.3%）が最も高くなっている。

地域での活動への参加頻度（全体）



第2章 調査結果

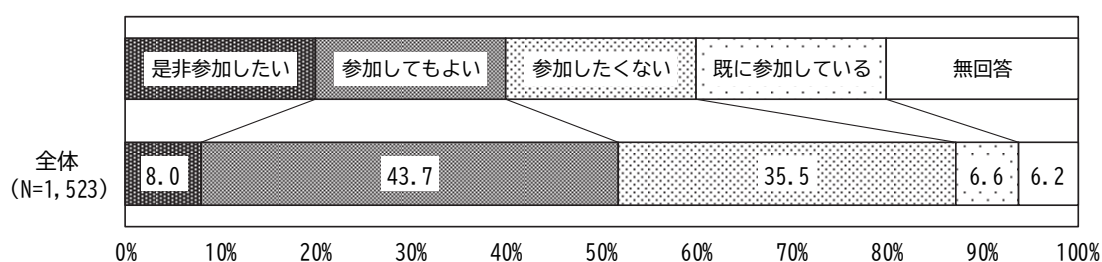
② 地域活動への参加者としての参加意向（問46）

地域活動への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」（43.7%）が最も高く、「参加したくない」（35.5%）、「是非参加したい」（8.0%）、「既に参加している」（6.6%）の順で続いている。

参加に前向きな人（「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」と回答した人）が半数以上となっている。

性・年代別にみると、女性では「参加してもよい」の割合は年代が低いほど高く、【女性65～74歳】、【女性75～84歳】では半数以上となっている。

地域活動への参加者としての参加意向（全体）



地域活動への参加者としての参加意向（全体、性・年代別）

		(人、%)					
		回答者数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体		1,523	8.0	43.7	35.5	6.6	6.2
性・年代別	男性-65～74歳	134	3.0	38.8	54.5	2.2	1.5
	男性-75～84歳	222	6.3	47.3	41.9	1.8	2.7
	男性-85歳以上	197	7.1	37.6	40.6	7.6	7.1
	女性-65～74歳	175	8.0	58.3	28.0	3.4	2.3
	女性-75～84歳	404	9.7	50.0	26.0	11.4	3.0
	女性-85歳以上	359	9.7	33.7	37.0	7.2	12.3

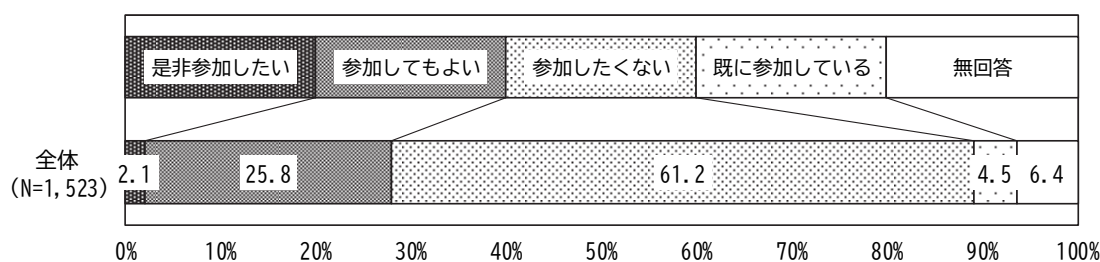
③ 地域活動への企画・運営としての参加意向（問 47）

地域活動への企画・運営としての参加意向は、「参加したくない」（61.2%）が最も高く、「参加してもよい」（25.8%）、「既に参加している」（4.5%）、「是非参加したい」（2.1%）の順で続いている。

参加に前向きな人（「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」と回答した人）の割合は 32.4%となっている。

性・年代別にみると、【男性 65～74 歳】で「参加したくない」が 72.4%と高くなっている。

地域活動への企画・運営としての参加意向（全体）



地域活動への企画・運営としての参加意向（全体、性・年代別）

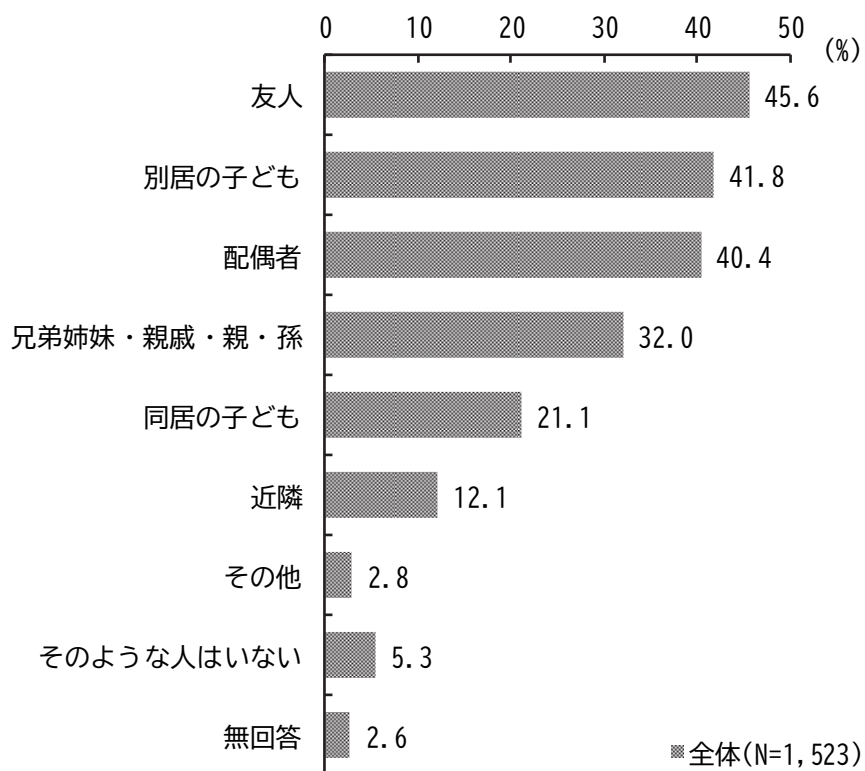
		(人、%)					
		回答者数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体		1,523	2.1	25.8	61.2	4.5	6.4
性・年代別	男性-65～74歳	134	0.7	24.6	72.4	0.7	1.5
	男性-75～84歳	222	2.3	29.7	64.0	2.3	1.8
	男性-85歳以上	197	5.1	17.8	65.0	5.6	6.6
	女性-65～74歳	175	1.7	29.7	63.4	2.9	2.3
	女性-75～84歳	404	1.2	30.9	56.7	7.2	4.0
	女性-85歳以上	359	2.2	21.2	59.9	4.5	12.3

(7) 助け合い

① 心配事や愚痴を聞いてくれる人 (問 48)

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「友人」(45.6%)が最も高く、「別居の子ども」(41.8%)、「配偶者」(40.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(32.0%)の順で続いている。

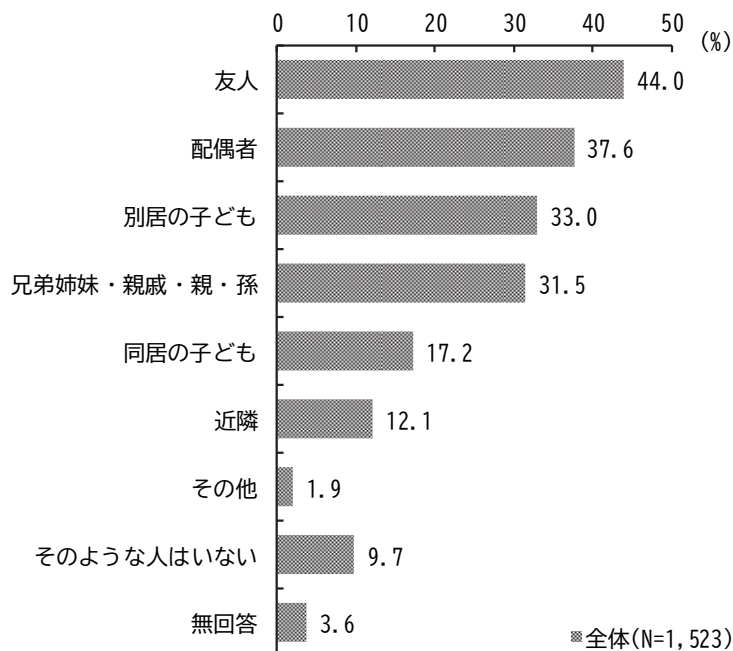
心配事や愚痴を聞いてくれる人 (全体：複数回答)



② 心配事や愚痴を聞いてあげる人（問 49）

心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「友人」（44.0%）が最も高く、「配偶者」（37.6%）、「別居の子ども」（33.0%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（31.5%）の順で続いている。

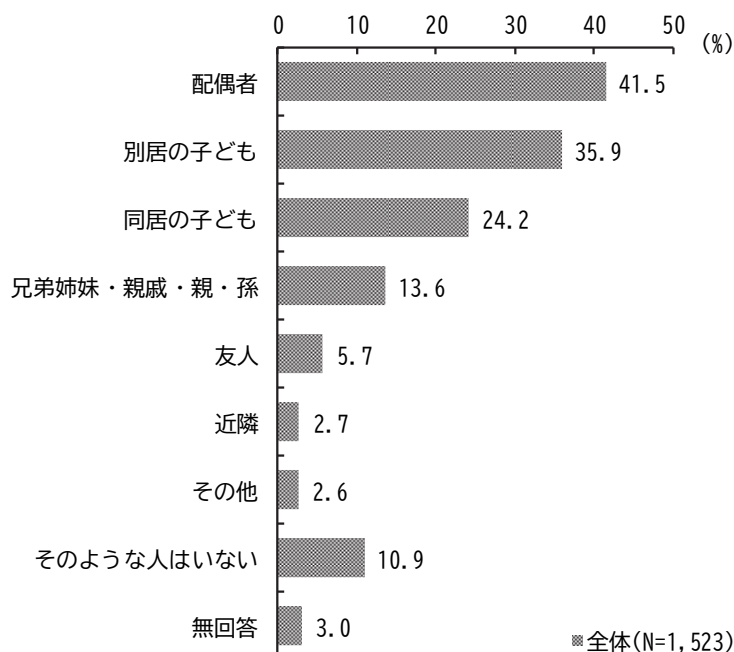
心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体：複数回答）



③ 看病や世話をしてくれる人（問 50）

看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」（41.5%）が最も高く、「別居の子ども」（35.9%）、「同居の子ども」（24.2%）の順で続いている。

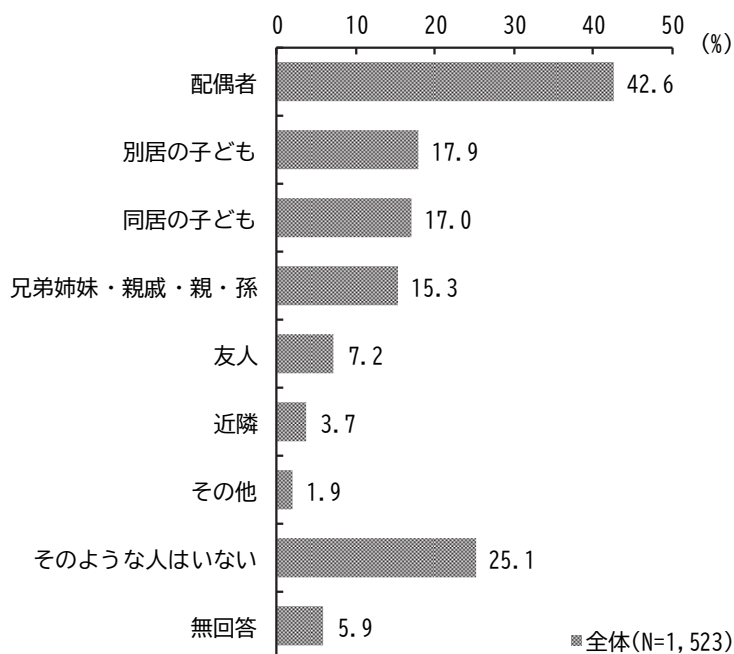
看病や世話をしてくれる人（全体：複数回答）



④ 看病や世話をしあける人（問 51）

看病や世話をしあける人は、「配偶者」（42.6%）が最も高く、「そのような人はいない」（25.1%）、「別居の子ども」（17.9%）、「同居の子ども」（17.0%）の順で続いている。

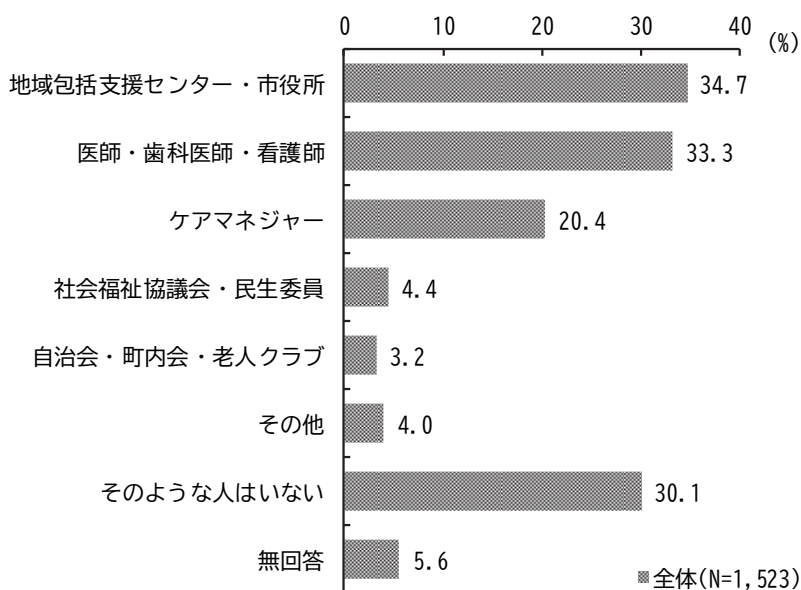
看病や世話をしあける人（全体：複数回答）



⑤ 何かあった時に相談する相手（問 52）

何かあった時に相談する相手は、「地域包括支援センター・市役所」（34.7%）が最も高く、「医師・歯科医師・看護師」（33.3%）、「そのような人はいない」（30.1%）の順で続いている。

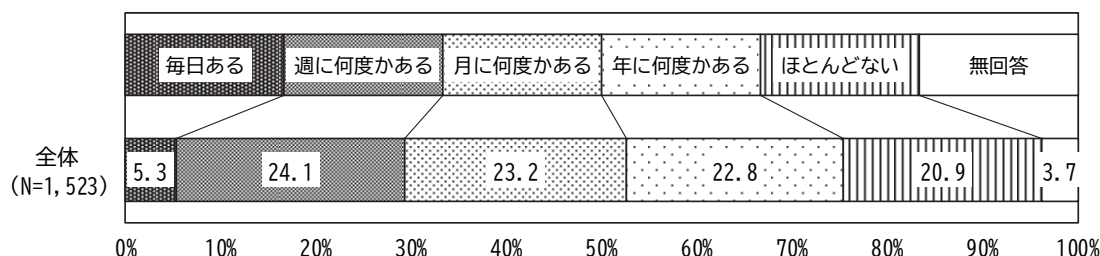
何かあった時に相談する相手（全体：複数回答）



⑥ 友人・知人と会う頻度 (問 53)

友人・知人と会う頻度は、「週に何度かある」(24.1%)が最も高く、「月に何度かある」(23.2%)、「年に何度かある」(22.8%)、「ほとんどない」(20.9%)の順で続いている。

友人・知人と会う頻度 (全体)

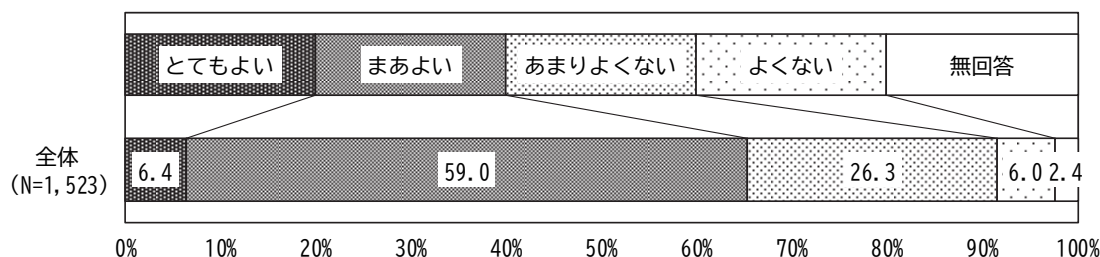


(8) 健康管理・予防

① 健康状態 (主観的健康感) (問 54)

健康状態 (主観的健康感) は、「まあよい」(59.0%)が最も高く、「あまりよくない」(26.3%)、「とてもよい」(6.4%)、「よくない」(6.0%)の順で続いている。

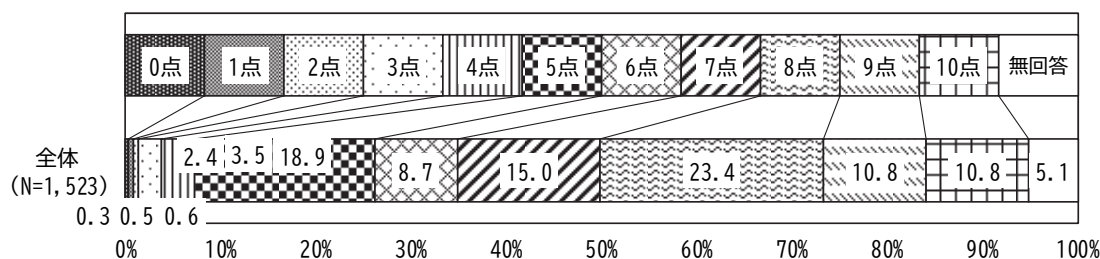
健康状態 (主観的健康感) (全体)



② 現在の幸福度 (問 55)

主観的な幸福感としての幸福度 (とても不幸を0点、とても幸せを10点とした場合の評価) は、「8点」(23.4%)が最も高く、「5点」(18.9%)、「7点」(15.0%)の順で続いている。

現在の幸福度 (全体)

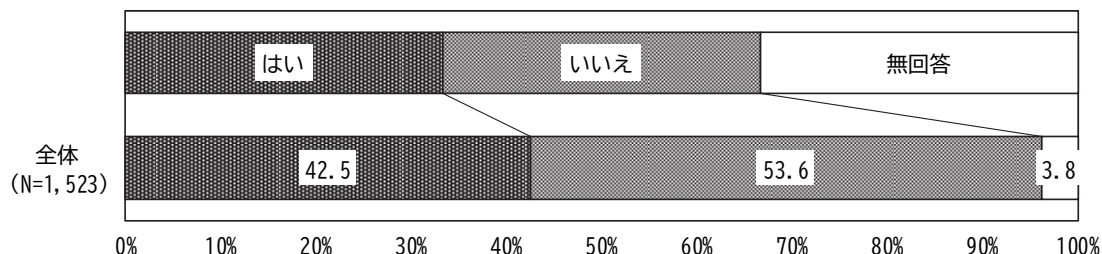


第2章 調査結果

③ この1か月で気分が沈んだり、憂鬱な気持ちになったことがあるか（問56）

この1か月で気分が沈んだり、憂鬱な気持ちになったことがあるかは、「はい」が42.5%、「いいえ」が53.6%となっている。

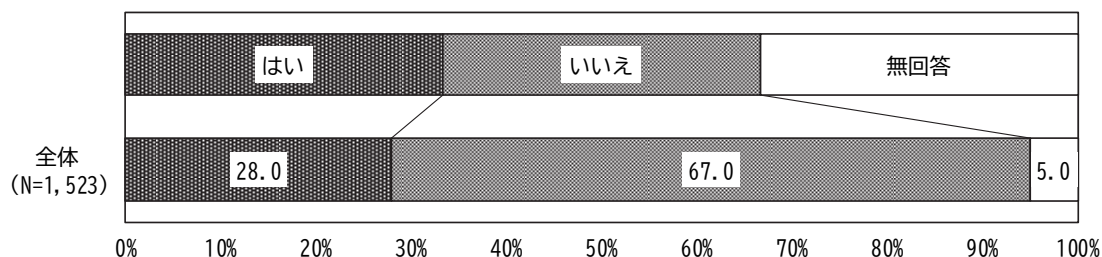
この1か月で気分が沈んだり、憂鬱な気持ちになったことがあるか（全体）



④ この1か月で物事に興味が湧かない、楽しめないことがあったか（問57）

この1か月で物事に興味が湧かない、楽しめないことがあったかは、「はい」が28.0%、「いいえ」が67.0%となっている。

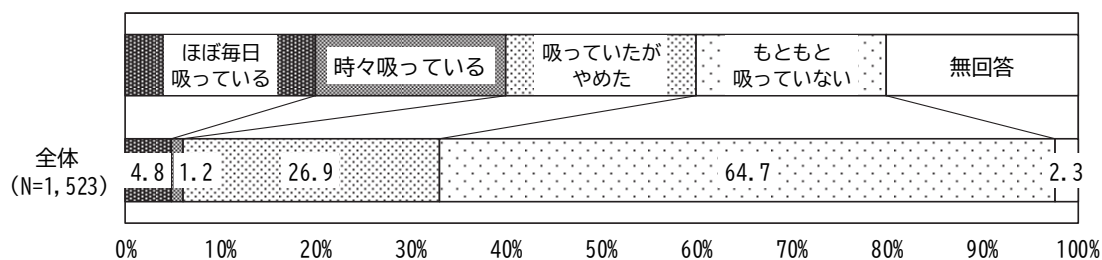
この1か月で物事に興味が湧かない、楽しめないことがあったか（全体）



⑤ 喫煙習慣の有無（問58）

喫煙習慣の有無は、「もともと吸っていない」（64.7%）が最も高く、「吸っていたがやめた」（26.9%）、「ほぼ毎日吸っている」（4.8%）、「時々吸っている」（1.2%）の順で続いている。

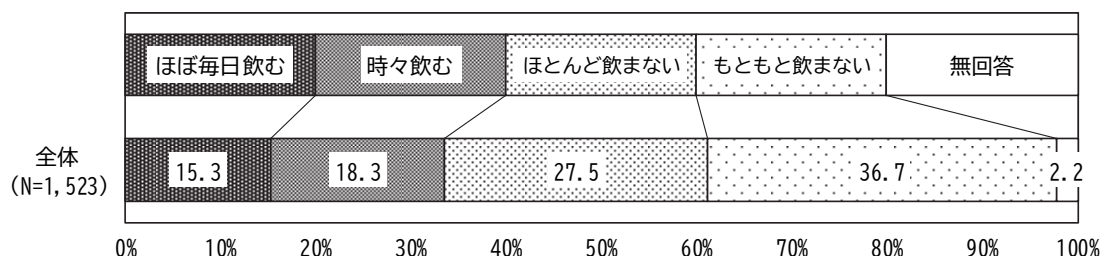
喫煙習慣の有無（全体）



⑥ 飲酒習慣の有無（問 59）

飲酒習慣の有無は、「もともと飲まない」(36.7%)が最も高く、「ほとんど飲まない」(27.5%)、「時々飲む」(18.3%)、「ほぼ毎日飲む」(15.3%)の順で続いている。

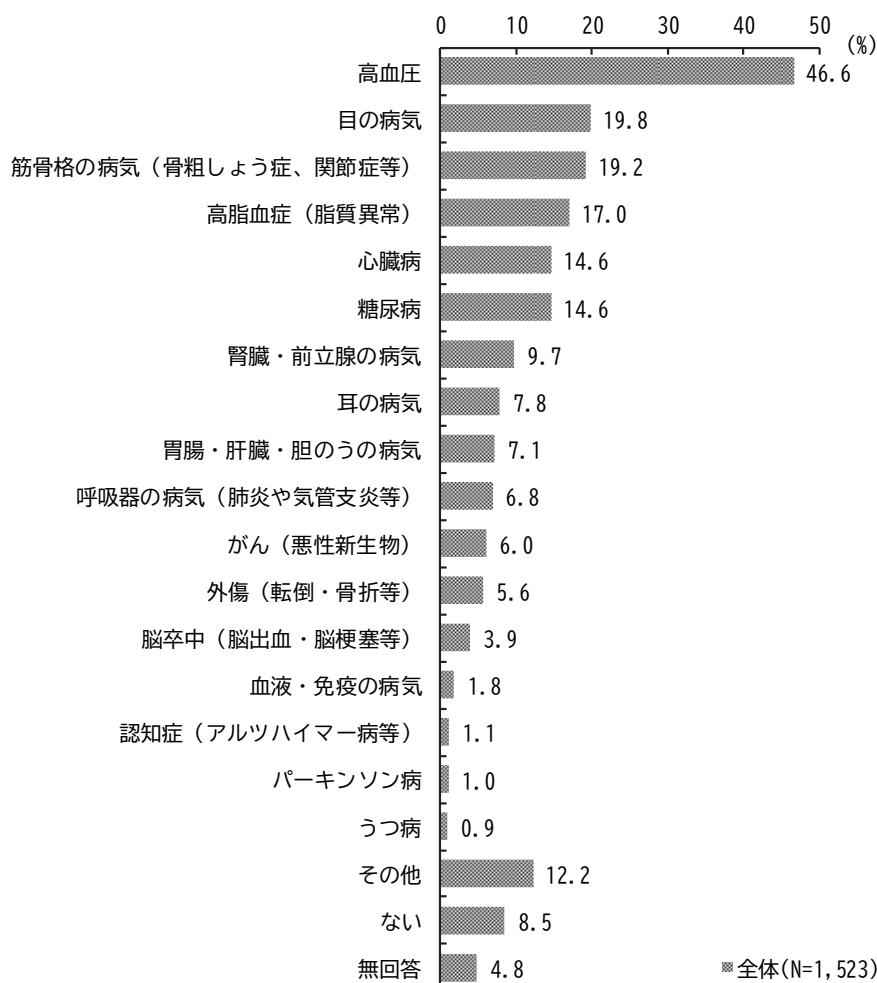
飲酒習慣の有無（全体）



⑦ 現在治療中又は後遺症のある病気（問 60）

現在治療中又は後遺症のある病気は、「高血圧」(46.6%)が最も高く、「目の病気」(19.8%)、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」(19.2%)、「高脂血症（脂質異常）」(17.0%)の順で続いている。

現在治療中又は後遺症のある病気（全体：複数回答）



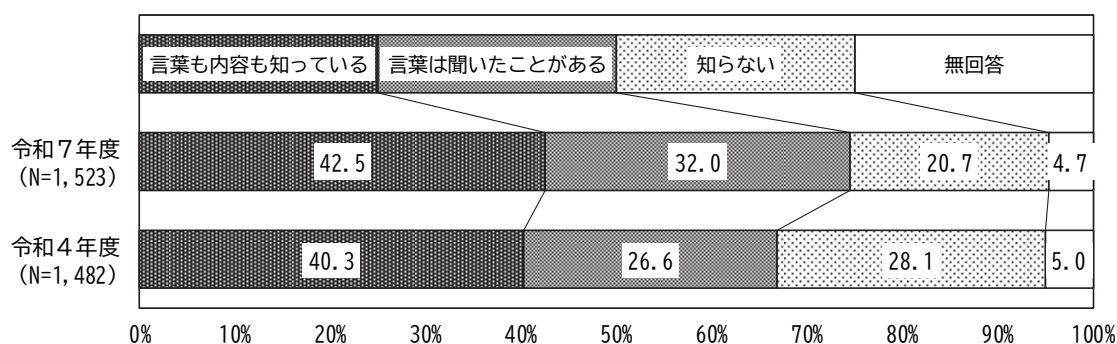
第2章 調査結果

⑧ 「フレイル」の認知度（問 61）

フレイルの認知度は、「言葉も内容も知っている」が 42.5%、「言葉は聞いたことがある」が 32.0%であり、74.5%が言葉を聞いたことがあると回答している。「知らない」は 20.7%となっている。

前回調査と比較すると、「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがある」を合計した割合は、66.9%から 74.5%と 7.6 ポイント高くなっている。

「フレイル」の認知度（全体）【前回比較】



⑨ フレイルチェックの利用経験・利用意向（問 62）

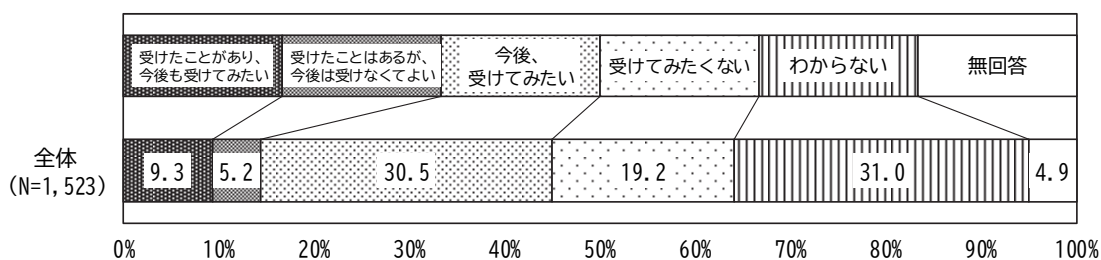
フレイルチェックの利用経験・利用意向は、「わからない」(31.0%)が最も高く、「今後、受けてみたい」(30.5%)、「受けてみたくない」(19.2%)の順で続いている。

「受けたことがあり、今後も受けてみたい」(9.3%)と「今後、受けてみたい」(30.5%)を合計した、受けてみたいとする割合が 39.8%、「受けたことはあるが、今後は受けなくてよい」(5.2%)と「受けてみたくない」(19.2%)を合計した、受けなくてよいとする割合が 24.4%となっている。

性・年代別にみると、【女性 75～84 歳】、【女性 85 歳以上】では、「受けたことがあり、今後も受けてみたい」が 10%を超えている。また、女性では「今後、受けてみたい」は年代が低いほど高くなっており、【女性 65～74 歳】(45.7%)では 40%台なのに対し、【女性 85 歳以上】(24.5%)では 20%台となっている。

居住圏域別にみると、【新町包括圏域】では「受けたことがあり、今後も受けてみたい」(13.7%)が 10%を超え、他の圏域に比べ若干高くなっている。

フレイルチェックの利用経験・利用意向（全体）



フレイルチェックの利用経験・利用意向（全体、性・年代別、居住圏域別）

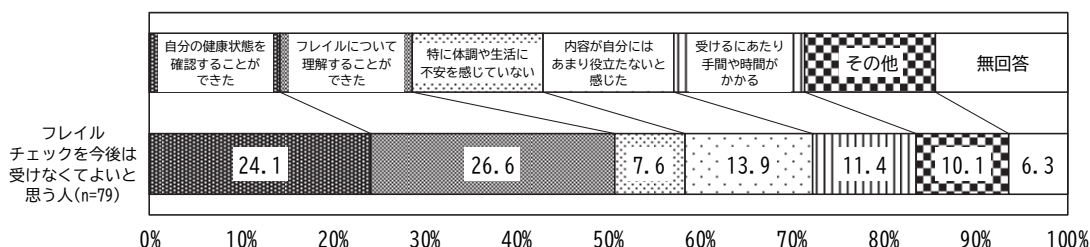
(人、%)

		回答者数	今後受けたことがあり、 今後受けてみたい	受けたことはあるが、 受けてはなくてよい	今後、受けてみたい	受けてみたくない	わからない	無回答
全体		1,523	9.3	5.2	30.5	19.2	31.0	4.9
性・年代別	男性-65~74歳	134	1.5	3.7	29.9	29.9	35.1	0.0
	男性-75~84歳	222	5.0	3.6	31.1	22.1	36.9	1.4
	男性-85歳以上	197	6.6	5.1	25.9	26.9	31.0	4.6
	女性-65~74歳	175	5.1	5.1	45.7	13.7	28.6	1.7
	女性-75~84歳	404	14.4	6.9	32.2	14.9	27.2	4.5
	女性-85歳以上	359	13.1	5.3	24.5	17.0	32.0	8.1
居住圏域別	栄町包括圏域	190	10.0	4.7	32.6	18.9	31.6	2.1
	富士町包括圏域	184	7.1	6.0	31.5	22.3	29.3	3.8
	泉町包括圏域	181	9.9	5.0	29.3	17.7	32.6	5.5
	田無町包括圏域	191	9.9	2.1	33.0	17.3	33.5	4.2
	緑町包括圏域	205	9.8	8.8	29.8	14.6	35.1	2.0
	西原町包括圏域	195	7.2	5.6	26.7	23.6	29.2	7.7
	向台町包括圏域	187	8.0	4.8	33.2	20.9	27.8	5.3
	新町包括圏域	168	13.7	4.8	28.0	19.6	31.0	3.0

⑩ 今後は受けなくてよいと思う理由（問 62-1）

フレイルチェックを今後は受けなくてよいと思う人に今後は受けなくてよいと思う理由をたずねたところ、「フレイルについて理解することができた」(26.6%)が最も高く、「自分の健康状態を確認することができた」(24.1%)、「内容が自分にはあまり役立たないと感じた」(13.9%)の順で続いている。

今後は受けなくてよいと思う理由（フレイルチェックを今後は受けなくてよいと思う人）

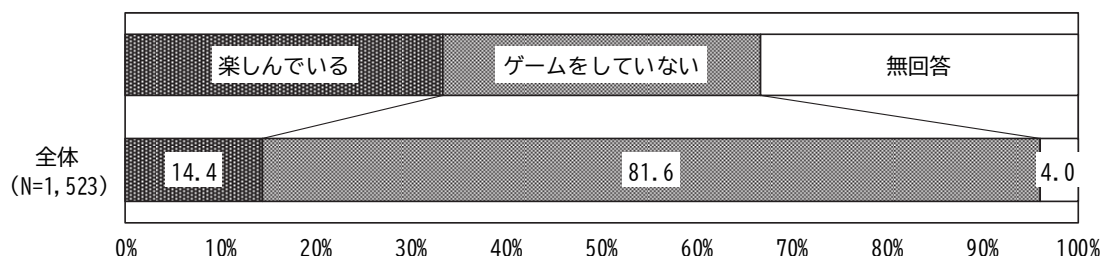


第2章 調査結果

⑪ コンピューターや家庭用ゲーム機を用いたゲームを楽しんでいるか(問63)

コンピューターや家庭用ゲーム機を用いたゲームを楽しんでいるかは、「楽しんでいる」が14.4%、「ゲームをしていない」が81.6%となっている。

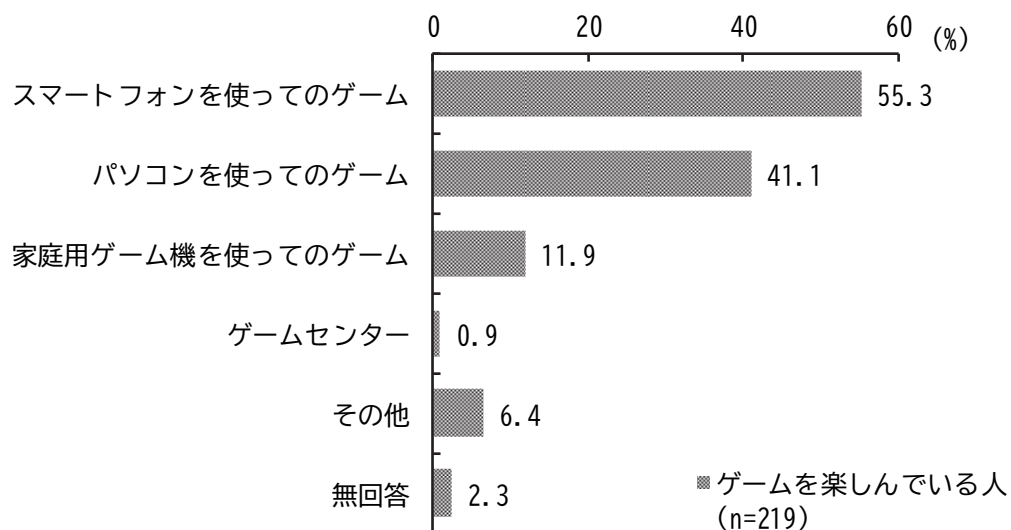
コンピューターや家庭用ゲーム機を用いたゲームを楽しんでいるか（全体）



⑫ どのようにゲームを楽しんでいるか（問63-1）

ゲームを楽しんでいる人にどのようにゲームを楽しんでいるかをたずねたところ、「スマートフォンを使ってのゲーム」(55.3%)が最も高く、「パソコンを使ってのゲーム」(41.1%)、「家庭用ゲーム機を使ってのゲーム」(11.9%)、「その他」(6.4%)、「ゲームセンター」(0.9%)の順で続いている。

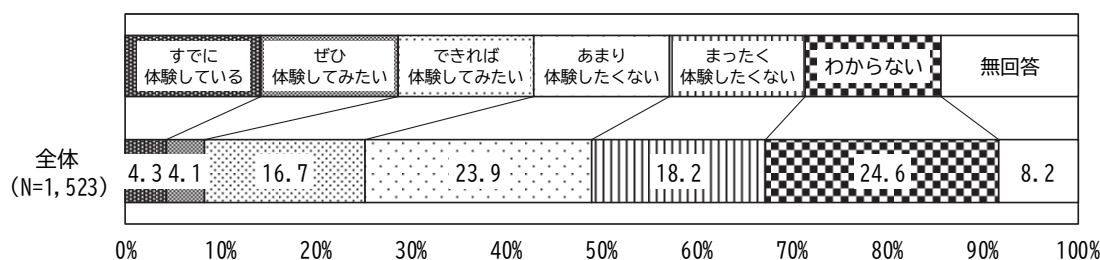
どのようにゲームを楽しんでいるか（ゲームを楽しんでいる人：複数回答）



⑬ eスポーツの体験意向（問 64）

eスポーツの体験意向は、「すでに体験している」が4.3%、「ぜひ体験してみたい」（4.1%）と「できれば体験してみたい」（16.7%）を合計した、体験してみたいとする割合が20.8%、「あまり体験したくない」（23.9%）と「まったく体験したくない」（18.2%）を合計した、体験したくないとする割合が42.1%、「わからない」が24.6%となっている。

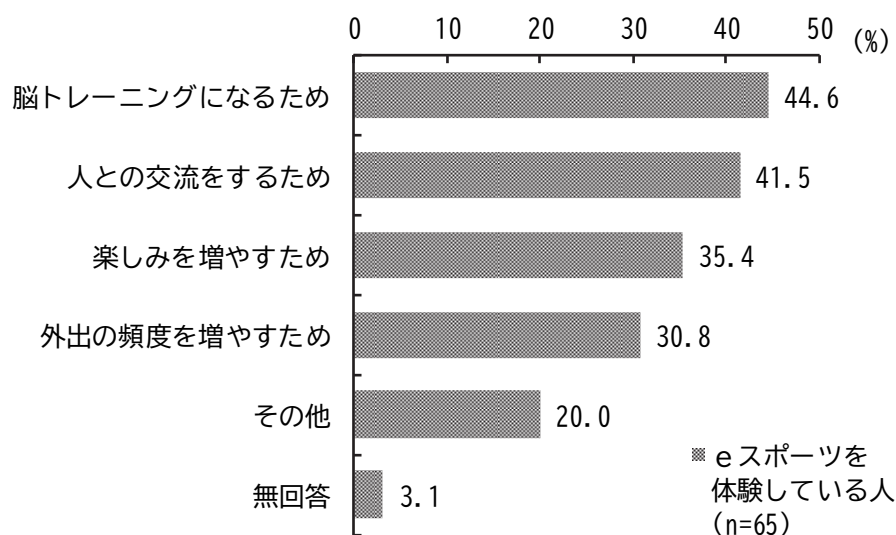
eスポーツの体験意向（全体）



⑭ eスポーツを体験しようと思った理由（問 64-1）

eスポーツを体験している人にeスポーツを体験しようと思った理由をたずねたところ、「脳トレーニングになるため」（44.6%）が最も高く、「人との交流をするため」（41.5%）、「楽しみを増やすため」（35.4%）、「外出の頻度を増やすため」（30.8%）の順で続いている。

eスポーツを体験しようと思った理由（eスポーツを体験している人：複数回答）

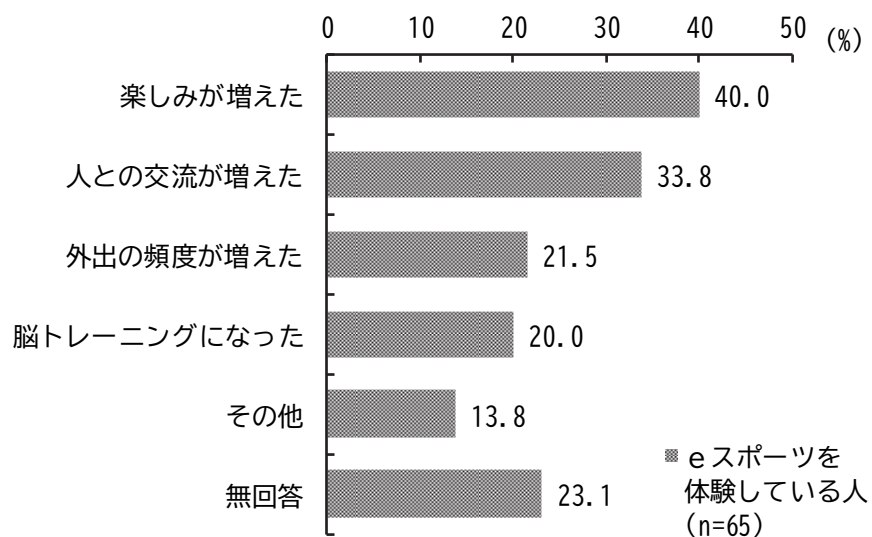


第2章 調査結果

⑮ eスポーツを体験してよかったこと（問64-2）

eスポーツを体験している人にeスポーツを体験してよかったことをたずねたところ、「楽しさが増えた」（40.0%）が最も高く、「人との交流が増えた」（33.8%）、「外出の頻度が増えた」（21.5%）、「脳トレーニングになった」（20.0%）の順で続いている。

eスポーツを体験してよかったこと（eスポーツを体験している人：複数回答）



⑩ 短期集中予防サービスの利用意向（問 65）

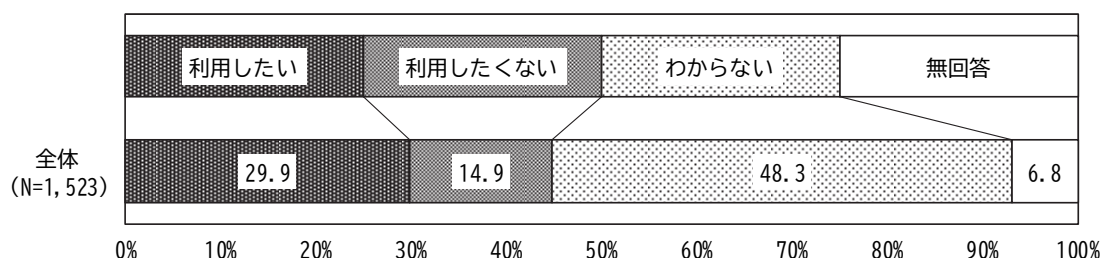
短期集中予防サービスの利用意向は、「わからない」が 48.3%で最も高いものの、「利用したい」が 29.9%、「利用したくない」が 14.9%となっている。

性・年代別にみると、【女性 65～74 歳】、【女性 75～84 歳】では「利用したい」が 30%を超えており、他の性・年代別に比べて高くなっている。

認定状況別にみると、事業対象者で「利用したい」（42.4%）が 40%を超えている。

居住圏域別にみると、「利用したい」は、【泉町包括圏域】、【田無町包括圏域】、【緑町包括圏域】、【向台町包括圏域】、【新町包括圏域】では 30%を超えているが、【柴町包括圏域】、【富士町包括圏域】、【西原町包括圏域】では 30%に満たない。

短期集中予防サービスの利用意向（全体）



短期集中予防サービスの利用意向（全体、性・年代別、認定状況別、居住圏域別）

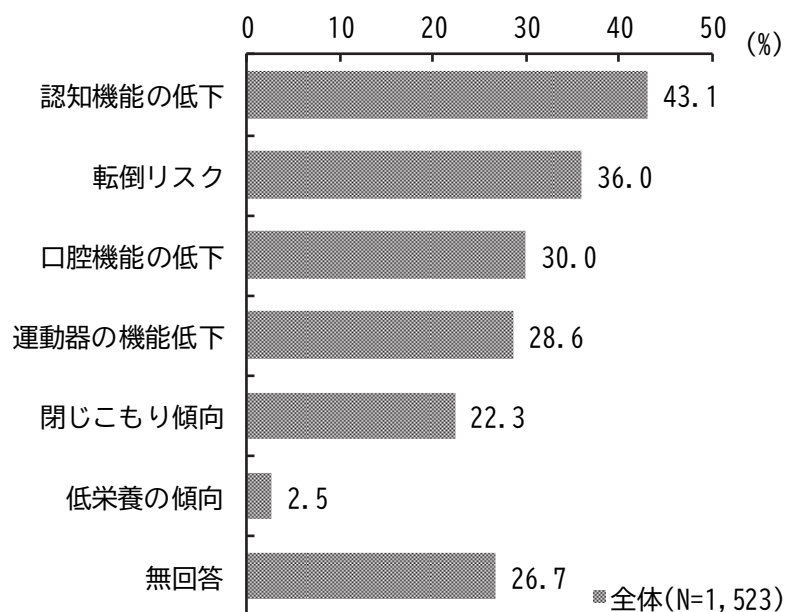
		(人、%)				
		回答者数	利用したい	利用したくない	わからない	無回答
全体		1,523	29.9	14.9	48.3	6.8
性・年代別	男性-65～74歳	134	30.6	14.9	53.0	1.5
	男性-75～84歳	222	23.9	19.8	53.2	3.2
	男性-85歳以上	197	27.9	19.3	46.2	6.6
	女性-65～74歳	175	34.3	10.3	53.7	1.7
	女性-75～84歳	404	35.6	13.9	45.0	5.4
	女性-85歳以上	359	27.6	13.4	47.1	12.0
認定状況別	認定なし	794	30.1	14.9	51.0	4.0
	要支援	548	31.6	16.1	46.0	6.4
	事業対象者	33	42.4	18.2	33.3	6.1
居住圏域別	柴町包括圏域	190	25.8	21.6	48.4	4.2
	富士町包括圏域	184	29.3	14.7	48.9	7.1
	泉町包括圏域	181	33.1	11.0	48.6	7.2
	田無町包括圏域	191	33.5	16.8	41.9	7.9
	緑町包括圏域	205	31.2	9.8	53.7	5.4
	西原町包括圏域	195	24.6	10.3	56.9	8.2
	向台町包括圏域	187	30.5	20.9	42.8	5.9
	新町包括圏域	168	33.9	16.1	47.0	3.0

第2章 調査結果

⑰ 介護予防リスクのある人の割合

今回の調査に含まれる質問への回答から介護予防リスクのある人の割合を算出した。「認知機能の低下」が 43.1%、「転倒リスク」が 36.0%、「口腔機能の低下」が 30.0%、「運動器の機能低下」が 28.6%などとなっている。

介護予防リスクのある人の割合（全体）



■介護予防リスク判定基準

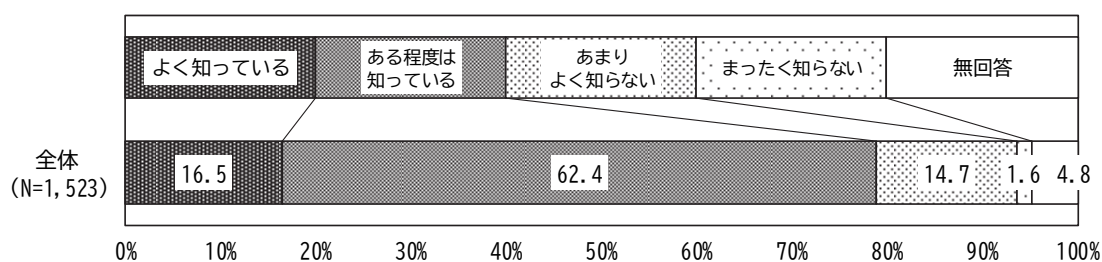
	問番号	判定基準
運動器の機能低下	問 12 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること 問 13 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること 問 14 15分位続けて歩くこと 問 15 過去1年間に転んだ経験 問 16 転倒に対する不安	問 12、問 13、問 14 で「できない」 問 15 で「何度もある」「1度ある」 問 16 で「とても不安」「やや不安」 以上5問中3問以上に該当した方
転倒リスク	問 15 過去1年間に転んだ経験	「何度もある」「1度ある」と回答した方
口腔機能の低下	問 22 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 問 23 お茶や汁物等でむせることがあるか 問 24 口の渴きが気になるか	問 22、問 23、問 24 「はい」 以上3問中2問に該当があった方
低栄養の傾向	問 21 身長・体重 問 26 6か月間2～3kgの体重減少があったか	問 21 から算出されるBMIが18.5未満で 問 26 で「はい」と回答のあった方
閉じこもり傾向	問 17 外出の頻度	「ほとんど外出しない」「週1回」と回答した方
認知機能の低下	問 28 物忘れが多いと感じるか	「はい」と回答した方

(9) 認知症

① 認知症についての認知度 (問 66)

認知症についての認知度は、「よく知っている」(16.5%)と「ある程度は知っている」(62.4%)を合計した、知っているとする割合が 78.9%、「あまりよく知らない」(14.7%)と「まったく知らない」(1.6%)を合計した、知らないとする割合が 16.3%となっている。

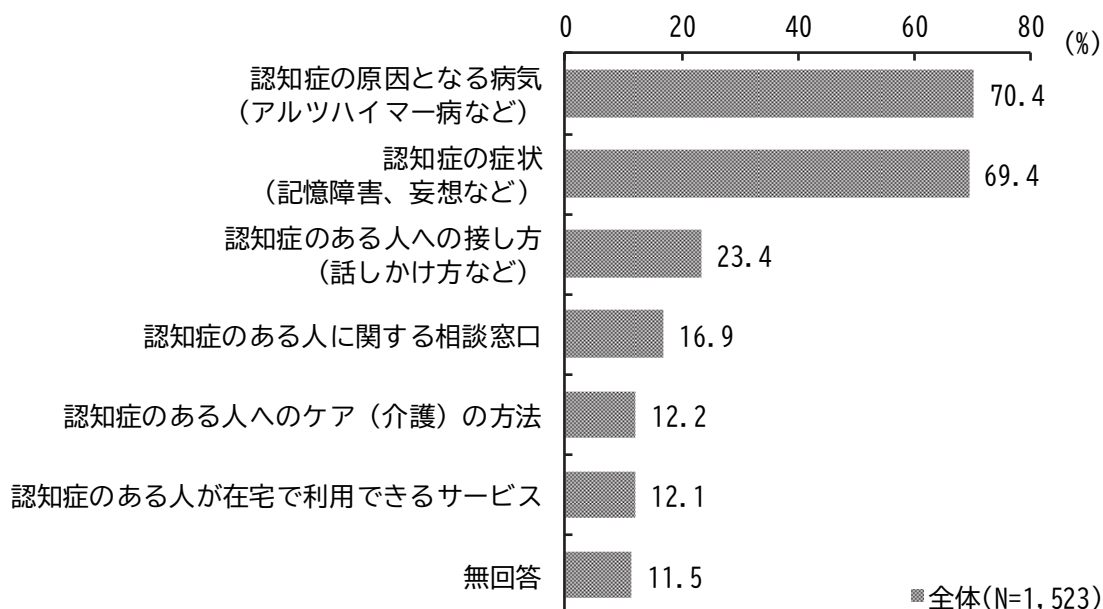
認知症についての認知度 (全体)



② 認知症に関する知識 (問 67)

認知症に関する知識は、「認知症の原因となる病気 (アルツハイマー病など)」(70.4%)が最も高く、「認知症の症状 (記憶障害、妄想など)」(69.4%)、「認知症のある人への接し方 (話しかけ方など)」(23.4%)の順で続いている。

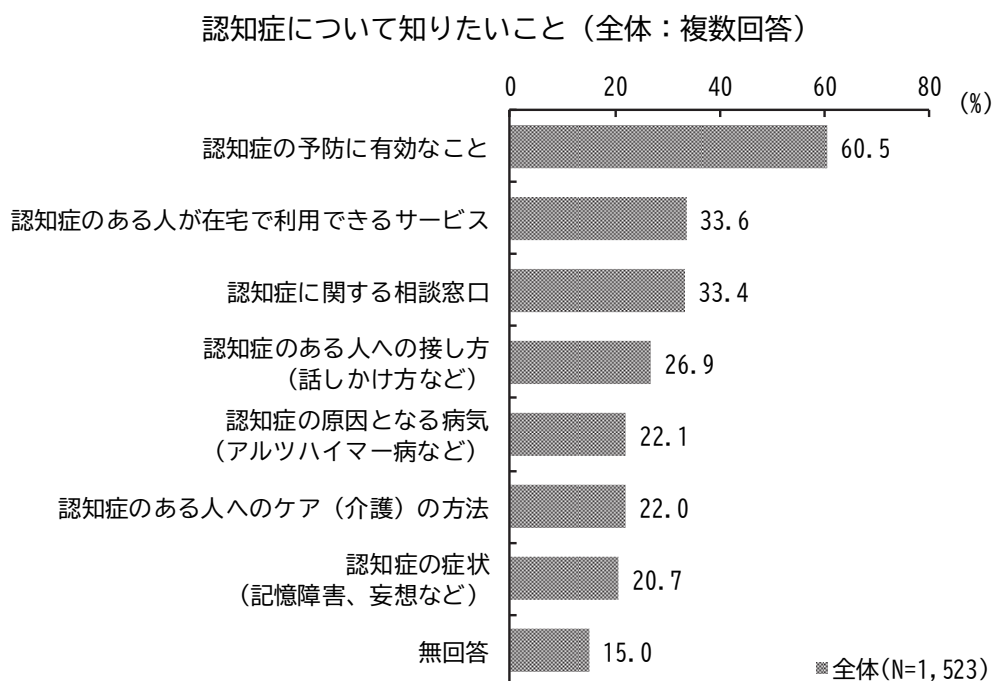
認知症に関する知識 (全体：複数回答)



第2章 調査結果

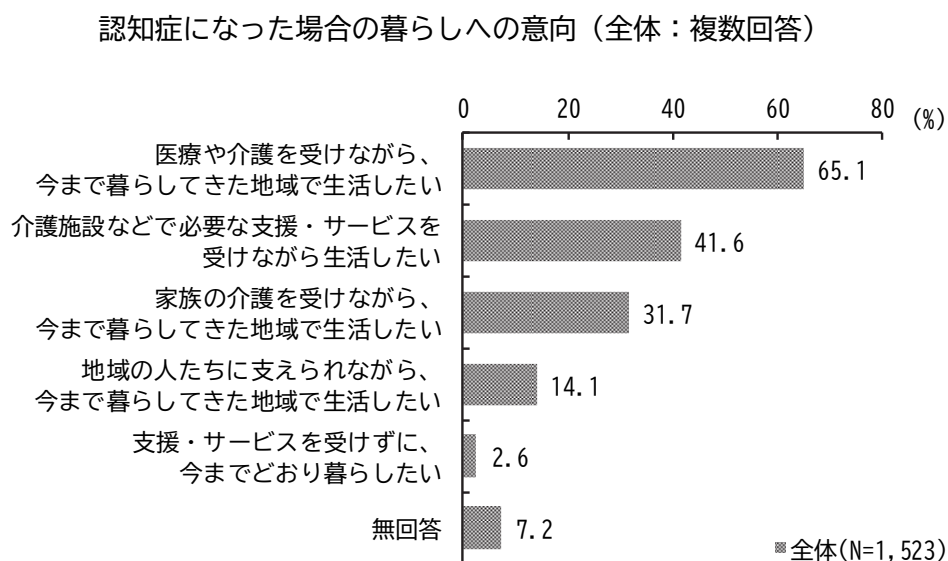
③ 認知症について知りたいこと（問 68）

認知症について知りたいことは、「認知症の予防に有効なこと」（60.5%）が最も高く、「認知症のある人が在宅で利用できるサービス」（33.6%）、「認知症に関する相談窓口」（33.4%）の順で続いている。



④ 認知症になった場合の暮らしへの意向（問 69）

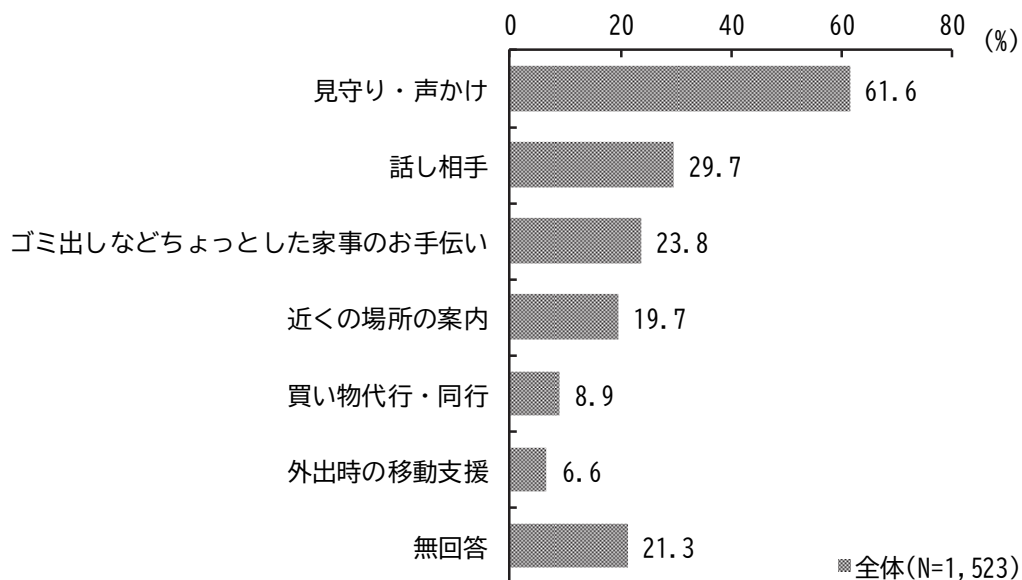
認知症になった場合の暮らしへの意向は、「医療や介護を受けながら、今まで暮らしてきた地域で生活したい」（65.1%）が最も高く、「介護施設などで必要な支援・サービスを受けながら生活したい」（41.6%）、「家族の介護を受けながら、今まで暮らしてきた地域で生活したい」（31.7%）の順で続いている。



⑤ 地域で暮らす認知症のある人にできる（できそうな）支援（問 70）

地域で暮らす認知症のある人にできる（できそうな）支援は、「見守り・声かけ」（61.6%）が最も高く、「話し相手」（29.7%）、「ゴミ出しなどちょっとした家事のお手伝い」（23.8%）の順で続いている。

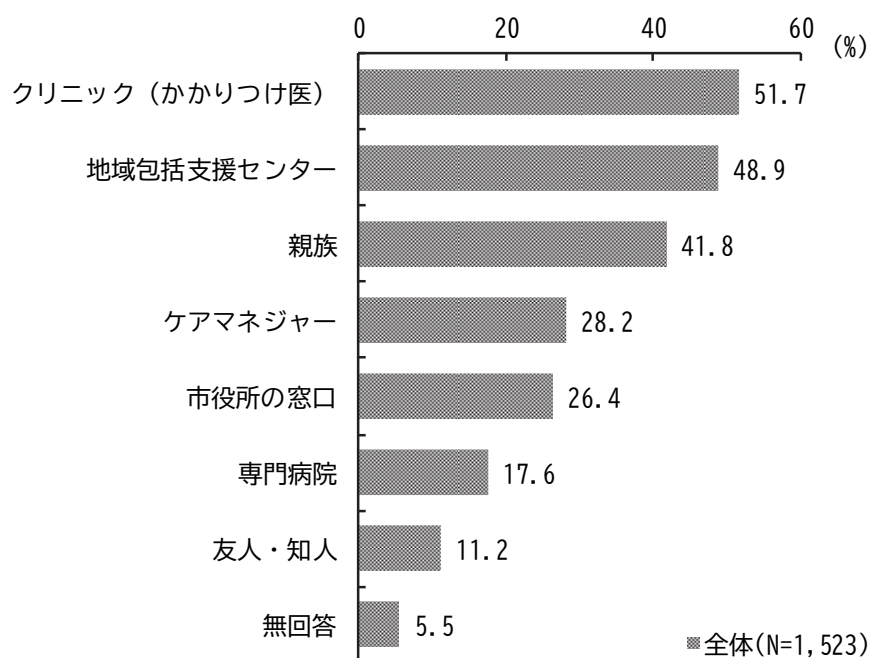
地域で暮らす認知症のある人にできる（できそうな）支援（全体：複数回答）



⑥ 自身や家族が認知症になったときに相談する（した）場所・人（問 71）

自身や家族が認知症になったときに相談する（した）場所・人は、「クリニック（かかりつけ医）」（51.7%）が最も高く、「地域包括支援センター」（48.9%）、「親族」（41.8%）の順で続いている。

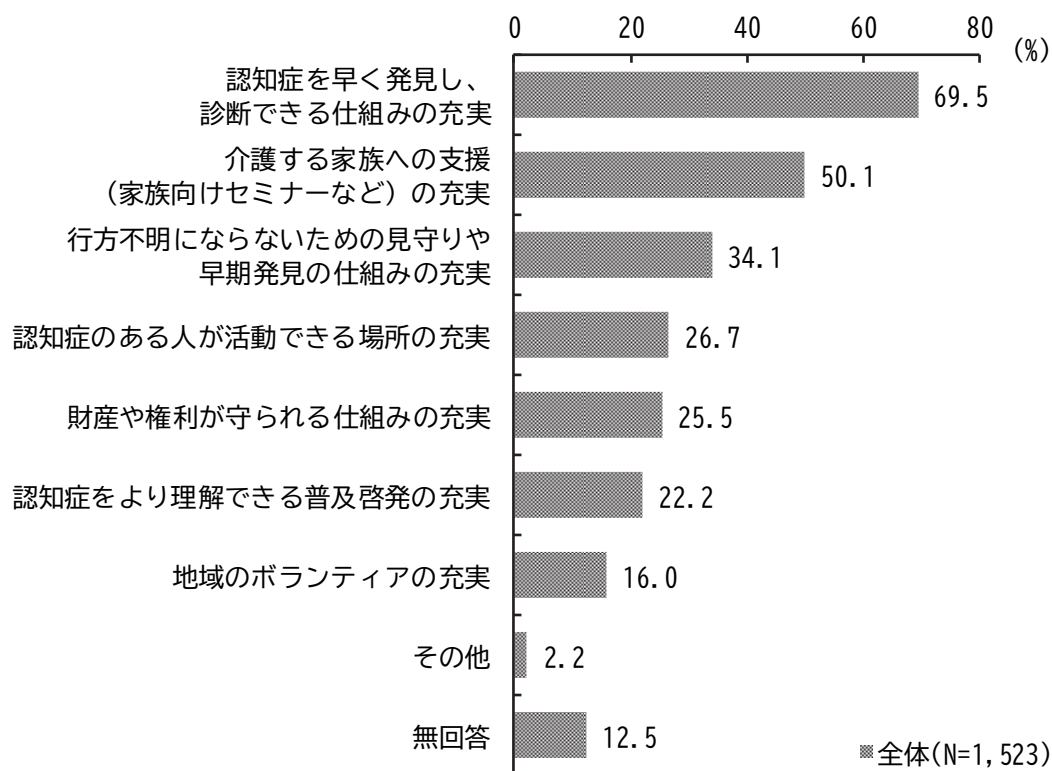
自身や家族が認知症になったときに相談する（した）場所・人（全体：複数回答）



⑦ 認知症のある人や家族への支援について今後望むこと（問 72）

認知症のある人や家族への支援について今後望むことは、「認知症を早く発見し、診断できる仕組みの充実」（69.5%）が最も高く、「介護する家族への支援（家族向けセミナーなど）の充実」（50.1%）、「行方不明にならないための見守りや早期発見の仕組みの充実」（34.1%）の順で続いている。

認知症のある人や家族への支援について今後望むこと（全体：複数回答）



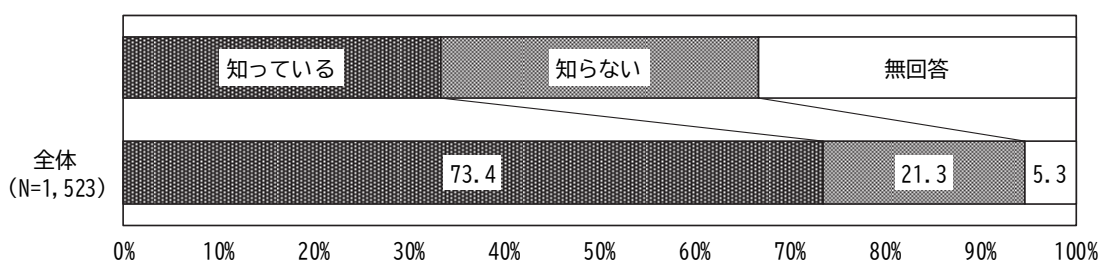
(10) 高齢者を支える仕組み

① 地域包括支援センター※の認知度（問 73）

地域包括支援センターの認知度は、「知っている」が73.4%、「知らない」が21.3%となっている。

性・年代別にみると、女性はどの年代も「知っている」の割合が80%を超えている。

地域包括支援センターの認知度（全体）



地域包括支援センターの認知度（全体、性・年代別）

		(人、%)			
		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		1,523	73.4	21.3	5.3
性・年代別	男性-65~74歳	134	59.0	41.0	0.0
	男性-75~84歳	222	56.8	39.2	4.1
	男性-85歳以上	197	69.0	22.8	8.1
	女性-65~74歳	175	80.6	17.1	2.3
	女性-75~84歳	404	81.9	14.4	3.7
	女性-85歳以上	359	82.2	11.4	6.4

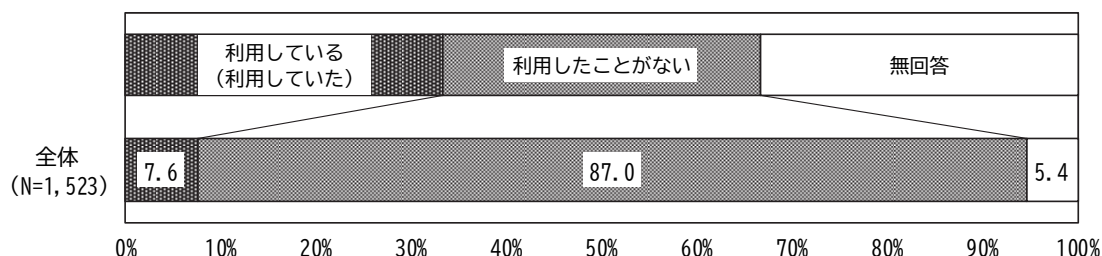
※高齢者の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、介護・福祉・健康・医療など様々な面から関係機関との連携をとりながら、総合的に支えていく機関

第2章 調査結果

② 高齢者福祉サービスの利用の有無（問 74）

高齢者福祉サービスの利用の有無は、「利用している（利用していた）」が 7.6%、「利用したことがない」が 87.0%となっている。

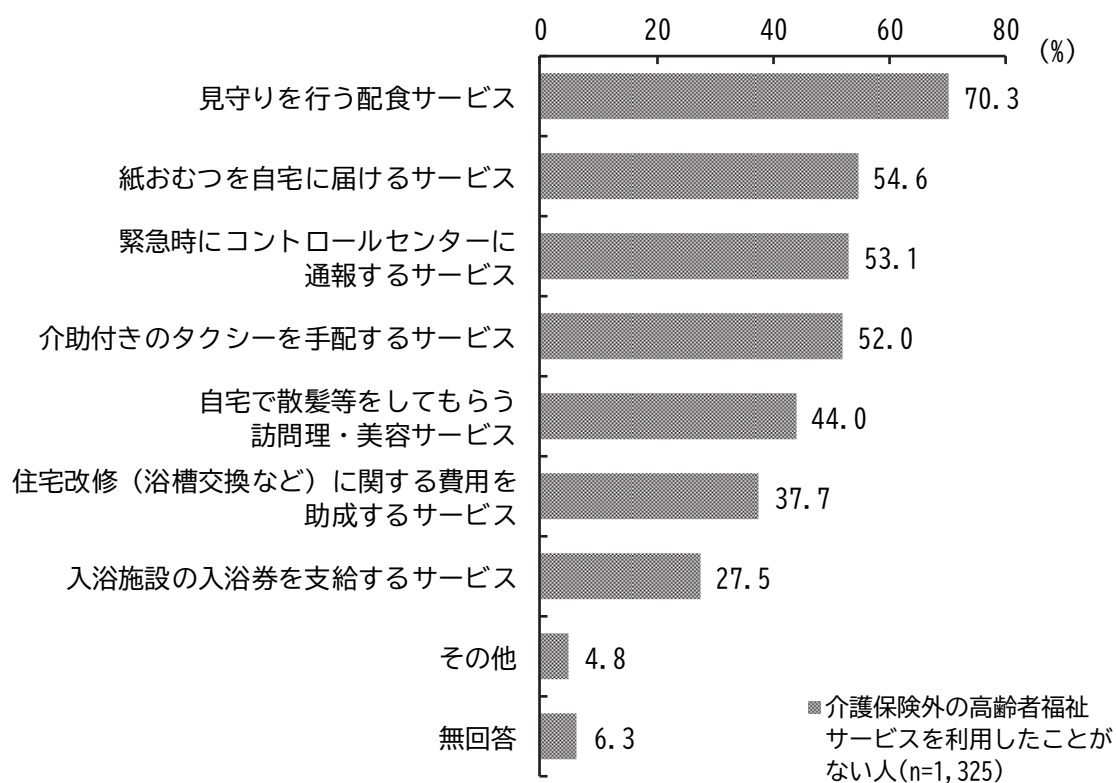
高齢者福祉サービスの利用の有無（全体）



③ 今後利用したい・必要だと思う高齢者福祉サービス（問 74-1）

介護保険外の高齢者福祉サービスを利用したことがない人に今後利用したい・必要だと思う高齢者福祉サービスをたずねたところ、「見守りを行う配食サービス」（70.3%）が最も高く、「紙おむつを自宅に届けるサービス」（54.6%）、「緊急時にコントロールセンターに通報するサービス」（53.1%）、「介助付きのタクシーを手配するサービス」（52.0%）の順で続いている。

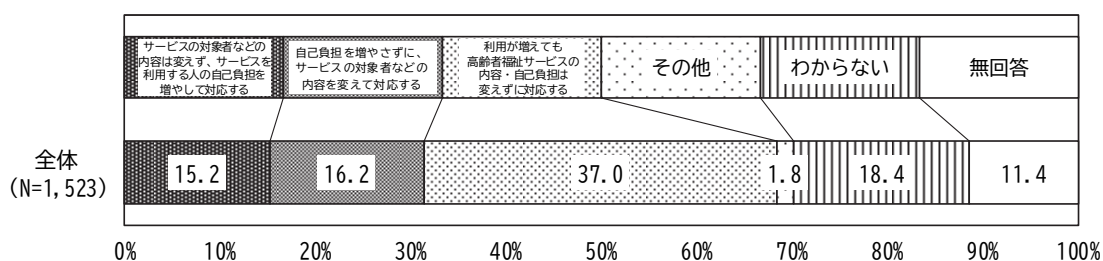
今後利用したい・必要だと思う高齢者福祉サービス
（介護保険外の高齢者福祉サービスを利用したことがない人：複数回答）



④ 増大する高齢者福祉サービスへの対応方法（問 75）

増大する高齢者福祉サービスへの対応方法は、「利用が増えても高齢者福祉サービスの内容・自己負担は変えずに対応する」（37.0%）が最も高く、「わからない」（18.4%）、「自己負担を増やさずに、サービスの対象者などの内容を変えて対応する」（16.2%）の順となっている。

増大する高齢者福祉サービスへの対応方法（全体）



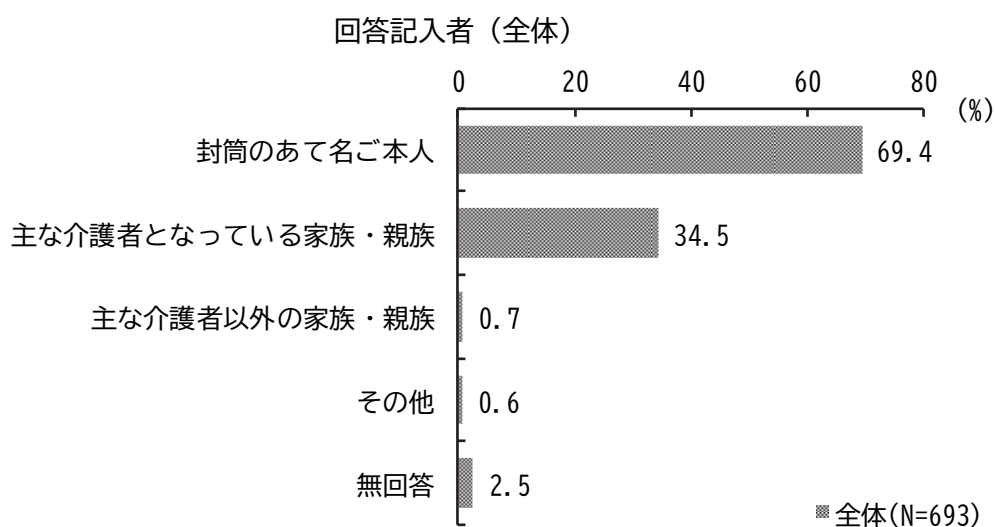
3 在宅介護実態調査

※問番号は調査票の質問を表しています。

(1) A票 調査対象者（本人）の状況

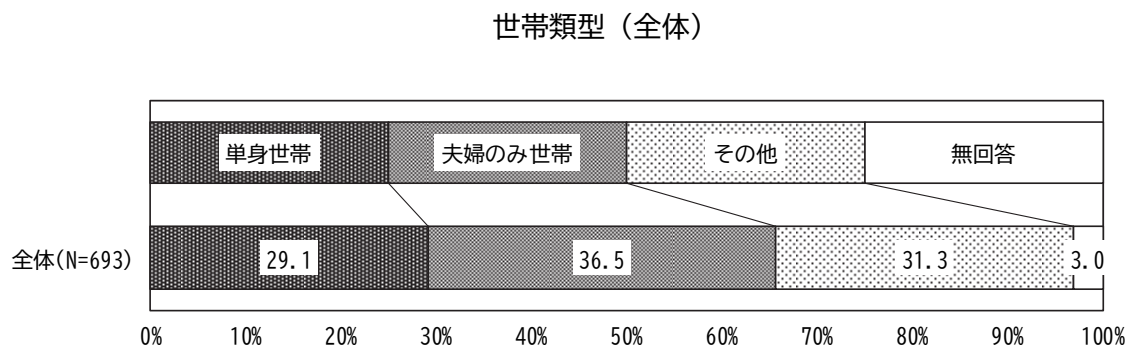
① 回答記入者（問1）

回答記入者は、「封筒のあて名ご本人」(69.4%)が最も高く、「主な介護者となっている家族・親族」(34.5%)、「主な介護者以外の家族・親族」(0.7%)、「その他」(0.6%)の順で続いている。



② 世帯類型（問2）

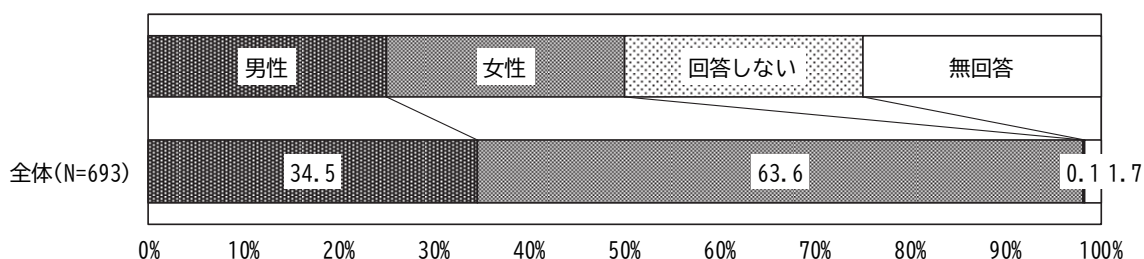
世帯類型は、「夫婦のみ世帯」が36.5%、「その他」が31.3%、「単身世帯」が29.1%となっている。



③ 性別（問3）

性別は、「男性」が34.5%、「女性」が63.6%となっている。

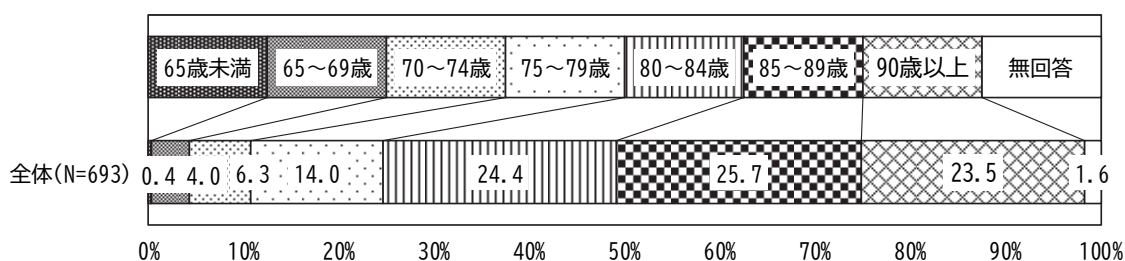
性別（全体）



④ 年齢（問4）

年齢は、「85～89歳」（25.7%）が最も高く、「80～84歳」（24.4%）、「90歳以上」（23.5%）、「75～79歳」（14.0%）の順で続いている。

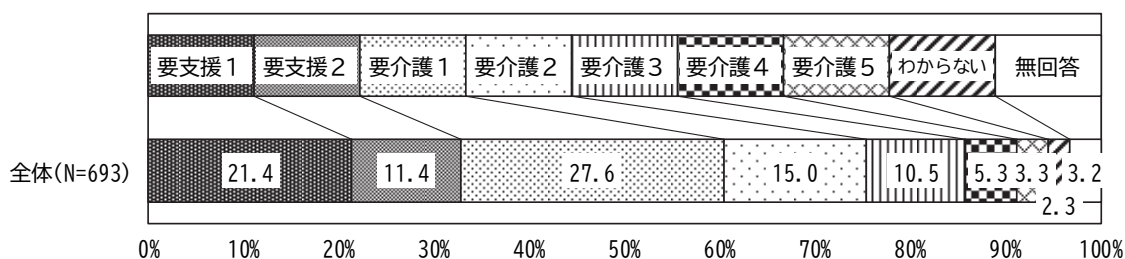
年齢（全体）



⑤ 要介護度（問5）

要介護度は、「要介護1」（27.6%）が最も高く、「要支援1」（21.4%）、「要介護2」（15.0%）、「要支援2」（11.4%）、「要介護3」（10.5%）の順で続いている。

要介護度（全体）

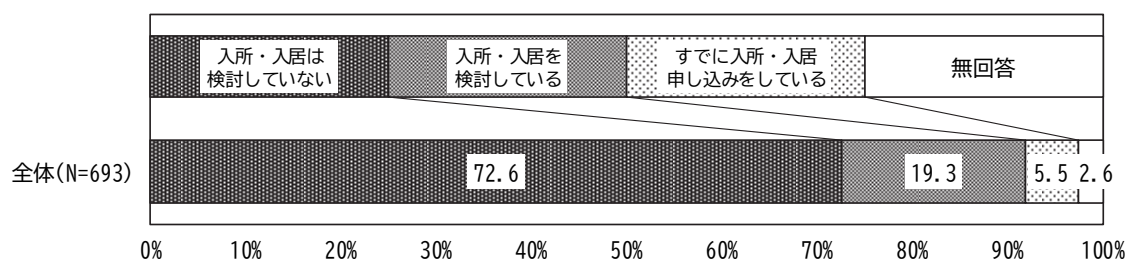


第2章 調査結果

⑥ 施設等への入所・入居の検討状況（問6）

施設等への入所・入居の検討状況は、「入所・入居は検討していない」（72.6%）が最も高く過半数を超えている。また、「入所・入居を検討している」が19.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が5.5%となっている。

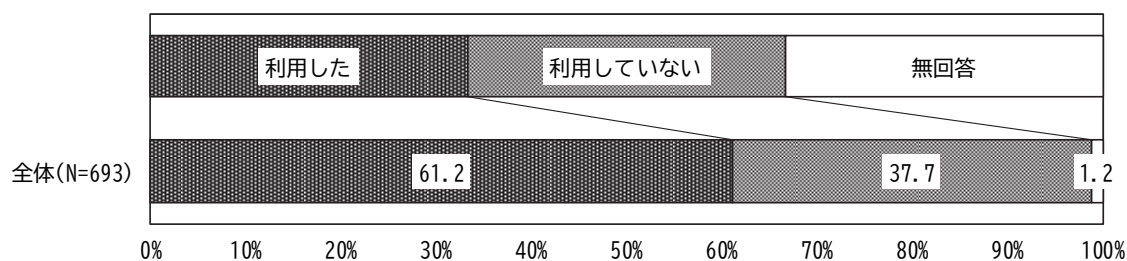
施設等への入所・入居の検討状況（全体）



⑦ 介護保険サービス(住宅改修・福祉用具貸与・購入以外)の利用の有無(問7)

介護保険サービス(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外)利用の有無は、「利用した」が61.2%、「利用していない」が37.7%となっている。

介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）利用の有無（全体）

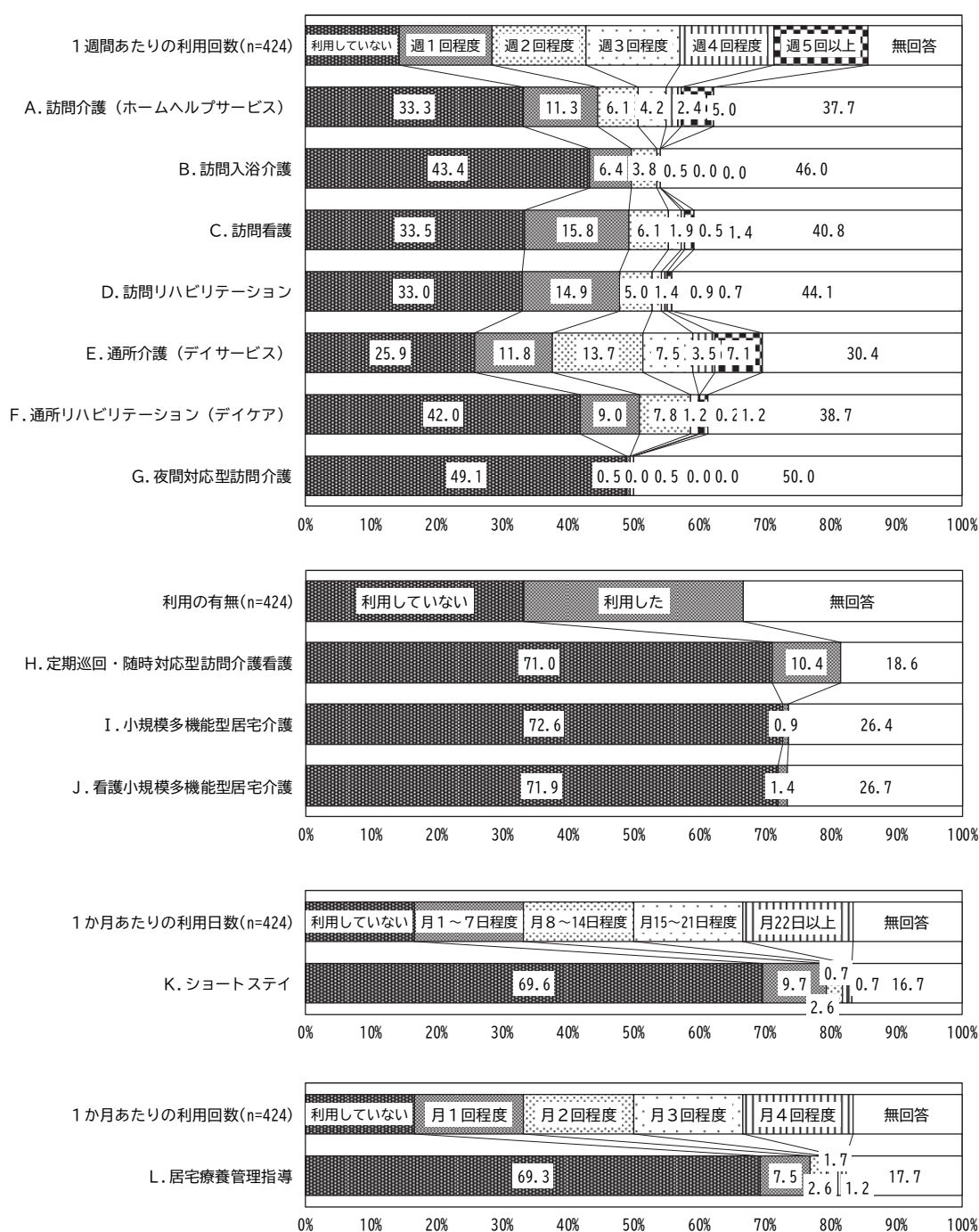


⑧ 介護保険サービス(住宅改修・福祉用具貸与・購入以外)の利用状況(問8)

令和7年10月の1か月に介護保険サービスを利用した状況は、12種類のサービスすべて「利用していない」が最も高くなっている。

利用している人が多いサービスは『通所介護(デイサービス)』で、頻度は「週2回程度」(13.7%)が最も高くなっている。比較的多い『訪問介護(ホームヘルプサービス)』と『訪問看護』の利用頻度は「週1回程度」(訪問介護(ホームヘルプサービス):11.3%、訪問看護:15.8%)が最も高くなっている。

介護保険サービス(住宅改修・福祉用具貸与・購入以外)の利用状況
(令和7年10月/1か月に介護保険サービスを利用した人)

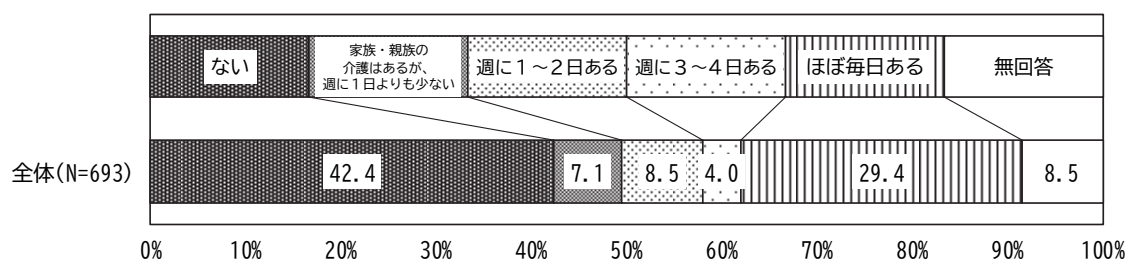


第2章 調査結果

⑨ 介護者の介護の頻度（問9）

介護者の介護の頻度は、「ない」（42.4%）が最も高く、「ほぼ毎日ある」（29.4%）、「週に1～2日ある」（8.5%）、「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」（7.1%）、「週に3～4日ある」（4.0%）の順で続いている。

介護者の介護の頻度（全体）

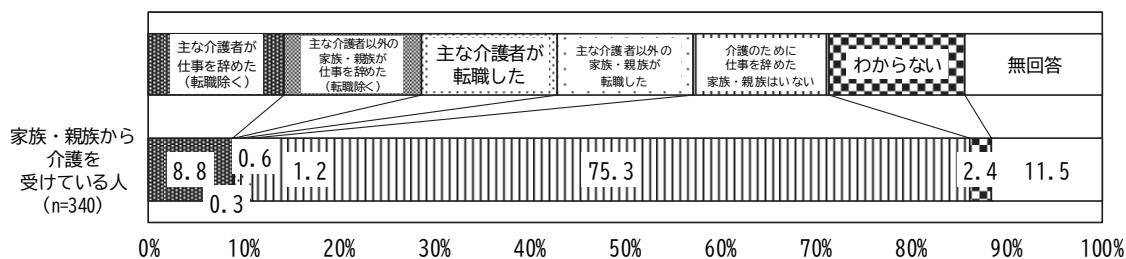


(2) B票 主な介護者の状況

① 介護者の介護のための離職の有無（問1）

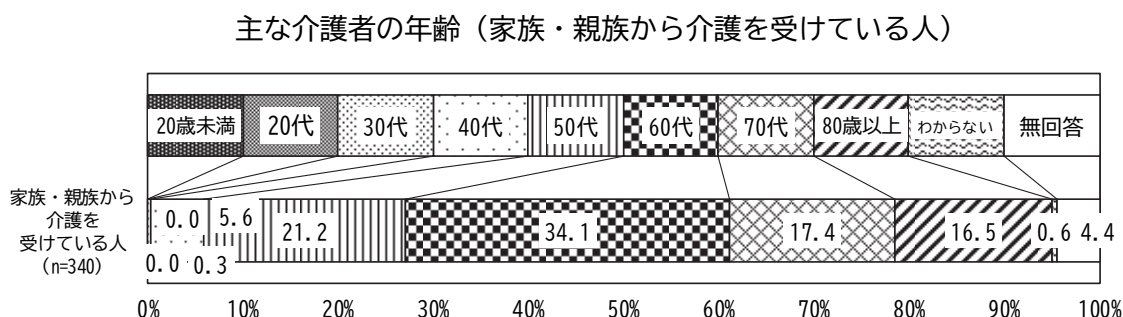
家族・親族から介護を受けている人に、介護者の介護のための離職の有無をたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」（75.3%）が最も高く、次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（8.8%）となっている。

介護者の介護のための離職の有無（家族・親族から介護を受けている人）



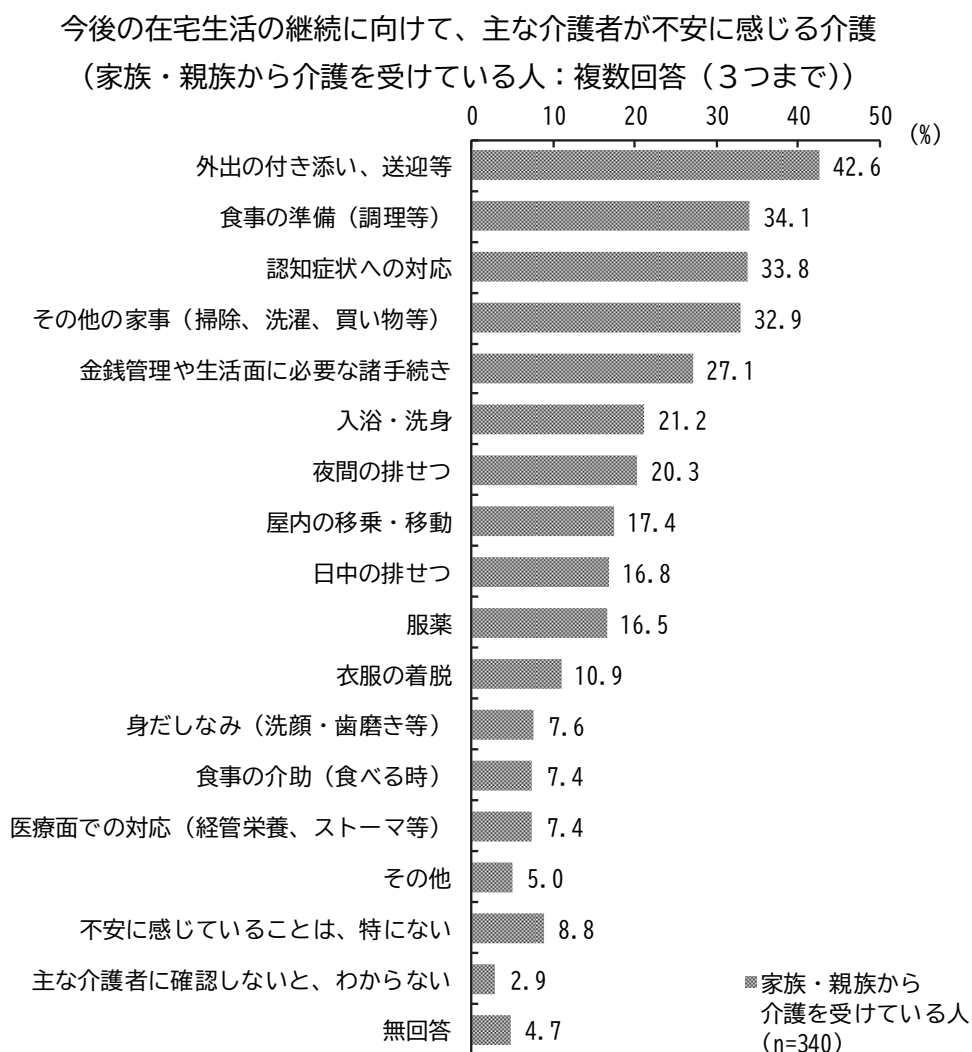
② 主な介護者の年齢（問2）

家族・親族から介護を受けている人に、主な介護者の年齢をたずねたところ、「60代」が34.1%、次いで「50代」が21.2%となっている。また、「70代」（17.4%）と「80歳以上」（16.5%）を合計すると70歳以上が33.9%となっている。



③ 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（問3）

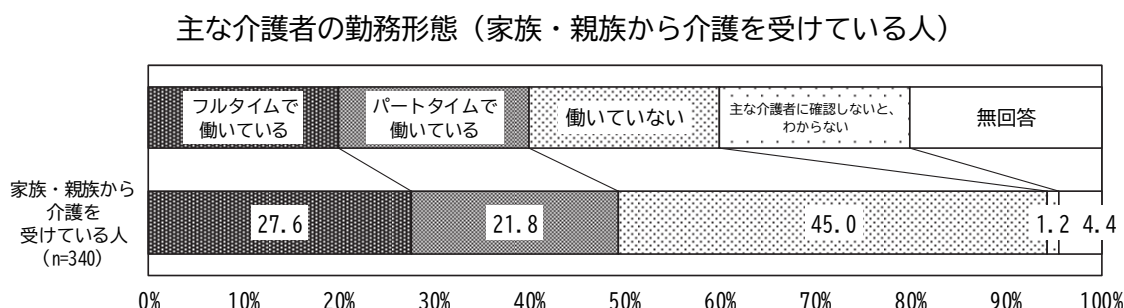
家族・親族から介護を受けている人に、今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護をたずねたところ、「外出の付き添い、送迎等」（42.6%）が最も高く、「食事の準備（調理等）」（34.1%）、「認知症状への対応」（33.8%）、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（32.9%）の順で続いている。



第2章 調査結果

④ 主な介護者の勤務形態（問4）

家族・親族から介護を受けている人に、主な介護者の勤務形態をたずねたところ、「働いていない」(45.0%)が40%を超えて最も高くなっている。また、「フルタイムで働いている」(27.6%)、「パートタイムで働いている」(21.8%)は共に20%台となっている。

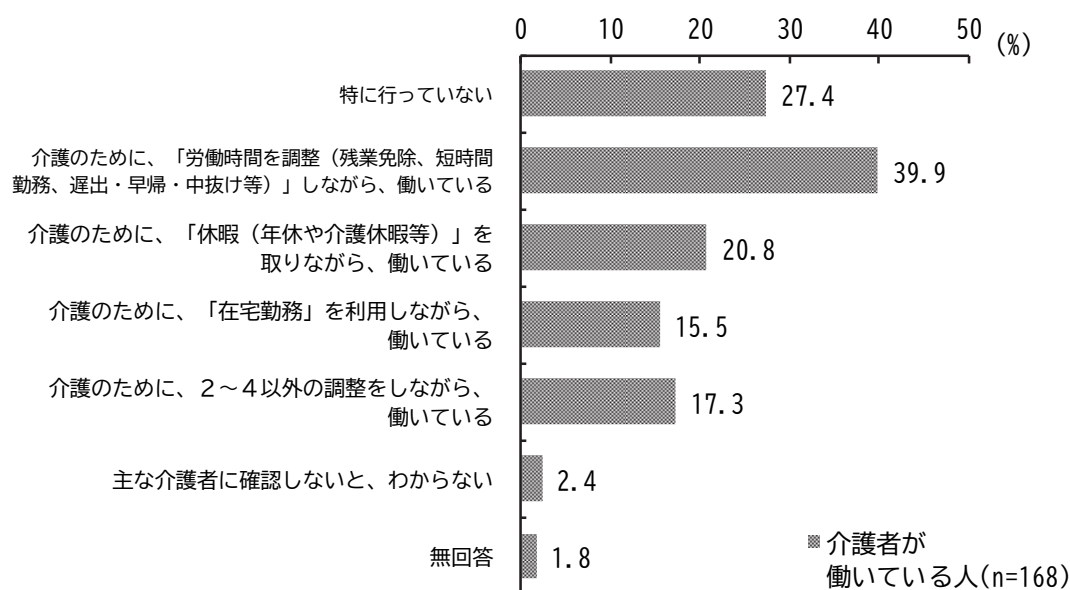


⑤ 主な介護者の働き方の調整状況（問5）

介護者が働いている人に、主な介護者の働き方の調整状況をたずねたところ、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」(39.9%)が最も高く、「特に行っていない」(27.4%)、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」(20.8%)の順で続いている。

介護者の勤務形態別にみると、【フルタイム勤務】、【パートタイム勤務】ともに「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が最も高く、「特に行っていない」と続いている。

主な介護者の働き方の調整状況（介護者が働いている人：複数回答）



3 在宅介護実態調査

主な介護者の働き方の調整状況（介護者が働いている人、介護者の勤務形態別：複数回答）

(人、%)

		回答者数	特に行っていない	介護のため、短時間勤務、遅出・早帰・中残（抜け等）	介護のため、「労働時間を調整（残業免除）」	介護のため、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら働いている	介護のため、「在宅勤務」を利用しながら働いている	介護のために、左記以外の調整をしながら働いている	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
介護者が働いている人		168	27.4	39.9	20.8	15.5	17.3	2.4	1.8	
勤務形態別	フルタイムで働いている	94	30.9	36.2	26.6	21.3	12.8	2.1	2.1	
	パートタイムで働いている	74	23.0	44.6	13.5	8.1	23.0	2.7	1.4	
	働いていない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	主な介護者に確認しないと、わからない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

⑥ 主な介護者の就業継続の可否に係る意識（問6）

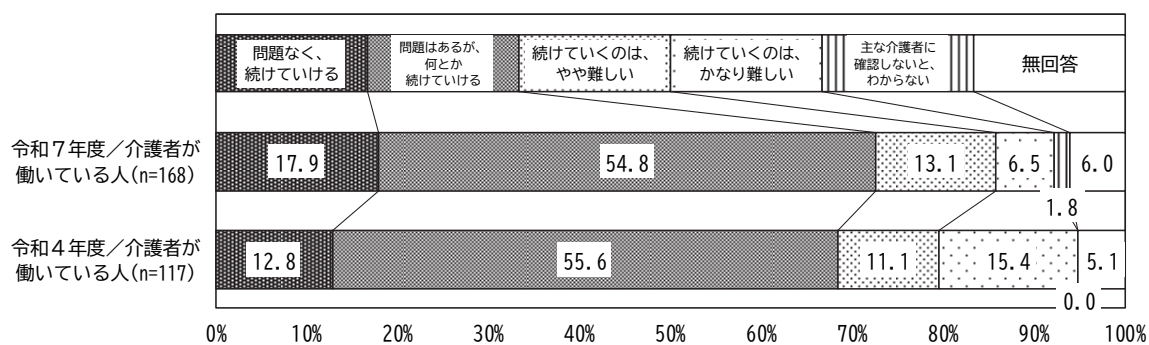
介護者が働いている人に、主な介護者の就業継続の可否に係る意識をたずねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」（54.8%）が最も高く、過半数となっている。また、「問題なく続けていける」（17.9%）と合計すると72.7%が続けていけると答えている。逆に、「続けていくのは、かなり難しい」（6.5%）と「続けていくのは、やや難しい」（13.1%）を合計すると19.6%が難しいと答えている。

前回調査と比較すると、「問題なく、続けていける」割合は、12.8%から17.9%と5.1ポイント高くなっている。

介護者の勤務形態別にみると、【フルタイム勤務】では「問題はあるが、何とか続けていける」（53.2%）が過半数であり最も高く、「問題なく、続けていける」が21.3%、「続けていくのは、やや難しい」が12.8%となっている。【パートタイム勤務】でも「問題はあるが、何とか続けていける」（56.8%）が過半数であり、「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」がそれぞれ13.5%となっている。

要介護度別にみると、【要支援・要介護1～2】では「問題はあるが、何とか続けていける」（55.5%）が過半数であり最も高く、「問題なく、続けていける」が22.7%、「続けていくのは、やや難しい」が10.1%となっている。【要介護3～5】でも「問題はあるが、何とか続けていける」（57.8%）が過半数であり最も高いが、「続けていくのは、やや難しい」が20.0%となっている。

主な介護者の就業継続の可否に係る意識（介護者が働いている人）【前回比較】



主な介護者の就業継続の可否に係る意識（介護者が働いている人、介護者の勤務形態別）

(人、%)

		回答者数	問題なく、 続けていける	問題はあ るが、 続けてい ける	やっ ぱり 難しい のは、	続け てい くのは、 かなり 難しい	確認し ない と、 主 な 介 護 者 に	無 回 答
介護者が働いている人		168	17.9	54.8	13.1	6.5	1.8	6.0
勤務 形態 別	介護者の フルタイムで働いている	94	21.3	53.2	12.8	5.3	2.1	5.3
	パートタイムで働いている	74	13.5	56.8	13.5	8.1	1.4	6.8
	働いていない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	主な介護者に確認しないと、わからない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

主な介護者の就業継続の可否に係る意識（介護者が働いている人、要介護度別）

(人、%)

		回答者数	問題なく、 続けていける	問題はあ るが、 続けてい ける	やっ ぱり 難しい のは、	続け てい くのは、 かなり 難しい	確認し ない と、 主 な 介 護 者 に	無 回 答
介護者が働いている人		168	17.9	54.8	13.1	6.5	1.8	6.0
要 介 護 度 別	要支援・要介護1～2	119	22.7	55.5	10.1	4.2	2.5	5.0
	要介護3～5	45	2.2	57.8	20.0	11.1	0.0	8.9
	わからない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

4 介護サービス事業者調査

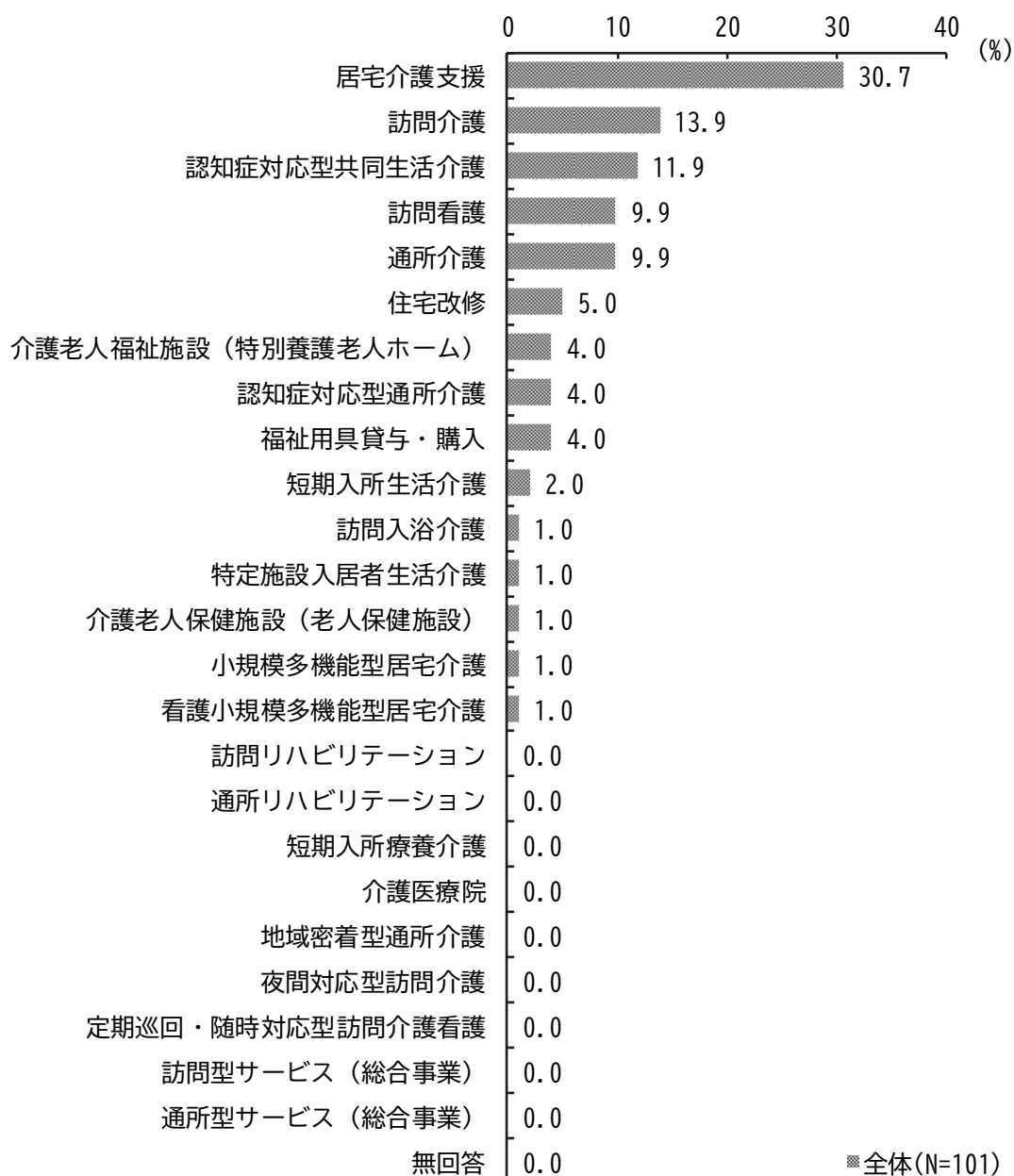
※問番号は調査票の質問を表しています。

(1) サービスの提供状況

① 回答する事業所のサービス種別（問3）

回答する事業所のサービス種別は、「居宅介護支援」(30.7%)が最も高く、「訪問介護」(13.9%)、「認知症対応型共同生活介護」(11.9%)の順で続いている。

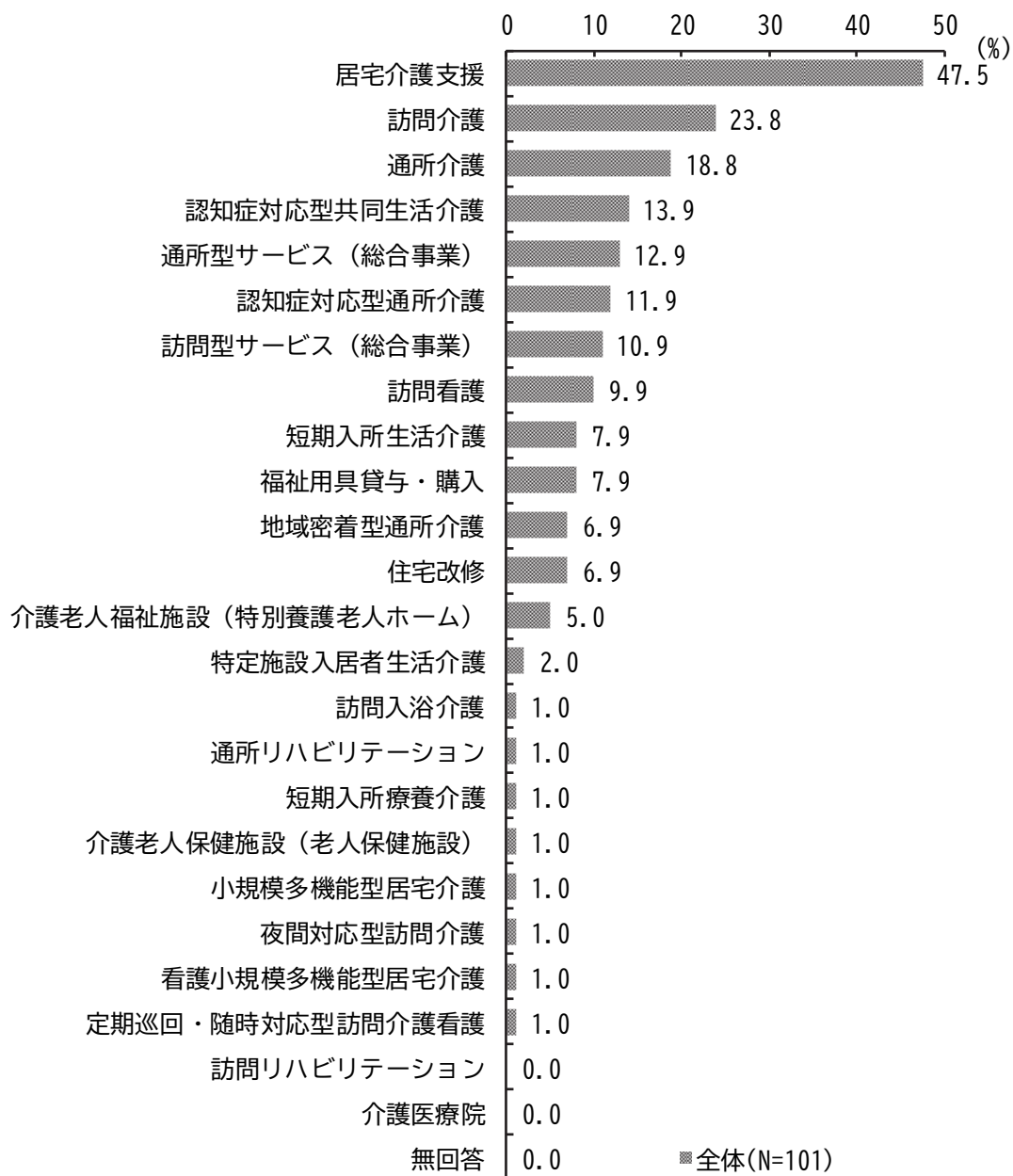
回答する事業所のサービス種別（全体）



② 提供している介護保険サービス（問4）

提供している介護保険サービスは、「居宅介護支援」（47.5%）が最も高く、「訪問介護」（23.8%）、「通所介護」（18.8%）の順で続いている。

提供している介護保険サービス（全体：複数回答）

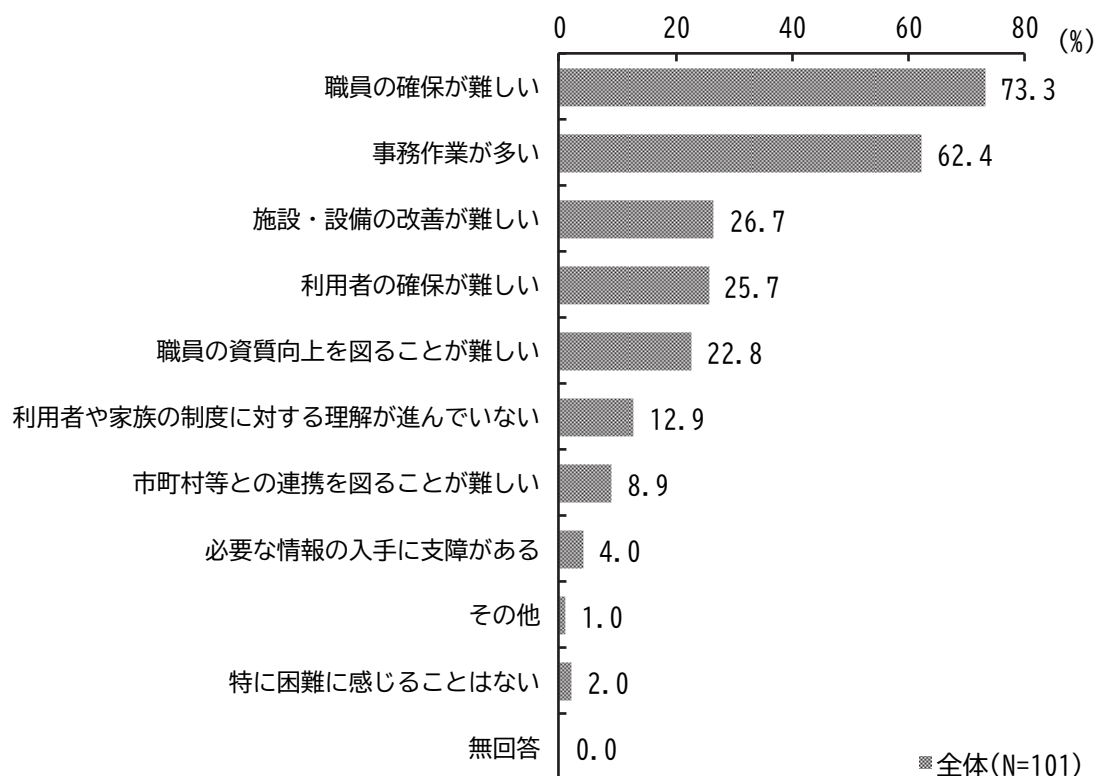


(2) 事業の運営状況

① 事業運営上で困難に感じていること（問5）

事業運営上で困難に感じていることは、「職員の確保が難しい」（73.3%）が最も高く、「事務作業が多い」（62.4%）、「施設・設備の改善が難しい」（26.7%）、「利用者の確保が難しい」（25.7%）の順で続いている。

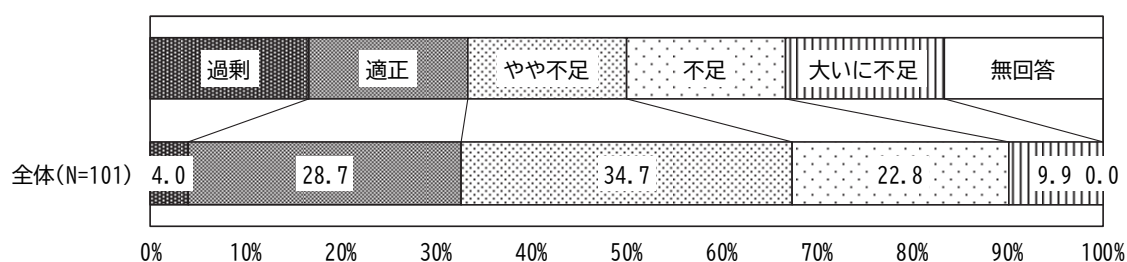
事業運営上で困難に感じていること（全体：複数回答）



② 職員の充足状況（問6）

職員の充足状況は、「やや不足」（34.7%）が最も高く、「適正」（28.7%）、「不足」（22.8%）の順で続いている。

職員の充足状況（全体）



③ 職員の就職・離職状況（問7）

職員の離職者総数は、常勤は「0人」（58.4%）が最も高く、「1人」（26.7%）、「2・3人」（8.9%）の順で続いている。非常勤は「0人」（59.4%）が最も高く、「1人」（16.8%）、「2・3人」（14.9%）の順で続いている。

離職率は、常勤は「0%」（61.4%）が最も高く、「5～10%」、「20～30%未満」（それぞれ8.9%）の順で続いている。非常勤は「0%」（62.4%）、「5～10%未満」（10.9%）、「10～20%未満」（9.9%）の順で続いている。

就職者総数は、常勤は「0人」（50.5%）が最も高く、「1人」（20.8%）、「2・3人」（19.8%）の順で続いている。非常勤は「0人」（54.5%）が最も高く、「1人」（17.8%）、「2・3人」（16.8%）の順で続いている。

離職者総数（全体）

(人、%)

	回答者数	0人	1人	2・3人	4・5人	5～9人	10～19人	20～29人	30人以上	無回答
常勤	101	58.4	26.7	8.9	2.0	3.0	0.0	0.0	1.0	0.0
非常勤	101	59.4	16.8	14.9	5.9	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0

離職率（全体）

(人、%)

	回答者数	0%	5%未満	5～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30～40%未満	40～50%未満	50%以上	無回答
常勤	101	61.4	5.9	8.9	7.9	8.9	4.0	0.0	3.0	0.0
非常勤	101	62.4	2.0	10.9	9.9	6.9	0.0	3.0	5.0	0.0

就職者総数（全体）

(人、%)

	回答者数	0人	1人	2・3人	4・5人	5～9人	10～19人	20～29人	30人以上	無回答
常勤	101	50.5	20.8	19.8	3.0	4.0	0.0	1.0	1.0	0.0
非常勤	101	54.5	17.8	16.8	5.9	4.0	0.0	1.0	0.0	0.0

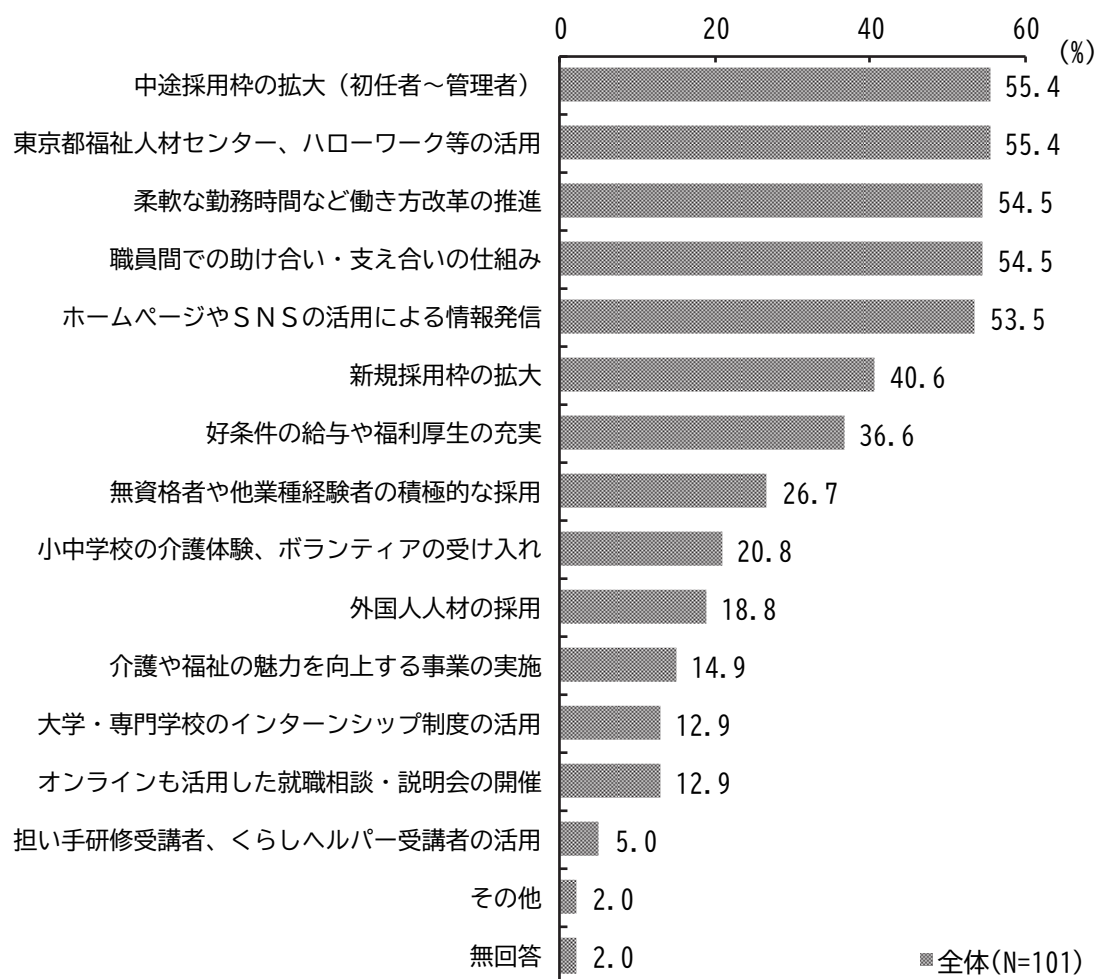
第2章 調査結果

④ 現在行っている人材確保の取組（問8（1）・問9）

現在行っている人材確保の取組は、「中途採用枠の拡大（初任者～管理者）」、「東京都福祉人材センター、ハローワーク等の活用」（それぞれ 55.4%）が最も高く、「柔軟な勤務時間など働き方改革の推進」、「職員間での助け合い・支え合いの仕組み」（それぞれ 54.5%）、「ホームページやSNSの活用による情報発信」（53.5%）の順で続いている。

なお、問9でたずねた「その他」（2.0%）の具体的な内容は、特筆すべきものがなかった。

現在行っている人材確保の取組（全体：複数回答）



4 介護サービス事業者調査

現在行っている人材確保の取組について、提供サービス別にみると、【在宅サービス】では、「職員間での助け合い・支え合いの仕組み」(62.2%)が最も高く、「柔軟な勤務時間など働き方改革の推進」(58.1%)が続いている。

【施設サービス】では、「中途採用枠の拡大(初任者～管理者)」、「小中学校の介護体験、ボランティアの受け入れ」、「東京都福祉人材センター、ハローワーク等の活用」(それぞれ80.0%)が最も高くなっている。

【居住系サービス】では、「ホームページやSNSの活用による情報発信」、「外国人人材の採用」(それぞれ69.2%)が最も高くなっている。

現在行っている人材確保の取組(全体、提供サービス別：複数回答)

		(人、%)								
提供サービス別	回答者数	中途採用枠の拡大 (初任者～管理者)	東京都福祉人材センター、 ハローワーク等の活用	柔軟な勤務時間など 働き方改革の推進	職員間での助け合い	Sホームページや SNSの活用による情報発信	新規採用枠の拡大	福利厚生の充実	好条件の給与	無資格者や他業種経験者の 積極的な採用
		小中学校の介護体験、 ボランティアの受け入れ	外国人人材の採用	介護や福祉の魅力を向上する 事業の実施	大学・専門学校 の活用	オンラインも活用した 就職相談・説明会の開催	担い手研修受講者、 くらしヘルパー受講者の活用	その他	無回答	
全体	101	55.4	55.4	54.5	54.5	53.5	40.6	36.6	26.7	
施設サービス	5	80.0	80.0	60.0	0.0	60.0	60.0	40.0	20.0	
居住系サービス	13	61.5	38.5	30.8	46.2	69.2	46.2	38.5	30.8	
在宅サービス	74	55.4	55.4	58.1	62.2	54.1	40.5	36.5	21.6	
その他	9	33.3	66.7	55.6	33.3	22.2	22.2	33.3	66.7	
介護予防・日常生活支援総合事業	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
全体	101	20.8	18.8	14.9	12.9	12.9	5.0	2.0	2.0	
施設サービス	5	80.0	20.0	20.0	60.0	60.0	0.0	0.0	0.0	
居住系サービス	13	15.4	69.2	15.4	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0	
在宅サービス	74	20.3	12.2	16.2	12.2	10.8	6.8	1.4	2.7	
その他	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	
介護予防・日常生活支援総合事業	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

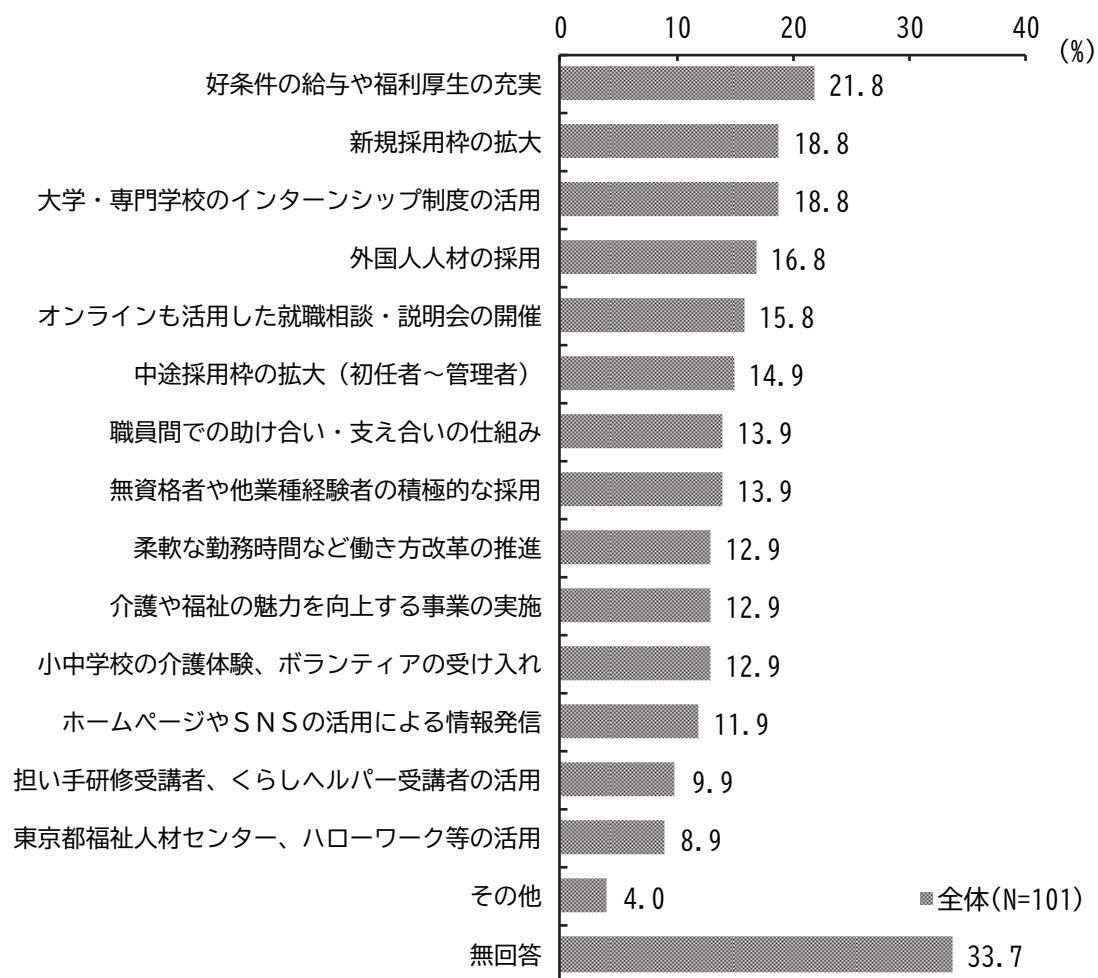
第2章 調査結果

⑤ 今後行いたい人材確保の取組（問8（2）・問9）

今後行いたい人材確保の取組は、「好条件の給与や福利厚生の充実」（21.8%）が最も高く、「新規採用枠の拡大」、「大学・専門学校の内ターンシップ制度の活用」（それぞれ18.8%）、「外国人人材の採用」（16.8%）の順で続いている。

なお、問9でたずねた「その他」（4.0%）の具体的な内容は、特筆すべきものがなかった。

今後行いたい人材確保の取組（全体：複数回答）



4 介護サービス事業者調査

今後行いたい人材確保の取組について、提供サービス別にみると、【在宅サービス】では、「好条件の給与や福利厚生の充実」(23.0%)が最も高く、「大学・専門学校のインターンシップ制度の活用」(20.3%)、「新規採用枠の拡大」、「オンラインも活用した就職相談・説明会の開催」(それぞれ18.9%)の順で続いている。

また、【施設サービス】では、「職員間での助け合い・支え合いの仕組み」(80.0%)が最も高く、「外国人人材の採用」(60.0%)が続いている。

【居住系サービス】では、「大学・専門学校のインターンシップ制度の活用」(30.8%)が最も高く、「外国人人材の採用」、「オンラインも活用した就職相談・説明会の開催」、「小中学校の介護体験、ボランティアの受け入れ」、「担い手研修受講者、くらしヘルパー受講者の活用」(それぞれ15.4%)の順で続いている。

今後行いたい人材確保の取組（全体、提供サービス別：複数回答）

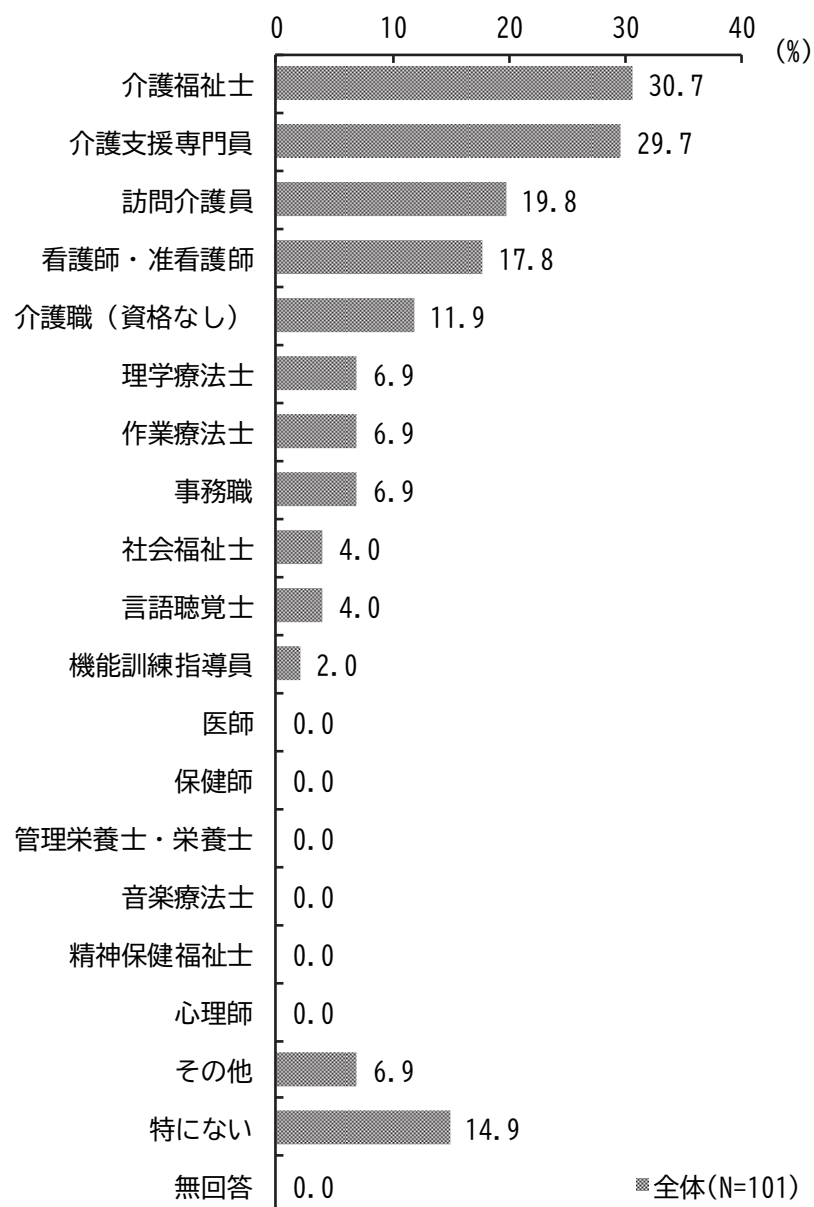
		回答者数	福利厚生の給与や	新規採用枠の拡大	大学・専門学校のインターンシップ制度の活用	外国人人材の採用	オンラインも活用した就職相談・説明会の開催	中途採用枠の拡大（初任者・管理者）	職員間での助け合い	無資格者や他業種経験者の採用
全体		101	21.8	18.8	18.8	16.8	15.8	14.9	13.9	13.9
提供サービス別	施設サービス	5	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	80.0	20.0
	居住系サービス	13	7.7	7.7	30.8	15.4	15.4	0.0	0.0	7.7
	在宅サービス	74	23.0	18.9	20.3	14.9	18.9	16.2	12.2	9.5
	その他	9	33.3	44.4	0.0	11.1	0.0	33.3	11.1	55.6
	介護予防・日常生活支援総合事業	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

		回答者数	柔軟な勤務時間など働き方改革の推進	介護や福祉の実施の魅力を向上させる	小中学校の介護体験、ボランティアの受け入れ	ホームページやSNSの活用による情報発信	担い手研修受講者、くらしヘルパー受講者の活用	東京都福祉人材センター、ハローワーク等の活用	その他	無回答
全体		101	12.9	12.9	12.9	11.9	9.9	8.9	4.0	33.7
提供サービス別	施設サービス	5	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	居住系サービス	13	0.0	7.7	15.4	0.0	15.4	0.0	0.0	46.2
	在宅サービス	74	13.5	14.9	14.9	12.2	10.8	6.8	4.1	37.8
	その他	9	22.2	0.0	0.0	33.3	0.0	44.4	11.1	0.0
	介護予防・日常生活支援総合事業	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑥ 特に確保が困難な職種（問 10）

特に確保が困難な職種は、「介護福祉士」（30.7%）が最も高く、「介護支援専門員」（29.7%）、「訪問介護員」（19.8%）の順で続いている。

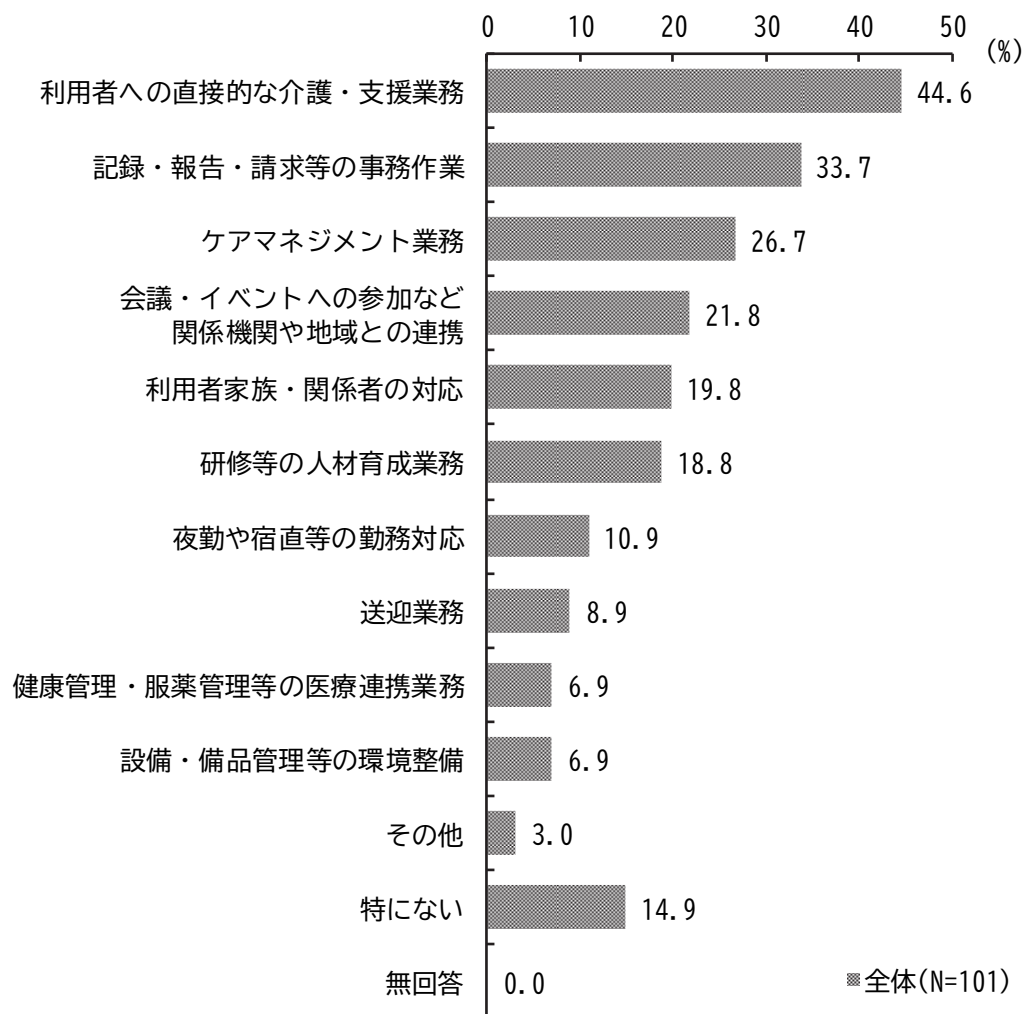
特に確保が困難な職種（全体：複数回答）



⑦ 人材不足の影響を受けていると感じる業務（問 11）

人材不足の影響を受けていると感じる業務は、「利用者への直接的な介護・支援業務」（44.6%）が最も高く、「記録・報告・請求等の事務作業」（33.7%）、「ケアマネジメント業務」（26.7%）の順で続いている。

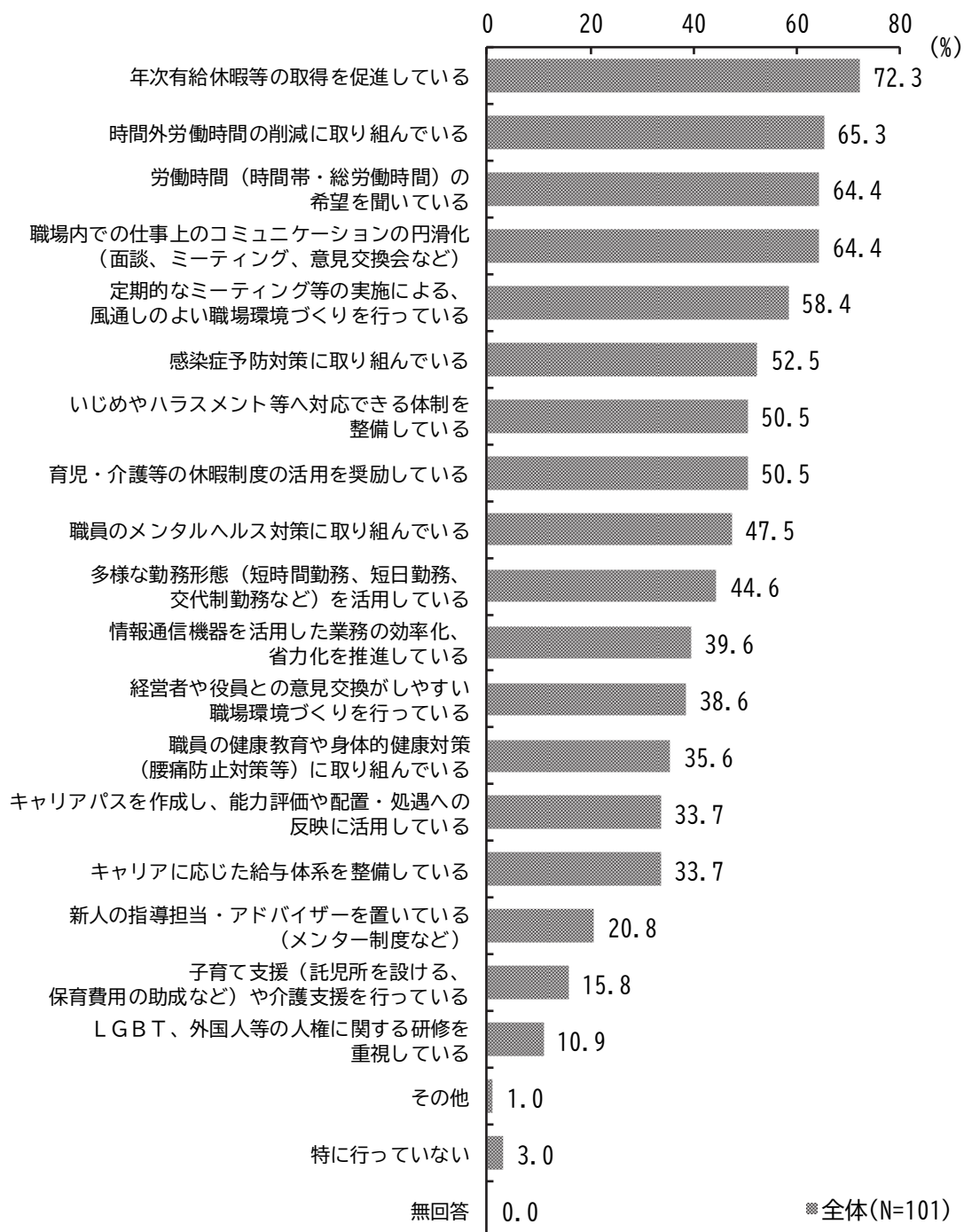
人材不足の影響を受けていると感じる業務（全体：複数回答）



⑧ 実施している早期離職防止や定着促進策（問 12）

実施している早期離職防止や定着促進策は、「年次有給休暇等の取得を促進している」（72.3%）が最も高く、「時間外労働時間の削減に取り組んでいる」（65.3%）、「労働時間（時間帯・総労働時間）の希望を聞いている」、「職場内での仕事上のコミュニケーションの円滑化（面談、ミーティング、意見交換会など）」（それぞれ 64.4%）の順で続いている。

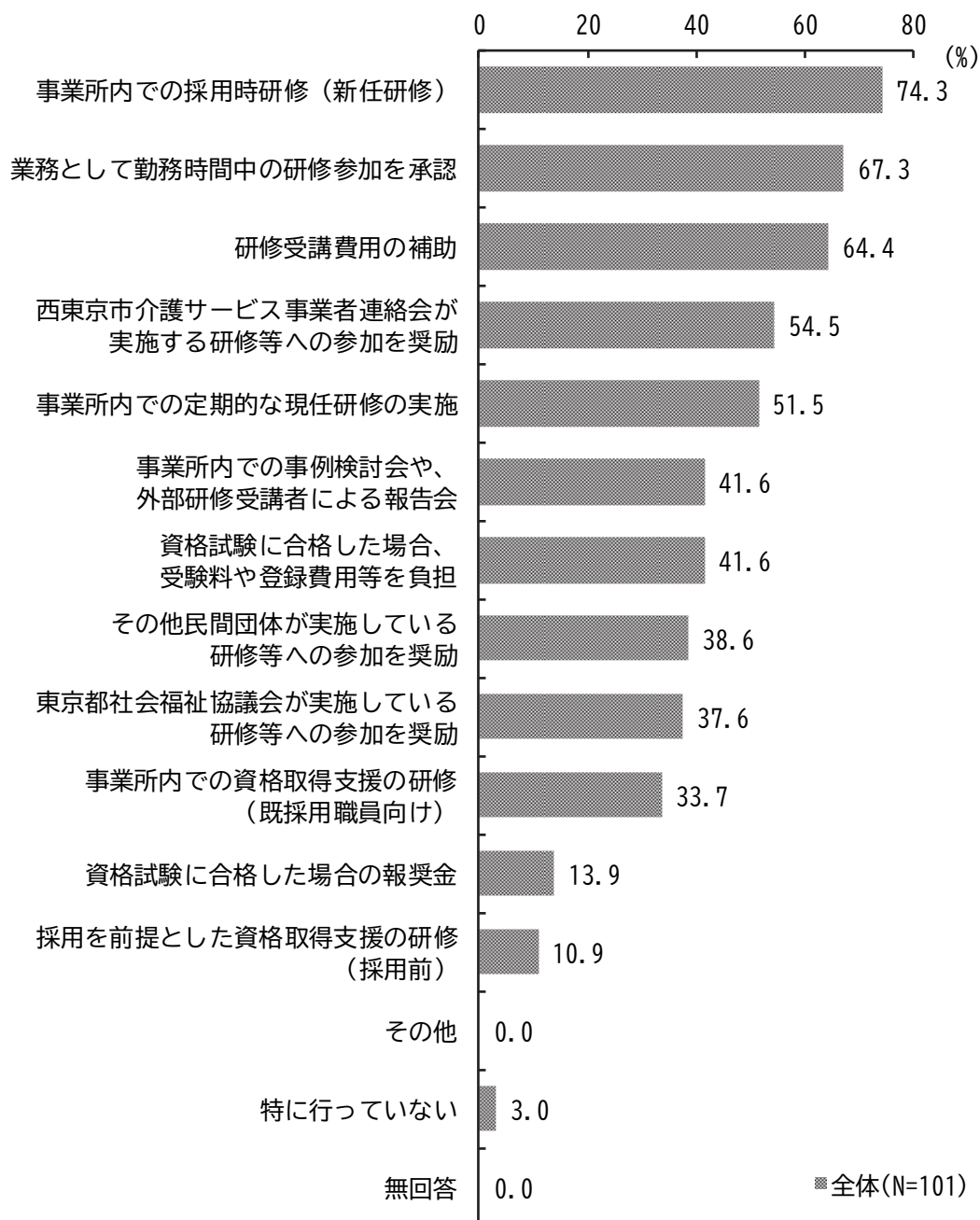
実施している早期離職防止や定着促進策（全体：複数回答）



⑨ キャリア形成支援のためにやっている研修や資格取得支援（問 13）

キャリア形成支援のためにやっている研修や資格取得支援は、「事業所内での採用時研修（新任研修）」（74.3%）が最も高く、「業務として勤務時間中の研修参加を承認」（67.3%）、「研修受講費用の補助」（64.4%）の順で続いている。

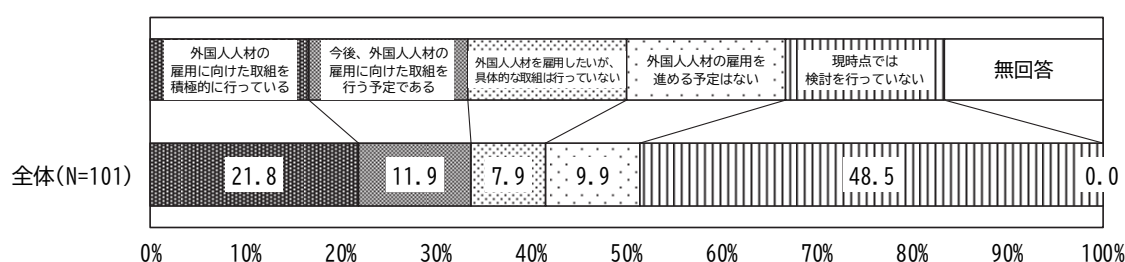
キャリア形成支援のためにやっている研修や資格取得支援（全体：複数回答）



⑩ 外国人人材の雇用に向けた取組や考え方（問 14）

外国人人材の雇用に向けた取組や考え方は、「現時点では検討を行っていない」（48.5%）が最も高く、「外国人人材の雇用に向けた取組を積極的に行っている」（21.8%）、「今後、外国人人材の雇用に向けた取組を行う予定である」（11.9%）の順で続いている。

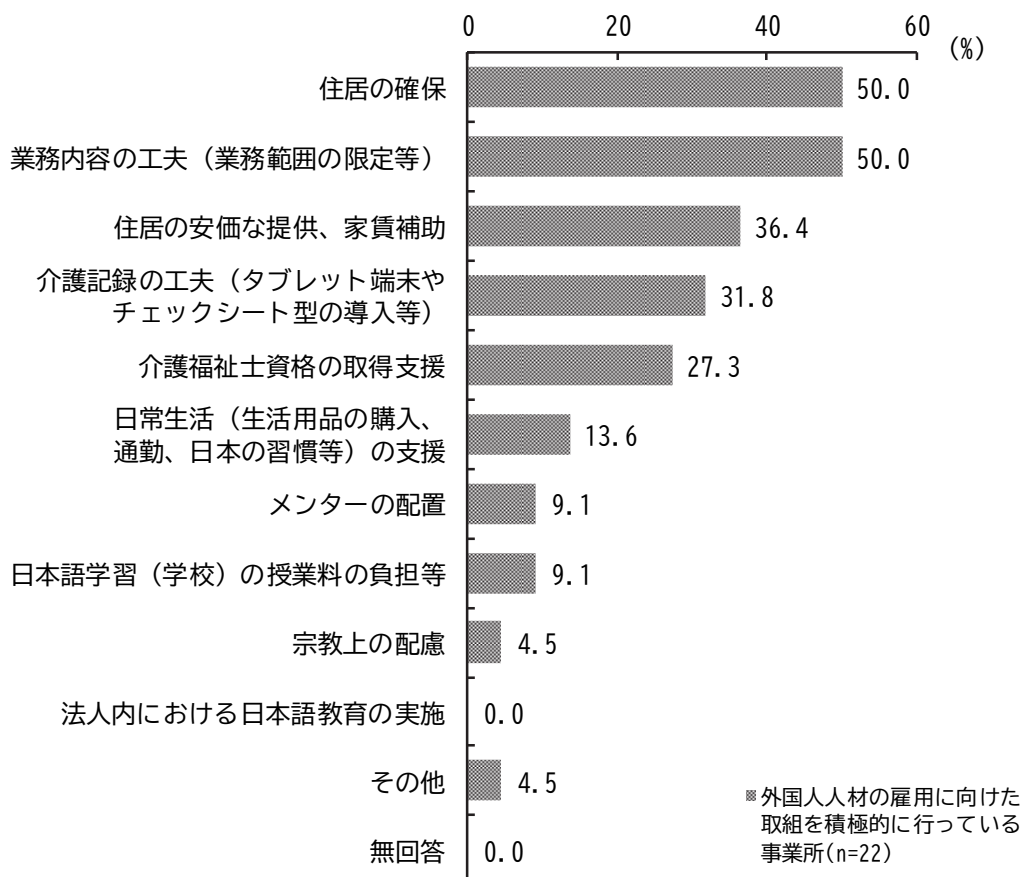
外国人人材の雇用に向けた取組や考え方（全体）



⑪ 外国人人材の雇用にあたり行っている支援・工夫（問 15）

外国人人材の雇用に向けた取組を積極的に行っている事業所に、外国人人材の雇用にあたり行っている支援・工夫をたずねたところ、「住居の確保」、「業務内容の工夫（業務範囲の限定等）」（それぞれ 50.0%）が最も高く、「住居の安価な提供、家賃補助」（36.4%）、「介護記録の工夫（タブレット端末やチェックシート型の導入等）」（31.8%）の順で続いている。

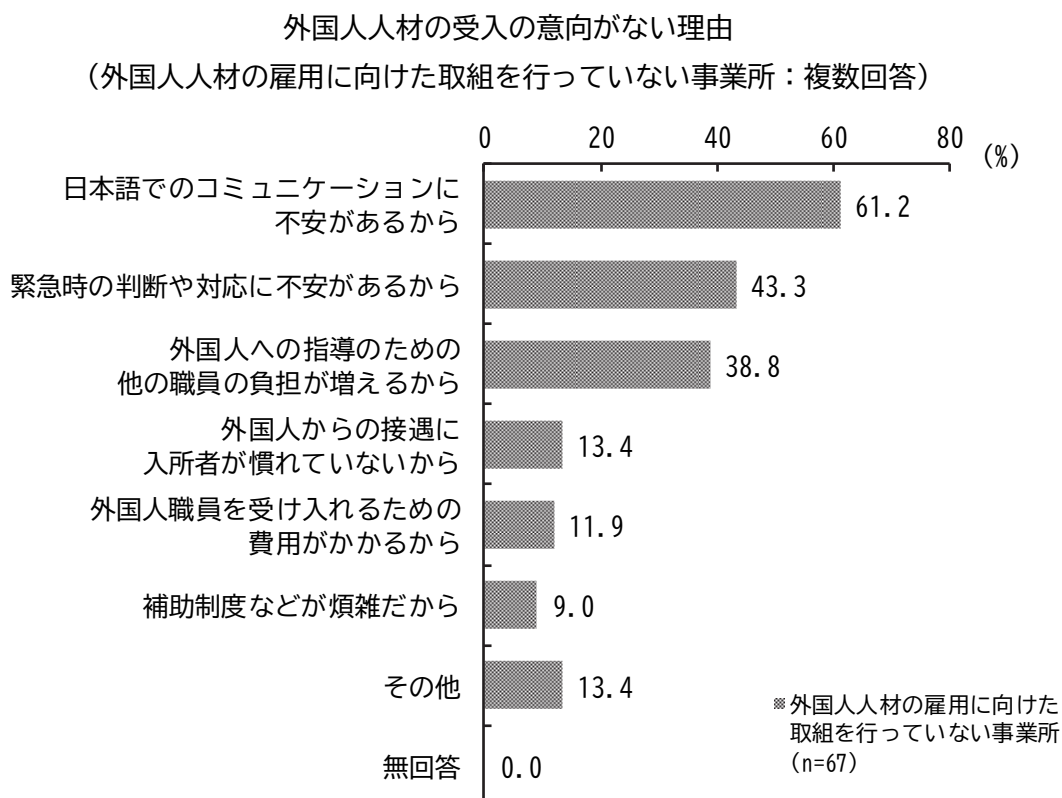
外国人人材の雇用にあたり行っている支援・工夫
（外国人人材の雇用に向けた取組を積極的に行っている事業所：複数回答）



⑫ 外国人人材の受入の意向がない理由（問 16）

外国人人材の雇用に向けた取組を行っていない事業所に、外国人人材の受入の意向がない理由をたずねたところ、「日本語でのコミュニケーションに不安があるから」（61.2%）が最も高く、「緊急時の判断や対応に不安があるから」（43.3%）、「外国人への指導のための他の職員の負担が増えるから」（38.8%）の順で続いている。

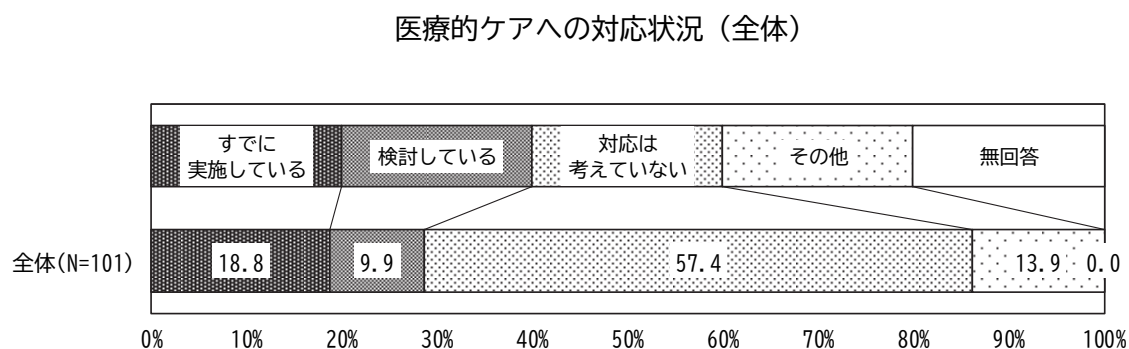
「その他」（13.4%）の内容は、「外国人の応募がない」、「介護支援専門員の外国人人材がない」などであった。



⑬ 医療的ケアへの対応状況（問 17）

医療的ケアへの対応状況は、「対応は考えていない」（57.4%）が最も高く、「すでに実施している」（18.8%）、「その他」（13.9%）の順で続いている。

「その他」（13.9%）の内容は、「業務外である」、「職種的に対象外である」などが多かった。

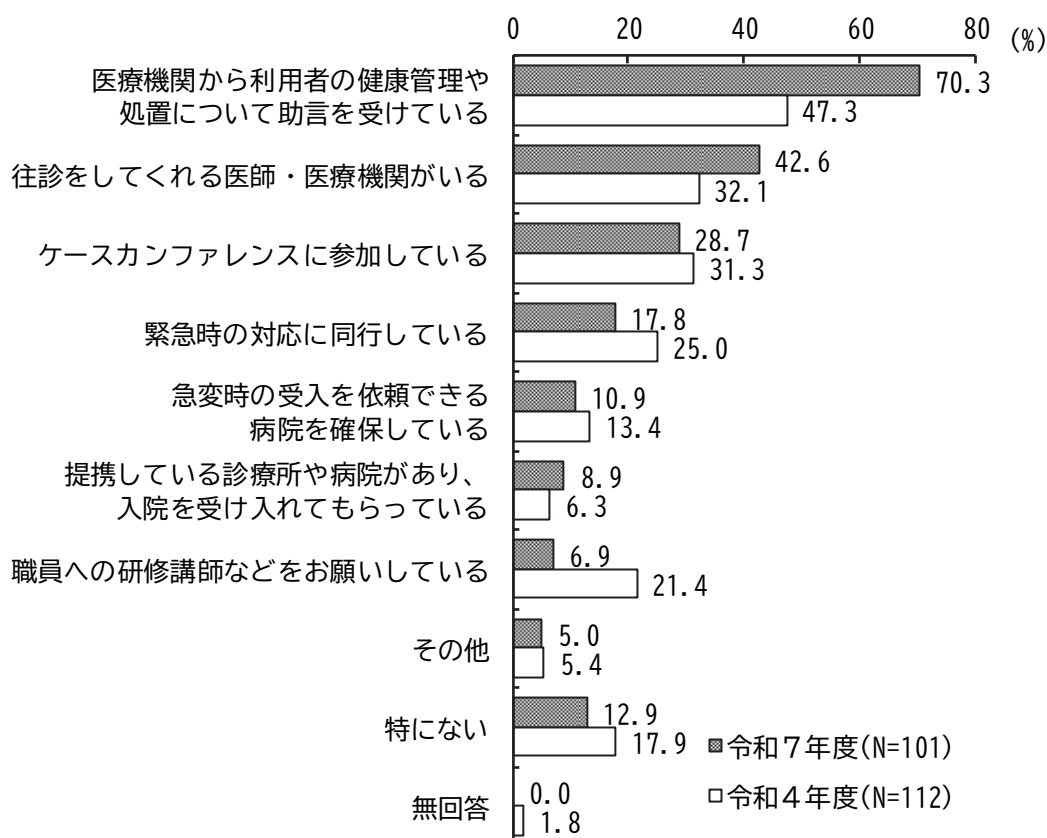


⑭ 医療機関との連携で取り組んでいること（問 18）

医療機関との連携で取り組んでいることは、「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」(70.3%)が最も高く、「往診をしてくれる医師・医療機関がいる」(42.6%)、「ケースカンファレンスに参加している」(28.7%)の順で続いている。

前回調査と比較すると、上位4位までは変わらないが、「職員への研修講師などをお願いしている」(今回：6.9%、前回：21.4%)は前回調査では5番目だったが、今回調査では7番目となっている。

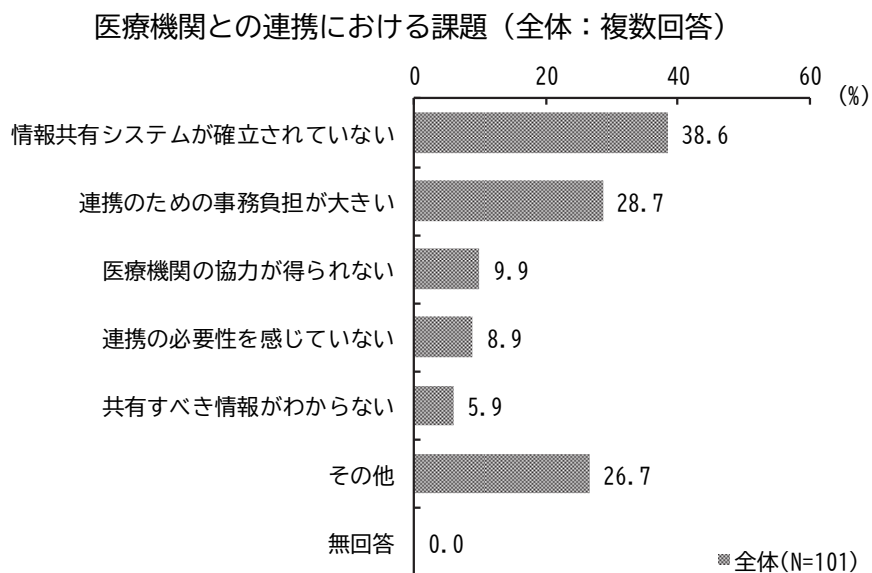
医療機関との連携で取り組んでいること（全体：複数回答）【前回比較】



⑮ 医療機関との連携における課題（問 19）

医療機関との連携における課題は、「情報共有システムが確立されていない」（38.6%）が最も高く、「連携のための事務負担が大きい」（28.7%）、「その他」（26.7%）の順で続いている。

「その他」（26.7%）の内容は、「課題はない」、「連携ができている」が多く、「MCSで負担が減った」という回答もあった。



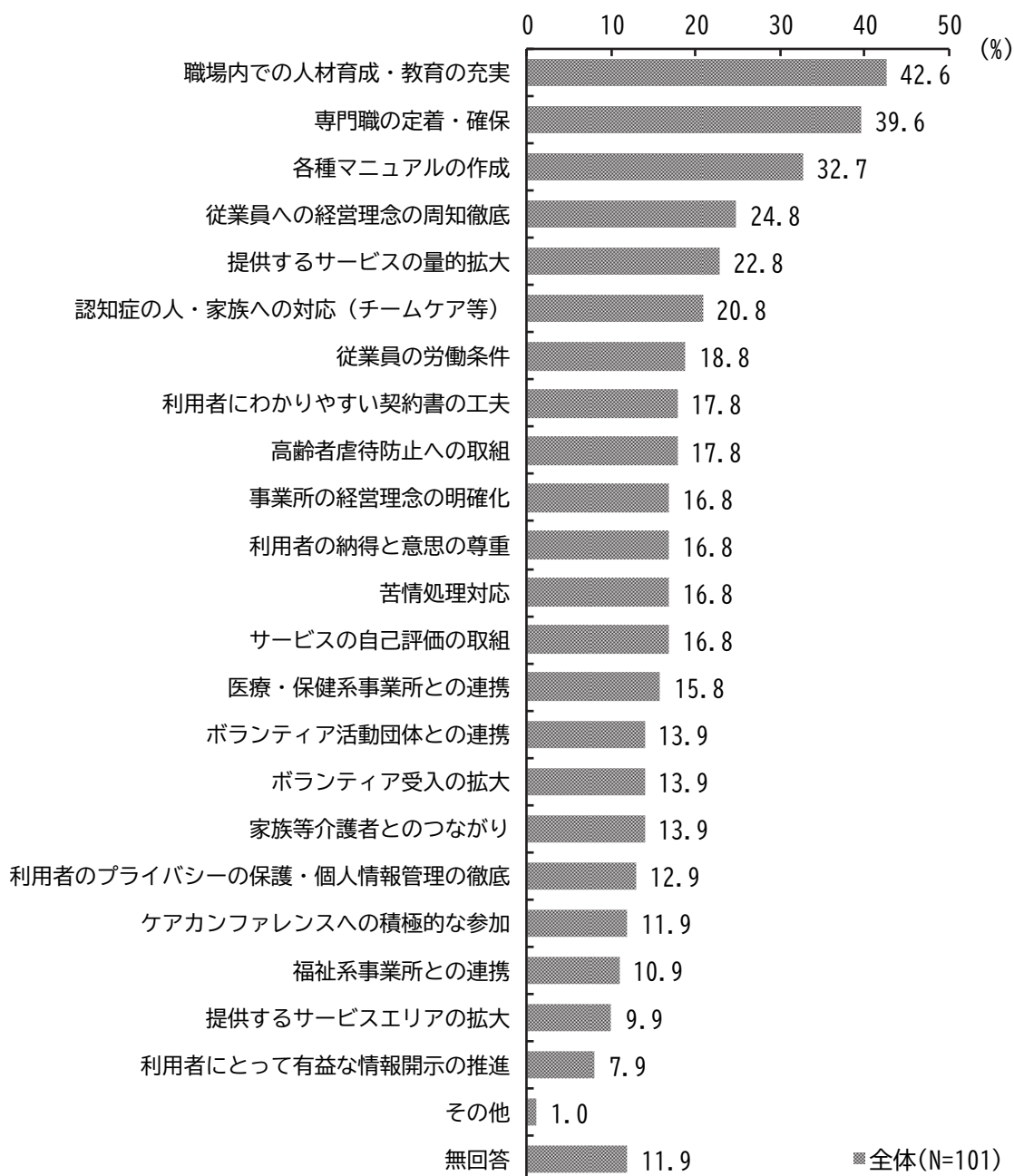
(3) サービスの質の向上への取組

① サービス向上に向けた現在の課題（問 20(1)・問 21)

サービス向上に向けた現在の課題は、「職場内での人材育成・教育の充実」(42.6%)が最も高く、「専門職の定着・確保」(39.6%)、「各種マニュアルの作成」(32.7%)の順で続いている。

なお、問 21 でたずねた「その他」(1.0%)の具体的な内容は、特筆すべきものがなかった。

サービス向上に向けた現在の課題（全体：複数回答）

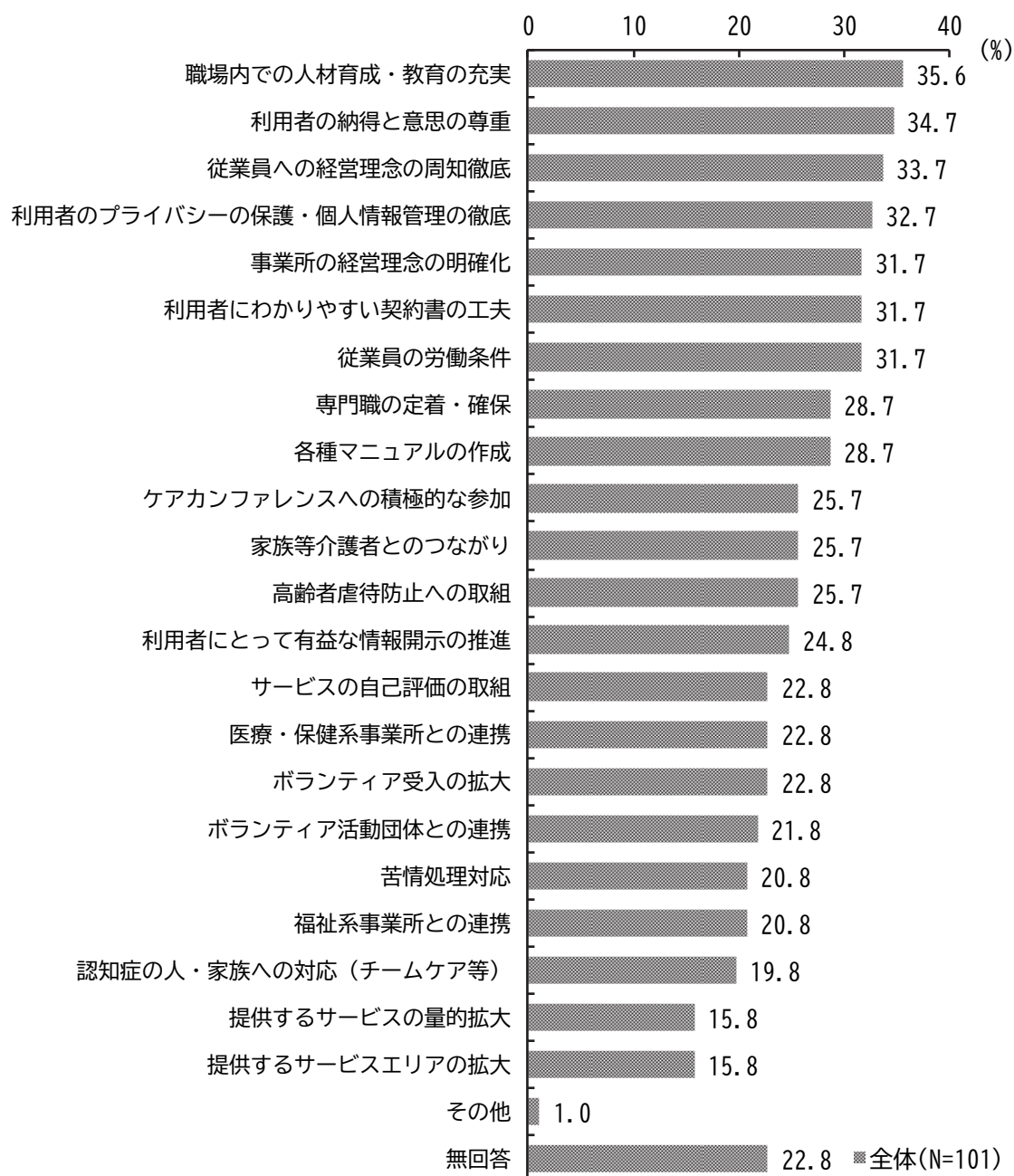


② サービス向上に向けた今後の取組（問 20(2)・問 21)

サービス向上に向けた今後の取組は、「職場内での人材育成・教育の充実」(35.6%)が最も高く、「利用者の納得と意思の尊重」(34.7%)、「従業員への経営理念の周知徹底」(33.7%)の順で続いている。

なお、問 21 でたずねた「その他」(1.0%)の具体的な内容は、特筆すべきものがなかった。

サービス向上に向けた今後の取組（全体：複数回答）

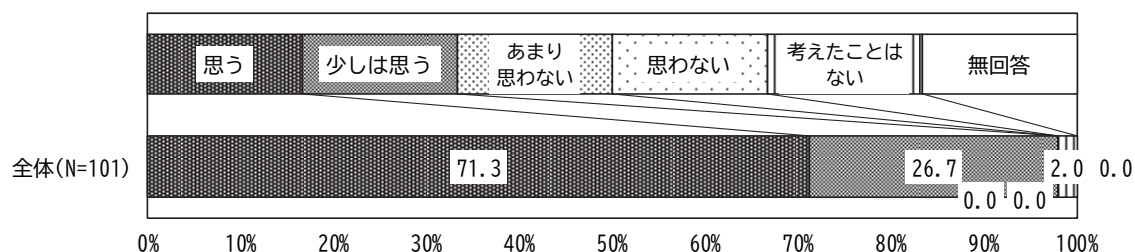


第2章 調査結果

③ 利用者の自立支援を意識したサービス提供の実施状況（問 22）

利用者の自立支援を意識したサービス提供の実施状況は、「思う」（71.3%）が最も高く、「少しは思う」（26.7%）、「考えたことはない」（2.0%）の順で続いている。

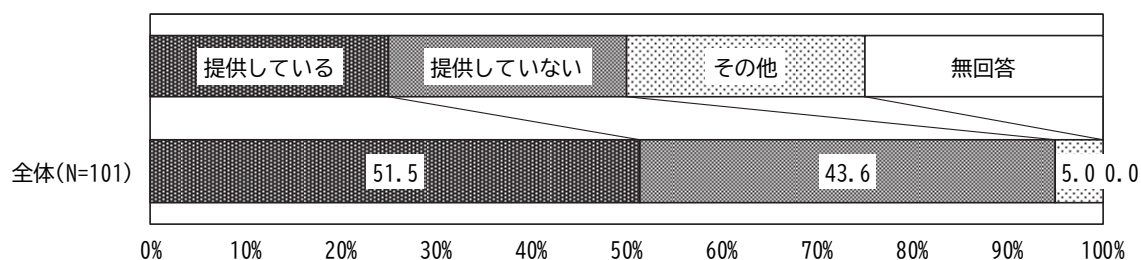
利用者の自立支援を意識したサービス提供の実施状況（全体）



④ 介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービス提供の有無（問 23）

介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービス提供の有無は、「提供している」が51.5%、「提供していない」が43.6%となっている。

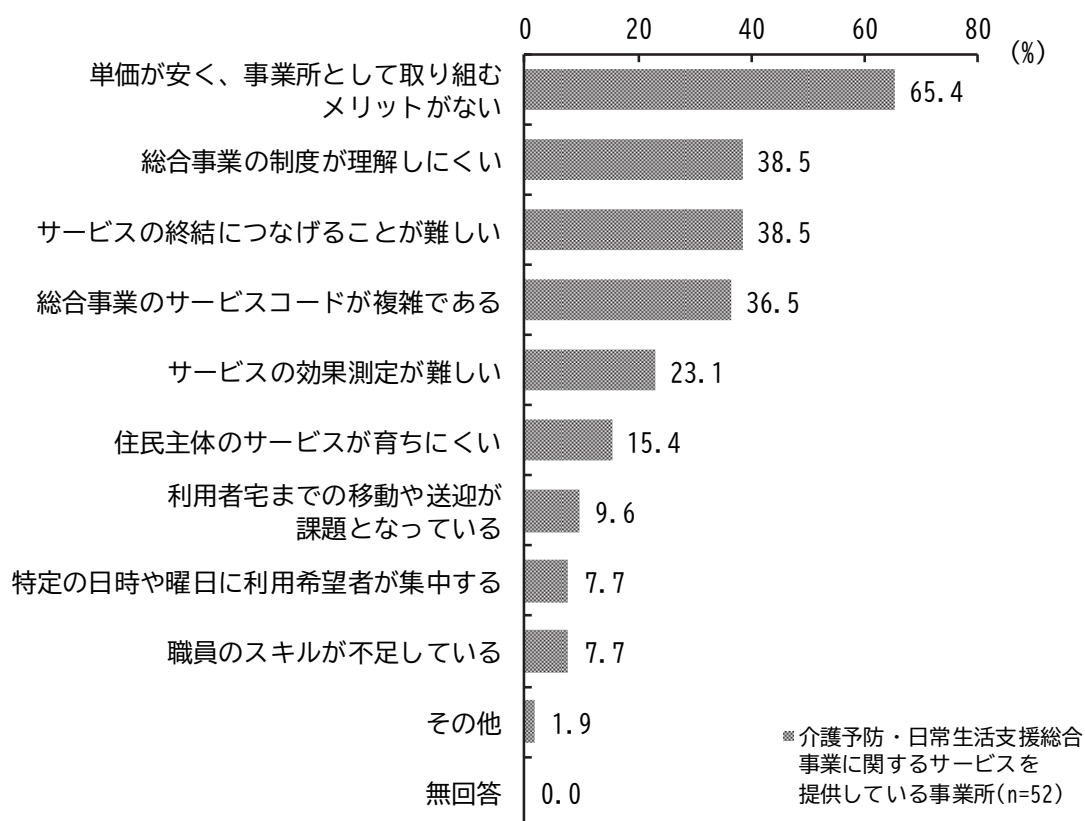
介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービス提供の有無（全体）



⑤ 介護予防・日常生活支援総合事業の課題（問 24）

介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービスを提供している事業所に、介護予防・日常生活支援総合事業の課題をたずねたところ、「単価が安く、事業所として取り組むメリットがない」（65.4%）が最も高く、「総合事業の制度が理解しにくい」、「サービスの終結につなげることが難しい」（それぞれ 38.5%）、「総合事業のサービスコードが複雑である」（36.5%）の順で続いている。

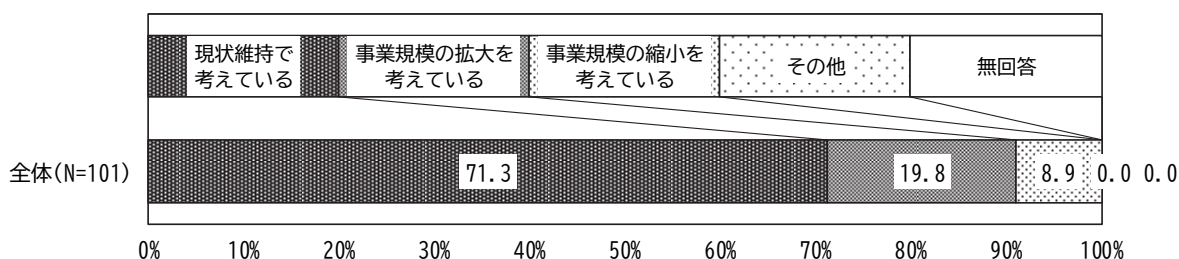
介護予防・日常生活支援総合事業の課題
（介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービスを提供している事業所：複数回答）



⑥ 今後のサービス提供の見通し（問 25）

今後のサービス提供の見通しは、「現状維持で考えている」（71.3%）が最も高く、「事業規模の拡大を考えている」（19.8%）、「事業規模の縮小を考えている」（8.9%）の順で続いている。

今後のサービス提供の見通し（全体）



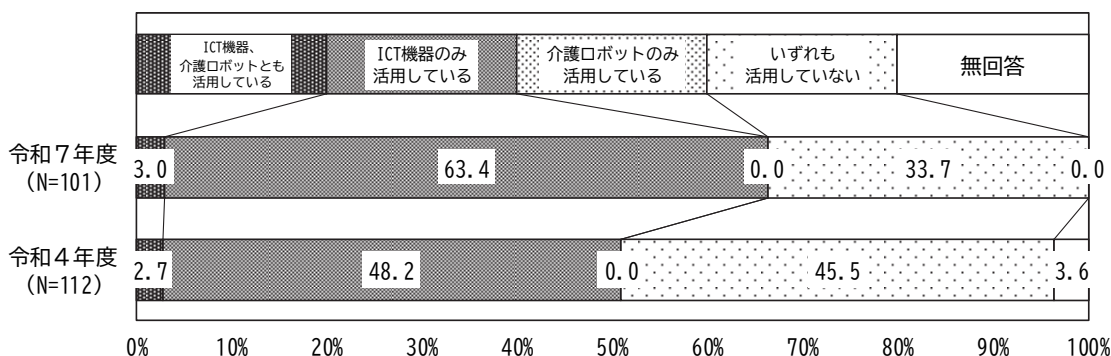
第2章 調査結果

⑦ ICT機器や介護ロボット等の活用状況（問26）

ICT機器や介護ロボット等の活用状況は、「ICT機器のみ活用している」（63.4%）が最も高く、「いずれも活用していない」（33.7%）、「ICT機器、介護ロボットとも活用している」（3.0%）の順で続いている。

前回調査と比較すると、「ICT機器のみ活用している」（今回：63.4%、前回 48.2%）の割合が15.2ポイント高くなっている。

ICT機器や介護ロボット等の活用状況（全体）



⑧ ICT機器の活用状況（問27・問28）

ICT機器を活用している事業所に、活用状況をたずねたところ、利用者情報等の共有では「パソコン」（83.6%）が最も高く、「タブレット端末」（55.2%）、「スマートフォン」（50.7%）の順で続いている。

報酬請求との連携では「パソコン」（88.1%）が最も高く、「スマートフォン」、「タブレット端末」（それぞれ6.0%）の順で続いている。

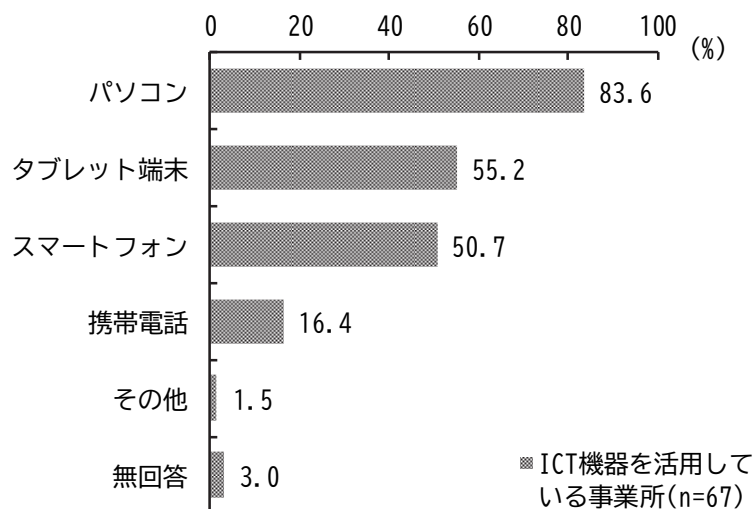
ケアプランの作成では「パソコン」（70.1%）が最も高く、「タブレット端末」（11.9%）、「スマートフォン」（7.5%）の順で続いている。

オンライン会議では「パソコン」（70.1%）が最も高く、「タブレット端末」（37.3%）、「スマートフォン」（19.4%）の順で続いている。

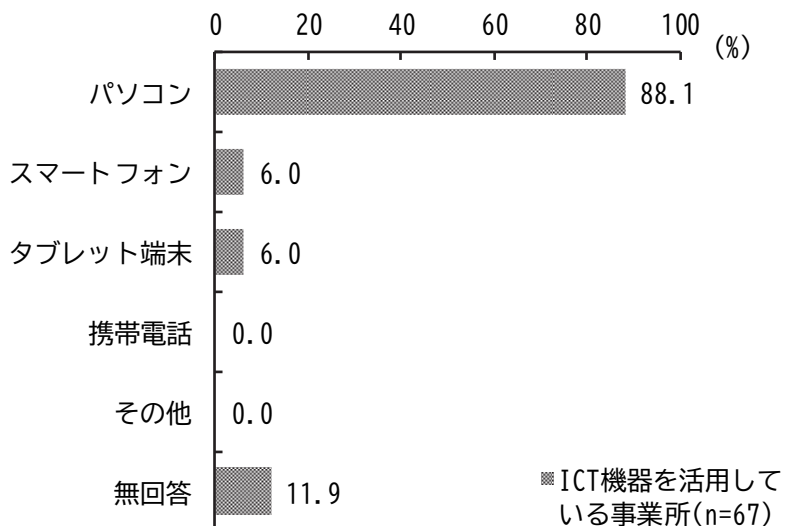
科学的介護情報システム（LIFE）では「パソコン」（29.9%）が最も高く、「その他」（6.0%）、「スマートフォン」（1.5%）の順で続いている。無回答は64.2%である。

なお、問28でたずねた「その他」の具体的な内容は、「LIFEの登録をしていない」等であった。

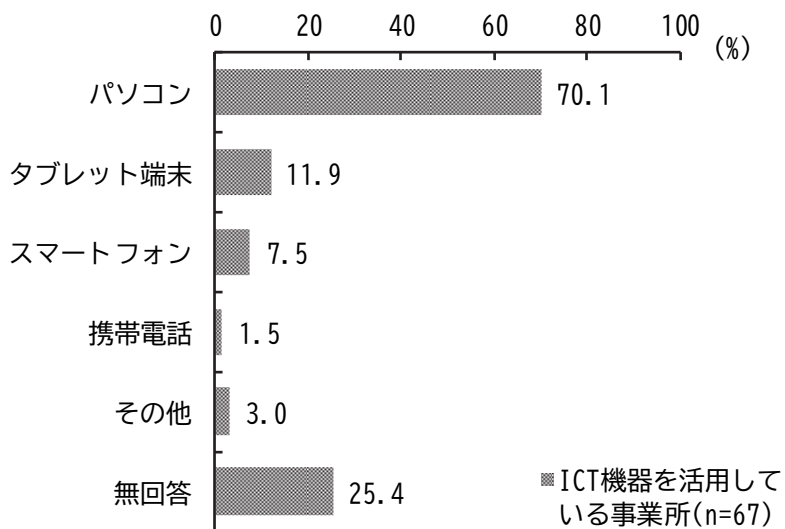
ICT機器の活用状況：利用者情報等の共有（ICT機器を活用している事業所：複数回答）



ICT機器の活用状況：報酬請求との連携（ICT機器を活用している事業所：複数回答）

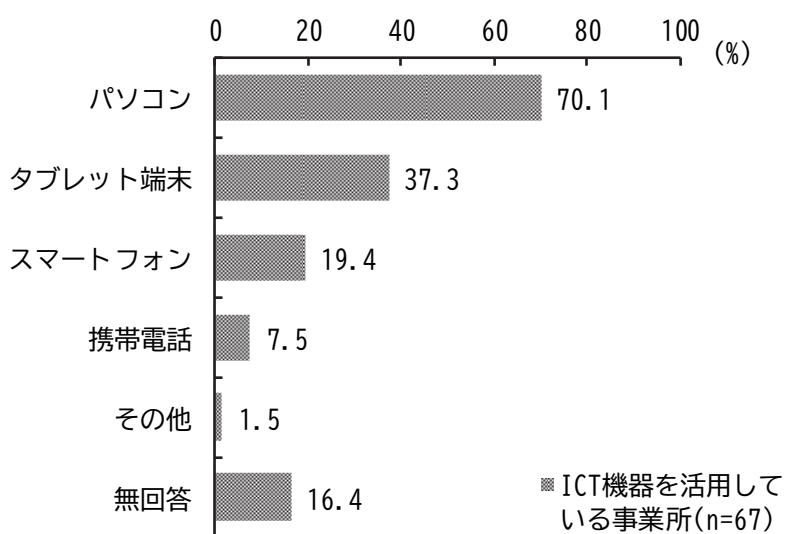


ICT機器の活用状況：ケアプランの作成（ICT機器を活用している事業所：複数回答）

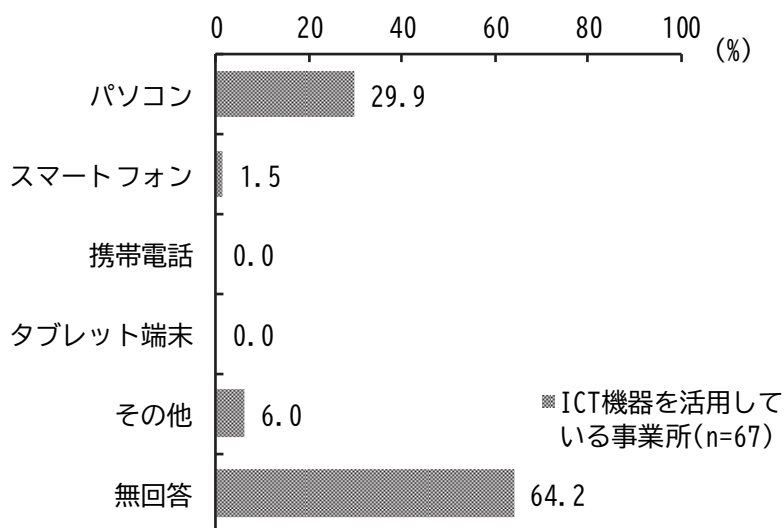


第2章 調査結果

ICT機器の活用状況：オンライン会議（ICT機器を活用している事業所：複数回答）



ICT機器の活用状況：科学的介護情報システム（LIFE）※
（ICT機器を活用している事業所：複数回答）

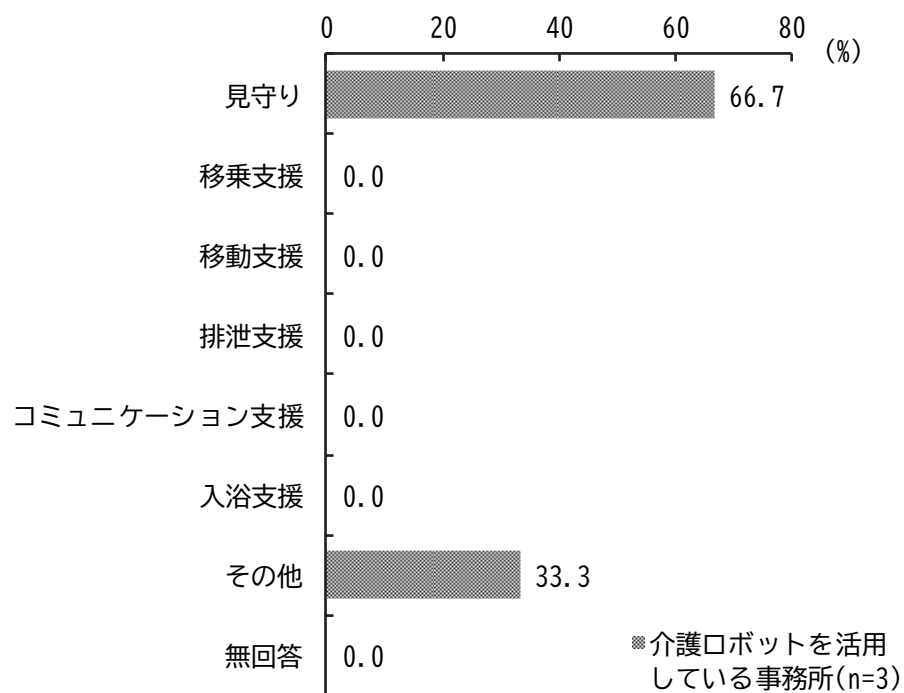


※LIFE とは、介護サービス利用者の状態や、介護施設・事業所で行っているケアの計画・内容などを一定の様式で入力すると、インターネットを通じて厚生労働省へ送信され、入力内容が分析されて、当該施設等にフィードバックされる情報システムのこと。

⑨ 介護ロボットの活用状況（問 29）

介護ロボットを活用している事業所に、介護ロボットの活用状況をたずねたところ、介護ロボットを活用している3事業所のうち2事業所（66.7%）が「見守り」、1事業所（33.3%）が「その他」となっている。

介護ロボットの活用状況（介護ロボットを活用している事業所：複数回答）



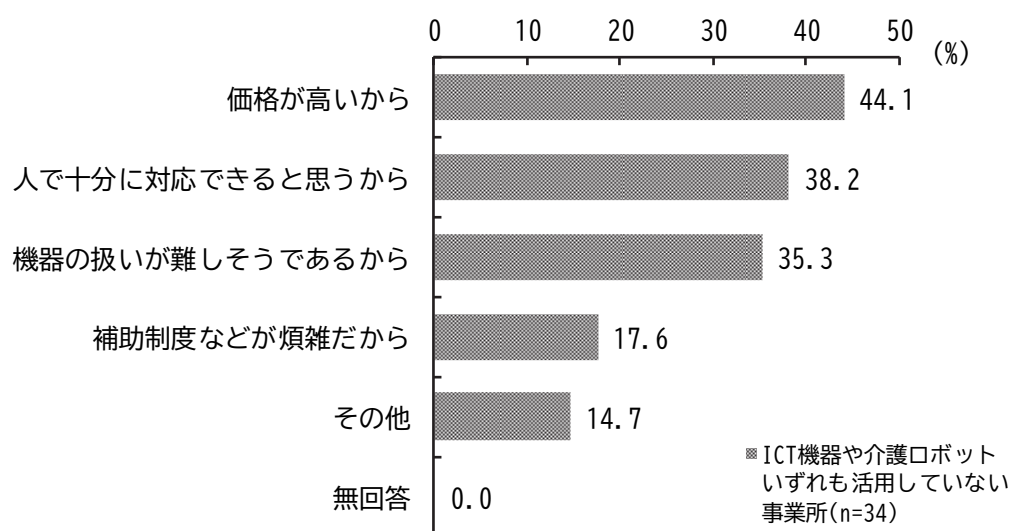
第2章 調査結果

⑩ ICT機器や介護ロボット等の活用意向がない理由（問30）

ICT機器や介護ロボットいずれも活用していない事業所に、活用意向がない理由をたずねたところ、「価格が高いから」（44.1%）が最も高く、「人で十分に対応できると思うから」（38.2%）、「機器の扱いが難しそうであるから」（35.3%）、「補助制度などが煩雑だから」（17.6%）の順で続いている。

「その他」（14.7%）の内容は、「居宅介護支援事業所で活用できるものが何かの情報が乏しい」、「業種が違うため」、「現行のシステムからの乗り換えの煩雑さや乗り換え先を探すこと自体が負担になっている」などであった。

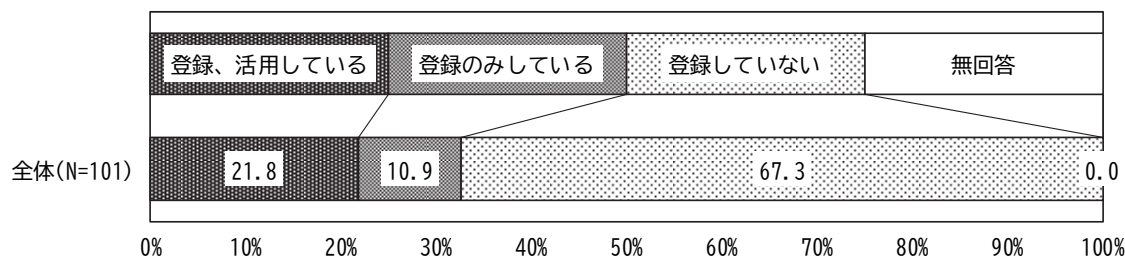
ICT機器や介護ロボット等の活用意向がない理由
（ICT機器や介護ロボットいずれも活用していない事業所：複数回答）



⑪ LIFE（科学的介護情報システム）への登録・活用状況（問31）

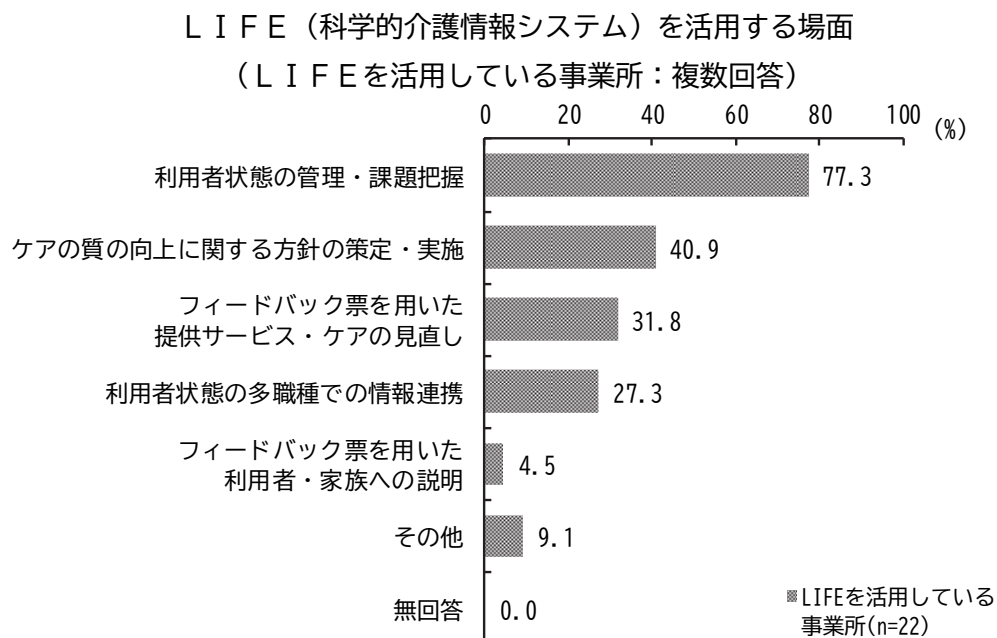
LIFE（科学的介護情報システム）への登録・活用状況は、「登録していない」（67.3%）が最も高く、「登録、活用している」（21.8%）、「登録のみしている」（10.9%）の順で続いている。

LIFE（科学的介護情報システム）への登録・活用状況（全体）



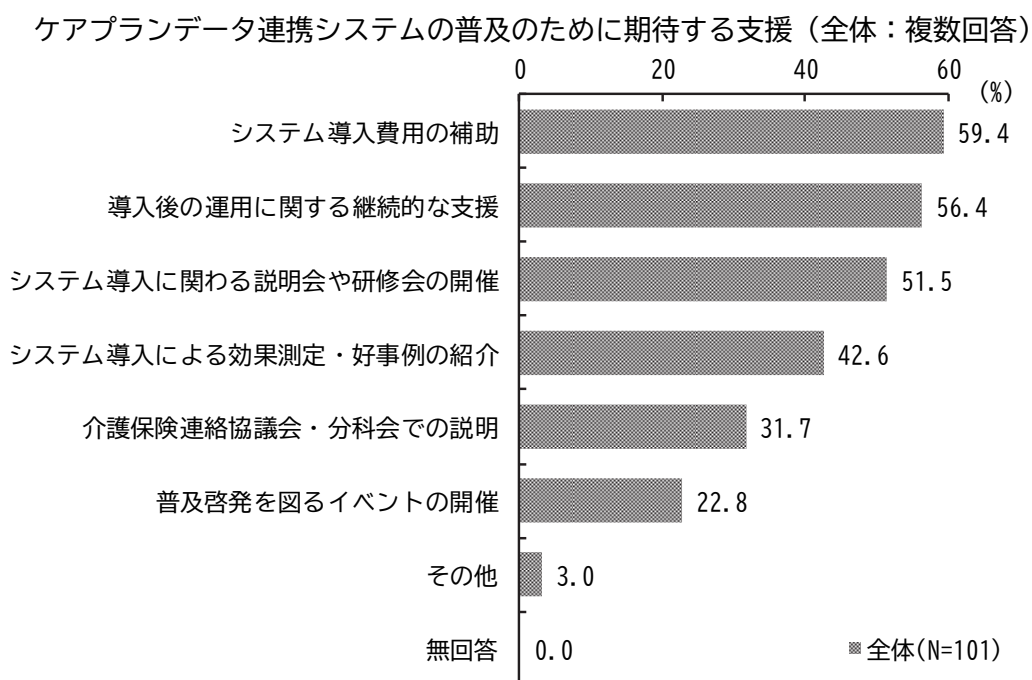
⑫ L I F E（科学的介護情報システム）を活用する場面（問 32）

L I F E（科学的介護情報システム）を活用している事業所に、活用する場面をたずねたところ、「利用者状態の管理・課題把握」（77.3%）が最も高く、「ケアの質の向上に関する方針の策定・実施」（40.9%）、「フィードバック票を用いた提供サービス・ケアの見直し」（31.8%）の順で続いている。



⑬ ケアプランデータ連携システムの普及のために期待する支援（問 33）

ケアプランデータ連携システムの普及のために期待する支援は、「システム導入費用の補助」（59.4%）、「導入後の運用に関する継続的な支援」（56.4%）、「システム導入に関わる説明会や研修会の開催」（51.5%）の順で続いている。

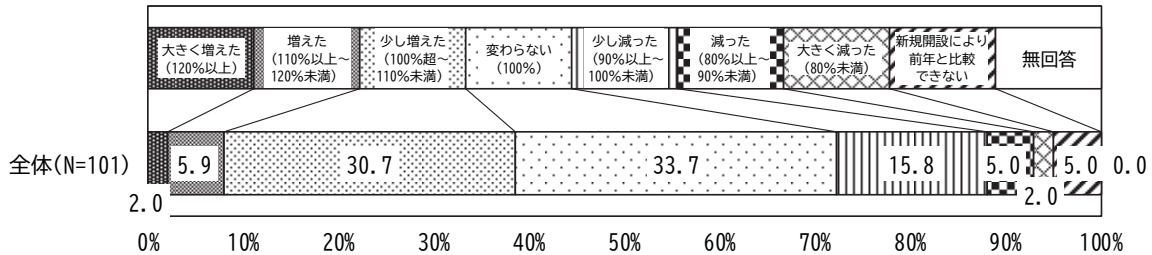


(4) 職員の処遇

① 前年比の収支状況 (問 34)

前年比の収支状況は、「変わらない (100%)」(33.7%) が最も高く、「少し増えた (100%超～110%未満)」(30.7%)、「少し減った (90%以上～100%未満)」(15.8%) の順で続いている。

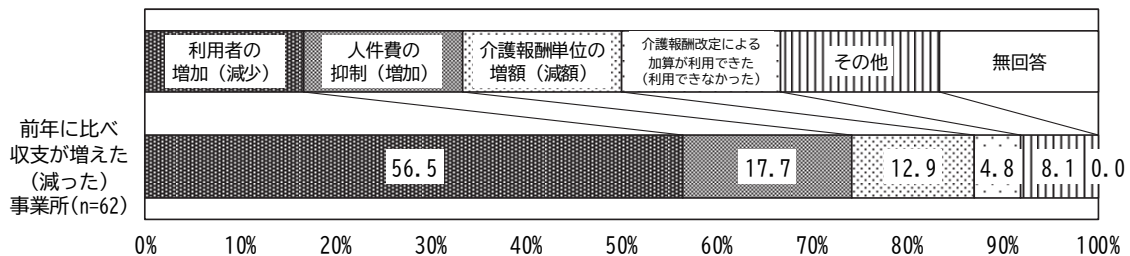
前年比の収支状況 (全体)



② 前年比の収支変化の理由 (問 35)

前年に比べ収支が増えた (減った) 事業所に、前年比の収支変化の理由をたずねたところ、「利用者の増加 (減少)」(56.5%) が最も高く、「人件費の抑制 (増加)」(17.7%)、「介護報酬単位の増額 (減額)」(12.9%) の順で続いている。

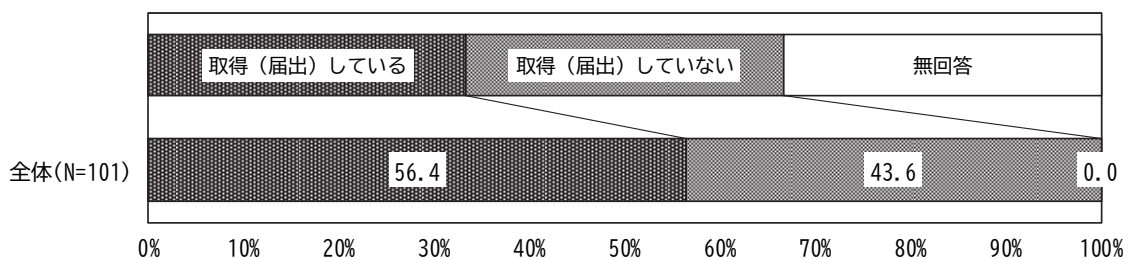
前年比の収支変化の理由 (前年に比べ収支が増えた (減った) 事業所)



③ 職員の処遇改善新加算の取得の有無 (問 36)

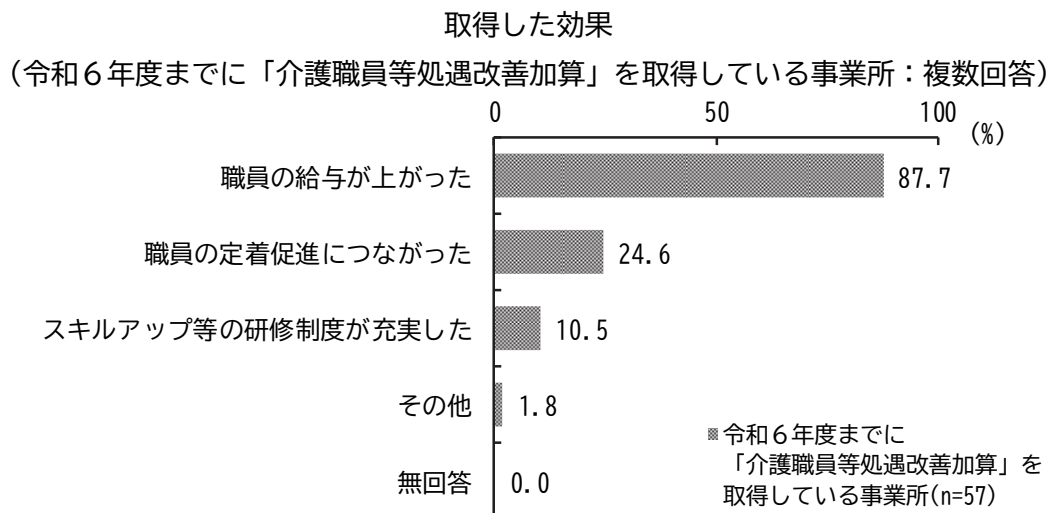
職員の処遇改善新加算の取得の有無は、「取得 (届出) している」が 56.4%であり、「取得 (届出) していない」が 43.6%となっている。

職員の処遇改善新加算の取得の有無 (全体)



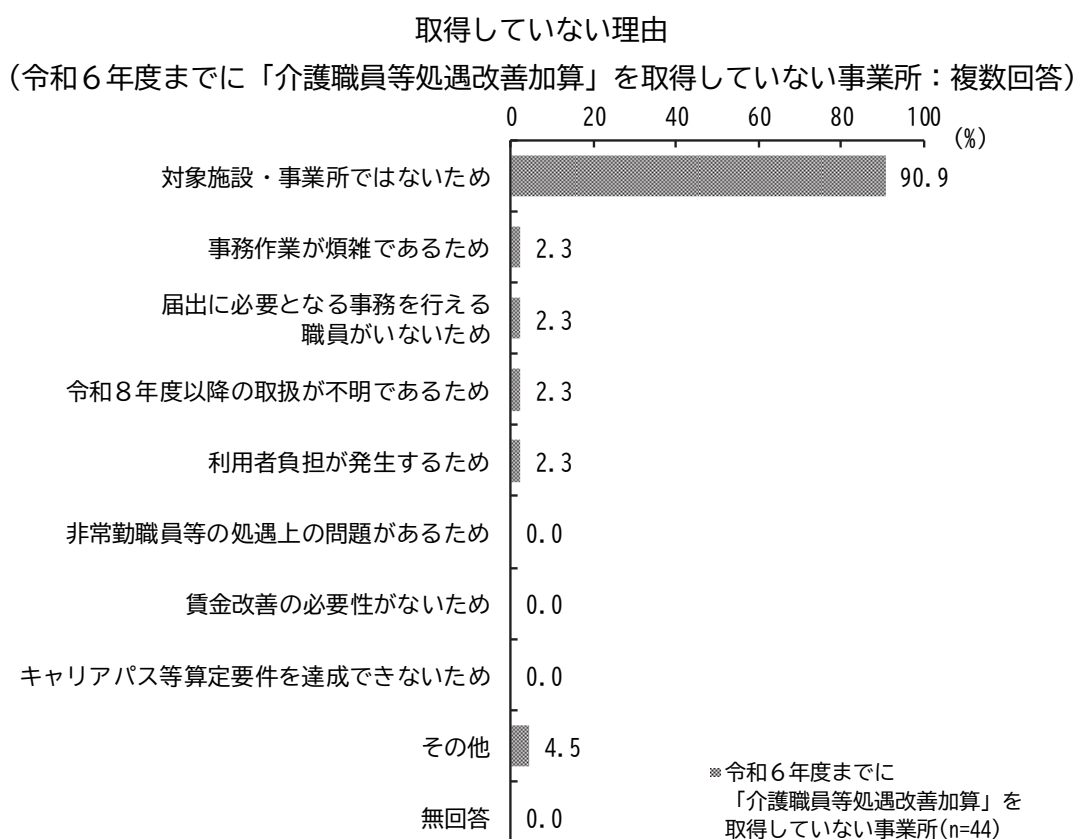
④ 取得した効果（問 37）

令和6年度までに「介護職員等処遇改善加算」を取得している事業所に、取得した効果をたずねたところ、「職員の給与が上がった」（87.7%）が最も高く、「職員の定着促進につながった」（24.6%）、「スキルアップ等の研修制度が充実した」（10.5%）の順で続いている。



⑤ 取得していない理由（問 38）

令和6年度までに「介護職員等処遇改善加算」を取得していない事業所に、取得していない理由をたずねたところ、「対象施設・事業所ではないため」（90.9%）が最も高く、「その他」（4.5%）、「事務作業が煩雑であるため」、「届出に必要となる事務を行える職員がいないため」、「令和8年度以降の取扱が不明であるため」、「利用者負担が発生するため」（それぞれ2.3%）の順で続いている。



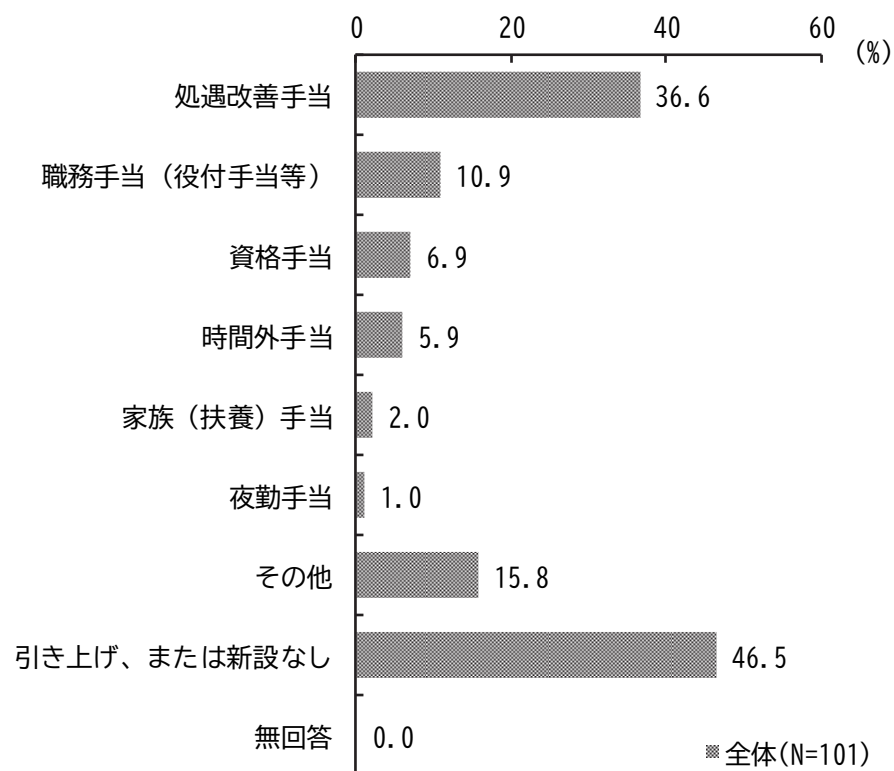
第2章 調査結果

⑥ 各種手当の引き上げ、新設（問 39）

各種手当の引き上げ、新設は、「引き上げ、または新設なし」（46.5%）が最も高く、「処遇改善手当」（36.6%）、「その他」（15.8%）の順で続いている。

「その他」（15.8%）の内容は、「住宅手当の引き上げ」、「居住支援特別手当」、「借り上げ社宅制度」、「介護職員がいない」などの回答が多かった。

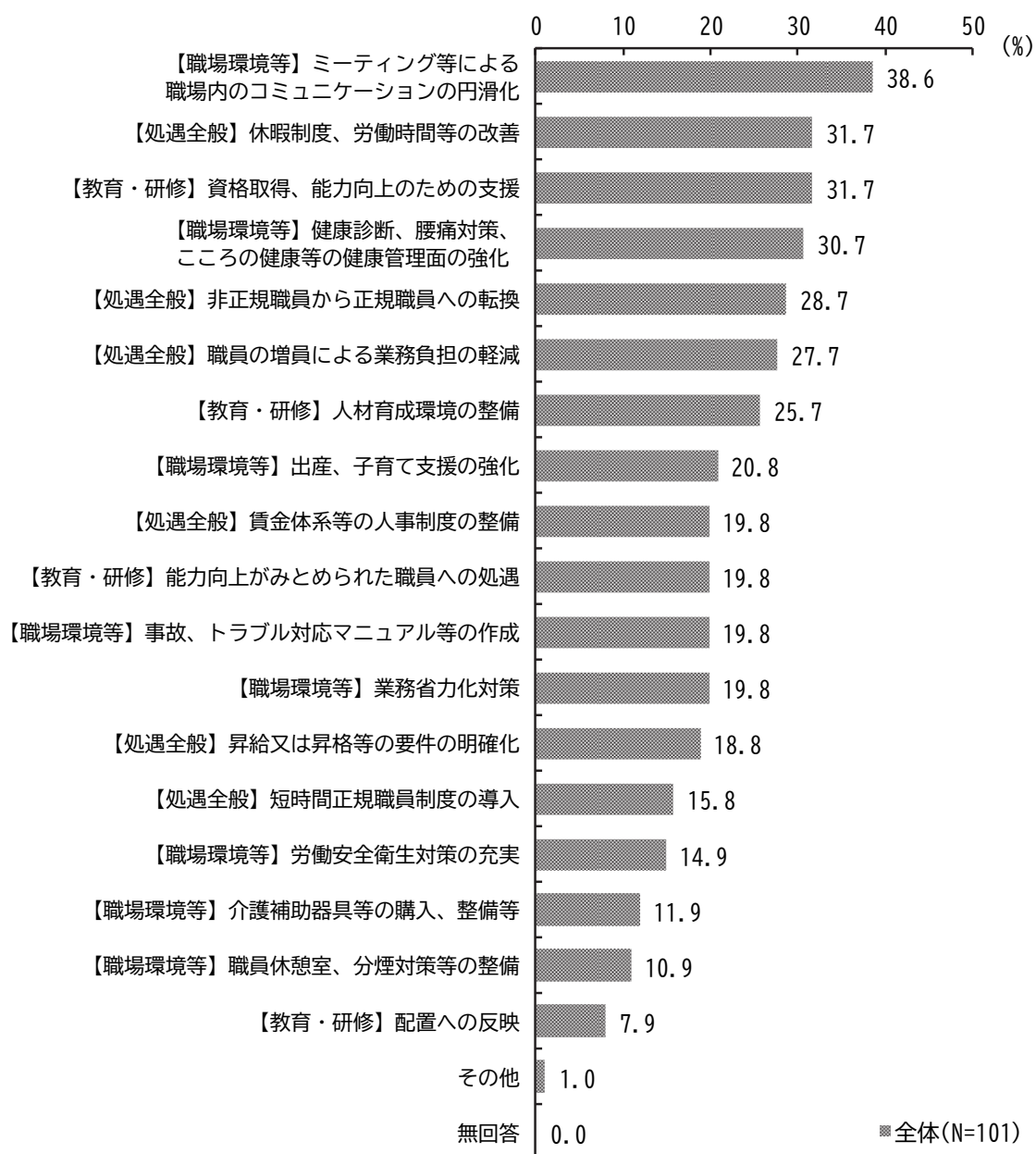
各種手当の引き上げ、新設（全体：複数回答）



⑦ 処遇全般、教育・研修、職場環境の改善策（問 40）

処遇全般、教育・研修、職場環境の改善策は、「ミーティング等による職場内のコミュニケーションの円滑化」（38.6%）が最も高く、「休暇制度、労働時間等の改善」、「資格取得、能力向上のための支援」（それぞれ31.7%）、「健康診断、腰痛対策、こころの健康等の健康管理面の強化」（30.7%）の順で続いている。

処遇全般、教育・研修、職場環境の改善策（全体：複数回答）

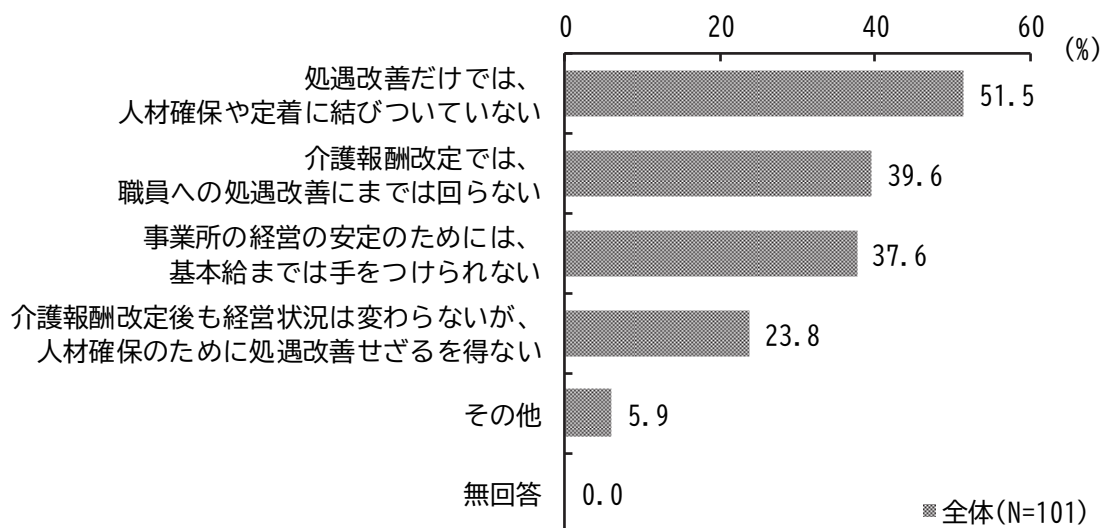


第2章 調査結果

⑧ 職員の処遇改善を行う上での課題（問 41）

職員の処遇改善を行う上での課題は、「処遇改善だけでは、人材確保や定着に結びついていない」(51.5%)が最も高く、「介護報酬改定では、職員への処遇改善にまでは回らない」(39.6%)、「事業所の経営の安定のためには、基本給までは手をつけられない」(37.6%)の順で続いている。

職員の処遇改善を行う上での課題（全体：複数回答）

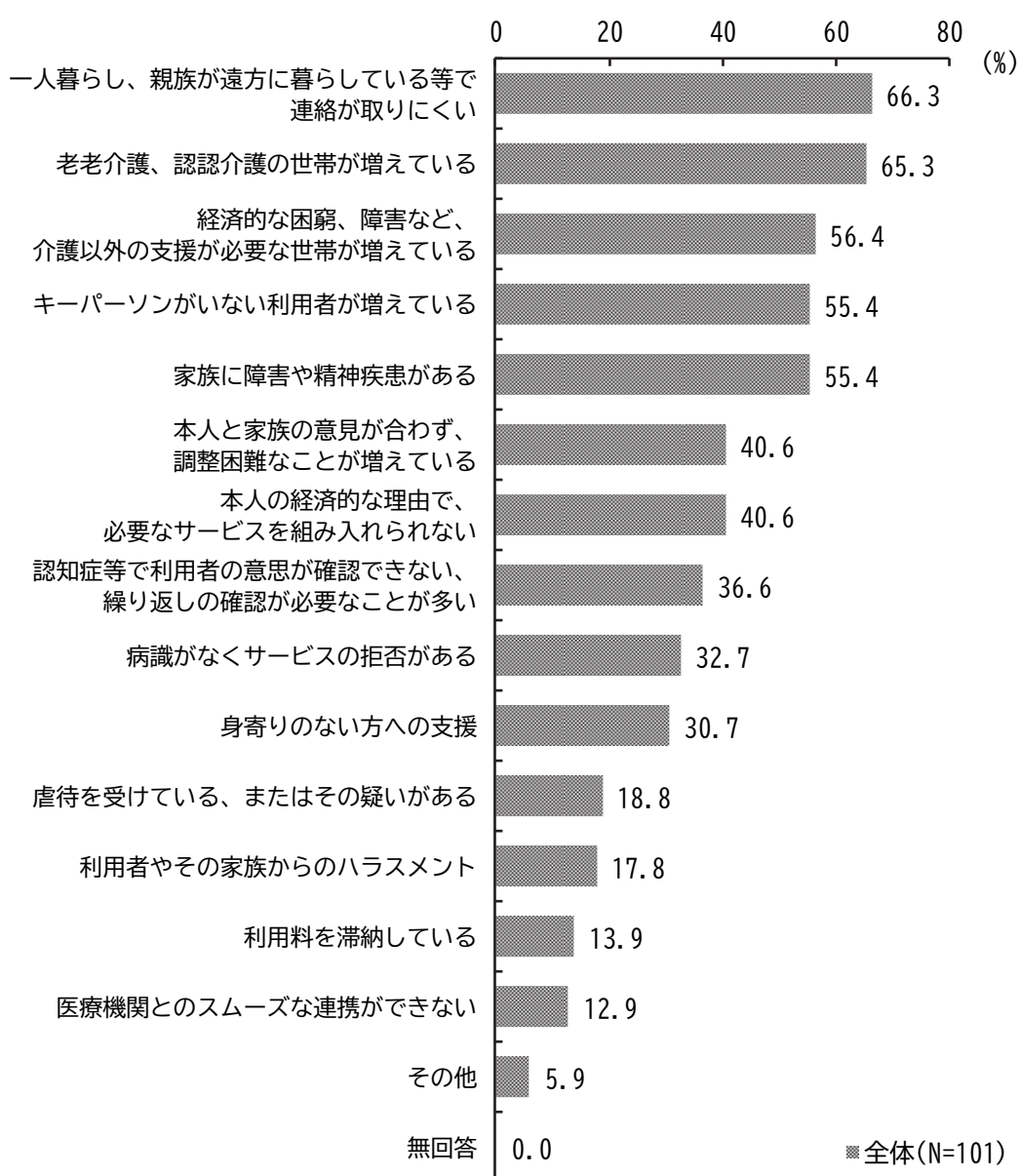


(5) サービス提供における課題

① サービス提供をする上で困難だったこと（問 42）

サービス提供をする上で困難だったことは、「一人暮らし、親族が遠方に暮らしている等で連絡が取りにくい」(66.3%)が最も高く、「老老介護、認認介護の世帯が増えている」(65.3%)、「経済的な困窮、障害など、介護以外の支援が必要な世帯が増えている」(56.4%)、「キーパーソンがいない利用者が増えている」、「家族に障害や精神疾患がある」(それぞれ 55.4%)の順で続いている。

サービス提供をする上で困難だったこと（全体：複数回答）

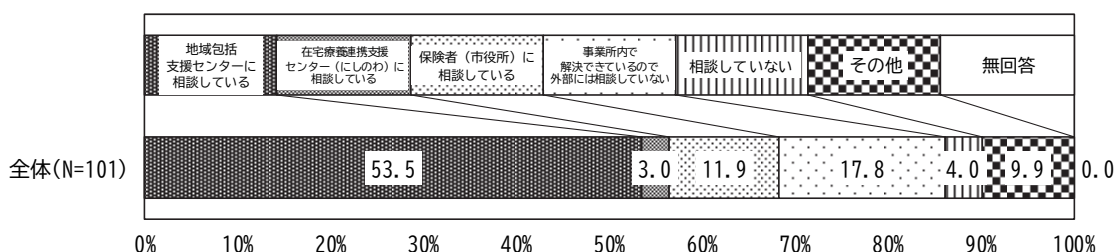


第2章 調査結果

② 困難なケースへの対応（問 43）

困難なケースへの対応は、「地域包括支援センターに相談している」（53.5%）が最も高く、「事業所内で解決できているので外部には相談していない」（17.8%）、「保険者（市役所）に相談している」（11.9%）の順で続いている。

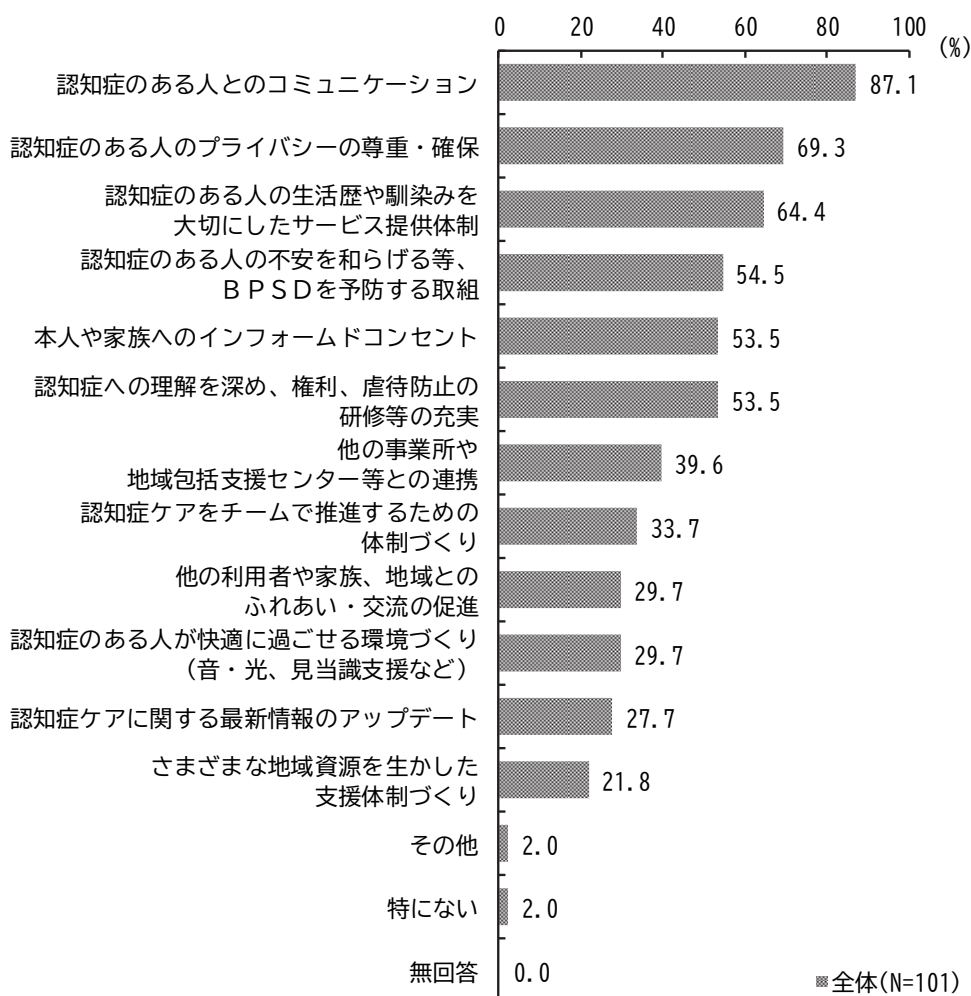
困難なケースへの対応（全体）



③ 認知症のある人へのサービス提供にあたって配慮していること（問 44）

認知症のある人へのサービス提供にあたって配慮していることは、「認知症のある人とのコミュニケーション」（87.1%）が最も高く、「認知症のある人のプライバシーの尊重・確保」（69.3%）、「認知症のある人の生活歴や馴染みを大切にしたサービス提供体制」（64.4%）の順で続いている。

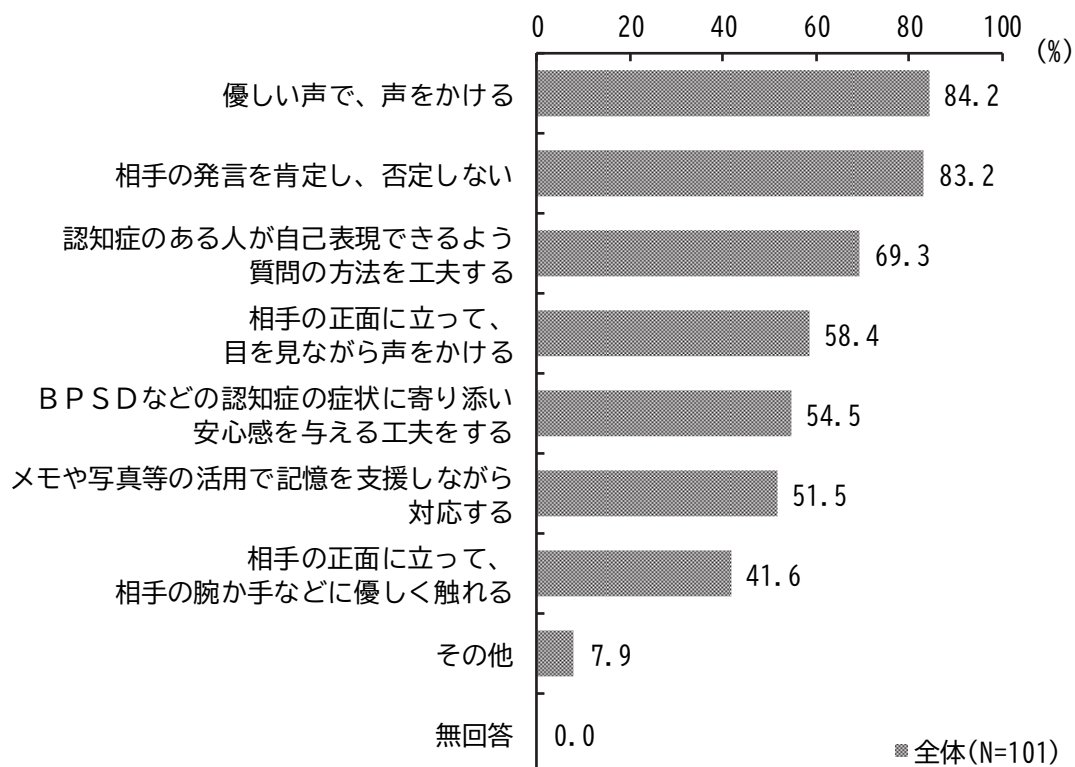
認知症のある人へのサービス提供にあたって配慮していること（全体：複数回答）



④ 認知症のある人に対応する際に心がけていること（問 45）

認知症のある人に対応する際に心がけていることは、「優しい声で、声をかける」（84.2%）が最も高く、「相手の発言を肯定し、否定しない」（83.2%）、「認知症のある人が自己表現できるように質問の方法を工夫する」（69.3%）の順で続いている。

認知症のある人に対応する際に心がけていること（全体：複数回答）

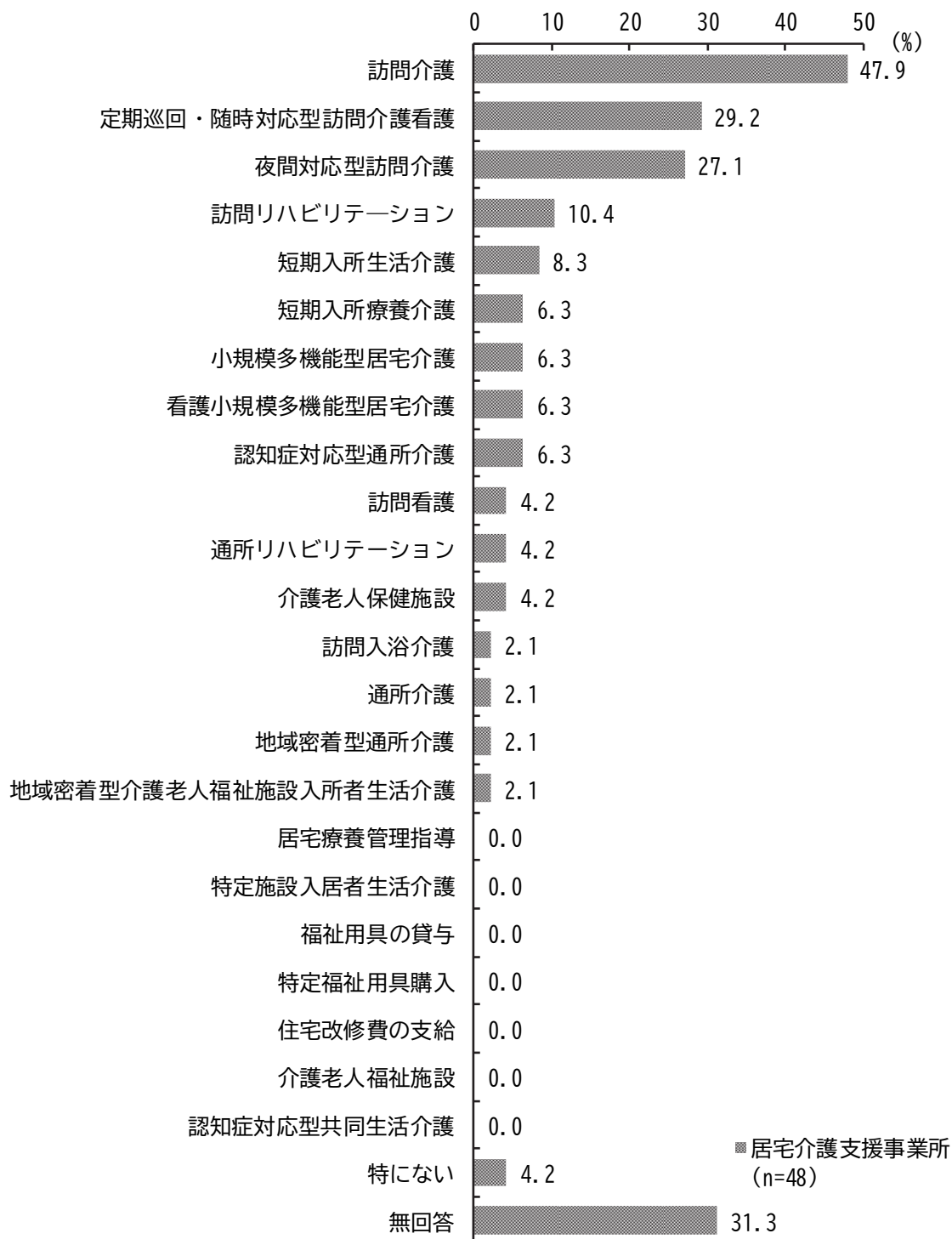


第2章 調査結果

⑤ 量的に不足しているサービス（問46（1））

居宅介護支援事業所に、量的に不足しているサービスをたずねたところ、「訪問介護」（47.9%）が最も高く、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」（29.2%）、「夜間対応型訪問介護」（27.1%）の順で続いている。

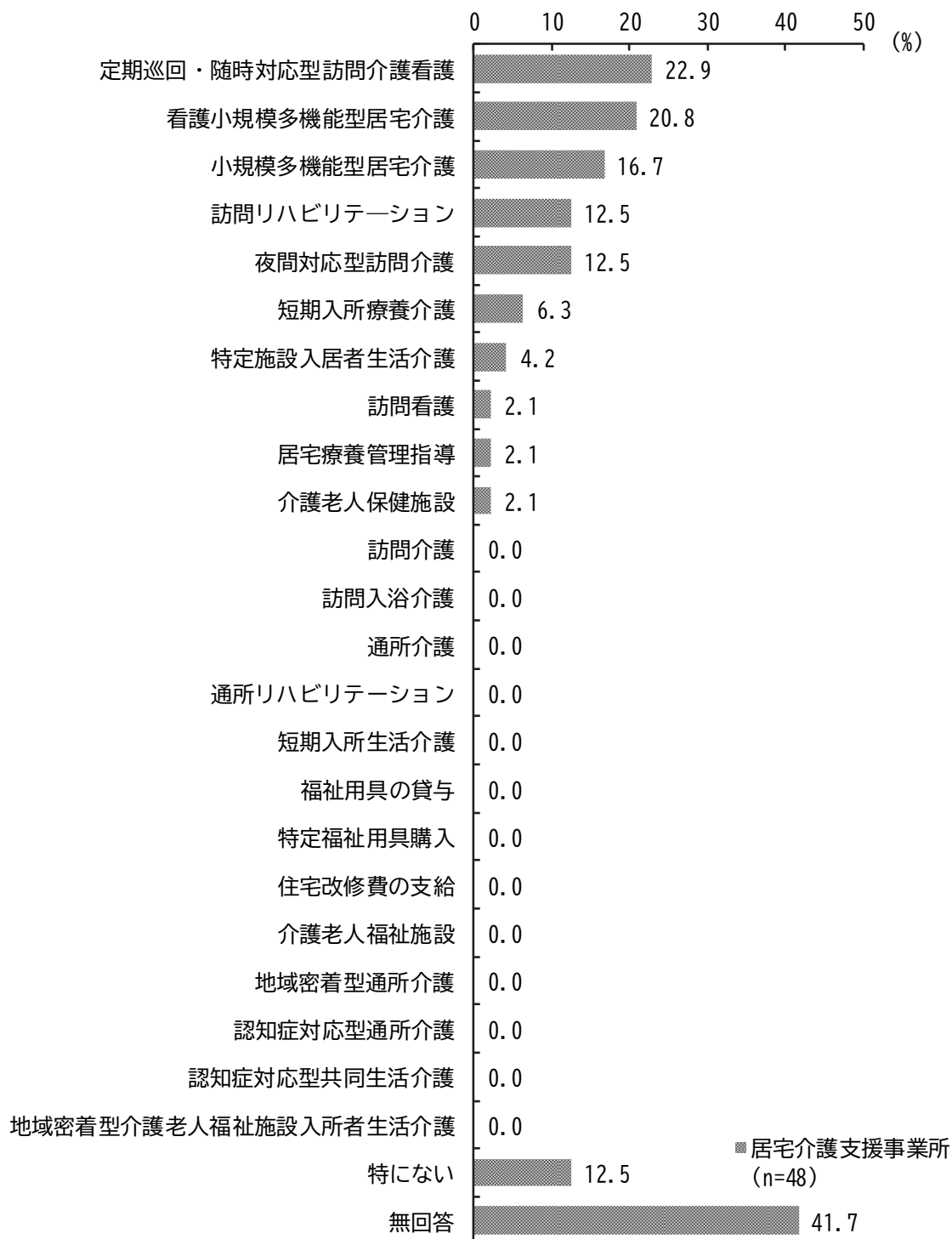
量的に不足しているサービス（居宅介護支援事業所：複数回答）



⑥ ケアプランに組み入れにくいサービス（問46（2））

居宅介護支援事業所に、ケアプランに組み入れにくいサービスをたずねたところ、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(22.9%)が最も高く、「看護小規模多機能型居宅介護」(20.8%)、「小規模多機能型居宅介護」(16.7%)の順で続いている。

ケアプランに組み入れにくいサービス（居宅介護支援事業所：複数回答）



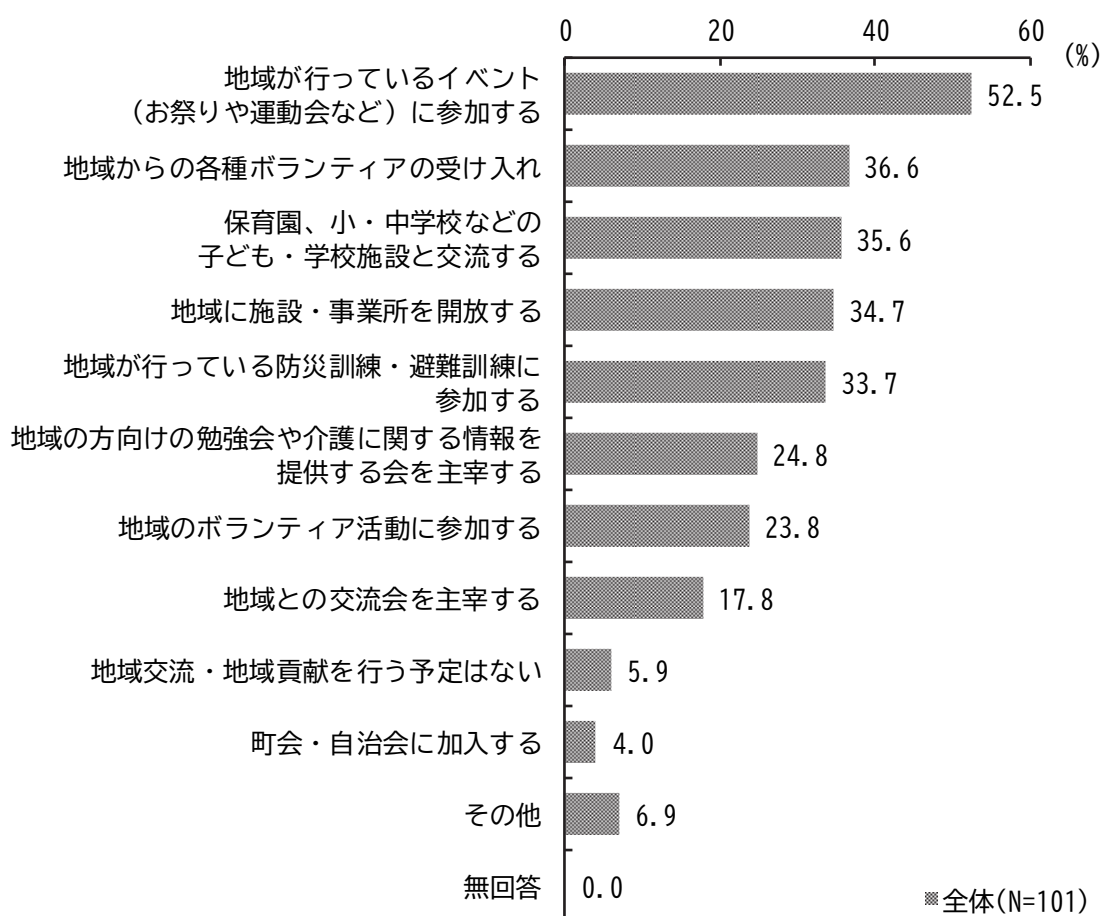
(6) 地域生活課題の状況

① 行いたい地域交流・地域貢献（問47・問48）

行いたい地域交流・地域貢献は、「地域が行っているイベント（お祭りや運動会など）に参加する」（52.5%）が最も高く、「地域からの各種ボランティアの受け入れ」（36.6%）、「保育園、小・中学校などの子ども・学校施設と交流する」（35.6%）の順で続いている。

なお、問48でたずねた「その他」（6.9%）の具体的な内容は、「事業がほぼ休眠状態のため」、「受け入れや参加が難しいため」、「人的・時間的余裕がない」、「母体となる法人がそのようなことを検討していないため」であった。

行いたい地域交流・地域貢献（全体：複数回答）



② 利用者支援の側からみた地域課題（問 49）

利用者支援の側からみた地域課題は、「老老介護、8050 問題、ダブルケアなど、支援が難しいケースが増えている」(52.5%) が最も高く、「単身で身寄りのない高齢者が増えてきている」(50.5%)、「地域で孤立している高齢者や高齢者世帯が増えている」(30.7%) の順で続いている。

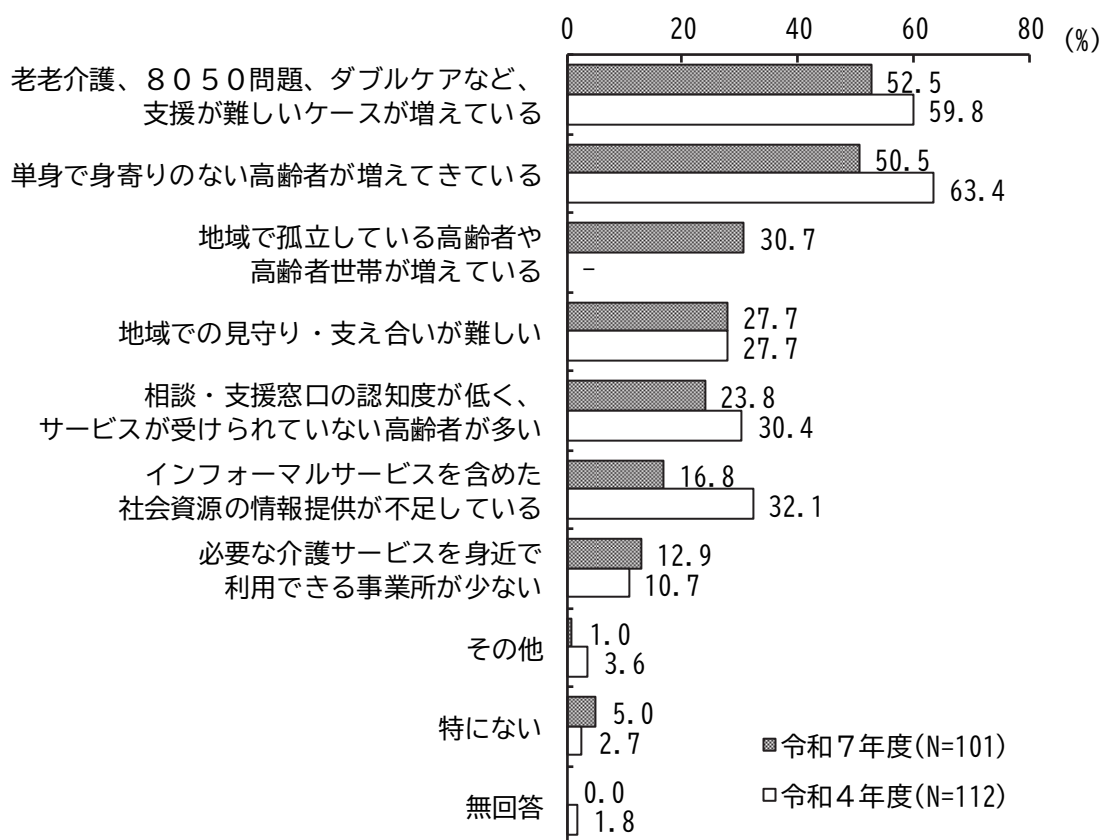
前回調査と比較すると、「単身で身寄りのない高齢者が増えてきている」(今回 50.5%、前回 63.4%) は、前回調査では1 番目だったが、今回調査では2 番目となっている。

提供サービス別にみると、【在宅サービス】では、「老老介護、8050 問題、ダブルケアなど、支援が難しいケースが増えている」(59.5%) が最も高く、「単身で身寄りのない高齢者が増えてきている」(56.8%) の順となっている。

また、【施設サービス】では、「地域で孤立している高齢者や高齢者世帯が増えている」(60.0%) が最も高い。

【居住系サービス】では、「地域での見守り・支え合いが難しい」(46.2%) が最も高く、「老老介護、8050 問題、ダブルケアなど、支援が難しいケースが増えている」(30.8%) の順となっている。

利用者支援の側からみた地域課題（全体：複数回答（3つまで））【前回比較】



第2章 調査結果

利用者支援の側からみた地域課題（全体、提供サービス別：複数回答（3つまで））

		(人、%)														
		回答者数	難しいケースが増えている	ダブルケアなど、支援が問題、高齢介護、8050問題、老老介護、8050問題、増えている	単身で身寄りのない高齢者が増えている	高齢者世帯が増えている	地域で孤立している高齢者や高齢者が増えている	・地域での見守り・支え合いが難しい	低く、サービスが受けられにくい高齢者が多い	相談・支援窓口の認知度が低い	含めた社会資源の情報提供が不足している	インフォーマルサービスを身近で利用できる事業所が少ない	必要な介護サービスを必要としている事業所が少ない	その他	特になし	無回答
全体		101	52.5	50.5	30.7	27.7	23.8	16.8	12.9	1.0	5.0	0.0				
提供サービス別	施設サービス	5	40.0	40.0	60.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0				
	居住系サービス	13	30.8	23.1	23.1	46.2	23.1	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0				
	在宅サービス	74	59.5	56.8	28.4	28.4	21.6	21.6	14.9	1.4	2.7	0.0				
	その他	9	33.3	44.4	44.4	11.1	33.3	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0				
	介護予防・日常生活支援総合事業	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				

③ 地域課題解決のために必要なこと（問50）

地域課題解決のために必要なことは、「高齢者の孤立化防止対策」(45.5%)が最も高く、「介護をしている家族等への相談・支援の充実」(43.6%)、「地域での見守り・支え合いのネットワークの構築」(40.6%)の順で続いている。

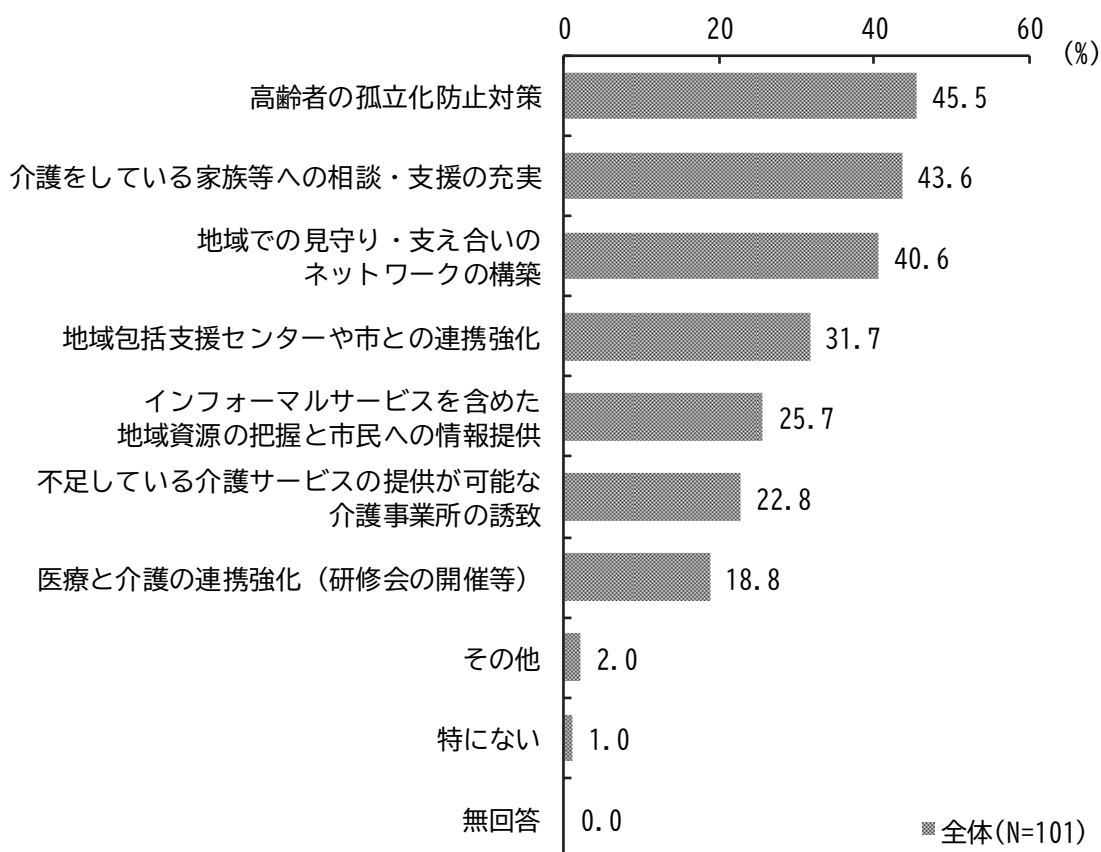
提供サービス別にみると、【在宅サービス】では、「地域での見守り・支え合いのネットワークの構築」(45.9%)が最も高く、「介護をしている家族等への相談・支援の充実」(41.9%)、「高齢者の孤立化防止対策」(40.5%)の順となっている。

また、【施設サービス】では、「高齢者の孤立化防止対策」、「介護をしている家族等への相談・支援の充実」(それぞれ60.0%)が最も高く、「地域での見守り・支え合いのネットワークの構築」(40.0%)の順となっている。

【居住系サービス】では、「高齢者の孤立化防止対策」(61.5%)が最も高く、「介護をしている家族等への相談・支援の充実」(46.2%)、「地域での見守り・支え合いのネットワークの構築」(38.5%)の順となっている。

4 介護サービス事業者調査

地域課題解決のために必要なこと（全体：複数回答（3つまで））



地域課題解決のために必要なこと（全体、提供サービス別：複数回答（3つまで））

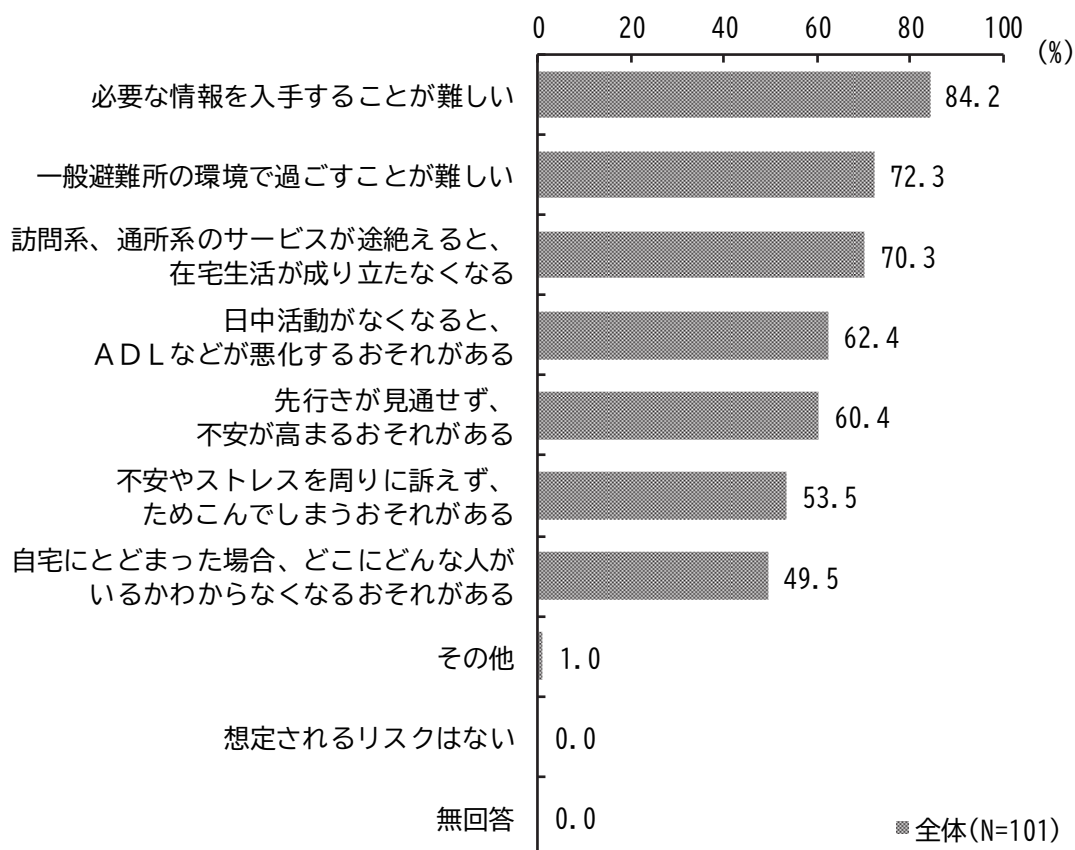
提供サービス別	回答者数	(人、%)									
		高齢者の孤立化防止対策	介護をしている家族等への相談・支援の充実	地域での見守り・支え合いのネットワークの構築	市との連携強化センターや	市民への情報提供	インフォーマルサービスの把握と	誘致が可能な介護事業所の提供	不足している介護サービスの提供	医療と介護の連携強化（研修会の開催等）	その他
全体	101	45.5	43.6	40.6	31.7	25.7	22.8	18.8	2.0	1.0	0.0
施設サービス	5	60.0	60.0	40.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
居住系サービス	13	61.5	46.2	38.5	15.4	7.7	23.1	23.1	0.0	0.0	0.0
在宅サービス	74	40.5	41.9	45.9	33.8	33.8	23.0	18.9	2.7	1.4	0.0
その他	9	55.6	44.4	0.0	44.4	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0
介護予防・日常生活支援総合事業	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(7) 災害時等の対応

① 高齢者の災害時におけるリスク（問 51）

高齢者の災害時におけるリスクは、「必要な情報を入手することが難しい」（84.2%）が最も高く、「一般避難所の環境で過ごすことが難しい」（72.3%）、「訪問系、通所系のサービスが途絶えたと、在宅生活が成り立たなくなる」（70.3%）の順で続いている。

高齢者の災害時におけるリスク（全体：複数回答）

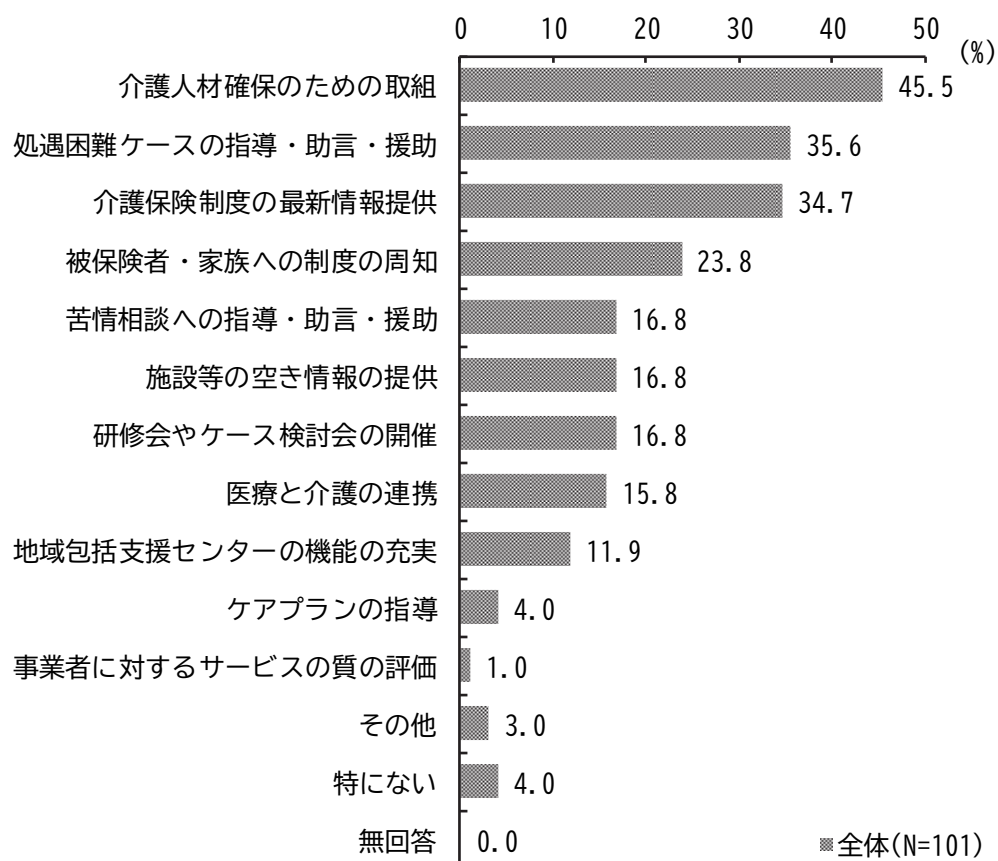


(8) 西東京市への要望

① 保険者としての西東京市に望むこと（問 52）

保険者としての西東京市に望むことは、「介護人材確保のための取組」(45.5%)が最も高く、「処遇困難ケースの指導・助言・援助」(35.6%)、「介護保険制度の最新情報提供」(34.7%)の順で続いている。

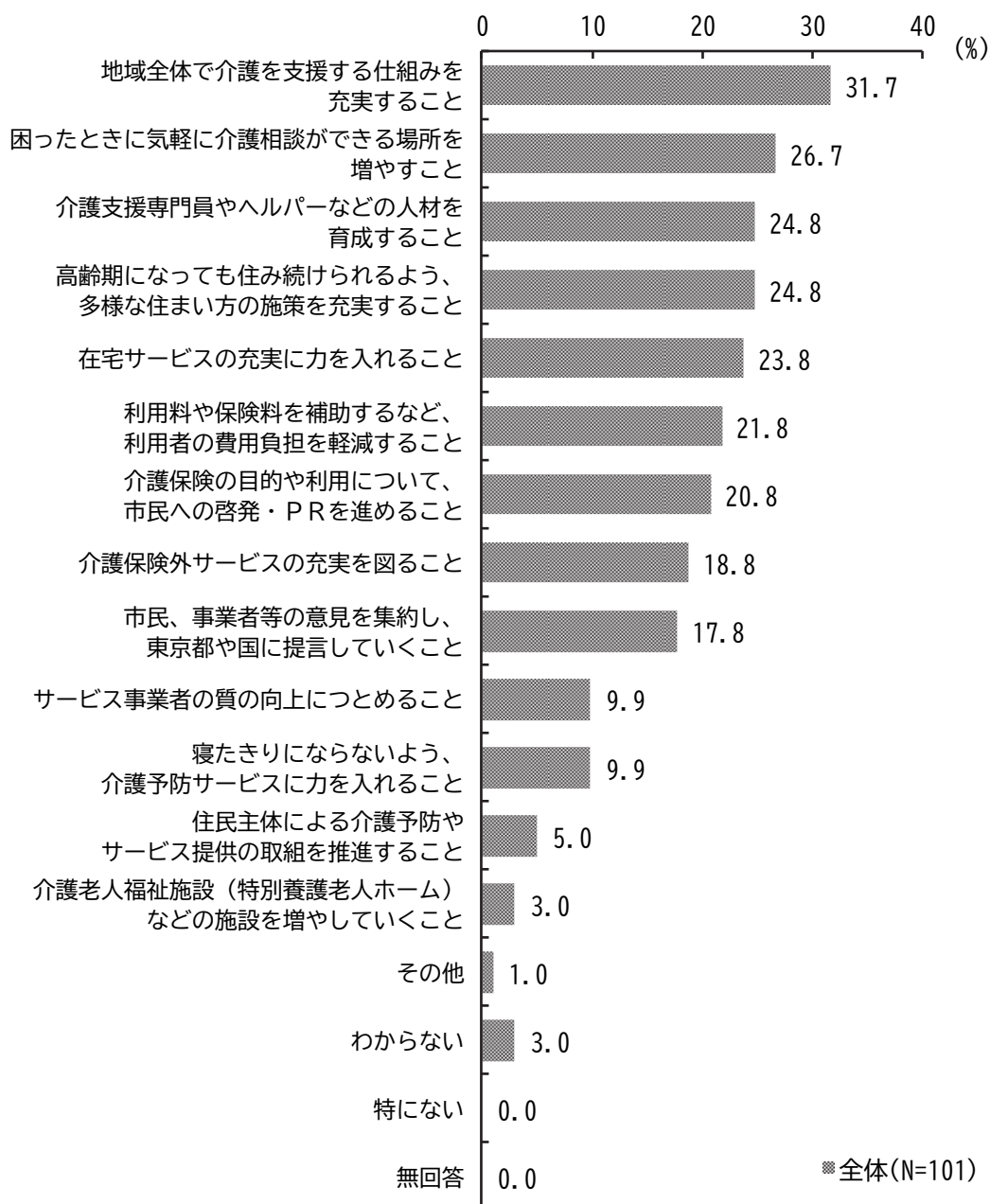
保険者としての西東京市に望むこと（全体：複数回答（3つまで））



② 介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきこと（問 53）

介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきことは、「地域全体で介護を支援する仕組みを充実すること」（31.7%）が最も高く、「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと」（26.7%）、「介護支援専門員やヘルパーなどの人材を育成すること」、「高齢期になっても住み続けられるよう、多様な住まい方の施策を充実すること」（それぞれ 24.8%）の順で続いている。

介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきこと（全体：複数回答（3つまで））



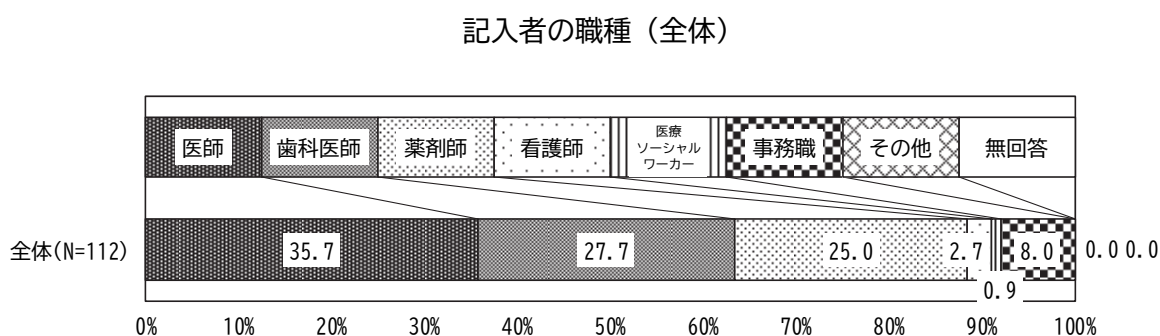
5 医療機関調査

※問番号は調査票の質問を表しています。

(1) 医療機関の現況

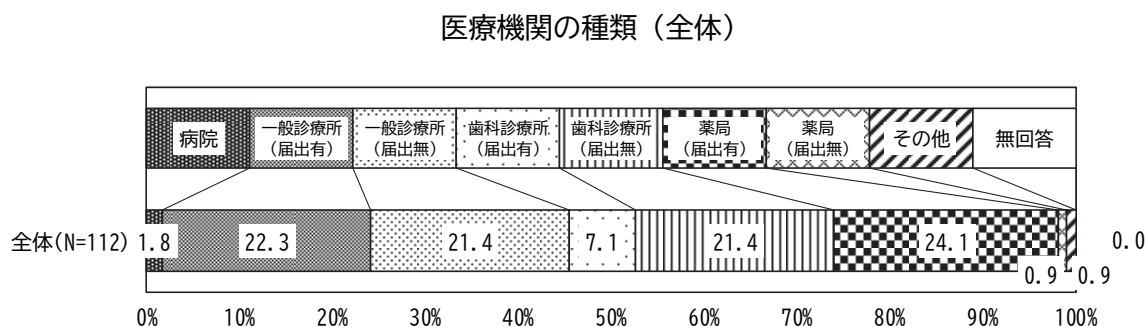
① 記入者の職種（問1）

記入者の職種は、「医師」(35.7%)が最も高く、「歯科医師」(27.7%)、「薬剤師」(25.0%)の順で続いている。



② 医療機関の種類（問2）

医療機関の種類は、「薬局（在宅患者訪問薬剤管理指導に関わる届出有）」(24.1%)が最も高く、「一般診療所（在宅療養支援診療所としての届出有）」(22.3%)、「一般診療所（在宅療養支援診療所としての届出無）」、「歯科診療所（在宅療養支援歯科診療所としての届出無）」(それぞれ 21.4%)の順で続いている。



※一般診療は、在宅療養支援診療所としての届出。歯科診療所は、在宅療養支援歯科診療所としての届出。薬局は、在宅患者訪問薬剤管理指導に関わる届出。

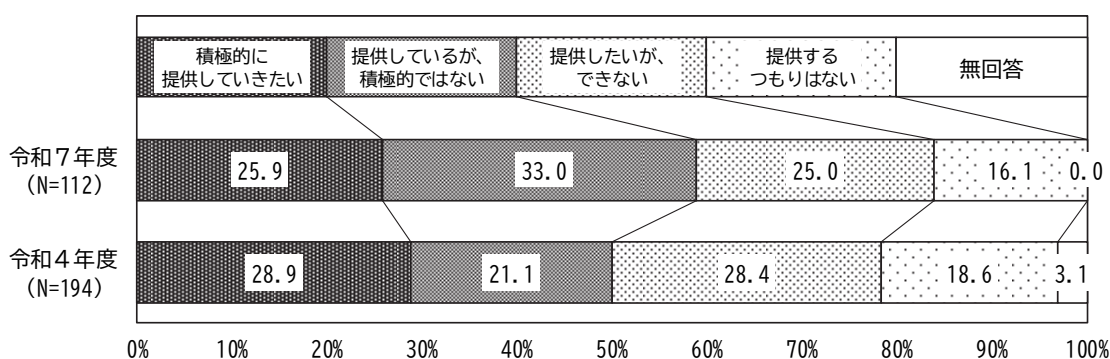
第2章 調査結果

③ 在宅医療実施に対する考え方（問3）

在宅医療実施に対する考え方は、「積極的に提供していきたい」（25.9%）と「提供しているが、積極的ではない」（33.0%）を合計すると、在宅医療を提供している割合が58.9%となっている。「提供したいが、できない」（25.0%）と「提供するつもりはない」（16.1%）を合計すると、在宅医療を提供していない割合が41.1%となっている。

前回調査と比較すると、《提供している》（「積極的に提供していきたい」と「提供しているが、積極的ではない」の計）の割合は50.0%から58.9%と8.9ポイント高くなっている。

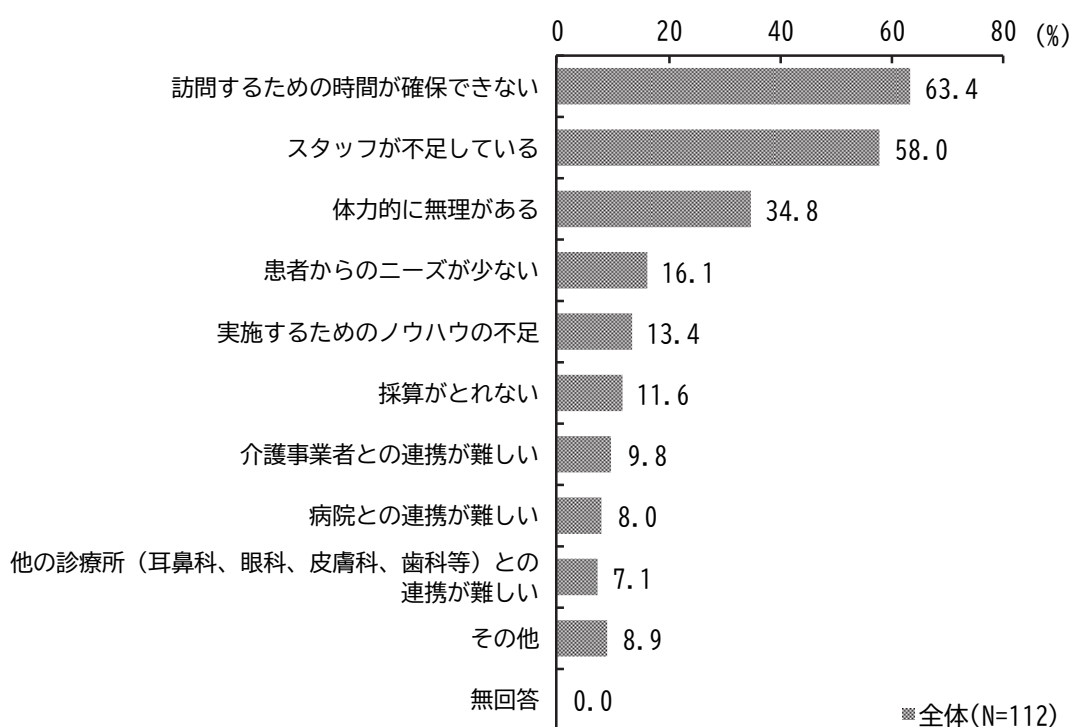
在宅医療実施に対する考え方（全体）【前回比較】



④ 在宅医療を実施する上での課題（問4）

在宅医療を実施する上での課題は、「訪問するための時間が確保できない」（63.4%）が最も高く、「スタッフが不足している」（58.0%）、「体力的に無理がある」（34.8%）の順で続いている。

在宅医療を実施する上での課題（全体：複数回答（3つまで））

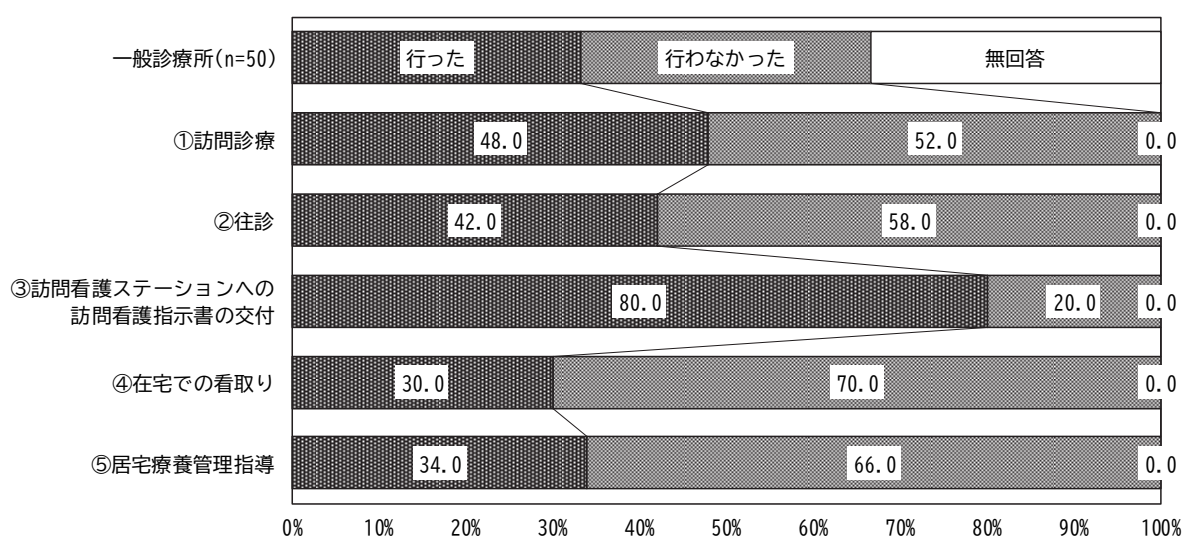


(2) 在宅医療の取組状況（病院以外）

① 一般診療所の在宅医療の実施状況（令和7年11月1日現在）（問5）

西東京市民を対象に、一般診療所で「行った」割合（令和7年11月1日現在）は、『訪問看護ステーションへの訪問看護指示書の交付』で80.0%、『訪問診療』で48.0%、『往診』で42.0%、『居宅療養管理指導』で34.0%、『在宅での看取り』で30.0%となっている。

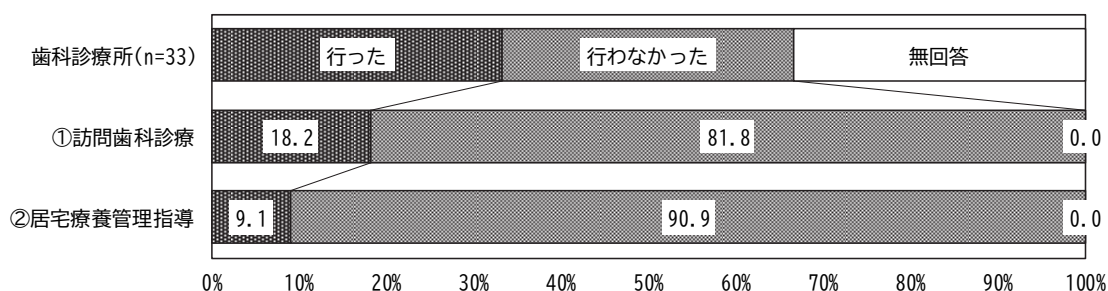
一般診療所の在宅医療の実施状況（令和7年11月1日現在）（一般診療所）



② 歯科診療所の在宅医療の実施状況（令和7年11月1日現在）（問6）

西東京市民を対象に、歯科診療所で「行った」割合（令和7年11月1日現在）は、『訪問歯科診療』で18.2%、『居宅療養管理指導』で9.1%となっている。

歯科診療所の在宅医療の実施状況（令和7年11月1日現在）（歯科診療所）

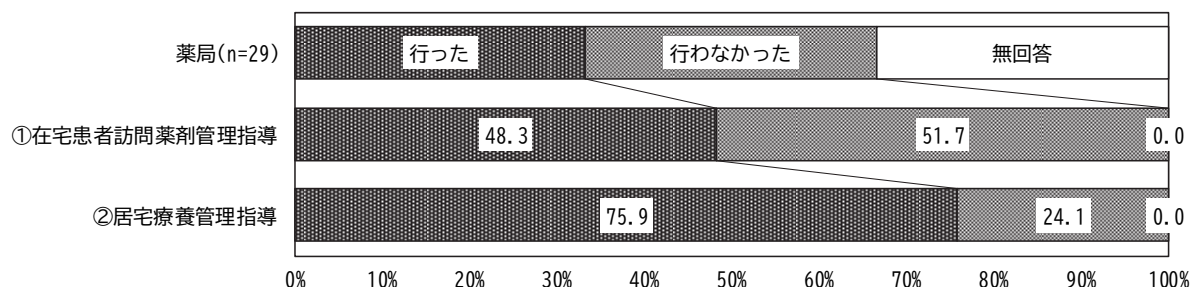


第2章 調査結果

③ 薬局の在宅医療の実施状況（令和7年11月1日現在）（問7）

西東京市民を対象に、薬局で「行った」割合（令和7年11月1日現在）は、『居宅療養管理指導』で75.9%、『在宅患者訪問薬剤管理指導』で48.3%となっている。

薬局の在宅医療の実施状況（令和7年11月1日現在）（薬局）



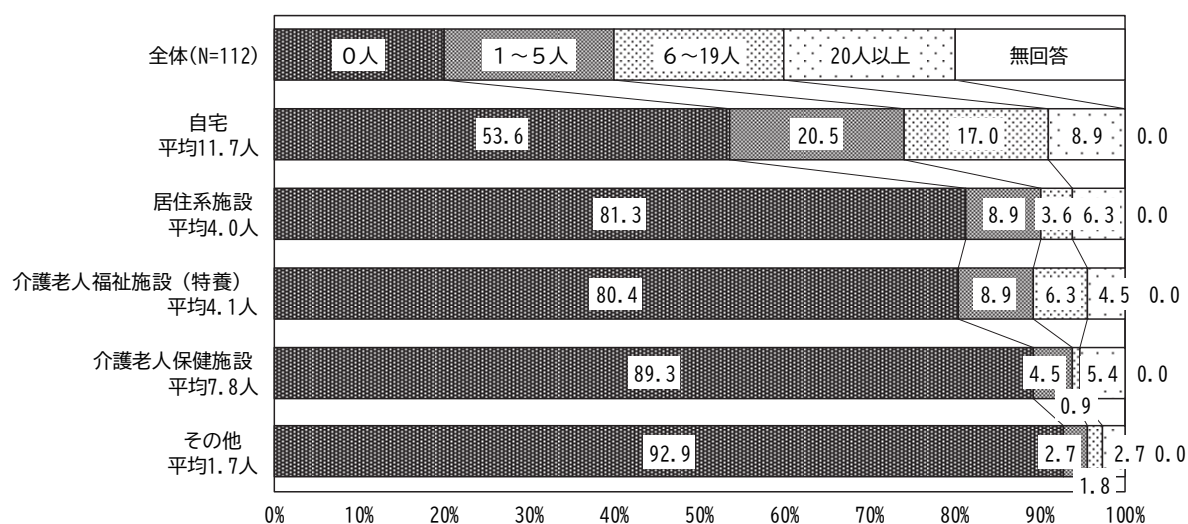
④ 令和7年10月の1か月間における在宅医療患者数（問8・問9）

令和7年10月の1か月間における在宅医療患者数は、西東京市内では、『自宅』が平均11.7人、『介護老人保健施設』が平均7.8人、『介護老人福祉施設（特養）』が平均4.1人、『居住系施設*』が平均4.0人となっている。

西東京市外では、『自宅』が平均0.5人、『居住系施設』が平均0.1人となっている。

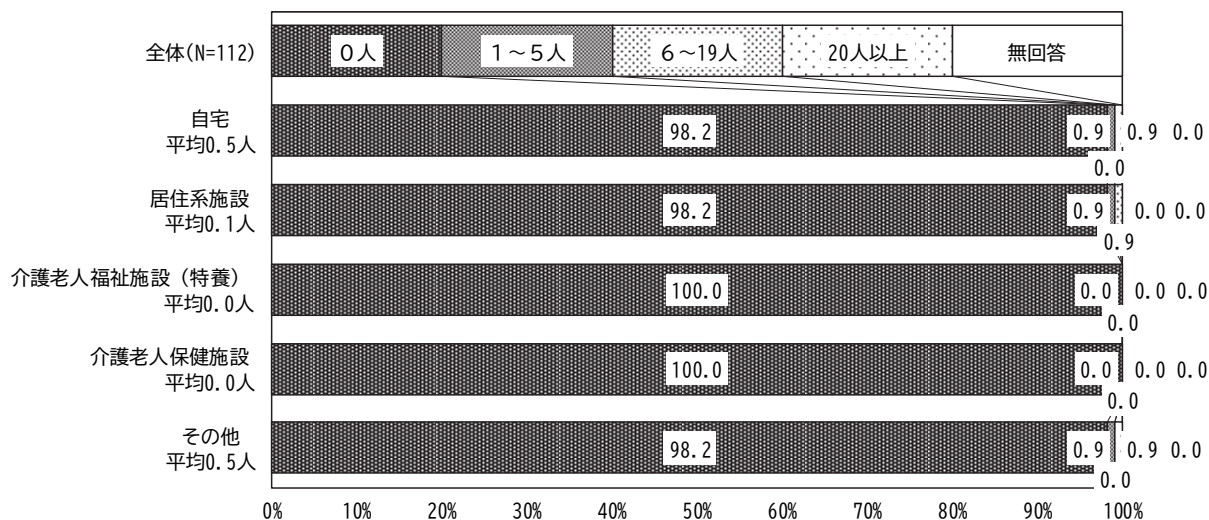
なお、問9でたずねた『その他』の具体的な内容は、「障害者施設」、「有料施設」などであった。

西東京市内の令和7年10月の1か月間における在宅医療患者数（全体）



※有料老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅等

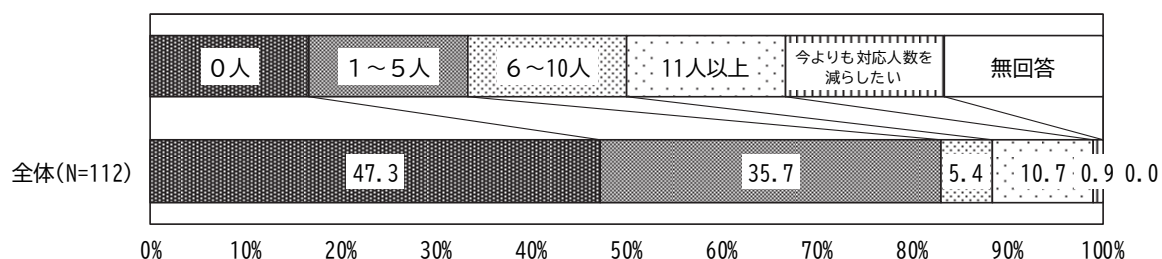
西東京市外の令和7年10月の1か月間における在宅医療患者数（全体）



⑤ さらに対応できる在宅医療患者数（問10）

問8で記入した在宅医療患者数に対し、さらに何人程度の患者に対応できると考えるかたずねたところ、「0人」が47.3%と最も高く、「1~5人」が35.7%、「11人以上」（10.7%）の順で続いている。

さらに対応できる在宅医療患者数（全体）



第2章 調査結果

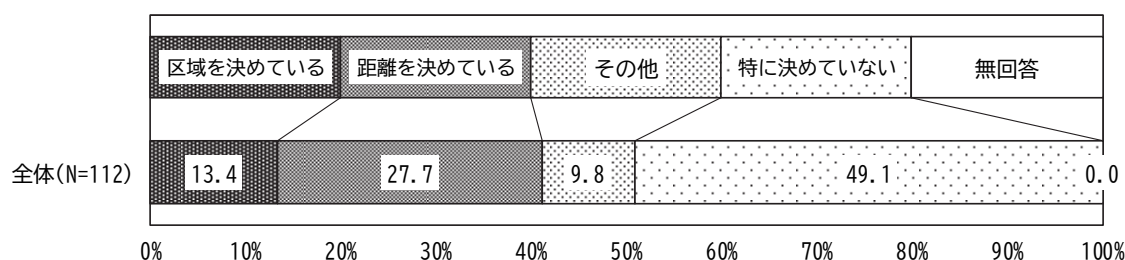
⑥ 在宅医療を行う区域や距離の設定（問 11・問 12）

在宅医療を行う区域や距離の設定は、「特に決めていない」（49.1%）が最も高く、「距離を決めている」（27.7%）、「区域を決めている」（13.4%）、「その他」（9.8%）の順で続いている。

また、「その他」（9.8%）の内容は、「在宅医療を行っていない」がほとんどであった。

なお、問 12 でたずねた「距離を決めている」（27.7%）、「区域を決めている」（13.4%）の具体的な内容は、「車で 10 分以内」、「徒歩範囲」、「自転車範囲」、「半径 16km」、「保険適応範囲内」等の回答が多かった。

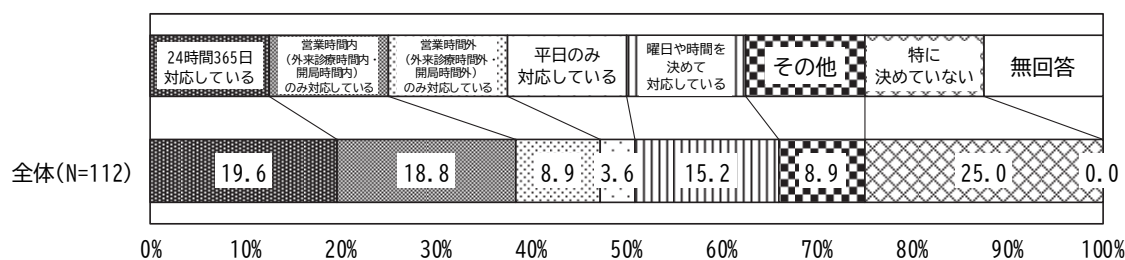
在宅医療を行う区域や距離の設定（全体）



⑦ 在宅医療を行う時間帯の設定（問 13）

在宅医療を行う時間帯の設定は、「特に決めていない」（25.0%）が最も高く、「24 時間 365 日対応している」（19.6%）、「営業時間内（外来診療時間内・開局時間内）のみ対応している」（18.8%）、「曜日や時間を決めて対応している」（15.2%）の順で続いている。

在宅医療を行う時間帯の設定（全体）



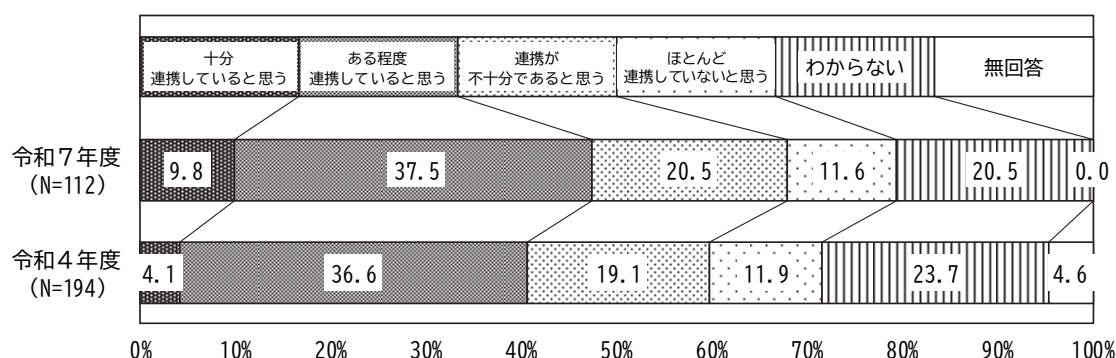
(3) 医療と介護の連携

① 医療と介護の連携状況（問 14）

医療と介護の連携状況は、「十分連携していると思う」（9.8%）と「ある程度連携していると思う」（37.5%）を合計した連携していると思う割合は47.3%となっている。

前回の調査と比較すると、《連携している》（「十分連携している」と「ある程度連携している」の計）の割合は40.7%から47.3%と6.6ポイント高くなっている。

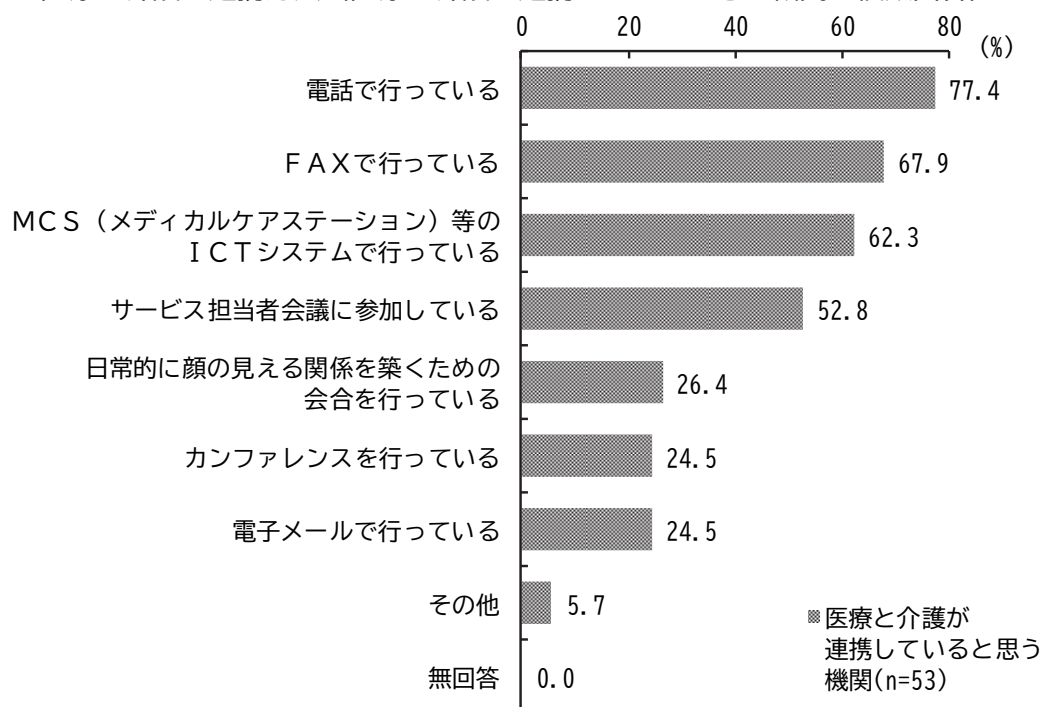
医療と介護の連携状況（全体）【前回比較】



② 医療と介護の連携方法（問 15）

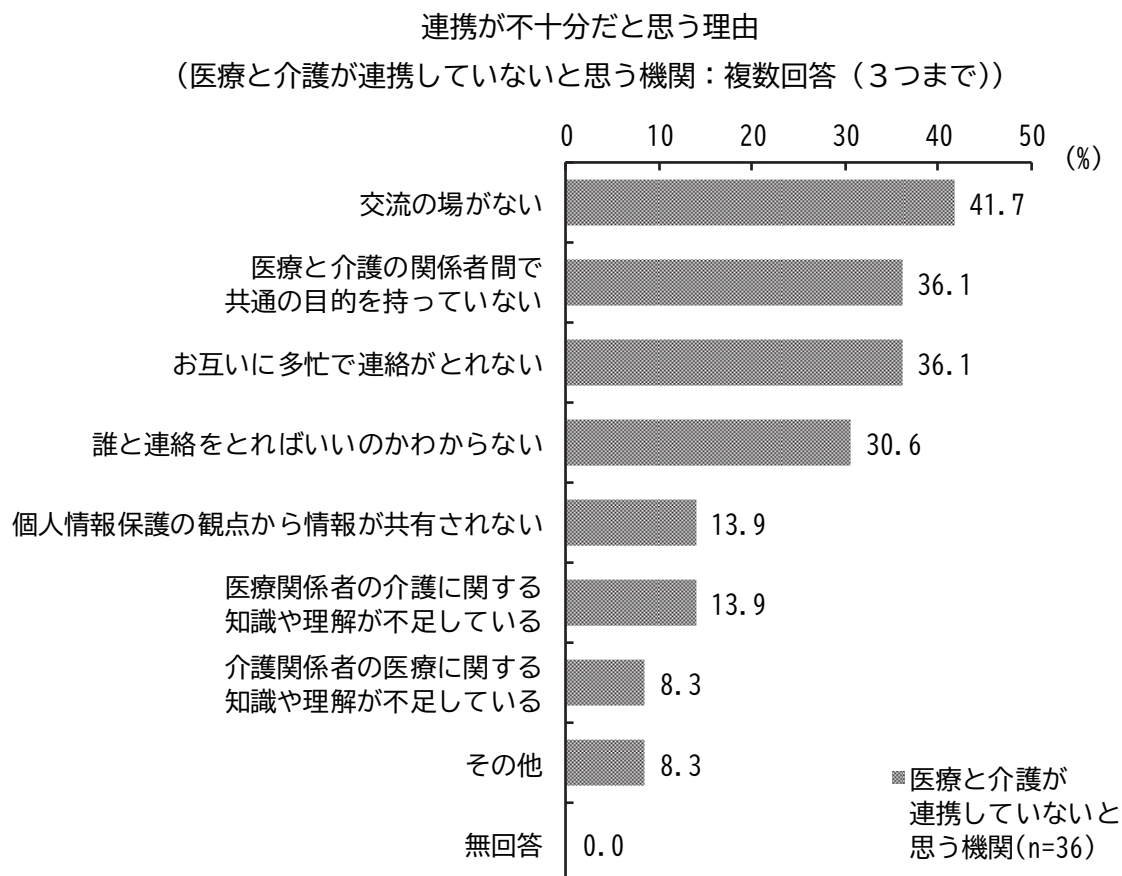
医療と介護が連携していると思う機関に医療と介護の連携方法をたずねたところ、「電話で行っている」（77.4%）が最も高く、「FAXで行っている」（67.9%）、「MCS（メディカルケアステーション）等のICTシステムで行っている」（62.3%）、「サービス担当者会議に参加している」（52.8%）の順で続いている。

医療と介護の連携方法（医療と介護が連携していると思う機関：複数回答）



③ 連携が不十分だと思う理由（問 16）

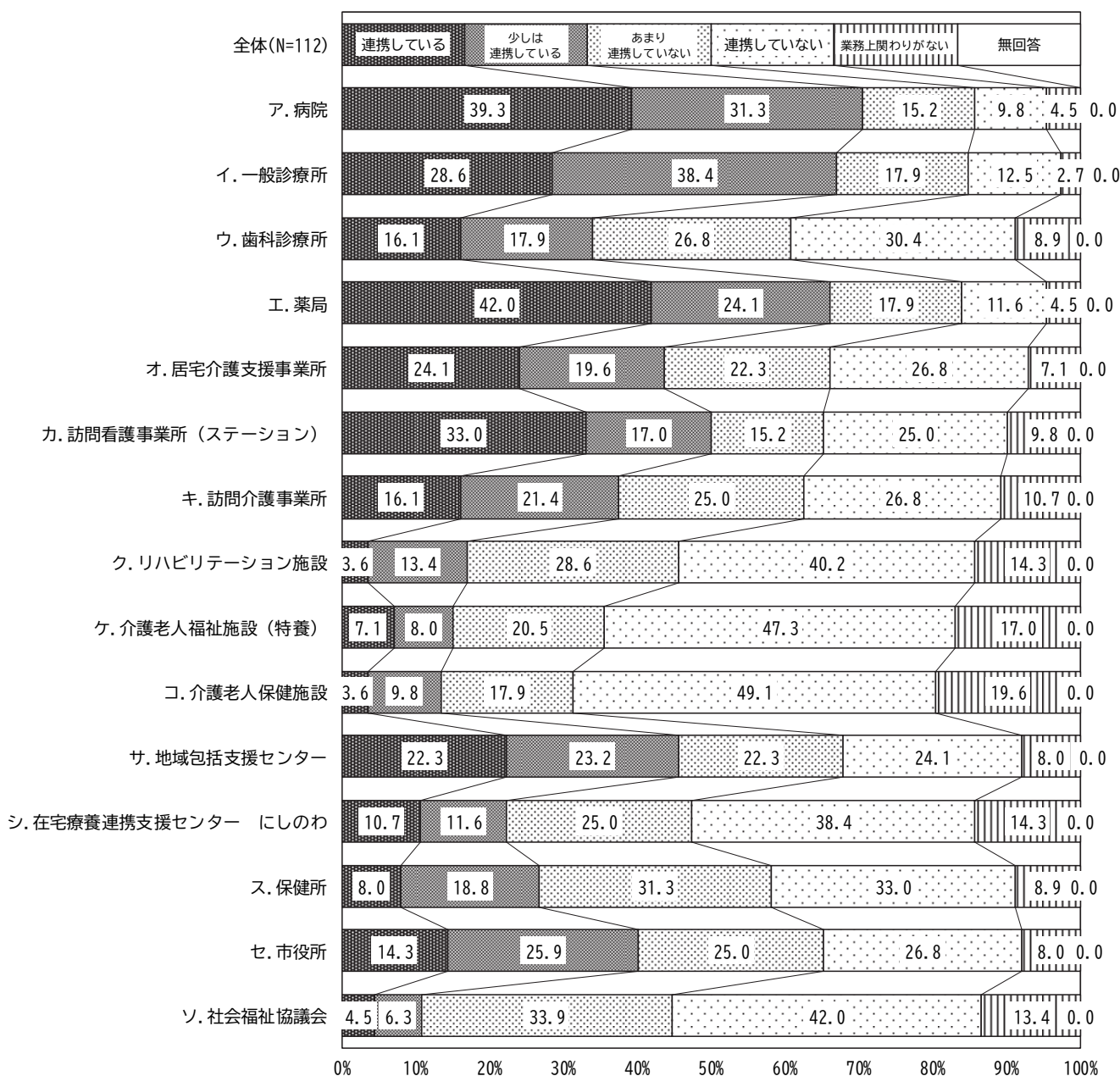
医療と介護が連携していないと思う機関に連携が不十分だと思う理由をたずねたところ、「交流の場がない」（41.7%）が最も高く、「医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない」、「お互いに多忙で連絡がとれない」（それぞれ 36.1%）、「誰と連絡をとればいいのかわからない」（30.6%）の順で続いている。



④ 患者に関わる関係機関、職種との連携状況（問 17）

患者に関わる関係機関、職種との連携状況について、「連携している」と「少しは連携している」を合計した連携している割合は、『病院』（70.6%）で最も高く、『一般診療所』（67.0%）、『薬局』（66.1%）、『訪問看護事業所（ステーション）』（50.0%）が続いている。

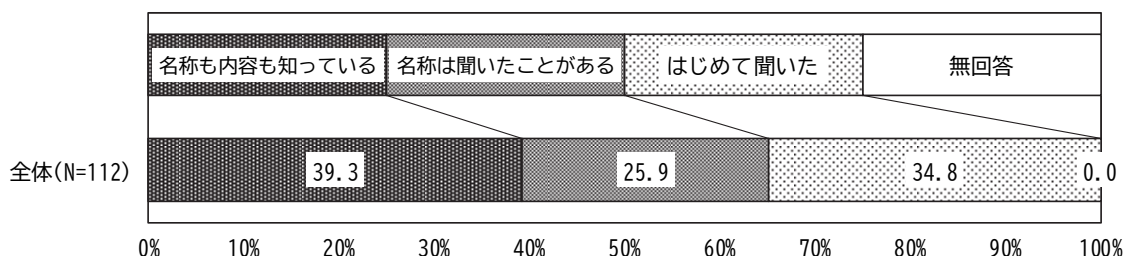
患者に関わる関係機関、職種との連携状況（全体）



⑤ 在宅療養連携支援センターの認知度（問 18）

在宅療養連携支援センターの認知度は、「名称も内容も知っている」（39.3%）が最も高く、「はじめて聞いた」（34.8%）、「名称は聞いたことがある」（25.9%）の順で続いている。

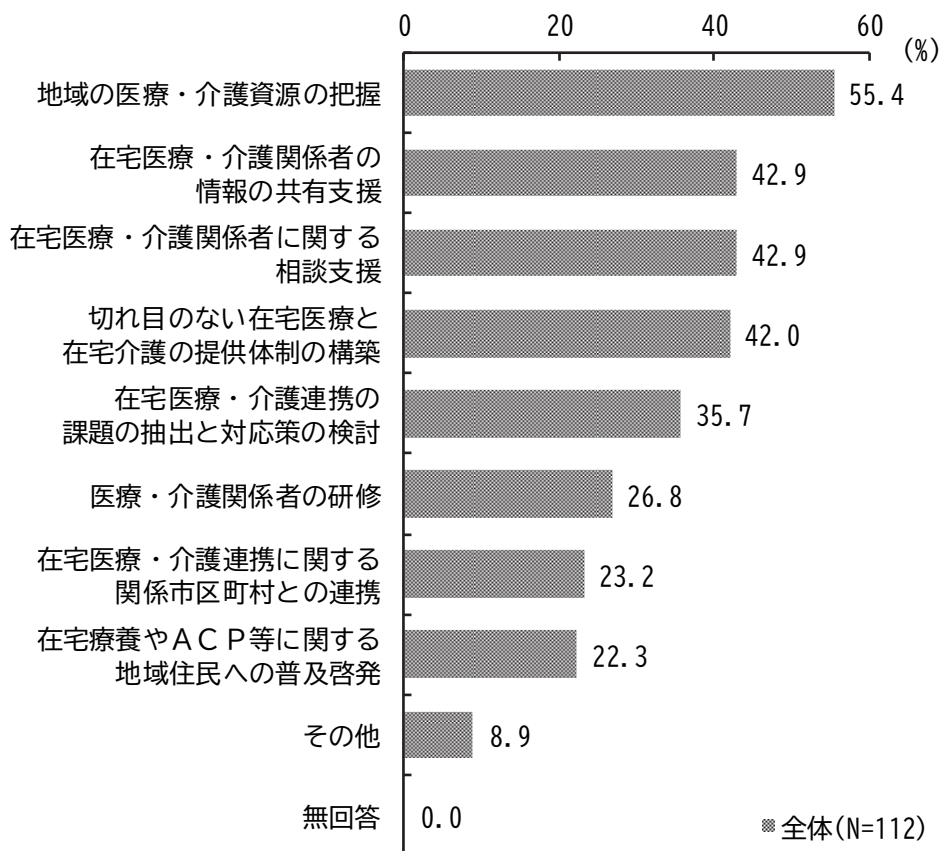
在宅療養連携支援センターの認知度（全体）



⑥ 在宅療養連携支援センターに期待すること（問 19）

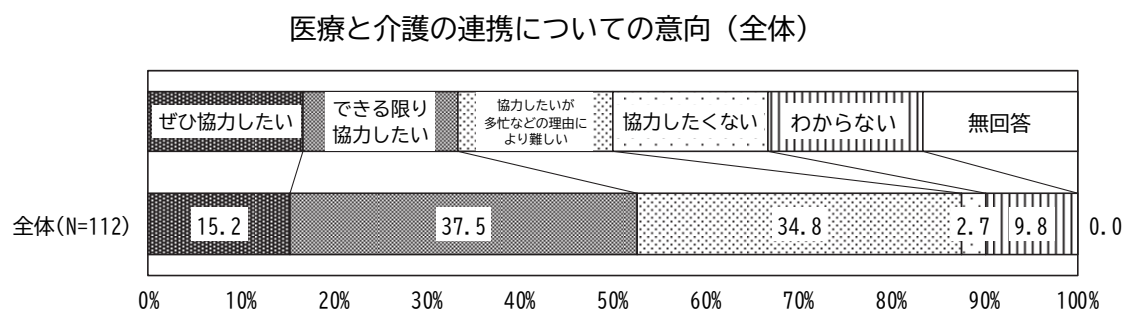
在宅療養連携支援センターに期待することは、「地域の医療・介護資源の把握」（55.4%）が最も高く、「在宅医療・介護関係者の情報の共有支援」、「在宅医療・介護関係者に関する相談支援」（それぞれ 42.9%）、「切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築」（42.0%）の順で続いている。

在宅療養連携支援センターに期待すること（全体：複数回答）



⑦ 医療と介護の連携についての意向（問 20）

医療と介護の連携についての意向は、「ぜひ協力したい」（15.2%）と「できる限り協力したい」（37.5%）を合計した協力したい割合は 52.7%となっている。

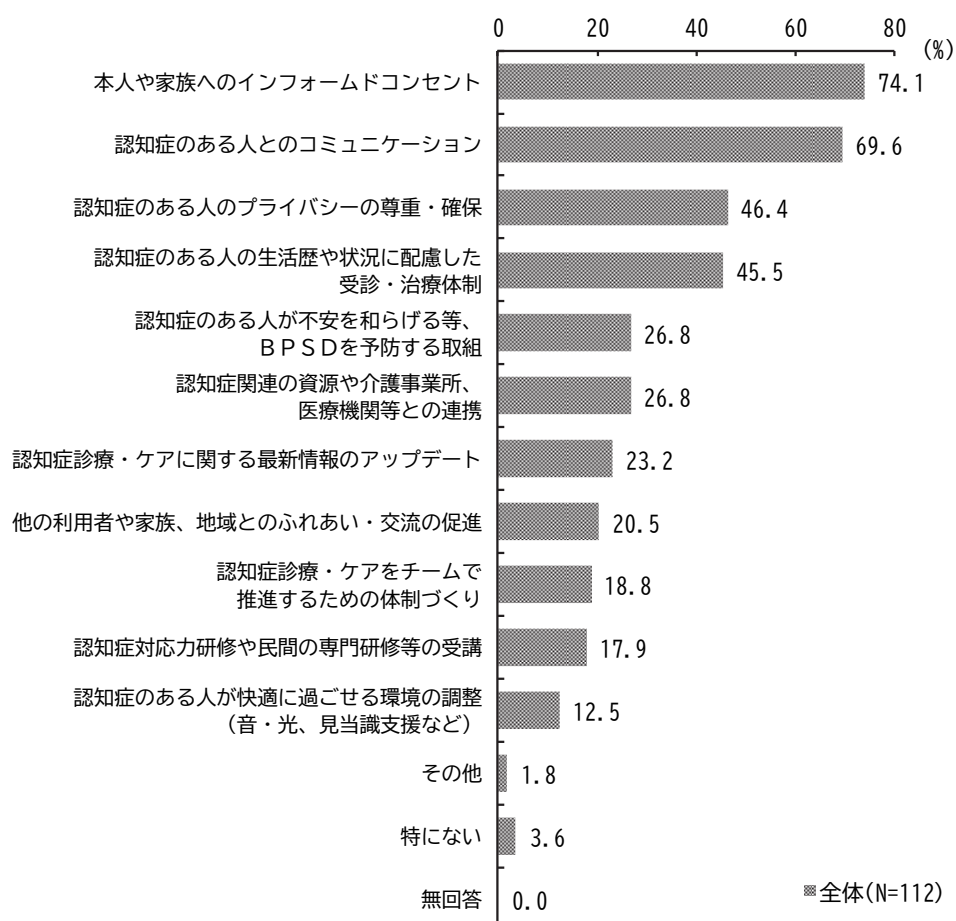


(4) 認知症

① 認知症のある人の受診・治療にあたり配慮していること（問 21）

認知症のある人の受診・治療にあたり配慮していることは、「本人や家族へのインフォームドコンセント」（74.1%）が最も高く、「認知症のある人とのコミュニケーション」（69.6%）、「認知症のある人のプライバシーの尊重・確保」（46.4%）、「認知症のある人の生活歴や状況に配慮した受診・治療体制」（45.5%）の順で続いている。

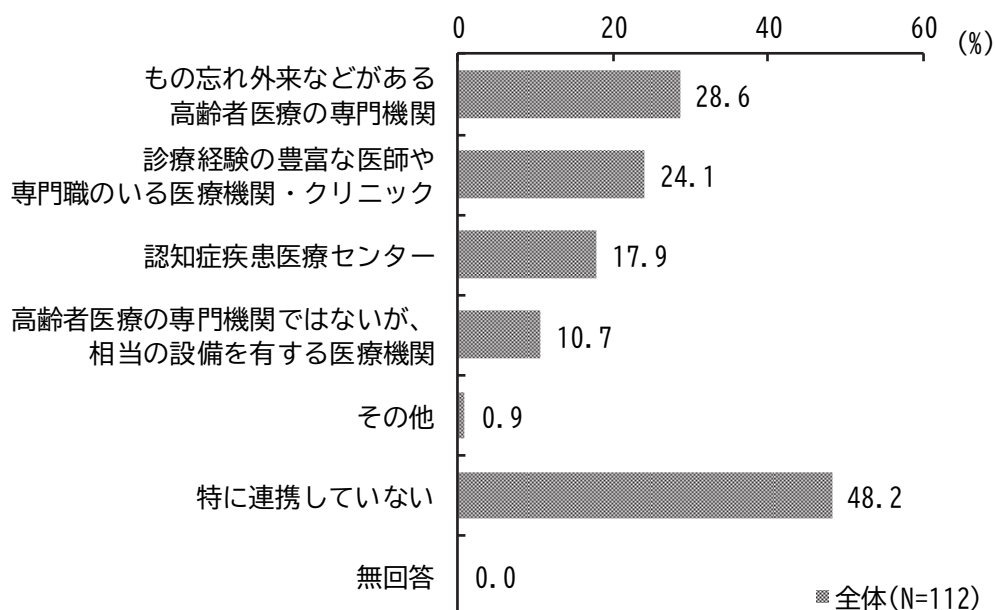
認知症のある人の受診・治療にあたり配慮していること（全体：複数回答）



② 認知症のある人の治療にあたり連携している機関（問 22）

認知症のある人の治療にあたり連携している機関は、「特に連携していない」が48.2%である。連携している機関では、「もの忘れ外来などがある高齢者医療の専門機関」（28.6%）が最も高く、「診療経験の豊富な医師や専門職のいる医療機関・クリニック」（24.1%）、「認知症疾患医療センター」（17.9%）、「高齢者医療の専門機関ではないが、相当の設備を有する医療機関」（10.7%）の順で続いている。

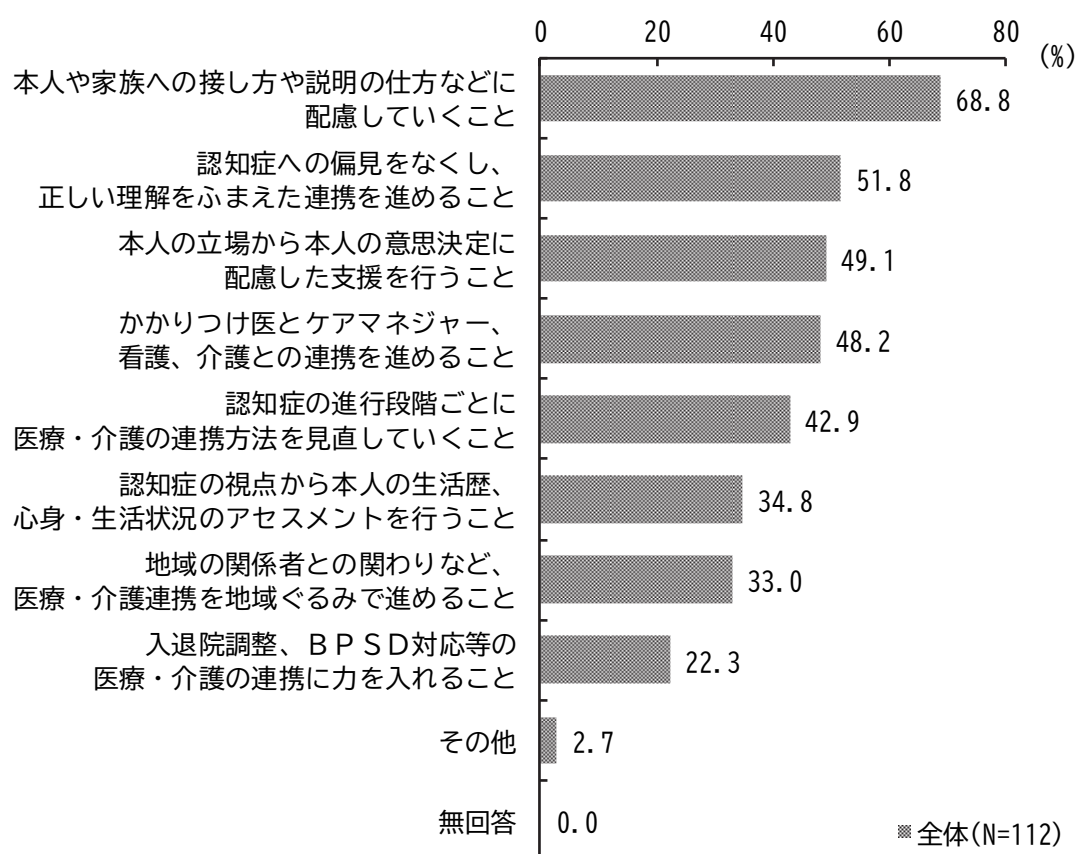
認知症のある人の治療にあたり連携している機関（全体：複数回答）



③ 認知症のある人も含めた医療職と介護職の連携のために充実すべきこと (問 23)

認知症のある人も含めた医療職と介護職の連携のために充実すべきことは、「本人や家族への接し方や説明の仕方などに配慮していくこと」(68.8%)が最も高く、「認知症への偏見をなくし、正しい理解をふまえた連携を進めること」(51.8%)、「本人の立場から本人の意思決定に配慮した支援を行うこと」(49.1%)、「かかりつけ医とケアマネジャー、看護、介護との連携を進めること」(48.2%)の順で続いている。

認知症のある人も含めた医療職と介護職の連携のために充実すべきこと (全体：複数回答)

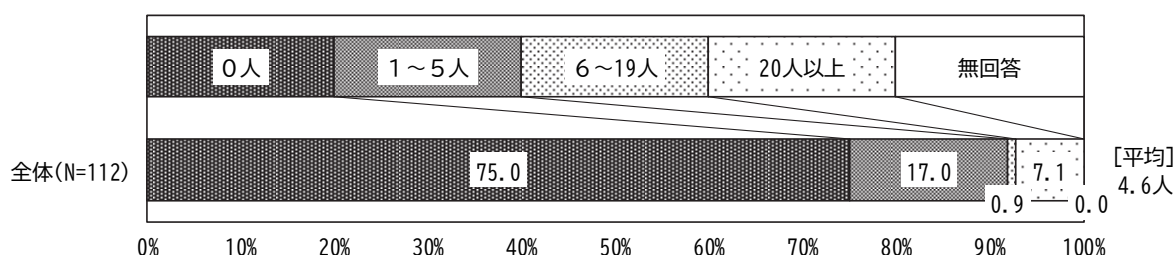


(5) 看取り

① 1年間に在宅で看取った人数（問24）

1年間（令和6年11月1日から令和7年10月31日）に、在宅で看取った人数は、「0人」が75.0%となっており、平均人数は4.6人となっている。

1年間（令和6年11月1日から令和7年10月31日）に在宅で看取った人数（全体）

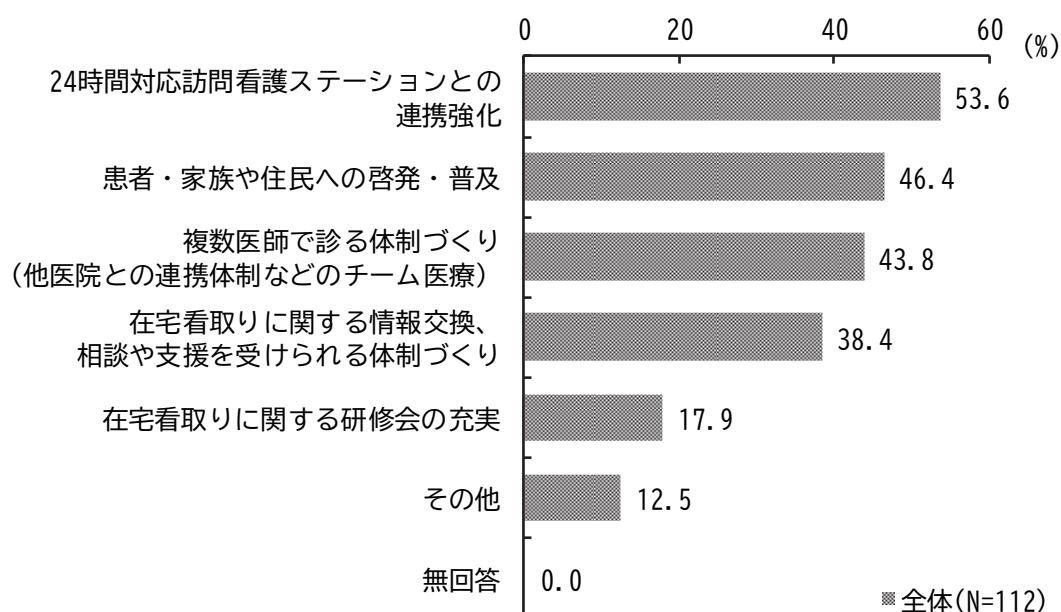


② 在宅での看取りが可能な条件（問25）

在宅での看取りが可能な条件は、「24時間対応訪問看護ステーションとの連携強化」(53.6%)が最も高く、「患者・家族や住民への啓発・普及」(46.4%)、「複数医師で診る体制づくり（他医院との連携体制などのチーム医療）」(43.8%)の順で続いている。

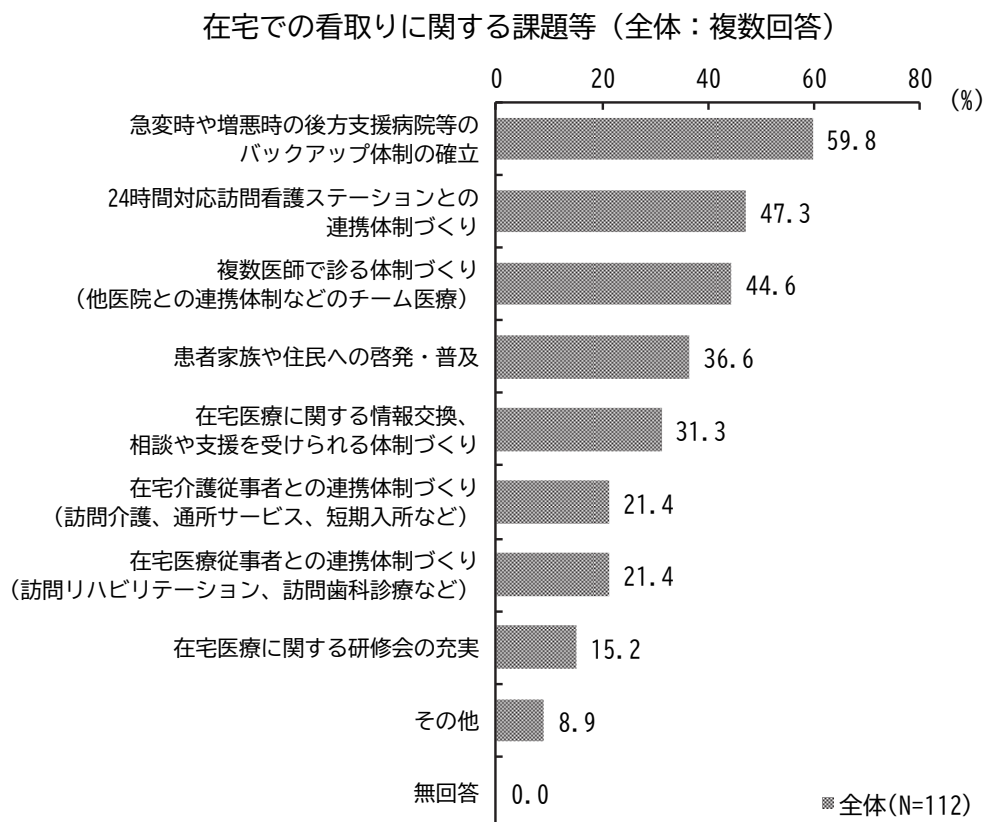
「その他」(12.5%)の内容は、「わからない」、「歯科医師なので看取りがない」、「対応していない」などであった。

在宅での看取りが可能な条件（全体：複数回答）



③ 在宅での看取りに関する課題等（問 26）

在宅での看取りに関する課題等は、「急変時や増悪時の後方支援病院等のバックアップ体制の確立」（59.8%）が最も高く、「24時間対応訪問看護ステーションとの連携体制づくり」（47.3%）、「複数医師で診る体制づくり（他医院との連携体制などのチーム医療）」（44.6%）の順で続いている。

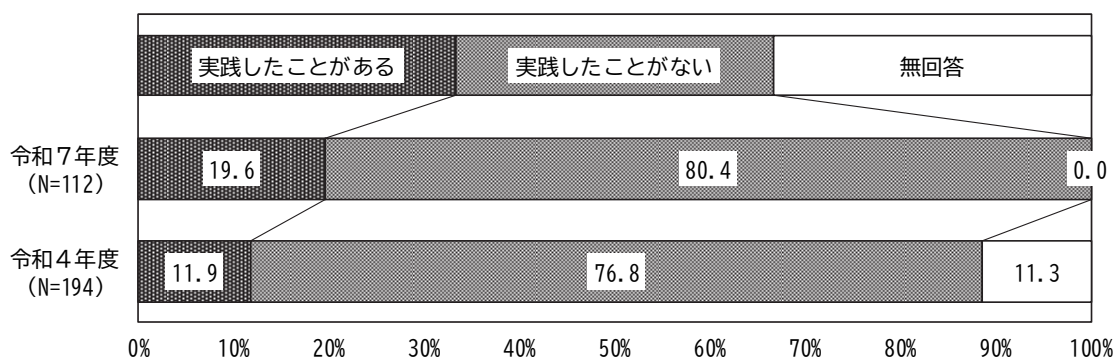


④ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実践（問 27）

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実践は、「実践したことがある」が19.6%となっている。

前回調査と比較すると、「実践したことがある」（今回：19.6%、前回：11.9%）の割合が7.7ポイント高くなっている。

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実践（全体）【前回比較】

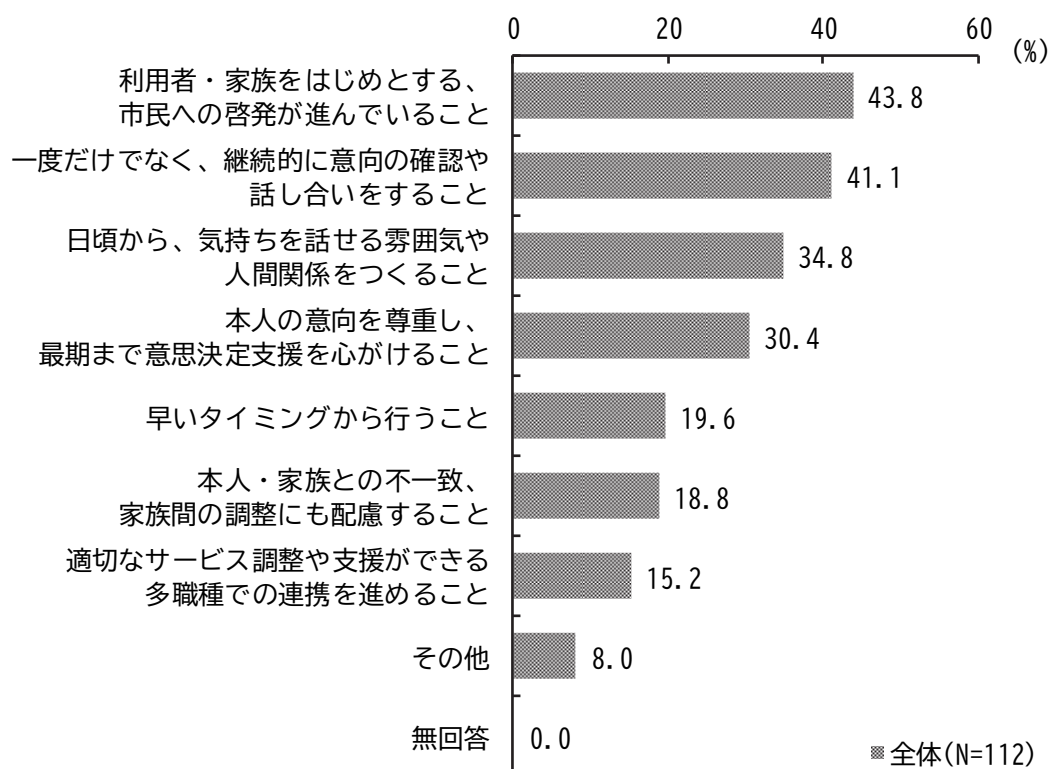


⑤ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を進める上で必要なこと（問28）

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を進める上で必要なことは、「利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること」（43.8%）が最も高く、「一度だけでなく、継続的に意向の確認や話し合いをすること」（41.1%）、「日頃から、気持ちを話せる雰囲気や人間関係をつくること」（34.8%）が続いている。

在宅医療の提供の有無別にみると、【提供】では、「一度だけでなく、継続的に意向の確認や話し合いをすること」（51.5%）、「日頃から、気持ちを話せる雰囲気や人間関係をつくること」（45.5%）、「利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること」（43.9%）がいずれも40%を超えている。一方、【未提供】では、「利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること」（43.5%）が40%を超え最も高くなっているが、ほとんどのカテゴリーが30%未満となっている。

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を進める上で必要なこと
（全体：複数回答（3つまで））



ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を進める上で必要なこと
 （全体、在宅医療の提供の有無別：複数回答（3つまで））

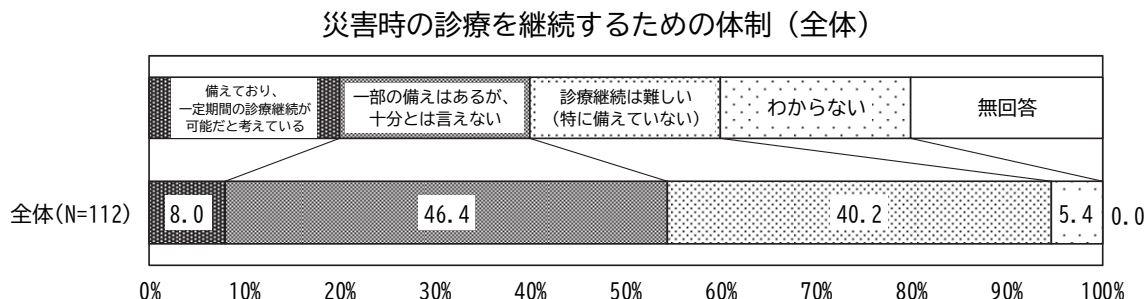
(人、%)

回答者数		利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること	話し合いを意図すること	継続的に意向の確認や、一度だけでなく、	日頃から、気持ちや人間関係をつくること	霧垣気や関係をつくること	意思決定支援を尊重し、最期まで	早いタイミングから行うこと	本人・家族との不一致、	家族間の調整にも配慮すること	適切なサービス調整や連携を進めること	その他	無回答
全体	112	43.8	41.1	34.8	30.4	19.6	18.8	15.2	8.0	0.0			
在宅医療の提供の有無別	提供	66	43.9	51.5	45.5	36.4	18.2	24.2	19.7	6.1	0.0		
	未提供	46	43.5	26.1	19.6	21.7	21.7	10.9	8.7	10.9	0.0		

(6) 災害時等の体制

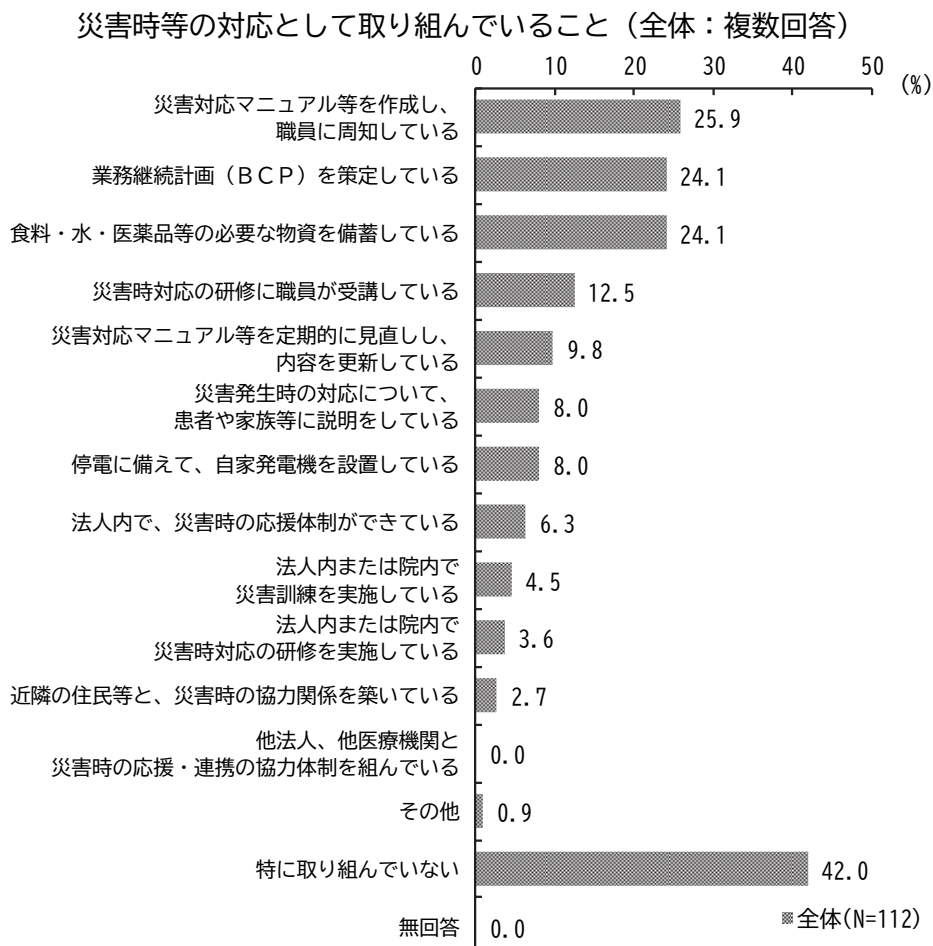
① 災害時の診療を継続するための体制 (問 29)

災害時の診療を継続するための体制は、「一部の備えはあるが、十分とは言えない」(46.4%)が最も高く、「診療継続は難しい(特に備えていない)」(40.2%)、「備えており、一定期間の診療継続が可能だと考えている」(8.0%)の順で続いている。



② 災害時等の対応として取り組んでいること (問 30)

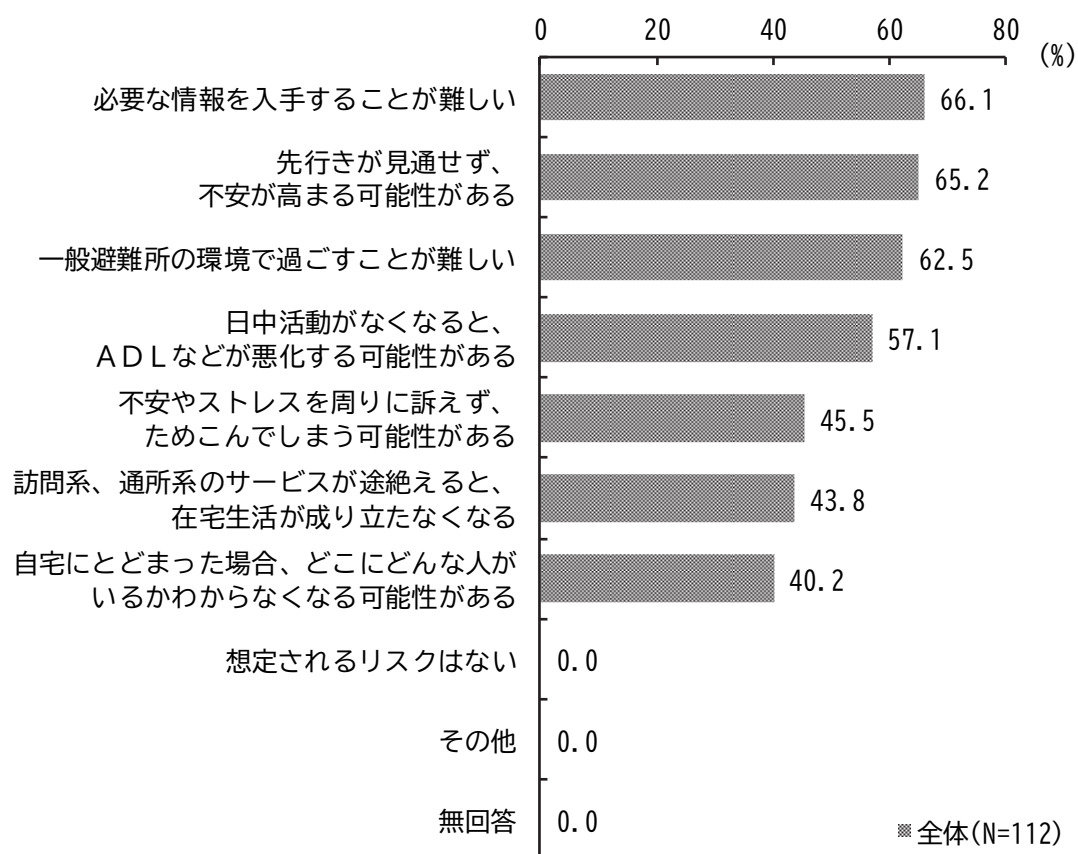
災害時等の対応として取り組んでいることは、「特に取り組んでいない」が 42.0%である。取り組んでいる対応としては、「災害対応マニュアル等を作成し、職員に周知している」(25.9%)が最も高く、「業務継続計画(BCP)を策定している」、「食料・水・医薬品等の必要な物資を備蓄している」(それぞれ 24.1%)、「災害時対応の研修に職員が受講している」(12.5%)の順で続いている。



③ 高齢者の災害時におけるリスク（問 31）

高齢者の災害時におけるリスクは、「必要な情報を入手することが難しい」（66.1%）が最も高く、「先行きが見通せず、不安が高まる可能性がある」（65.2%）、「一般避難所の環境で過ごすことが難しい」（62.5%）、「日中活動がなくなると、ADLなどが悪化する可能性がある」（57.1%）の順で続いている。

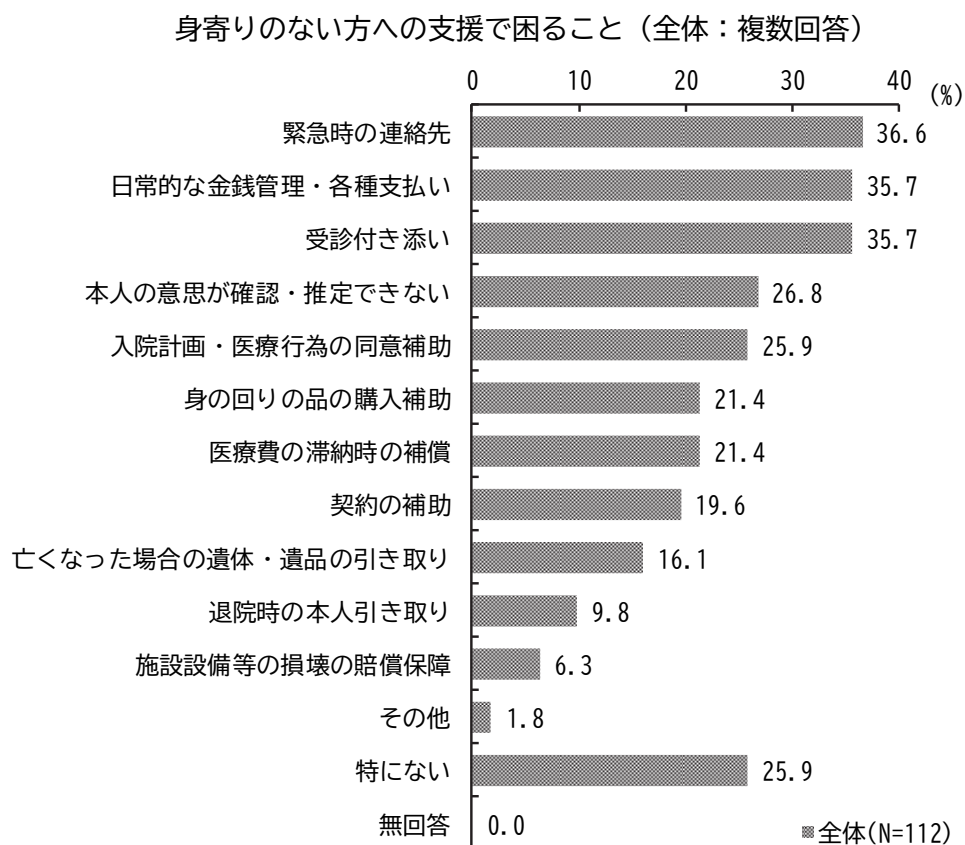
高齢者の災害時におけるリスク（全体：複数回答）



(7) 身寄りのない方への支援

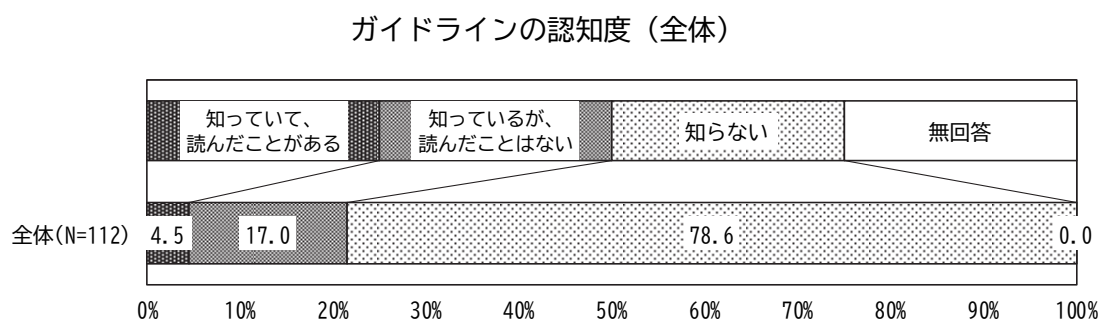
① 身寄りのない方への支援で困ること (問 32)

身寄りのない方への支援で困ることは、「緊急時の連絡先」(36.6%)が最も高く、「日常的な金銭管理・各種支払い」、「受診付き添い」(それぞれ 35.7%)、「本人の意思が確認・推定できない」(26.8%)、「入院計画・医療行為の同意補助」(25.9%)の順で続いている。



② ガイドラインの認知度 (問 33)

ガイドラインの認知度は、「知らない」(78.6%)が最も高く、「知っているが、読んだことはない」(17.0%)、「知っている、読んだことがある」(4.5%)の順で続いている。

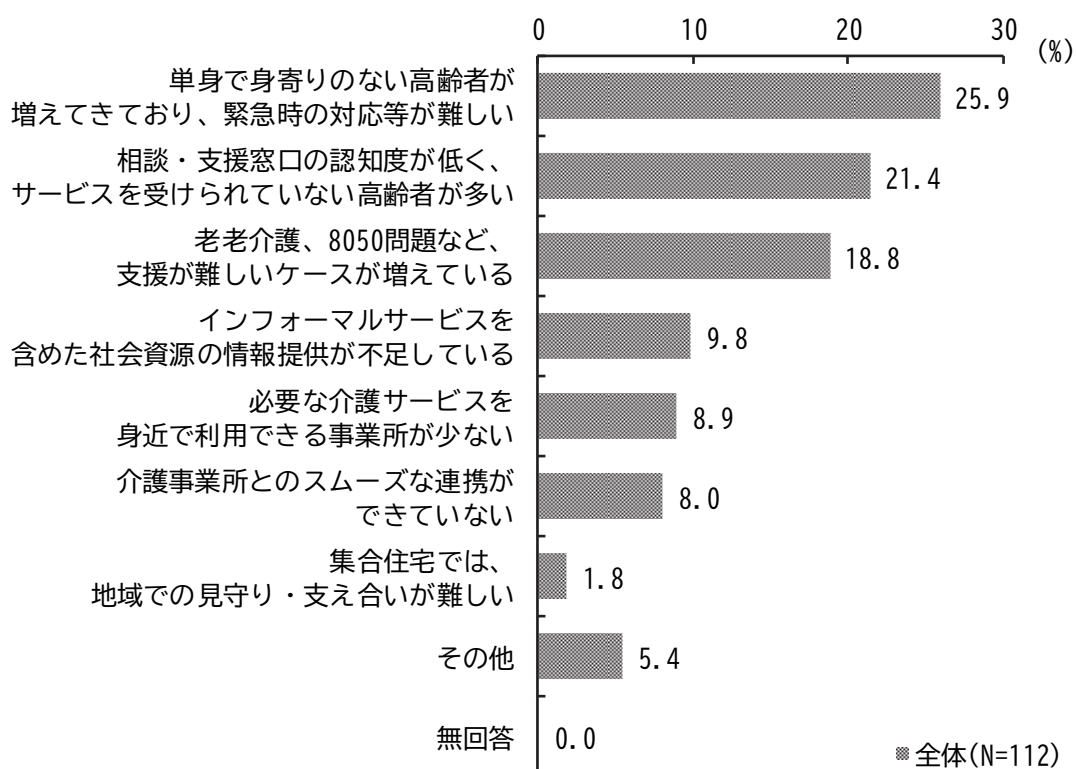


(8) 西東京市の施策

① 地域包括ケアシステム構築に向けた課題（問 34）

地域包括ケアシステム構築に向けた課題は、「単身で身寄りのない高齢者が増えてきており、緊急時の対応等が難しい」（25.9%）が最も高く、「相談・支援窓口の認知度が低く、サービスを受けられていない高齢者が多い」（21.4%）、「老老介護、8050問題など、支援が難しいケースが増えている」（18.8%）の順で続いている。

地域包括ケアシステム構築に向けた課題（全体）



② 西東京市の在宅医療・介護連携や介護保険制度についての意見・要望（問 35）

西東京市の在宅医療・介護連携や介護保険制度についての意見・要望について自由記述形式でたずねたところ、全体で10件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

- ・ 身寄りの無い人、認知症の独居、老老介護など困難事例の情報を集約管理し、必要な時に医療機関と共有できるような仕組みがあるとよいと思います。
- ・ 住み慣れた地域（市内）で医療・介護サービスがシームレスでスムーズに完結できる連携や仕組みが必要。今後ますます増加する独居高齢要支援者の対策を検討してほしい。
- ・ 必要なサービス利用控え、自発的にサービス利用を求められない（判断出来ない）などのクライアントに対応できる公共の制度が不足していると考えます。後見人選定が必要な利用者にも居宅が行政に円滑に働きかけられていない件が散見されます。行政窓口以身寄りがない利用者に対して地域権利擁護事業・成年後見制度への適切な誘導ができる仕組み化、案内が必要だと考えます。
- ・ 在宅介護を続ける家族の心のケアと助成金などが作られるといいと思います。
- ・ 医療、介護に関わる人材は減っていくのに、需要だけは大きくなる未来が待たなしです。どこまで、私たちにできるのかを考え、絶対に必要な譲れないこと、できないから諦めること、今のうちに取捨選択をする必要性があると思います。それは医療介護サービスを受けるすべての人がある程度の痛みを伴う必要があると考えます。膨大に膨れ上がる医療費の単純な圧縮は、医療に関わる人材の圧縮も加速させます。
- ・ 夜間休日に来る人（患者）を集約できる場所を作って、そこに、人材（医師、薬剤師、看護師、介護士、ケアマネジャーなど）も集約できる場所を公的機関として作ってはいかがでしょうか。新たな場所を作るのは大変だと思うので、今、市内の病院で行っている休日対応の輪番性の中身を、市で分厚く（費用や、人材で）追加のフォローをするというのはいかがでしょうか。救急や看取りに向かうドクターもそこに集中すれば、市内の24時間365日の医療へのアクセスがある程度実現できます。すでに、夜間休日対応を実現している開業医さんなどは対象外として、その対応が難しいと在宅医療に踏み込めない開業医さんなどを対象にして、輪番で来ていただく事が在宅対応している診療所としての診療報酬の要件の一つにできるようにすれば、ご自身の診療所での在宅対応件数も結果的に増える可能性があると思います。門前の医院の在宅件数が増えると必然的に門前薬局の在宅件数も上がります。結果的に、市内で在宅を担う医療機関を増やすことにつながるのではないのでしょうか。今は、なかなか連携の取りづらい介護と医療の連携もそこを拠点とするのはダメですか。
- ・ 当法人では、在支病・在支診、グループホーム、小規模多機能、居宅事業所、訪問看護ステーション、訪問リハビリ機能とこれらのハブとなり受け皿となる地域包括ケア病床やリハビリ病床、介護医療院機能を所有しております。これらが連動して患者の状態や必要なケアの度合いに応じ、患者の受け渡し・受け入れが円滑に実施される体制が確立することが理想だと認識する他方、どの症例にも様々な困難な要因があり、

適切に機能していないと実感する場面があることも事実です。在宅療養連携支援センター「にしのわ」の皆さんや当院の転院調整部門と連携して、より円滑に患者の部門間での受け渡しが実現し、文字通りの地域包括ケアが達成できるように今後も試行錯誤を続けて参ります。

- ・ きっと訪問診療を希望している方は多数いらっしゃると思いますが、歯科治療は道具が沢山必要だし、バキュームがないとなかなか防湿が難しく、治療成績の確保が難しい。移動車にユニットがあり、治療ができる状況があるとよいです。また、内科医も一緒に回れるようだと安心です。
- ・ 色々協力したいが、自身も高齢に向かっており、医療活動も制限が出てきている。また物価高であるのに診療報酬が上がらず、クリニックの運営状況も厳しく、関連する設備投資や人材確保もままならない。すべての面で余裕が無く、協力は厳しい状況で心苦しい。
- ・ 2000年から2023年まで在宅支援診療所として医療を最大限提供しながら在宅医療に従事しましたが、在宅医療の診療報酬は改定のたびに下げられたので、在宅支援診療所を返上し、在宅医療から距離を置くことにしました。

資料編 アンケート調査票及び集計結果

1 高齢者一般調査

1 高齢者一般調査

あなた(あて名ご本人)についておたずねします

※以下の質問で「あなた」とは、あて名ご本人のことです。お間違えのないようにお答えください。

問1	あなたの性別をお答えください。(1つに○)	(N=721)					
1. 男性	45.1%	2. 女性	54.1%	3. 回答しない	0.1%	無回答	0.7%

問2 あなたの年齢をお答えください。(数字を記入)

※令和7年11月1日現在の年齢でお答えください。

平均 74.7 歳

問3 あなたのお住まいの地区をお答えください。(1つに○)

1. 田無町	14.8%	7. 向台町	5.8%	13. 富士町	8.9%	19. ひばりが丘	2.2%
2. 南町	6.7%	8. 芝久保町	8.3%	14. 中町	2.8%	20. 栄町	3.5%
3. 西原町	3.9%	9. 新町	3.7%	15. 東町	1.0%	21. 北町	3.3%
4. 緑町	2.4%	10. 柳沢	6.1%	16. 泉町	1.4%	22. 下保谷	3.9%
5. 谷戸町	7.1%	11. 東伏見	0.7%	17. 住吉町	2.6%	無回答	0.8%
6. 北原町	7.2%	12. 保谷町	0.1%	18. ひばりが丘	2.8%		

問4 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

1. 一戸建ての持ち家	44.8%	6. 社宅・官舎	0.1%
2. 一戸建ての借家	1.0%	7. 高齢者向け住宅(有料老人ホーム、分譲マンション)	0.1%
3. 分譲マンション	20.1%	8. その他(具体的に:)	2.5%
4. 民間賃貸アパート・マンション	14.1%	無回答	1.4%
5. 公的賃貸住宅(都営・市営など)	15.8%		

問5 あなたは、今後も西東京市に住み続けたいですか。(1つに○)

1. これからも住み続けたい	77.7%	4. 市外に転出したい	0.1%
2. 当分は住み続けたい	14.7%	5. 市外に転出する予定がある	0.3%
3. できれば市外に転出したい	0.8%	6. どちらとも言えない	5.4%
		無回答	1.0%

問6 家族構成をお答えください。(1つに○)

1. 1人暮らし	26.9%	4. 息子・娘との2世帯	13.0%
2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	37.2%	5. その他(具体的に:)	17.1%
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	4.6%	無回答	1.2%

1 高齢者一般調査

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
策定のための市民アンケート調査 ご協力をお願い

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を計画期間として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和8年度に、令和9年度から11年度までの「高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」を策定します。

このアンケート調査は、65歳以上の市民の皆様へ、健康・福祉・介護に関することや日常生活でお困りのことなどについてご意見とご要望をお聞かせいただき、計画の策定に役立てるものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年11月

西東京市長 池澤 隆史

記入についてのお願い

- この調査は、令和7年11月1日現在でお答えください。
- 回答は、特に説明のない限り、あてはまる番号を○で囲んでください。
- 回答が「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み、〔 〕内にその内容を記入してください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印(⇒)など、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。
- 回答はできる限り、対象者ご本人がご記入ください。なお、対象者ご本人おひとりの回答が難しい場合は、ご家族の方にお手伝いいただくか、対象者のご意見を聞いた上でご家族の方が代わりにご記入ください。

★対象の方が何らかの事情により記入できない場合は、回答不要です。下の枠内のできる限り○印をつけてご返送ください。

1. 医療機関入院中 2. 福祉施設入所中 3. 転居 4. その他〔 〕

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒(切手は不要)に入れ、

11月25日(火)までに 返送ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時(土日・祝日を除く)

★調査の内容、調査票の書き方や同封物の不足について

株式会社 生活構造研究所 TEL 0120-650-276 (フリーダイヤル)

★調査の趣旨について

西東京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810(直通)

(この調査は西東京市が株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。)

日頃の生活についておたずねします

問7 あなたは、何歳からが「高齢者」だと思えますか。(1つに○) (N=721)

1. 60歳以上	2.4%	6. 85歳以上	2.1%
2. 65歳以上	15.1%	7. その他(歳以上)	0.1%
3. 70歳以上	41.5%	8. 年齢で判断できない	5.5%
4. 75歳以上	20.1%	9. わからない	0.8%
5. 80歳以上	11.0%	無回答	1.4%

問8 あなたは現在、働いていますか。複数の仕事をしている場合は収入の最も多いものを教えてください。(1つに○) (N=721)

1. 正社員・正規職員として働いている	4.6%
2. 嘱託・再雇用等として働いている	4.3%
3. パート・アルバイトとして働いている	20.0%
4. 派遣社員として働いている	1.1%
5. 経営者(役員等)として働いている	7.9%
6. シルバー人材センター会員である	2.8%
7. 働いていないが今後働きたい	7.6%
8. 働いていないし今後働くつもりはない	48.5%
無回答	3.2%

⇒問8-1、問8-2へ

問8-1 問8で「1」～「7」と回答した方におたずねします。
現在、働いている、または今後働きたいと考えている主な理由をお答えください。(いくつでも○) (n=348)

1. 生活費や収入を得るため	68.7%	6. 友人や仲間を得るため	9.2%
2. 働くことが楽しい	20.4%	7. 健康維持や老化防止のため	47.4%
3. やりがいがあるため	15.2%	8. 自宅以外の場所で過ごす時間欲しい	13.2%
4. 自分の知識や技術を活かしたいから	16.1%	9. その他(具体的に:)	2.3%
5. 社会とのつながり	35.3%	無回答	2.6%

問8-2 問8で「1」～「7」と回答した方におたずねします。
何歳まで働きたいと思えますか。(1つに○) (n=348)

1. 65歳くらいまで	0.3%	4. 80歳くらいまで	15.8%
2. 70歳くらいまで	15.2%	5. 健康である限り	38.8%
3. 75歳くらいまで	28.2%	無回答	1.7%

問9 現在、あなたを中心となって介護や介助、日常生活の世話をしているご家族、親戚の方はいいますか。(1つに○) (N=721)

1. いる ⇒問9-1、問9-2へ	11.8%	2. いない	85.2%
無回答			3.1%

問9-1 問9で「1」と回答した方におたずねします。
どのような形で介護や介助、世話をしていますか。(1つに○) (n=85)

1. 一緒に暮らしながら介護や介助、世話をしている	48.2%
2. 別世帯で暮らしているが、訪問して介護や介助、世話をしている	23.5%
3. 施設等に入居している ⇒ [具体的な施設の種類の:]	12.9%
4. その他(具体的に:)	7.1%
無回答	8.2%

問9-2 問9で「1」と回答した方におたずねします。
介護や介助等で大変なことや困っていることは何ですか。(いくつでも○) (n=85)

1. 精神的に疲れ、ストレスがたまる	43.5%	11. 介護者の自分も高齢・病弱である	25.9%
2. 肉体的に疲れる	34.1%	12. 介護者の自分も認知機能で心配がある	7.1%
3. 介護の技術・方法がわからない	5.9%	13. 他の家族の世話ができない	1.2%
4. リフレッシュする方法がわからない	4.7%	14. 相談したり話を聞いてくれる人がいない	5.9%
5. 家族や自分の仕事に影響がある	10.6%	15. 適切なサービスがわからない・ない	8.2%
6. 今後の介護の見通しが立たない	15.3%	16. 医療や福祉の制度がわからない	4.7%
7. 介護費用の経済的負担が大きい	16.5%	17. 夜間のサービスが足りない	3.5%
8. 家族や親類の意見の聴取が難しい	5.9%	18. その他(具体的に:)	8.2%
9. 遠距離介護である	9.4%	19. 特にない	11.8%
10. 自分以外に介護する人がいない	20.0%	無回答	17.6%

問10 あなたは、福祉サービスなどの情報を、主にどこから入手していますか。(いくつでも○) (N=721)

1. 市報	67.3%	11. 西東京市公式フェイスブック (Facebook)	0.6%
2. 東京都広報	16.4%	12. 西東京市動画チャンネル (YouTube)	0.6%
3. 市のパンフレットなど	16.5%	13. 医療機関	10.1%
4. 市のホームページ	9.8%	14. 福祉施設	3.7%
5. その他のホームページ	2.2%	15. 地域包括支援センター	8.6%
6. テレビ・ラジオ	16.8%	16. 友人や知人	19.4%
7. 新聞・書籍	10.7%	17. 特に必要としていない	7.8%
8. 市役所	8.7%	18. 入手方法がわからない ⇒問10-1へ	3.9%
9. 西東京市公式エックス(X)	0.0%	19. その他(具体的に:)	3.7%
10. 西東京市公式ライン(LINE)	2.2%	無回答	2.4%

問10-1 問10で「18」と回答した方におたずねします。
情報が入手できず困っていることはありませんか(1つに○) (n=28)

1. はい	32.1%	2. いいえ	67.9%
無回答			0.0%

1. 高齢者一般調査

問 11 あなたは、普段どのような情報通信機器を利用していますか。(いくつでも○) (N=721)

1. スマートフォン	70.7%	5. 固定電話・FAX	29.7%
2. タブレット端末	6.9%	6. その他〔具体的に：〕	1.5%
3. 携帯電話(スマートフォン以外)	11.4%	7. 情報通信機器は利用していない	7.6%
4. パソコン	28.0%	無回答	4.0%

問 12 あなたが、普段インターネット上で利用しているものがあれば教えてください。(いくつでも○) (N=721)

1. 商品・サービスの予約や購入	33.7%	5. 地図・交通情報	44.1%
2. 情報収集(検索、閲覧)	55.1%	6. 電子決済・QRコード決済	21.4%
3. 動画閲覧	25.4%	7. その他〔具体的に：〕	1.8%
4. SNS*(LINE(ライン)やX(エックス)など)	32.6%	8. 利用していない	21.5%
		無回答	11.5%

※SNS(ソーシャルネットワークサービス)
ネットワーク上のコミュニケーション機能を指す

問 13 あなたは、スマートフォンなどの操作手法など、情報通信機器の使い方を教えてくれるような機会があったら参加(利用)したいと思いますか。(1つに○) (N=721)

1. ぜひ参加(利用)したい	22.1%	4. 必要性を感じない・使うつもりがない	10.5%
2. 関心はあるが自信がない	12.2%	5. わからない	8.5%
3. 今は必要ない	41.3%	無回答	5.4%

問 14 あなたは、外出の機会がどれだけありますか。次の目的別にお答えください。(①～⑧のそれぞれ1つに○) (N=721)

	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	外出しない	無回答
①仕事	21.5%	12.5%	1.5%	3.1%	29.1%	32.3%
②買物	33.1%	38.4%	11.1%	5.5%	1.4%	10.4%
③友人・知人とのおしゃべり	6.9%	12.9%	9.3%	27.3%	16.5%	27.0%
④趣味活動	7.9%	11.7%	11.5%	16.8%	26.6%	25.5%
⑤体操(運動・スポーツ)	11.1%	14.7%	10.3%	6.5%	29.5%	27.9%
⑥ボランティア活動	0.3%	1.4%	2.2%	6.0%	55.1%	35.1%
⑦町内会、自治会活動	0.1%	0.4%	0.6%	7.2%	55.9%	35.8%
⑧通院やリハビリ	2.4%	4.9%	5.8%	44.2%	20.5%	22.2%

1. 高齢者一般調査

問 15 あなたは、普段の生活の中で、どのような交通や移動手段を利用していますか。(3つまで○) (N=721)

1. 徒歩	74.5%	6. 電車	50.2%
2. 自転車	50.2%	7. タクシー	7.8%
3. 自家用車、バイク(自分で運転)	26.9%	8. その他〔具体的に：〕	0.4%
4. 自家用車、バイク(他人に乗せてもらう)	8.2%	9. 外出しないので利用しない	0.3%
5. バス	45.1%	無回答	1.5%

問 16 あなたは、地域の行事や活動には、どの程度参加・協力していますか。(1つに○) (N=721)

1. どの行事にも積極的に参加・協力する	1.4%
2. 関心があるものについては積極的に参加・協力する	15.8%
3. 頼まれれば参加・協力する	39.7%
4. 頼まれてもあまり参加・協力しない	6.2%
5. まったく参加・協力しない	32.5%
無回答	4.4%

困りごとや相談先についておたずねします

問 17 あなたは、普段の生活の場面で困ったことがありますか。(3つまで○) (N=721)

1. 日々の買物	3.5%	9. 入浴	0.8%
2. 日々のごみ出し	1.2%	10. 外出の際の移動手段	4.3%
3. 家具の移動	10.0%	11. 税金の支払いや公共機関の手続き	5.0%
4. 庭の手入れ	7.8%	12. 財産やお金の管理	1.7%
5. 掃除	4.2%	13. 電化製品の扱い方	7.6%
6. 洗濯	0.7%	14. 家族や親戚の介護	3.5%
7. 炊事	2.2%	15. その他〔具体的に：〕	2.6%
8. トイレ	0.7%	16. 特になし	62.6%
		無回答	6.4%

問 18 あなたは、普段の生活の中で困りごとがあったとき、どこに(誰に)相談しますか。(いくつでも○) (N=721)

1. 家族	78.2%	7. 病院の医師・看護師・相談員など	12.8%
2. 親戚	17.1%	8. 市の職員	4.3%
3. 友人・知人	36.6%	9. 社会福祉協議会職員	1.1%
4. 近所の人	6.7%	10. その他〔具体的に：〕	2.1%
5. 民生委員	1.2%	11. 相談できる人がいない	2.8%
6. 地域包括支援センターの職員	4.4%	無回答	3.2%

問 19 あなたは将来の備えとしてどのようなことに不安を感じますか。(いくつでも) (N=721)

1. 病院へ入院(又は施設へ入所)するとき、身元保証人がいない	7.8%
2. 入院をしたり、介護サービスを利用するとき、手続を手伝ってくれる人がいない	9.7%
3. 病気がなり外出が難しくなったときに、お金の出入れをお願いする人がいない	7.9%
4. 自分が亡くなったときの財産の管理を頼める人がいない	5.4%
5. その他〔具体的に: 〕	7.8%
6. 特にならない	69.6%
無回答	8.2%

健康管理についておたずねします

問 20 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(1つに○) (N=721)

1. よい	13.3%	3. ふつう	49.1%	5. よくない	1.4%
2. まあよい	16.0%	4. あまりよくない	17.2%	無回答	3.1%

問 21 あなたの普段の朝・昼・夜の食事は、自炊・手料理、中食※、外食のどれになることが多いですか。(①～③のそれぞれ1つに○) (N=721)

※家庭外で調理されたものを、購入もしくは配達等によって家庭内で食べる(冷凍食品、カップラーメンなどのインスタント食品を含む)。

	自炊・手料理	中食	外食	食べない	無回答
①朝食	84.3%	5.8%	1.4%	5.7%	2.8%
②昼食	61.6%	24.0%	7.1%	3.1%	4.3%
③夕食	86.5%	7.8%	1.5%	0.8%	3.3%

問 22 あなたは、普段どなたかと一緒に食事をする機会がありますか。(1つに○) (N=721)

1. 1日1回以上	57.6%	3. 月1回以上	15.4%
2. 週1回以上	9.0%	4. ほとんどない	15.1%
	無回答		2.9%

問 23 あなたは、普段体調を維持するためにに行っていることはありますか。(いくつでも) (N=721)

1. 定期的に運動している	44.7%
2. 栄養のバランスなどに気をつけ、食べている	54.5%
3. 規則正しい生活をすよう心がけている	58.0%
4. 病気の予防法などについて、テレビ・本・講演会などを利用して知識を深めている	25.4%
5. かかりつけの医師・歯科医師に、健康チェックをしてもらうようにしている	51.9%
6. 趣味活動などを行い、ストレスをためないようしている	31.5%
7. その他〔具体的に: 〕	4.9%
8. 特にならない	9.4%
無回答	1.7%

問 24 健康維持のために、今後利用する(したい)場所(施設)はどこですか。(いくつでも) (N=721)

1. 市のスポーツセンター・体育館	28.0%
2. 民間のスポーツジム・カルチャーセンター	13.9%
3. 福祉会館・老人福祉センター	13.2%
4. 公園・緑道の屋外	31.5%
5. 公民館・図書館	28.6%
6. その他〔具体的に: 〕	2.4%
7. 特にならない	30.2%
無回答	3.5%

問 25 市では、高齢者の方の健康維持を目的に、老人福祉センター、新町福祉会館、下保谷福祉会館、住吉老人福祉センターでトレーニングマシンの一般開放をしています。あなたはどの取組を知っていますか。(1つに○) (N=721)

1. 知っている	27.7%	2. 知らない	70.2%	無回答	2.1%
----------	-------	---------	-------	-----	------

問 26 あなたは「フレイル(虚弱)」という言葉を知っていますか。(1つに○) (N=721)

1. 言葉も内容も知っている	44.7%	3. 知らない	25.8%
2. 言葉は聞いたことがある	27.3%	無回答	2.2%

問 27 西東京市では、高齢者のフレイルを防ぎ、元気で過ごす時間を伸ばす取組として、どなたでも参加できるフレイルチェックを行っています。

あなたはこのフレイルチェックを受けたことがありますか。受けたことがない人は今後、受けてみたいですか。(1つに○) (N=721)

1. 受けたことがあり、今後も受けてみたい	5.7%
2. 受けたことはあるが、今後は受けなくてよい ⇒問 27-1へ	4.3%
3. 今後、受けてみたい	36.8%
4. 受けてみたくない	16.4%
5. わからない	33.8%
無回答	3.1%

問 27-1 問 27 で「2」と回答した方におたずねします。

今後は受けなくてよいと思う理由は何ですか。(1つに○) (n=31)

1. 自分の健康状態を確認することができた	22.6%
2. フレイルについて理解することができた	19.4%
3. 特に体調や生活に不安を感じていない	19.4%
4. 内容が自分にはあまり役立たないと感じた	19.4%
5. 受けるにあたり手間や時間がかかる	0.0%
6. その他〔具体的に: 〕	9.7%
無回答	9.7%

問 28 西東京市では、心身の状態が悪化してしまったり、もう一度自分らしい暮らしを取り戻せるよう、リハビリ専門職等との週1回の面談・指導を通して、自ら立てた目標に向かって、短期間(約3か月間)でその目標の達成を目指すサービスを実施しています。心身の状態が悪化してしまつたときに、このようなサービスを利用したいと思いますか。(1つに○) (N=721)

1. 利用したい	38.1%	3. わからない	44.4%
2. 利用したくない	11.4%	無回答	6.1%

問 29 あなたは、病气やけがなどで体の具合の悪いところ(自覚症状)がありますか。

(いくつでも○) (N=721)

1. ない	12.6%	8. 便秘	10.8%
2. 物忘れをする	19.7%	9. 腰痛	35.9%
3. 目のかすみ	22.3%	10. 手足の関節が痛む	18.2%
4. 物が見づらい	13.3%	11. 手足の動きが悪い	9.2%
5. 聞こえにくい	21.8%	12. 手足のしびれ	11.1%
6. せきやたんが出る	10.4%	13. 頻尿	28.8%
7. 肩こり	22.2%	14. その他【具体的に:】	8.6%
		無回答	2.6%

医療や介護についておたずねします

※ 「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」とは、あなたの生活の状況などを理解していて、健康や病気のことを日ごろから、気軽に相談できるような身近な調剤医、歯科医、薬局をさします。

問 30 あなたには、「かかりつけ医」がいますか。(1つに○) (N=721)

1. いる	77.4%	3. わからない	2.9%
2. いない	18.2%	無回答	1.5%

問 31 あなたには、「かかりつけ歯科医」がいますか。(1つに○) (N=721)

1. いる	74.5%	3. わからない	1.7%
2. いない	21.6%	無回答	2.2%

問 32 あなたには、「かかりつけ薬局」がありますか。(1つに○) (N=721)

1. いる	63.9%	3. わからない	4.6%
2. いない	29.7%	無回答	1.8%

問 33 あなたは、現在治療中*の病气やけががありますか。(いくつでも○) (N=721)

1. ない	16.8%	7. 歯の病气	18.9%
2. 糖尿病	13.3%	8. 関節症	7.6%
3. 脂質異常症(高コレステロール血症等)	20.4%	9. 腰痛症	14.6%
4. 眼の病气	16.4%	10. 骨粗しょう症	8.5%
5. 高血圧症	38.6%	11. 前立腺肥大症	5.0%
6. 狭心症・心筋梗塞	6.1%	12. その他【具体的に:】	18.2%
		無回答	2.8%

*はり、あんま、ぎゅう、柔道整復師による施術を含む。

問 34 あなたが、人生の最期を迎えたい場所はどこですか。(1つに○) (N=721)

1. 自宅	46.7%	⇒問 34-1へ
2. 子ども、親族の家	0.8%	
3. 高齢者向けのケア付き住宅	5.5%	⇒問 34-2へ
4. 特別養護老人ホームなどの福祉施設	6.7%	
5. 病院などの医療施設	16.2%	
6. その他【具体的に:】	1.2%	
7. わからない	20.1%	
無回答	2.6%	

問 34-1 問34で「1」「2」と回答した方におたずねします。

あなたは、あなたの希望の実現は可能だと思いますか。(1つに○) (n=343)

1. 難しいと思う	⇒問 34-2へ	30.9%	4. わからない	28.3%
2. 可能だと思う		38.2%	無回答	1.5%
3. その他【具体的に:】		1.2%		

問 34-2 問34で「3」~「6」のいずれか、または問34-1で「1」と回答した方におたずねします。それはなぜですか。(3つまで○) (n=320)

1. 家族や親族に負担をかけるから	66.6%
2. 介護してくれる家族や親族がいないから	16.9%
3. 急に病状が変わったときの対応が不安だから	35.3%
4. 訪問してくれる医師がいないから	4.7%
5. 訪問してくれる看護師がいないから	2.2%
6. 療養できる居住環境が整っていないから	16.6%
7. 介護のサービス体制が整っていないから	5.9%
8. 在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから	17.8%
9. その他【具体的に:】	5.6%
無回答	9.1%

問 35 あなたは、延命治療をどこまで希望しますか。(1つに○) (N=721)

1. 最後まで、できる限りの延命治療をしてほしい	2.2%
2. 延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい	32.5%
3. 意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療はしないでほしい	50.6%
4. その他【具体的に:】	1.7%
5. わからない	10.1%
無回答	2.9%

問 36 問34から問35までの設問でお聞きした希望を家族や身近な方に伝えていきますか。(1つに○) (N=721)

1. 伝えている	⇒問 36-1へ	40.8%
2. 伝えていない	⇒問 36-2へ	51.7%
3. その他【具体的に:】		1.8%
無回答		5.7%

問36-1 問36で「1」と回答した方におたずねします。
どのような形で伝えていきますか。(いくつでも○)

1. 口頭で	96.6%
2. 私的なメモで	5.4%
3. 遺言などで	2.4%
4. 遺活ノート(エンディングノート)で	6.1%
5. その他【具体的に: 無回答	1.7% 0.3%

問36-2 問36で「2」と回答した方におたずねします。
自分の希望を伝えていないのはなぜですか。(いくつでも○)

1. まだ伝える時期ではないと思うから	64.3%
2. 伝えることをためらっているから	5.1%
3. 家族の希望に任せたいから	26.8%
4. その他【具体的に: 無回答	9.4% 3.5%

問37 あなたが人生の最終段階で受けたい、もしくは受けたくない医療・ケアについて、ご家族や医療・介護従事者と話し合っていると思いませんか。(1つに○)

1. 詳しく話し合っている	2.8%
2. 話し合っている	23.3%
3. 話し合ったことはない 無回答	68.2% 5.7%

問37-1 問37で「3」と回答した方におたずねします。
これまで話し合ったこととは異なる理由は何ですか。(1つに○)

1. 話し合いたくないから	1.4%
2. 話し合う必要性を感じていないから	36.6%
3. 話し合うきっかけがなかったから	40.2%
4. 知識がないため、何を話し合っていかわからないから	11.0%
5. その他【具体的に: 無回答	9.6% 1.2%

生きがいについておたずねします

問38 あなたは、これまでお住まいの地域で、街中、いーなサロン、認知症カフェなどの住民同士が交流できる「通いの場」に参加したことがありますか。(1つに○)

1. 参加したことがある	2.5%
2. 身近にあることは知っているが、参加したことはない	30.0%
3. 知らない 無回答	64.8% 2.8%

問39 あなたが現在継続して行っていること、もしくは今後行いたいことは何ですか。
(いくつでも○) (N=721)

1. 働くこと	33.7%	11. 家族の介護	5.8%
2. 文章を書くこと、読むこと(読書など)	28.3%	12. 近所との付き合い	13.6%
3. 旅行すること	42.4%	13. 公民館・福祉会館・老人福祉センター等で の活動(即内会、自治会、社会福祉協議会 などの活動を含む)	10.5%
4. 買い物に出かけること	56.4%	14. 個人、家族、趣味の会などの仲間内の活動 (高齢者クラブ活動を含む)	21.2%
5. 歌うこと(カラオケ、合唱など)	14.0%	15. ボランティア活動	9.0%
6. ゲームで遊ぶこと ⇒ 問39-1ハ	13.2%	16. その他【具体的に: 無回答	2.5% 6.9% 2.5%
7. スポーツを楽しむこと	24.4%	17. 特になし	
8. インターネットを使うこと	24.0%		
9. 自然にふれること	24.7%		
10. 家族・親族とのふれあい	45.4%		

問39-1 問39で「6」と回答した方におたずねします。
あなたは、普段どのようにゲームを楽しんでいますか。(いくつでも○) (n=95)

1. 家庭用ゲーム機を使ってのゲーム	20.0%	4. ゲームセンター	2.1%
2. パソコンを使ってのゲーム	26.3%	5. その他【具体的に: 無回答	12.6% 0.0%
3. スマートフォンを使ってのゲーム	55.8%		

問40 西東京市では、高齢者を対象としたフレイル予防策として、eスポーツ[※]活動を推進しています。全ての福祉会館・福祉センターにeスポーツができる常設のスペースを設けておりますが、あなたはeスポーツを体験してみたいですか。(1つに○) (N=721)

※コンピュータや家庭用ゲーム機を用いて、競技性のあるゲームをスポーツのように楽しむ活動

1. すでに体験している ⇒ 問40-1、問40-2ハ	2.4%
2. ぜひ体験してみたい	3.2%
3. できれば体験してみたい	20.9%
4. あまり体験したくない	22.2%
5. まったく体験したくない	15.1%
6. わからない 無回答	31.1% 5.1%

問40-1 問40で「1」と回答した方におたずねします。
eスポーツを体験しようと思った理由をお聞かせください。(いくつでも○) (n=17)

1. 外出の頻度を増やすため	23.5%	4. 楽しみを増やすため	47.1%
2. 人との交流をするため	47.1%	5. その他【具体的に: 無回答	11.8% 5.9%
3. 脳トレ・ニングになるため	29.4%		

問40-2 問40で「1」と回答した方におたずねします。
eスポーツを体験してよかったことをお聞かせください。(いくつでも○) (n=17)

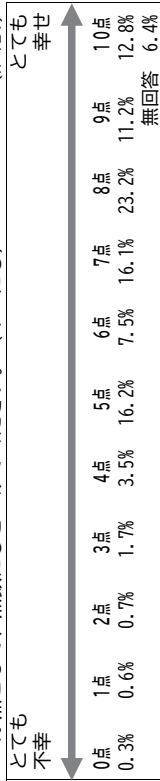
1. 外出の頻度が増えた	41.2%	4. 楽しみが増えた	41.2%
2. 人との交流が増えた	41.2%	5. その他【具体的に: 無回答	17.6% 5.9%
3. 脳トレ・ニングになった	23.5%		

問 41 次のような活動のうち、あなたができていると思うものはどれですか。(いくつでも) (N=721)

1. 見守りや声かけなど	30.7%	7. 行事の手伝い	15.4%
2. 話し相手	32.5%	8. 子育ての手伝い	5.7%
3. ごみ出し、電球の取替えなど身の回りの	26.1%	9. 趣味、特技を生かしたボランティア	11.5%
簡単な手伝い	15.8%	10. 介護支援ボランティア*	3.7%
4. 草むしり、雪かきなどの力仕事	21.6%	11. 上記のどれも参加は難しい	12.3%
5. 買物の付き添い	12.3%	12. わからない	19.8%
6. 医療機関通院時の付き添い	12.3%	13. その他(具体的に:)	1.4%
		無回答	6.0%

*介護に関連する各種のボランティア活動によって、年間60ポイント(6千円)を上限として換金できるポイントを得られる仕組み(60歳以上)

問 42 あなたは、現在のどの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数に○をつけてください。(1つに○) (N=721)



問 43 あなたが幸せと感じる上で、重要だと思うものは何ですか。(いくつでも) (N=721)

1. 健康	85.4%	5. 仕事・役割があること	29.8%
2. 経済的安定	66.7%	6. 趣味や楽しみがあること	55.8%
3. 家族との関係	68.1%	7. 安全・安心な暮らし	49.9%
4. 友人・仲間とのつながり	52.3%	8. その他(具体的に:)	1.9%
		無回答	2.8%

認知症についておたずねします

問 44 あなたは、認知症について、どの程度知っていますか。(1つに○) (N=721)

1. よく知っている	15.5%	3. あまりよく知らない	15.4%
2. ある程度は知っている	63.9%	4. まったく知らない	2.1%
		無回答	3.1%

問 45 あなたが、認知症について知っていることは、どんなことですか。(いくつでも) (N=721)

1. 認知症の原因となる病気(アルツハイマー病など)	80.4%
2. 認知症の症状(記憶障害、妄想など)	73.8%
3. 認知症のある人への接し方(話しかけ方など)	25.2%
4. 認知症のある人へのケア(介護)の方法	10.7%
5. 認知症のある人が在宅で利用できるサービス	12.2%
6. 認知症のある人に関する相談窓口	16.9%
無回答	7.1%

問 46 あなたが、認知症について知りたいことはどんなことですか。(いくつでも) (N=721)

1. 認知症のある人への接し方(話しかけ方など)	24.1%
2. 認知症の予防に有効なこと	64.4%
3. 認知症の症状(記憶障害、妄想など)	17.1%
4. 認知症の原因となる病気(アルツハイマー病など)	20.8%
5. 認知症のある人へのケア(介護)の方法	21.1%
6. 認知症のある人が在宅で利用できるサービス	29.3%
7. 認知症に関する相談窓口	31.2%
無回答	12.1%

問 47 あなたがもし認知症になったら、どのように暮らしたいですか。(いくつでも) (N=721)

1. 医療や介護を受けながら、今まで暮らしてきた地域で生活したい	58.0%
2. 介護施設などで必要な支援・サービスを受けながら生活したい	41.9%
3. 家族の介護を受けながら、今まで暮らしてきた地域で生活したい	28.2%
4. 地域の人たちに支えられながら、今まで暮らしてきた地域で生活したい	10.3%
5. 支援・サービスを受けずに、今までどおり暮らしたい	5.5%
無回答	5.8%

問 48 あなたが地域で暮らす認知症のある人にできる(できそうな)支援はありますか。(いくつでも) (N=721)

1. 見守り・声かけ	56.4%	4. コミ出しなどよっつとした家事のお手伝い	29.4%
2. 近くの場所の案内	20.4%	5. 買い物代行・同行	15.4%
3. 話し相手	24.1%	6. 外出時の移動支援	6.1%
		無回答	20.0%

問 49 あなた自身やご家族などが認知症になったら、どこに(誰に)相談しますか。または、どこに(誰に)相談しましたか。(いくつでも) (N=721)

1. クリニック(かかりつけ医)	45.1%	5. ケアマネジャー	18.4%
2. 市役所の窓口	31.8%	6. 専門病院	16.2%
3. 地域包括支援センター	42.0%	7. 友人・知人	13.0%
4. 親族	37.9%	無回答	4.4%

問 50 今後の認知症のある人やご家族への支援について、どのようなことを望みますか。(いくつでも) (N=721)

1. 認知症を早く発見し、診断できる仕組みの充実	72.3%
2. 行方不明にならないための見守りや早期発見の仕組みの充実	36.2%
3. 介護する家族への支援(家族向けセミナーなど)の充実	48.4%
4. 財産や権利が守られる仕組みの充実	25.2%
5. 認知症をより理解できる普及啓蒙の充実	23.9%
6. 地域のボランティアの充実	14.8%
7. 認知症のある人が活動できる場所の充実	29.3%
8. その他(具体的に:)	1.1%
無回答	6.7%

高齢者虐待についておたずねします

問 51 次の中で、高齢者虐待へつながる可能性があると思うものは何ですか。(いくつでも○) (N=721)

- | | |
|---|-------|
| 1. 認知症のある親が徘徊をしないように、部屋の外に出さなかった | 54.1% |
| 2. 高齢の親に忘れっぽくなった様子があつたため、なぜ忘れてしまったのかを繰り返し聞いた | 48.0% |
| 3. 高齢の親が体調が悪い様子であつたが、通院を拒否したため、そのままにした | 47.4% |
| 4. オムツをしている高齢の親がトイレに失敗しオムツを濡らしてしまつたため、ズボンを履かせなかった | 61.2% |
| 5. 忘れっぽくなった高齢の親名義の定期預金を、子の判断で解約した | 35.1% |
| 6. わからない | 18.4% |
| 無回答 | 10.5% |

問 52 高齢者虐待に気がついたときの通報先または相談先を知っていますか。(1つに○) (N=721)

- | | |
|-------------------------|-------|
| 1. 知っている | 10.5% |
| ⇒知っている相談先をご記入ください【具体的に】 |] |
| 2. 知らない | 82.1% |
| 無回答 | 7.4% |

高齢者を支える仕組みについておたずねします

問 53 あなたは、「地域包括支援センター※」を知っていますか。(1つに○) (N=721)

※高齢者の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、介護・福祉・健康・医療など様々な面から関係機関との連携をとりながら、総合的に支えていく機関

- | | |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 59.8% |
| 2. 知らない | 35.5% |
| 無回答 | 4.7% |

問 54 介護保険外の高齢者福祉サービス(紙おむつの支給、見守り配食など)について、利用したことがありますか。(1つに○) (N=721)

- | | |
|-------------------|---------|
| 1. 利用している(利用していた) | 8.9% |
| 2. 利用したことがない | ⇒問54-1へ |
| 無回答 | 87.5% |
| | 3.6% |

問 54-1 問 54 で「2」と回答した方におたずねします。

あなたが、今後介護等が必要な状態になった時に、「受けてみたい」または「必要だと思う」サービスは何ですか。(いくつでも○) (n=631)

- | | |
|--------------------------------|-------|
| 1. 見守りを行う配食サービス | 75.4% |
| 2. 紙おむつを自宅に届けるサービス | 55.9% |
| 3. 住宅改修(浴槽交換など)に関する費用を助成するサービス | 42.3% |
| 4. 介助付きのタクシーを手配するサービス | 48.0% |
| 5. 緊急時にコントロールセンターに通報するサービス | 58.6% |
| 6. 自宅で散髪等をしてもらう訪問理・美容サービス | 41.4% |
| 7. 入浴施設の入浴券を支給するサービス | 32.8% |
| 8. その他【具体的に】 | 3.0% |
| 無回答 | 6.2% |

問 55 介護保険外の高齢者福祉サービス(紙おむつの支給、見守り配食など)については、高齢者人口の増加に伴い、今後も利用が増えていくと予想されます。これに対応するため、あなたの考えに一番近いものはどれですか。(1つに○) (N=721)

- | | |
|---|-------|
| 1. サービスの対象者などの内容を変えず、サービスの利用する人の自己負担を増やして対応する | 12.9% |
| 2. 自己負担を増やさずに、サービスの対象者などの内容を変えて対応する | 19.1% |
| 3. 利用が増えても高齢者福祉サービスの内容・自己負担は変えずに対応する | 38.7% |
| 4. その他【具体的に】 |] |
| 5. わからない | 1.4% |
| 無回答 | 18.3% |
| | 9.6% |

問 56 あなたが、今後地域で暮らしていくために必要なことは、次のどれですか。(いくつでも○) (N=721)

- | | |
|-------------------------|-------|
| 1. 近所とのつながり | 39.9% |
| 2. 友人とのつながり | 39.5% |
| 3. 家族、親族とのつながり | 64.4% |
| 4. 就労の場 | 13.3% |
| 5. ボランティア等の社会貢献できる場 | 10.0% |
| 6. 地域で気軽に集まり語り合える場 | 14.8% |
| 7. 趣味や特技を発揮できる場 | 15.3% |
| 8. スポーツや運動などを楽しめる場 | 24.0% |
| 9. 健康相談ができる場 | 35.2% |
| 10. 病気やケガなどの医療相談ができる場 | 36.2% |
| 11. 暮らしに関する困りごとなど相談できる場 | 37.7% |
| 12. 介護・医療を受けながら暮らせる住まい | 38.8% |
| 13. 自立して暮らせる生活支援 | 39.0% |
| 14. 自立が困難でも権利が守られる仕組み | 21.6% |
| 15. その他【具体的に】 |] |
| 16. わからない | 0.8% |
| 無回答 | 6.5% |
| | 3.6% |

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめの上、同封の返信用封筒(切手は不要)に入れて、**11月25日(火)まで**にお近くのポストに投函してください。

2 介護予防・日常生活圏域二一ス調査

2 介護予防・日常生活圏域二一ス調査

問1 調査票の記入日をご記入ください。

記入日	令和7年	月	日
-----	------	---	---

問2 調査票を記入されたのはななですか。(1つに○) (N=1,523)

1. あて名のご本人が記入	88.4%
2. ご家族が記入〔あて名のご本人からみられた続柄：〕	5.0%
3. その他	0.5%
無回答	6.1%

あなた(あて名ご本人)についておたずねします

※以下の質問で「あなた」とは、あて名ご本人のことです。お間違えないようにお答えください。

問3 あなたの性別をお答えください。(1つに○) (N=1,523)

1. 男性	36.6%	2. 女性	61.7%
		無回答	1.7%

問4 あなたの年齢をお答えください。(数字を記入) (N=1,523)

※令和7年11月1日現在の年齢でお答えください。

平均81.2	歳
--------	---

問5 あなたの要支援認定の状況についてお答えください。(1つに○)

※令和7年11月1日現在の状況でお答えください。更新申請中などの理由で、結果が出ていない方は、分かっている状況でお答えください。(N=1,523)

1. 認定なし	52.1%	3. 要支援2	13.1%	5. わからない	5.2%
2. 要支援1	22.8%	4. 事業対象者	2.2%	無回答	4.5%

問6 あなたのお住まいの地区をお答えください。(1つに○) (N=1,523)

1. 田無町	9.1%	7. 向台町	3.0%	13. 富士町	7.0%	19. ひばりが丘	5.6%
2. 南町	9.3%	8. 芝久保町	6.6%	14. 中町	2.8%	20. 栄町	1.6%
3. 西原町	6.2%	9. 新町	3.6%	15. 東町	2.2%	21. 北町	2.2%
4. 緑町	5.6%	10. 柳沢	6.0%	16. 泉町	2.7%	22. 下保谷	3.1%
5. 谷戸町	4.4%	11. 栗伏見	1.4%	17. 住吉町	1.9%	無回答	1.4%
6. 北原町	7.3%	12. 俣谷町	3.4%	18. ひばりが丘	3.5%		

2 介護予防・日常生活圏域二一ス調査

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定のための市民アンケート調査 (介護予防・日常生活圏域二一ス調査) ご協力をお願い

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を計画期間として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和8年度に、令和9年度から11年度までの「高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」を策定します。

このアンケート調査は、65歳以上の市民の皆様へ、健康・福祉・介護に関することや日常生活でお困りのことなどについてご意見とご要望をお聞かせいただき、計画の策定に役立てるものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年11月

西東京市長 池澤 隆史

記入についてのお願い

- この調査は、令和7年11月1日現在でお答えください。
- 回答は、特に説明のない限り、あてはまる番号を○で囲んでください。
- 回答が「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み、〔 〕内にその内容を記入してください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印(⇒)など、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。
- 回答はできる限り、対象者ご本人がご記入ください。なお、対象者ご本人おひとりの回答が難しい場合は、ご家族の方にお手伝いいただくか、対象者のご意見を聞いた上でご家族の方が代わりにご記入ください。

★対象の方が何らかの事情により記入できない場合は、回答不要です。下の枠内のいずれかに○印をつけてご返送ください。

1. 医療機関入院中	0.2%	2. 福祉施設入所中	0.5%	3. 転居	0.1%	4. その他〔 〕	2.0%	無回答	97.3%
------------	------	------------	------	-------	------	-----------	------	-----	-------

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒(切手は不要)に入れ、

11月25日(火)までに ご返送ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時(土日・祝日を除く。)

★調査の内容、調査票の書き方や同封物の不足について

株式会社 生活構造研究所 TEL 0120-650-276 (フリーダイヤル)

★調査の趣旨について

西東京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810～2816 (直通)

(この調査は西東京市が株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。)

あなたのご家族や生活状況についておたずねします

問7 家族構成をお教えください。(1つに○) (N=1,523)

1. 1人暮らし	31.1%	4. 息子・娘との2世帯	16.1%
2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	33.8%	5. その他(具体的に:	13.8%
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	1.9%	無回答	3.3%

問8 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要です。(1つに○) (N=1,523)

1. 介護・介助は必要ない	68.4%
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	15.6%
3. 現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)	12.3%
無回答	3.7%

⇒問8-1へ

問8-1 問8において、「2」または「3」と答えた方のみにおたずねします。
介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(いくつでも○) (n=426)

1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	5.9%	9. 腎疾患(透析)	2.3%
2. 心臓病	11.3%	10. 視覚・聴覚障害	7.3%
3. がん(悪性新生物)	4.9%	11. 骨折・転倒	20.0%
4. 呼吸器の病気(肺炎・肺気腫)	6.1%	12. 脊椎損傷	10.8%
5. 関節の病気(リウマチ等)	7.3%	13. 高齢による衰弱	28.9%
6. 認知症(アルツハイマー病等)	2.3%	14. その他(具体的に:	24.6%
7. パーキンソン病	2.1%	15. 不明	1.2%
8. 糖尿病	9.9%	無回答	5.9%

問9 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○) (N=1,523)

1. 大変苦しい	6.6%	4. ややゆとりがある	9.1%
2. やや苦しい	20.3%	5. 大変ゆとりがある	1.4%
3. かつう	60.4%	無回答	2.1%

問10 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つに○) (N=1,523)

1. 持家(一戸建て)	59.5%	5. 民間賃貸住宅(集合住宅)	6.4%
2. 持家(集合住宅)	16.7%	6. 借家	0.7%
3. 公営賃貸住宅	12.8%	7. その他(具体的に:	1.4%
4. 民間賃貸住宅(一戸建て)	0.2%	無回答	2.3%

問11 あなたは、今後も西東京市に住み続けたいですか。(1つに○) (N=1,523)

1. これからも住み続けたい	79.4%	4. 市外に転出したい	0.3%
2. 当分は住み続けたい	10.6%	5. 市外に転出する予定がある	0.3%
3. できれば市外に転出したい	0.9%	6. どちらとも言えない	5.1%
無回答		無回答	3.3%

からだを動かすことについておたずねします

問12 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。(1つに○) (N=1,523)

1. できるし、している	40.4%	3. できない	36.6%
2. できるけどしていない	20.6%	無回答	2.4%

問13 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つに○) (N=1,523)

1. できるし、している	62.4%	3. できない	20.7%
2. できるけどしていない	14.6%	無回答	2.3%

問14 15分位続けて歩いていきますか。(1つに○) (N=1,523)

1. できるし、している	72.4%	3. できない	14.2%
2. できるけどしていない	11.1%	無回答	2.2%

問15 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つに○) (N=1,523)

1. 何度もある	10.4%	3. ない	62.0%
2. 1度ある	25.5%	無回答	2.0%

問16 転倒に対する不安は大きいですか。(1つに○) (N=1,523)

1. とても不安である	24.8%	3. あまり不安でない	17.8%
2. やや不安である	43.9%	4. 不安でない	12.0%
無回答		無回答	1.5%

問17 週に1回以上は外出していますか。(1つに○) (N=1,523)

1. ほとんど外出しない	6.8%	3. 週2~4回	46.7%
2. 週1回	15.4%	4. 週5回以上	29.4%
無回答		無回答	1.6%

問18 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つに○) (N=1,523)

1. とても減っている	7.4%	3. あまり減っていない	29.9%
2. 減っている	33.2%	4. 減っていない	27.9%
無回答		無回答	1.6%

問19 外出を控えていますか。(1つに○) (N=1,523)

1. はい ⇒問19-1へ	26.5%	2. いいえ	70.0%
無回答		無回答	3.5%

問 19-1 問 19 で「1. はい」(外出を控えている)の方のみにおたずねします。

外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも) (n=403)

1. 病気	15.6%	6. 目の障害	8.4%
2. 障害(脳卒中の後遺症など)	3.0%	7. 外での楽しみがない	17.4%
3. 足腰などの痛み	63.0%	8. 経済的に出られない	6.5%
4. トイレの心配(失禁など)	21.8%	9. 交通手段がない	12.7%
5. 耳の障害(聞こえの問題など)	10.9%	10. その他(具体的に: 無回答)	15.6%
			1.7%

問 20 外出する際の移動手段は何ですか。(いくつでも) (N=1,523)

1. 徒歩	74.9%	8. 病院や施設のバス	3.6%
2. 自転車	31.3%	9. 車いす	0.7%
3. バイク	1.1%	10. 電動車いす(カート)	0.2%
4. 自動車(自分で運転)	15.4%	11. 歩行器・シルバーカー	6.8%
5. 自動車(人に乗せてもらう)	21.5%	12. タクシー	26.3%
6. 電車	47.4%	13. その他(具体的に: 無回答)	2.2%
7. 路線バス	58.0%		2.6%

食べることについておたずねします

問 21 身長・体重をご記入ください。(N=1,523)

身長	平均 156.1	cm	体重	平均 55.0	kg
----	----------	----	----	---------	----

問 22 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つに○) (N=1,523)

1. はい	35.5%	2. いいえ	62.7%	無回答	1.8%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 23 お茶や汁物等でむせることがありますか。(1つに○) (N=1,523)

1. はい	31.1%	2. いいえ	67.5%	無回答	1.4%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 24 口の渴きが気になりますか。(1つに○) (N=1,523)

1. はい	34.8%	2. いいえ	63.5%	無回答	1.7%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 25 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。)(1つに○) (N=1,523)

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	18.2%
2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	30.9%
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	38.2%
4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	8.1%
無回答	4.5%

問 26 6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか。(1つに○) (N=1,523)

1. はい	14.1%	2. いいえ	81.5%	無回答	4.3%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 27 どなたかと食事をもつにする機会はありますか。(1つに○) (N=1,523)

1. 毎日ある	46.9%	3. 月に何度かある	19.4%	5. ほとんどない	11.8%
2. 週に何度かある	7.9%	4. 年に何度かある	10.2%	無回答	3.8%

毎日の生活についておたずねします

問 28 物忘れが多いと感じますか。(1つに○) (N=1,523)

1. はい	43.1%	2. いいえ	53.4%	無回答	3.5%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 29 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可) (1つに○) (N=1,523)

1. できるし、している	74.0%	3. できない	11.0%
2. できるけどしていません	12.7%	無回答	2.2%

問 30 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(1つに○) (N=1,523)

1. できるし、している	80.7%	3. できない	6.7%
2. できるけどしていません	10.3%	無回答	2.3%

問 31 自分で食事の用意をしていますか。(1つに○) (N=1,523)

1. できるし、している	74.1%	3. できない	8.1%
2. できるけどしていません	16.0%	無回答	1.9%

問 32 自分で請求書の支払いをしていますか。(1つに○) (N=1,523)

1. できるし、している	82.4%	3. できない	4.6%
2. できるけどしていません	10.5%	無回答	2.5%

問 33 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(1つに○) (N=1,523)

1. できるし、している	82.5%	3. できない	4.7%
2. できるけどしていません	10.8%	無回答	2.0%

問 34 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。(1つに○) (N=1,523)

1. はい	87.9%	2. いいえ	9.8%	無回答	2.3%
-------	-------	--------	------	-----	------

問 35 新聞を読んでいますか。(1つに○) (N=1,523)

1. はい	68.8%	2. いいえ	29.2%	無回答	2.0%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 36 本や雑誌を読んでいますか。(1つに○) (N=1,523)

1. はい	69.1%	2. いいえ	28.9%	無回答	2.0%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問37 健康についての記事や番組に関心がありますか。(1つに○) (N=1,523)
 1. はい 90.5% 2. いいえ 7.0% 無回答 2.5%

問38 友人の家を訪ねていますか。(1つに○) (N=1,523)
 1. はい 33.3% 2. いいえ 63.7% 無回答 3.0%

問39 家族や友人の相談にのっていますか。(1つに○) (N=1,523)
 1. はい 68.6% 2. いいえ 28.2% 無回答 3.2%

問40 病人を見舞うことができますか。(1つに○) (N=1,523)
 1. はい 69.6% 2. いいえ 26.7% 無回答 3.7%

問41 若い人に自分から話しかけることがありますか。(1つに○) (N=1,523)
 1. はい 66.3% 2. いいえ 30.9% 無回答 2.8%

問42 あなたは、普段どのような情報通信機器を利用していますか。(いくつでも○) (N=1,523)
 1. スマートフォン 60.0% 5. 固定電話・FAX 55.5%
 2. タブレット型端末 9.6% 6. その他【具体的に：】 3.9%
 3. 携帯電話（スマートフォン以外） 23.9% 7. 情報通信機器は利用していない 3.1%
 4. パソコン 23.2% 無回答 3.3%

問43 あなたが、普段インターネット上で利用しているものがあれば教えてください。(いくつでも○) (N=1,523)

1. 商品・サービスの予約や購入	23.6%	5. 地図・交通情報	34.9%
2. 情報収集（検索、閲覧）	40.4%	6. 電子決済・QRコード決済	13.5%
3. 動画閲覧	18.7%	7. その他【具体的に：】	2.7%
4. SNS*（LINE（ライン）やX（エックス）など）	28.6%	8. 利用していない	30.5%
		無回答	13.0%

※SNS（ソーシャルネットワークサービス）
 ネットワーク上のコミュニケーション機能を持ったサービス全般を指す

問44 あなたは、スマートフォンやタブレットなどの操作や設定など、情報通信機器の使い方を教えてください。(1つに○) (N=1,523)

1. ぜひ参加（利用）したい	23.0%	4. 必要性を感じない・使ってもらえない	14.6%
2. 関心はあるが自信がない	16.3%	5. わからない	8.0%
3. 今は必要ない	33.8%	無回答	4.1%

地域での活動についておたずねします

問45 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(①～⑧のそれぞれ1つに○) (N=1,523)

	週4回以上	週3回	週2回	週1回	月に1～3回	年に1回	参加しない	無回答
①ボランティアのグループ	0.3%	1.4%	2.0%	3.5%	2.8%	60.9%	29.1%	
②スポーツ関係のグループやクラブ	4.1%	6.7%	7.6%	3.1%	0.7%	53.1%	24.8%	
③趣味関係のグループ	1.0%	3.6%	6.4%	9.8%	3.5%	51.2%	24.4%	
④学習・教養サークル	0.4%	0.8%	1.7%	3.2%	2.6%	60.7%	30.6%	
⑤介護予防のための通いの場（街中いきいきサロン、いきいきミニデイズ、いきいき百歳体操など）	0.5%	2.2%	5.9%	1.8%	1.0%	61.7%	27.0%	
⑥老人クラブ	0.1%	0.8%	1.1%	1.9%	1.0%	65.5%	29.6%	
⑦町内会・自治会	0.2%	0.1%	0.5%	1.9%	8.1%	59.4%	29.9%	
⑧収入のある仕事	5.3%	4.1%	1.5%	1.2%	1.4%	57.3%	29.2%	

問46 地域住民の有志によって、健康づくりや活動や趣味等のグループ活動を行っている、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つに○) (N=1,523)

1. 是非参加したい	8.0%	3. 参加したくない	35.5%	無回答	6.2%
2. 参加してもよい	43.7%	4. 既に参加している	6.6%		

問47 地域住民の有志によって、健康づくりや活動や趣味等のグループ活動を行っている、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。(1つに○) (N=1,523)

1. 是非参加したい	2.1%	3. 参加したくない	61.2%	無回答	6.4%
2. 参加してもよい	25.8%	4. 既に参加している	4.5%		

たすけあいについて
あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

問 48 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいいますか。（いくつでも○）（N=1,523）

1. 配偶者	40.4%	5. 近隣	12.1%
2. 同居の子ども	21.1%	6. 友人	45.6%
3. 別居の子ども	41.8%	7. その他【具体的に：】	2.8%
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	32.0%	8. そのような人はいない	5.3%
		無回答	2.6%

問 49 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいいますか。（いくつでも○）（N=1,523）

1. 配偶者	37.6%	5. 近隣	12.1%
2. 同居の子ども	17.2%	6. 友人	44.0%
3. 別居の子ども	33.0%	7. その他【具体的に：】	1.9%
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	31.5%	8. そのような人はいない	9.7%
		無回答	3.6%

問 50 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいいますか。（いくつでも○）（N=1,523）

1. 配偶者	41.5%	5. 近隣	2.7%
2. 同居の子ども	24.2%	6. 友人	5.7%
3. 別居の子ども	35.9%	7. その他【具体的に：】	2.6%
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	13.6%	8. そのような人はいない	10.9%
		無回答	3.0%

問 51 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人はいいますか。（いくつでも○）（N=1,523）

1. 配偶者	42.6%	5. 近隣	3.7%
2. 同居の子ども	17.0%	6. 友人	7.2%
3. 別居の子ども	17.9%	7. その他【具体的に：】	1.9%
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	15.3%	8. そのような人はいない	25.1%
		無回答	5.9%

問 52 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（いくつでも○）（N=1,523）

1. 自治会・町内会・老人クラブ	3.2%	5. 地域包括支援センター・市役所	34.7%
2. 社会福祉協議会・民生委員	4.4%	6. その他【具体的に：】	4.0%
3. ケアマネジャー	20.4%	7. そのような人はいない	30.1%
4. 医師・歯科医師・看護師	33.3%	無回答	5.6%

問 53 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。（1つに○）（N=1,523）

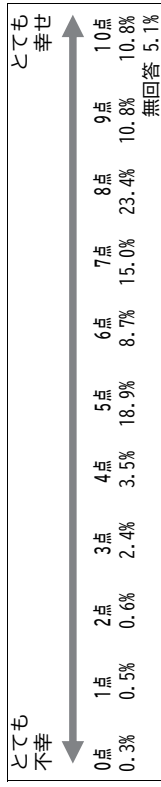
1. 毎日ある	5.3%	4. 年に何度かある	22.8%
2. 週に何度かある	24.1%	5. ほとんどない	20.9%
3. 月に何度かある	23.2%	無回答	3.7%

健康についておたずねします

問 54 現在のあなたの健康状態はいかがですか。（1つに○）（N=1,523）

1. とてもよい	6.4%	3. あまりよくない	26.3%	無回答	2.4%
2. まあよい	59.0%	4. よくない	6.0%		

問 55 あなたは、現在のどの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数に○をつけてください。（N=1,523）



問 56 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。（1つに○）（N=1,523）

1. はい	42.5%	2. いいえ	53.6%	無回答	3.8%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 57 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。（1つに○）（N=1,523）

1. はい	28.0%	2. いいえ	67.0%	無回答	5.0%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 58 タバコは吸っていますか。（1つに○）（N=1,523）

1. ほぼ毎日吸っている	4.8%	3. 吸っていたがやめた	26.9%
2. 時々吸っている	1.2%	4. もともと吸っていない	64.7%
		無回答	2.3%

問 59 お酒は飲みますか。（1つに○）（N=1,523）

1. ほぼ毎日飲む	15.3%	3. ほとんど飲まない	27.5%
2. 時々飲む	18.3%	4. もともと飲まない	36.7%
		無回答	2.2%

問 60 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも○) (N=1,523)

1. ない	8.5%	11. 外傷(転倒・骨折等)	5.6%
2. 高血圧	46.6%	12. がん(悪性新生物)	6.0%
3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	3.9%	13. 血液・免疫の病気	1.8%
4. 心臓病	14.6%	14. うつ病	0.9%
5. 糖尿病	14.6%	15. 認知症(アルツハイマー病等)	1.1%
6. 高脂血症(脂質異常)	17.0%	16. パーキンソン病	1.0%
7. 呼吸器の病気(肺炎や気管炎等)	6.8%	17. 目の病気	19.8%
8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気	7.1%	18. 耳の病気	7.8%
9. 腎臓・前立腺の病気	9.7%	19. その他(具体的に:)	12.2%
10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症 関節症等)	19.2%	無回答	4.8%

問 61 あなたは「フレイル(虚弱)」という言葉を知っていますか。(1つに○) (N=1,523)

1. 言葉も内容も知らない	42.5%	3. 知らない	20.7%
2. 言葉は聞いたことがある	32.0%	無回答	4.7%

問 62 西東京市では、高齢者のフレイルを防止、元気で過ごす時間を伸ばす取組として、どなたでも参加できるフレイルチェックを行っています。あなたはこのフレイルチェックを受けたことがありますか。受けたことがない人は今後、受けてみたいですか。(1つに○) (N=1,523)

1. 受けたことがあり、今後も受けてみたい	9.3%
2. 受けたことはあるが、今後は受けなくてよい	5.2%
3. 今後、受けてみたい	30.5%
4. 受けてみたくない	19.2%
5. わからない	31.0%
無回答	4.9%

問 62-1 問 62 で「2」と回答した方におたずねします。(1つに○) (n=79)

受けなくてよいと思う理由は何ですか。(1つに○)

1. 自分の健康状態を確認することができた	24.1%
2. フレイルについて理解することができた	26.6%
3. 特に体調や生活に不安を感じていない	7.6%
4. 内容が自分にはあまり役立たないと感じた	13.9%
5. 受けるにあたり手間や時間がかかる	11.4%
6. その他(具体的に:)	10.1%
無回答	6.3%

問 63 あなたは、普段コンピューターや家庭用ゲーム機を用いたゲームを楽しんでいますか。(1つに○) (N=1,523)

1. 楽しんでいる	⇒問 63-1ハ	14.4%	2. ゲームをしていない	81.6%
無回答			無回答	4.0%

問 63-1 問 63 で「1」と回答した方におたずねします。あなたは、普段どのようにゲームを楽しんでいますか。(いくつでも○) (n=219)

1. 家庭用ゲーム機を使ってのゲーム	11.9%	4. ゲームセンター	0.9%
2. パソコンを使ってのゲーム	41.1%	5. その他(具体的に:)	6.4%
3. スマートフォンを使ってのゲーム	55.3%	無回答	2.3%

問 64 西東京市では、高齢者を対象としたフレイル予防策として、eスポーツ※活動を推進しています。全ての福祉会館・福祉センターにeスポーツができる常設のスペースを設けておりありますが、あなたはeスポーツを体験してみたいですか。(1つに○) (N=1,523)

※コンピューターや家庭用ゲーム機を用いて、競技性のあるゲームをスポーツのように楽しむ活動

1. すでに体験している	⇒問 64-1、問 64-2ハ	4.3%
2. ぜひ体験してみたい		4.1%
3. できれば体験してみたい		16.7%
4. あまり体験したくない		23.9%
5. まったく体験したくない		18.2%
6. わからない		24.6%
無回答		8.2%

問 64-1 問 64 で「1」と回答した方におたずねします。eスポーツを体験しようと思った理由をお聞かせください。(いくつでも○) (n=65)

1. 外出の頻度を増やすため	30.8%	4. 楽しみを増やすため	35.4%
2. 人との交流をするため	41.5%	5. その他(具体的に:)	20.0%
3. 脳トレーニングになるため	44.6%	無回答	3.1%

問 64-2 問 64 で「1」と回答した方におたずねします。eスポーツを体験してよかったことをお聞かせください。(いくつでも○) (n=65)

1. 外出の頻度が増えた	21.5%	4. 楽しみが増えた	40.0%
2. 人との交流が増えた	33.8%	5. その他(具体的に:)	13.8%
3. 脳トレーニングになった	20.0%	無回答	23.1%

問 65 西東京市では、心身の状態が悪化してしまったり、もう一度自分らしい暮らしを取り戻せるよう、リハビリ専門職等との週1回の面談・指導を通して、自ら立てた目標に向かい、短期間(約3か月間)でその目標の達成を目指すサービスを実施しています。心身の状態が悪化してしまったり、このようなサービスを利用したいと思いますか。(1つに○) (N=1,523)

1. 利用したい	29.9%	3. わからない	48.3%
2. 利用したくない	14.9%	無回答	6.8%

認知症についておたずねします

問 66 あなたは、認知症について、どの程度知っていますか。(1つに○) (N=1,523)

1. よく知っている	16.5%	3. あまりよく知らない	14.7%
2. ある程度は知っている	62.4%	4. まったく知らない	1.6%
無回答		4.8%	

問 67 あなたが、認知症について知っていることは、どんなことですか。(いくつでも○) (N=1,523)

1. 認知症の原因となる病気(アルツハイマー病など)	70.4%	
2. 認知症の症状(記憶障害、妄想など)	69.4%	
3. 認知症のある人への接し方(話しかけ方など)	23.4%	
4. 認知症のある人へのケア(介護)の方法	12.2%	
5. 認知症のある人が在宅で利用できるサービス	12.1%	
6. 認知症のある人に関する相談窓口	16.9%	
無回答		11.5%

問 68 あなたが、認知症について知りたいことはどんなことですか。(いくつでも○) (N=1,523)

1. 認知症のある人への接し方(話しかけ方など)	26.9%	
2. 認知症の予防に有効なこと	60.5%	
3. 認知症の症状(記憶障害、妄想など)	20.1%	
4. 認知症の原因となる病気(アルツハイマー病など)	22.7%	
5. 認知症のある人へのケア(介護)の方法	22.0%	
6. 認知症のある人が在宅で利用できるサービス	33.6%	
7. 認知症に関する相談窓口	33.4%	
無回答		15.0%

問 69 あなたがもし認知症になったら、どのように書らしたいですか。(いくつでも○) (N=1,523)

1. 医療や介護を受けながら、今まで暮らしてきた地域で生活したい	65.1%	
2. 介護施設などで必要な支援・サービスを受けながら生活したい	41.6%	
3. 家族の介護を受けながら、今まで暮らしてきた地域で生活したい	31.7%	
4. 地域の人たちに支えられながら、今まで暮らしてきた地域で生活したい	14.1%	
5. 支援・サービスを受けずに、今までどおり書らしたい	2.6%	
無回答		7.2%

問 70 あなたが地域で暮らす認知症のある人にできる(できそうな)支援はありますか。(いくつでも○) (N=1,523)

1. 見守り・声かけ	61.6%	4. ゴミ出しなどちょっとした家事のお手伝い	23.8%
2. 近くの場所の案内	19.7%	5. 買い物代行・同行	8.9%
3. 話し相手	29.7%	6. 外出時の移動支援	6.6%
無回答		21.3%	

問 71 あなた自身やご家族などが認知症になったときに、どこに(誰に)相談しますか。または、どこに(誰に)相談しましたか。(いくつでも○) (N=1,523)

1. クリニック(かかりつけ医)	51.7%	5. ケアマネジャー	28.2%
2. 市役所の窓口	26.4%	6. 専門病院	17.6%
3. 地域包括支援センター	48.9%	7. 友人・知人	11.2%
4. 親族	41.8%	無回答	
無回答		5.5%	

問 72 今後の認知症のある人やご家族への支援について、どのようなことを望みますか。(いくつでも○) (N=1,523)

1. 認知症を早く発見し、診断できる仕組みの充実	69.5%	
2. 行方不明にならないための見守りや早期発見の仕組みの充実	34.1%	
3. 介護する家族への支援(家族向けセミナーなど)の充実	50.1%	
4. 財産や権利が守られる仕組みの充実	25.5%	
5. 認知症をより理解できる普及啓発の充実	22.2%	
6. 地域のボランティアの充実	16.0%	
7. 認知症のある人が活動できる場所の充実	26.7%	
8. その他(具体的に:)	2.2%	
無回答		12.5%

高齢者を支える仕組みについておたずねします

問 73 あなたは、「地域包括支援センター※」を知っていますか。(1つに○) (N=1,523)

※高齢者の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、介護・福祉・健康・医療など様々な面から関係機関との連携をとりながら、総合的に支えていく機関

1. 知っている	73.4%	2. 知らない	21.3%
無回答		5.3%	

問 74 介護保険外の高齢者福祉サービス(紙おむつの支給、見守り配食など)について、利用したことがありますか。(1つに○) (N=1,523)

1. 利用している(利用していた)	7.6%	2. 利用したことがない	87.0%
無回答		5.4%	

問 74-1 問 74 で「2」と回答した方におたずねします。
あなたが、今後介護等が必要な状態になった時に、「受けてみたい」または「必要だと思う」サービスは何ですか。(いくつでも○) (n=1,325)

1. 見守りを行う配食サービス	70.3%	
2. 紙おむつを自宅に届けるサービス	54.6%	
3. 住宅改修(浴槽交換など)に関する費用を助成するサービス	37.7%	
4. 介助付きのタクシ-を手配するサービス	52.0%	
5. 緊急時にコントロールセンターに通報するサービス	53.1%	
6. 自宅で散髪等してもらおう訪問理・美容サービス	44.0%	
7. 入浴施設の入浴券を支給するサービス	27.5%	
8. その他(具体的に:)	4.8%	
無回答		6.3%

2 介護予防・日常生活圏域ニース調査

問 75 介護保険外の高齢者福祉サービス（紙おむつの支給、見守り配食など）については、高齢者人口の増加に伴い、今後も利用が増えていくと予想されます。これに対応するため

に、あなたの考えに一番近いものはどれですか。(1つに○)		(N=1,523)
1. サービスの対象者などの容態が変えず、サービスを利用する人の自己負担を増やして対応する		15.2%
2. 自己負担を増やさずに、サービスの対象者などの内容を変えて対応する		16.2%
3. 利用が増えても高齢者福祉サービスの内容・自己負担は変えずに対応する		37.0%
4. その他〔具体的に：	〕	1.8%
5. わからない		18.4%
無回答		11.4%

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめの上、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、**11月25日（火）まで**にお近くのポストに投函してください。

3 在宅介護実態調査

3 在宅介護実態調査

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
策定のための市民アンケート調査（在宅介護実態調査）

ご協力をお願い

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を計画期間として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和8年度に、令和9年度から11年度までの「高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」を策定します。

このアンケート調査は、市内在住で要介護・要支援認定を受けているの方のうち、在宅生活を送っている方とそのご家族を対象に、サービスの利用やこれからのこと、ご家族の仕事と介護の両立などについておたずねするものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年11月

西東京市長 池澤 隆史

記入についてのお願い

1. この調査は、令和7年11月1日現在でお答えください。
2. この調査票は、【A票：あなた（あて名のご本人）について】と【B票：主な介護者の方について】の2種類あります。
3. 回答は、特に説明のない限り、あてはまる番号を選んでください。
4. 回答が「その他」にあてはまる場合は、その番号を選び、〔 〕内にその内容をご回答ください。
5. 対象者ご本人おひとりでの回答が難しい場合は、ご家族の方にお手伝いいただくか、対象者のご意見を聞いた上でご家族の方が代わりにご回答ください。B票は、主な介護者がいない方は回答不要です。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、

11月25日（火）までに

ご返送ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時（土日・祝日を除く。）

★調査の内容、調査票の書き方や同封物の不足について

株式会社 生活構造研究所 TEL 0120-650-276（フリーダイヤル）

★調査の趣旨について

西東京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810～2816（直通）

（この調査は西東京市が株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。）

A票 あなた（あて名のご本人）について

※以下の質問における、「あなた」とは封筒のあて名ご本人のことです。

問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。（いくつでも） (N=693)

1. 封筒のあて名ご本人	69.4%
2. 主な介護者となっている家族・親族	34.5%
3. 主な介護者以外の家族・親族	0.7%
4. その他	0.6%
無回答	2.5%

問2 あなたの世帯類型について、ご回答ください。（1つに○） (N=693)

1. 単身世帯	29.1%	3. その他（具体的に：	31.3%
2. 夫婦のみ世帯	36.5%	無回答	3.0%

問3 あなたの性別について、ご回答ください。（1つに○） (N=693)

1. 男性	34.5%	3. 回答しない	0.1%
2. 女性	63.6%	無回答	1.7%

問4 あなたの年齢について、ご回答ください。（1つに○） (N=693)

1. 65歳未満	0.4%	4. 75～79歳	14.0%	7. 90歳以上	23.5%
2. 65～69歳	4.0%	5. 80～84歳	24.4%	無回答	1.6%
3. 70～74歳	6.3%	6. 85～89歳	25.7%		

問5 あなたの要介護度について、ご回答ください。（1つに○） (N=693)

1. 要支援1	21.4%	4. 要介護2	15.0%	7. 要介護5	3.3%
2. 要支援2	11.4%	5. 要介護3	10.5%	8. わからない	2.3%
3. 要介護1	27.6%	6. 要介護4	5.3%	無回答	3.2%

問6 あなたは、施設等への入所・入居について検討していますか（「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、認知症高齢者グループホームなどを指します）。（1つに○） (N=693)

1. 入所・入居を検討していない	72.6%	3. すでに入所・入居申し込みをしている	5.5%
2. 入所・入居を検討している	19.3%	無回答	2.6%

問7 令和7年10月の1か月の間に、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しましたか。（1つに○） (N=693)

1. 利用した	⇒問8へ	61.2%
2. 利用していない	⇒問9へ	37.7%
無回答		1.2%

3 在宅介護実態調査

問9 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つに○）（N=693）

1. ない	⇒調査は終了です ⇒B票へ進んでください	42.4%
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない		7.1%
3. 週に1～2日ある		8.5%
4. 週に3～4日ある		4.0%
5. ほぼ毎日ある		29.4%
無回答		8.5%

■ 次頁からのB票は、問9で「2」～「5」と回答した方が調査対象となります。次頁以降は「主な介護者」の方がご回答ください。

■ 「主な介護者」の方が回答できない場合は、あて名のご本人が、ご回答ください（ご回答が困難な場合は、無回答で結構です）。

3 在宅介護実態調査

問8 問7で「1. 利用した」と回答した方にお伺いします。以下の介護保険サービスについて、令和7年10月の1か月間の利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「利用していない（0回、1. 利用していない）」を選択してください（それぞれ1つに○）。

(n=424)	1週間あたりの利用回数（それぞれ1つに○）						無回答
	利用して いない	週1回 程度	週2回 程度	週3回 程度	週4回 程度	週5回 以上	
A. 訪問介護 (ホームヘルプサービス)	33.3%	11.3%	6.1%	4.2%	2.4%	5.0%	37.7%
B. 訪問入浴介護	43.4%	6.4%	3.8%	0.5%	0.0%	0.0%	46.0%
C. 訪問看護	33.5%	15.8%	6.1%	1.9%	0.5%	1.4%	40.8%
D. 訪問リハビリテーション	33.0%	14.9%	5.0%	1.4%	0.9%	0.7%	44.1%
E. 通所介護 (デイサービス)	25.9%	11.8%	13.7%	7.5%	3.5%	7.1%	30.4%
F. 通所リハビリテーション (デイケア)	42.0%	9.0%	7.8%	1.2%	0.2%	1.2%	38.7%
G. 夜間対応型訪問介護 (※訪問のあった回数を回答)	49.1%	0.5%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	50.0%

(n=424)	利用の有無（1つに○）		無回答
	1. 利用していない	2. 利用した	
H. 定期巡回・随時対応型 訪問介護看護	71.0%	10.4%	18.6%
I. 小規模多機能型居宅介護	72.6%	0.9%	26.4%
J. 看護小規模多機能型 居宅介護	71.9%	1.4%	26.7%

(n=424)	1か月あたりの利用日数（1つに○）			無回答	
	利用して いない	月1～7日 程度	月8～14日 程度		月15～21日 程度
K. ショートステイ	69.6%	9.7%	2.6%	0.7%	16.7%

(N=424)	1か月あたりの利用回数（1つに○）				無回答
	利用して いない	月1回 程度	月2回 程度	月3回 程度	
L. 居宅療養管理指導	69.3%	7.5%	2.6%	1.7%	17.7%

B票 主な介護者の方について

問1 ご家族やご親族の中で、あて名ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（1つに○） (n=340)

※自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

1. 主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	8.8%
2. 主な介護者が以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	0.3%
3. 主な介護者が転職した	0.6%
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した	1.2%
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	75.3%
6. わからない	2.4%
無回答	11.5%

問2 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。（1つに○） (n=340)

1. 20歳未満	0.0%	4. 40代	5.6%	7. 70代	17.4%
2. 20代	0.0%	5. 50代	21.2%	8. 80歳以上	16.5%
3. 30代	0.3%	6. 60代	34.1%	9. わからない	0.6%
		無回答			4.4%

問3 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。

(3つまで○) (n=340)

【身体介護】	
1. 日中の排せつ	16.8%
2. 夜間の排せつ	20.3%
3. 食事の介助（食べる時）	7.4%
4. 入浴・洗身	21.2%
5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	7.6%
6. 衣服の着脱	10.9%
7. 屋内の移乗・移動	17.4%
8. 外出の付き添い、送迎等	42.6%
9. 服薬	16.5%
10. 認知症状への対応	33.8%
11. 困難での対応（経管栄養、ストーマ等）	7.4%
【生活援助】	
12. 食事の準備（調理等）	34.1%
13. その他の家事（掃除・洗濯・買い物等）	32.9%
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き	27.1%
【その他】	
15. その他	5.0%
16. 不安に感じていることは、特がない	8.8%
17. 主な介護者ご確認のみと、わからない	2.9%
無回答	4.7%

問4 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。（1つに○） (n=340)

1. フルタイムで働いている	27.6%
2. パートタイムで働いている	21.8%
3. 働いていない	45.0%
4. 主な介護者に確認しないと、わからない	1.2%
無回答	4.4%

⇒問5～問6へ

⇒調査は終了です

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」「嘱託」「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問5 問4で「1」または「2」と回答した方にお伺いします。
 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていきますか。（いくつでも○） (n=168)

1. 特に行っていない	27.4%
2. 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、短時間勤務、退出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている	39.9%
3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている	20.8%
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	15.5%
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている	17.3%
6. 主な介護者に確認しないと、わからない	2.4%
無回答	1.8%

問6 問4で「1」または「2」と回答した方にお伺いします。
 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（1つに○） (n=168)

1. 問題なく、続けていける	17.9%
2. 問題はあるが、何とか続けていける	54.8%
3. 続けていくのは、やや難しい	13.1%
4. 続けていくのは、かなり難しい	6.5%
5. 主な介護者に確認しないと、わからない	1.8%
無回答	6.0%

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめの上、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、**11月25日（火）まで**にお近くのポストに投函してください。

4 介護サービス事業者調査

4 介護サービス事業者調査

貴事業所についておたずねします

問1 貴事業者名をご記入ください。

事業者名

問2 介護事業所番号をご記入ください。

事業者番号

問3 本アンケートで回答する事業所のサービス種別は何ですか。(1つに○)

※複数のサービス種別を提供している、それぞれで状況が異なる場合は、サービス種別ごとにアンケートのご回答をお願いいたします。(N=101)

1. 居宅介護支援	30.7%	13. 介護医療院	0.0%
2. 訪問介護	13.9%	14. 地域密着型通所介護	0.0%
3. 訪問入浴介護	1.0%	15. 小規模多機能型居宅介護	1.0%
4. 訪問看護	9.9%	16. 夜間対応型訪問介護	0.0%
5. 訪問リハビリテーション	0.0%	17. 看護小規模多機能型居宅介護	1.0%
6. 通所介護	9.9%	18. 定期巡回・随時対応型訪問介護	0.0%
7. 通所リハビリテーション	0.0%	19. 認知症対応型通所介護	4.0%
8. 短期入所療養介護	2.0%	20. 認知症対応型共同生活介護	11.9%
9. 短期入所生活介護	0.0%	21. 福祉用具貸与・購入	4.0%
10. 特定施設入居者生活介護	1.0%	22. 住宅改修	5.0%
11. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	4.0%	23. 訪問型サービス(総合事業)	0.0%
12. 介護老人保健施設(老人保健施設)	1.0%	24. 通所型サービス(総合事業)	0.0%
		無回答	0.0%

問4 貴事業所で提供している介護保険サービス(予防含む)は何ですか。(いくつでも○)

1. 居宅介護支援	47.5%	13. 介護医療院	0.0%
2. 訪問介護	23.8%	14. 地域密着型通所介護	6.9%
3. 訪問入浴介護	1.0%	15. 小規模多機能型居宅介護	1.0%
4. 訪問看護	9.9%	16. 夜間対応型訪問介護	1.0%
5. 訪問リハビリテーション	0.0%	17. 看護小規模多機能型居宅介護	1.0%
6. 通所介護	18.8%	18. 定期巡回・随時対応型訪問介護	1.0%
7. 通所リハビリテーション	1.0%	19. 認知症対応型通所介護	11.9%
8. 短期入所生活介護	7.9%	20. 認知症対応型共同生活介護	13.9%
9. 短期入所療養介護	1.0%	21. 福祉用具貸与・購入	7.9%
10. 特定施設入居者生活介護	2.0%	22. 住宅改修	6.9%
11. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	5.0%	23. 訪問型サービス(総合事業)	10.9%
12. 介護老人保健施設(老人保健施設)	1.0%	24. 通所型サービス(総合事業)	0.0%
		無回答	0.0%

4 介護サービス事業者調査

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定のための介護サービス事業者アンケート調査 ご協力をお願いします

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきましまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を計画期間として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和8年度に、令和9年度から11年度までの「高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」を策定します。

このアンケート調査は、市内の介護サービス事業者の方に、サービスに関することなどについてご意見とご要望をお聞かせいただき、計画の策定に役立てるものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年11月

西東京市長 池澤 隆史

回答にあたってのお願い

- この調査は、令和7年11月1日現在でお答えください。
- この調査は、貴事業所で提供するサービスについてお答えください。同じ事業所名で異なる種類のサービスを提供している場合、それぞれのサービス種別ごとに全て回答していただくようお願いいたします。ただし、施設併設の短期入所生活介護及び短期入所療養介護は施設サービスと併せてお答えください。
- この調査は、インターネットによるご回答となります。

11月25日(火)までに

ご回答ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時(土日・祝日を除く。)

★調査の内容について
株式会社 生活構造研究所 TEL 0120-650-276 (フリーダイヤル)

★調査の趣旨、インターネット回答方法について

西東京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810~2816 (直通)

(この調査は西東京市が株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。)

事業運営についておたずねします

問5 円滑な事業運営を進めていく上で、現在、特に困難に感じていることは何ですか。

(いくつでも) (N=101)

1. 職員の確保が難しい	73.3%
2. 利用者の確保が難しい	25.7%
3. 事務作業が多い	62.4%
4. 施設・設備の改善が難しい	26.7%
5. 必要な情報の入手に支障がある	4.0%
6. 職員の質向上を図ることが難しい	22.8%
7. 利用者や家族の制度に対する理解が進んでいない	12.9%
8. 市町村等との連携を図ることが難しい	8.9%
9. 特に困難に感じることがない	2.0%
10. その他〔具体的に： 無回答	1.0% 0.0%

問6 職員の充足状況についてお答えください。(1つに○) (N=101)

1. 過剰	4.0%	3. やや不足	34.7%	5. 大いに不足	9.9%
2. 適正	28.7%	4. 不足	22.8%	無回答	0.0%

問7 昨年1年間の就職・離職状況を教えてください。(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(N=101)	常勤	非常勤
①離職者総数	平均1.17人	平均1.04人
②離職率※	平均7.94%	平均8.11%
③就職者総数	平均1.67人	平均1.35人

※計算方式は、「①の離職者総数÷令和6年4月1日時点での在籍者総数×100」としてください。

問8 貴事業所では人材確保のためにどのような取組を行っていますか。
(1)と(2)それぞれいくつでも○)

(N=101)	(1) 現在行っている取組	(2) 今後行いたい取組
1. 新規採用枠の拡大	40.6%	18.8%
2. 中途採用枠の拡大(初任者～管理者)	55.4%	14.9%
3. 柔軟な勤務時間など働き方改革の推進	54.5%	12.9%
4. 好条件の給与や福利厚生の充実	36.6%	21.8%
5. 職員間での助け合い・支え合いの仕組み	54.5%	13.9%
6. ホームページやSNSの活用による情報発信	53.5%	11.9%
7. 介護や福祉の魅力を向上する事業の実施	14.9%	12.9%
8. 小中学校の介護体験、ボランティアの受け入れ	20.8%	12.9%
9. 無資格者や他業種経験者の積極的な採用	26.7%	13.9%
10. 大学・専門学校とのインターンシップ制度の活用	12.9%	18.8%
11. 担い手研修受講者、暮らしヘルパー受講者の活用	5.0%	9.9%
12. オンラインも活用した就職相談・説明会の開催	12.9%	15.8%
13. 東京都福祉人材センター、ハローワーク等の活用	55.4%	8.9%
14. 外国人人材の採用	18.8%	16.8%
15. その他	2.0%	4.0%
無回答	2.0%	33.7%

問9 問8で「その他」と回答した場合は、その具体的な内容をお答えください。

--

問10 貴事業所ですべてに確保の困難な職種はどれですか。(いくつでも○) (N=101)

1. 介護支援専門員	29.7%	11. 言語聴覚士	4.0%
2. 介護福祉士	30.7%	12. 機能訓練指導員	2.0%
3. 訪問介護員	19.8%	13. 管理栄養士・栄養士	0.0%
4. 介護職(資格なし)	11.9%	14. 音楽療法士	0.0%
5. 社会福祉士	4.0%	15. 精神保健福祉士	0.0%
6. 医師	0.0%	16. 心理師	0.0%
7. 看護師・准看護師	17.8%	17. 事務職	6.9%
8. 保健師	0.0%	18. 特になし	14.9%
9. 理学療法士	6.9%	19. その他〔具体的に： 無回答	6.9% 0.0%
10. 作業療法士	6.9%		

4 介護サービス事業者調査

問 11 人材不足の影響を受けていると感じる業務はありますか。(いくつでも)
(N=101)

1. 利用者への直接的な介護・支援業務	44.6%
2. ケアマネジメント業務	26.7%
3. 健康管理・服薬管理等の医療連携業務	6.9%
4. 利用者家族・関係者の対応	19.8%
5. 送迎業務	8.9%
6. 夜勤や宿直等の勤務対応	10.9%
7. 記録・報告・請求等の事務作業	33.7%
8. 研修等の人材育成業務	18.8%
9. 会議・イベントへの参加など関係機関や地域との連携	21.8%
10. 設備・備品管理等の環境整備	6.9%
11. 特になし	14.9%
12. その他〔具体的に：〕	3.0%
無回答	0.0%

問 12 職員の早期離職防止や定着促進のためにはどのような取組を行っていますか。
(いくつでも)
(N=101)

(労働時間・勤務負担軽減)	
1. 労働時間(時間帯・総労働時間)の希望を聞いている	64.4%
2. 時間外労働時間の削減に取り組んでいる	65.3%
3. 年次有給休暇等の取得を促進している	72.3%
(職員の健康支援)	
4. 職員の健康教育や身体的健康対策(腰痛防止対策等)に取り組んでいる	35.6%
5. 職員のメンタルヘルス対策に取り組んでいる	47.5%
6. 感染症予防対策に取り組んでいる	52.5%
(いじめ・ハラスメント・人権)	
7. いじめやハラスメント等へ対応できる体制を整備している	50.5%
8. LGBT、外国人等の人権に関する研修を重視している	10.9%
(仕事と子育て・介護等の両立支援)	
9. 育児・介護等の休暇制度の活用を奨励している	50.5%
10. 子育て支援(託児所を設ける、保育費用の助成など)や介護支援を行っている	15.8%
11. 多様な勤務形態(短時間勤務、短日勤務、交代制勤務など)を活用している	44.6%
(キャリア形成支援)	
12. 新人の指導担当・アドバイザーを置いている(メンター制度など)	20.8%
13. キャリアパスを作成し、能力評価や配置・処遇への反映に活用している	33.7%
14. キャリアに応じた給与体系を整備している	33.7%
(職場風土・環境整備、定着支援)	
15. 経営者や役員との意見交換がしやすい職場環境づくりを行っている	38.6%
16. 定期的なミーティング等の実施による、風通しのよい職場環境づくりを行っている	58.4%
17. 職場内での仕事上のコミュニケーションの円滑化(面談、ミーティング、意見交換会など)	64.4%
(業務の効率化・負担軽減)	
18. 情報通信機器を活用した業務の効率化、省力化を推進している	39.6%
19. 特に行っていない	3.0%
20. その他〔具体的に：〕	1.0%
無回答	0.0%

4 介護サービス事業者調査

問 13 キャリア形成支援のために、どのような研修や資格取得支援を行っていますか。
(いくつでも)
(N=101)

1. 採用を前提とした資格取得支援の研修(採用前)	10.9%
2. 事業所内での採用時研修(新任研修)	74.3%
3. 事業所内での資格取得支援の研修(既採用職員向け)	33.7%
4. 事業所内での定期的な現任研修の実施	51.5%
5. 事業所内での事例検討会や、外部研修受講者による報告会	41.6%
6. 西東京市介護サービス事業者連絡会が実施する研修等への参加を奨励	54.5%
7. 東京都社会福祉協議会が実施している研修等への参加を奨励	37.6%
8. その他民間団体が実施している研修等への参加を奨励	38.6%
9. 業務として勤務時間中の研修参加を承認	67.3%
10. 研修受講費用の補助	64.4%
11. 資格試験に合格した場合、受験料や登録費用等を負担	41.6%
12. 資格試験に合格した場合の報奨金	13.9%
13. 特に行っていない	3.0%
14. その他〔具体的に：〕	0.0%
無回答	0.0%

問 14 外国人材の雇用についての事業所や法人の取組、考え方についてお答えください。(1つに)
(N=101)

1. 外国人材の雇用に向けた取組を積極的に行っている	21.8%
2. 今後、外国人材の雇用に向けた取組を行う予定である	11.9%
3. 外国人材を雇いたい、具体的な取組は行っていない	7.9%
4. 外国人材の雇用を進める予定はない	9.9%
5. 現時点では検討を行っていない	48.5%
無回答	0.0%

⇒問 15へ
⇒問 16へ

問 15 問 14で「1」と回答した事業所におたずねします。
外国人材の雇用にあたり行っている支援や工夫していることは何ですか。
(いくつでも)
(n=22)

1. 住居の確保	50.0%
2. 住居の安価な提供、家賃補助	36.4%
3. 日常生活(生活用品の購入、通勤、日本の習慣等)の支援	13.6%
4. 業務内容の工夫(業務範囲の限定等)	50.0%
5. 介護記録の工夫(タブレット端末やエディット型の導入等)	31.8%
6. メンターの配置	9.1%
7. 日本語学習(学校)の授業料の負担等	9.1%
8. 法人内における日本語教育の実施	0.0%
9. 介護福祉士資格の取得支援	27.3%
10. 宗教上の配慮	4.5%
11. その他〔具体的に：〕	4.5%
無回答	0.0%

4 介護サービス事業者調査

サービス質の向上に向けた取組についておたずねします

問 20 サービス質の向上に向けて、貴事業所で(1)現在課題となっていること、また、(2)今後取り組むこと(または続けること)はありますか。1～23のそれぞれの項目について、あてはまる欄に○をつけてください。(いくつでも○)

	(1) 現在課題とな っていること	(2) 今後取り組む こと(または 続けること)
1. 事業所の経営理念の明確化	16.8%	31.7%
2. 従業員への経営理念の周知徹底	24.8%	33.7%
3. 職場内での人材育成・教育の充実	42.6%	35.6%
4. ケアカンファレンスへの積極的な参加	11.9%	25.7%
5. 専門職の定着・確保	39.6%	28.7%
6. 利用者にとって有益な情報開示の推進	7.9%	24.8%
7. 利用者にわかりやすい契約書の工夫	17.8%	31.7%
8. 利用者の納得と意思の尊重	16.8%	34.7%
9. 利用者のプライバシーの保護・個人情報管理の徹底	12.9%	32.7%
10. 各種マニュアルの作成	32.7%	28.7%
11. 苦情処理対応	16.8%	20.8%
12. サービスの自己評価の取組	16.8%	22.8%
13. 従業員の労働条件	18.8%	31.7%
14. 提供するサービスの量的拡大	22.8%	15.8%
15. 提供するサービスの質的拡大	9.9%	15.8%
16. 福祉系事業所との連携	10.9%	20.8%
17. 医療・保健系事業所との連携	15.8%	22.8%
18. ボランティア活動団体との連携	13.9%	21.8%
19. ボランティア受入の拡大	13.9%	22.8%
20. 家族等介護者とのつながり	13.9%	25.7%
21. 認知症の人・家族への対応(チームケア等)	20.8%	19.8%
22. 高齢者虐待防止への取組	17.8%	25.7%
23. その他	1.0%	1.0%
無回答	11.9%	22.8%

4 介護サービス事業者調査

問 16 問 14で「3」「4」「5」と回答した事業所におたずねします。
外国人人材の雇用に向けた取組を行っていない理由は何ですか。

	(いくつでも○) (n=67)
1. 日本語でのコミュニケーションに不安があるから	61.2%
2. 緊急時の判断や対応に不安があるから	43.3%
3. 外国人への指導のための他の職員の負担が増えるから	38.8%
4. 外国人からの接遇に入所者が慣れていないから	13.4%
5. 外国人職員を受け入れるための費用がかかると	11.9%
6. 補助制度などが煩雑だから	9.0%
7. その他【具体的に： 無回答	13.4% 0.0%

問 17 介護職員によるたんの吸引など、医療的ケアへの対応は実施していますか。

	(1つに○) (N=101)
1. すでに実施している	18.8%
2. 検討している	9.9%
3. 対応は考えていない	57.4%
4. その他【具体的に： 無回答	13.9% 0.0%

問 18 医療機関との連携について、貴事業所として取り組んでいることはありませんか。

	(いくつでも○) (N=101)
1. 医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている	70.3%
2. 往診をしてくれる医師・医療機関がある	42.6%
3. 高受時の受入を依頼できる病院を確保している	10.9%
4. 提携している診療所や病院があり、入院を受け入れてもらっている	8.9%
5. 職員への研修講師などをお願いしている	6.9%
6. ケースカンファレンスに参加している	28.7%
7. 緊急時の対応に同行している	17.8%
8. 特になし	12.9%
9. その他【具体的に： 無回答	5.0% 0.0%

問 19 医療機関との連携を進める上での課題は何ですか。(いくつでも○) (N=101)

1. 医療機関の協力が得られない	9.9%
2. 情報共有システムが確立されていない	38.6%
3. 共有すべき情報がわからない	5.9%
4. 連携のための事務負担が大きい	28.7%
5. 連携の必要性を感じていない	8.9%
6. その他【具体的に： 無回答	26.7% 0.0%

4 介護サービス事業者調査

問21 問20で「その他」と回答した場合は、その具体的な内容をお答えください。

問22 貴事業所の職員は、利用者の望む生活（自立支援）を意識したサービス提供を行っていると思いますか。（1つに○）

1. 思う	71.3%	4. 思わない	0.0%
2. 少しは思う	26.7%	5. 考えたことはない	2.0%
3. あまり思わない	0.0%	無回答	0.0%

問23 貴事業所では、介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービスを提供していますか。（1つに○）

1. 提供している	⇒問24へ	51.5%	3. その他	5.0%
2. 提供していない		43.6%	無回答	00.0%

問24 問23で「1」と回答した事業所におたずねします。
介護予防・日常生活支援総合事業の課題は何ですか。（いくつでも○）

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1. 単価が安く、事業所として取り組むメリットがない | 65.4% |
| 2. 総合事業の制度が理解しにくい | 38.5% |
| 3. 住民主体のサービスが育ちにくい | 15.4% |
| 4. サービスの終結につなげることが難しい | 38.5% |
| 5. 特定の日時や曜日に利用希望者が集中する | 7.7% |
| 6. サービスの効果測定が難しい | 23.1% |
| 7. 総合事業のサービスコードが複雑である | 36.5% |
| 8. 利用者宅までの移動や送迎が課題となっている | 9.6% |
| 9. 職員のスキルが不足している | 7.7% |
| 10. その他〔具体的に： 〕 | 1.9% |
| 無回答 | 0.0% |

問25 貴事業所で提供しているサービスについて、今後、どのように考えていますか。（1つに○）

- | | |
|------------------|-------|
| 1. 現状維持で考えている | 71.3% |
| 2. 事業規模の拡大を考えている | 19.8% |
| 3. 事業規模の縮小を考えている | 8.9% |
| 4. その他〔具体的に： 〕 | 0.0% |
| 無回答 | 0.0% |

資料編 アンケート調査票及び集計結果

4 介護サービス事業者調査

問26 貴事業所ではICT（情報通信技術）機器や介護ロボット（ロボット技術を活用して）、利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器等を活用していますか。（1つに○）

- | | | |
|-------------------------|-----------|-------|
| 1. ICT機器、介護ロボットとも活用している | ⇒問27、問29へ | 3.0% |
| 2. ICT機器のみ活用している | ⇒問27へ | 63.4% |
| 3. 介護ロボットのみ活用している | ⇒問29へ | 0.0% |
| 4. いずれも活用していない | ⇒問30へ | 33.7% |
| 無回答 | | 0.0% |

問27 問26で「1」または「2」と回答した事業所におたずねします。
貴事業所では、どのような業務でどのようなICT機器を活用していますか。業務ごとに活用している機器に○をしてください。（いくつでも○）

(n=67)	パソコン	携帯電話	スマートフォン	タブレット端末	その他	無回答
ア. 利用者情報等の共有	83.6%	16.4%	50.7%	55.2%	1.5%	3.0%
イ. 報酬請求との連携	88.1%	0.0%	6.0%	6.0%	0.0%	11.9%
ウ. ケアプランの作成	70.1%	1.5%	7.5%	11.9%	3.0%	25.4%
エ. オンライン会議	70.1%	7.5%	19.4%	37.3%	1.5%	16.4%
オ. 科学的介護情報システム(LIFE)	29.9%	0.0%	1.5%	0.0%	6.0%	64.2%

問28 問27で「その他」と回答した場合は、その具体的な内容をお答えください。

問29 問26で「1」または「3」と回答した事業所におたずねします。
貴事業所では、介護ロボットをどのような時に活用していますか。（いくつでも○）

- | | | | |
|---------|-------|----------------|-------|
| 1. 移乗支援 | 0.0% | 5. コミュニケーション支援 | 0.0% |
| 2. 移動支援 | 0.0% | 6. 入浴支援 | 0.0% |
| 3. 排泄支援 | 0.0% | 7. その他〔具体的に： 〕 | 33.3% |
| 4. 見守り | 66.7% | 無回答 | 00.0% |

問30 問26で「4」と回答した事業所におたずねします。
ICT機器や介護用ロボット等を活用していない、活用できない理由は何ですか。（いくつでも○）

- | | | | |
|--------------------|-------|-----------------|-------|
| 1. 価格が高いから | 44.1% | 4. 補助制度などが複雑だから | 17.6% |
| 2. 機器の扱いが難しそうであるから | 35.3% | 5. その他〔具体的に： 〕 | 14.7% |
| 3. 人で十分に対応できるところから | 38.2% | 無回答 | 0.0% |

4 介護サービス事業者調査

問 31 貴事業所では、L I F E (「科学的介護情報システム」)への登録、活用をしていますか。(1つに○) (N=101)

1. 登録、活用している	⇒問 32 へ	21.8%
2. 登録のみしている		10.9%
3. 登録していない		67.3%
無回答		0.0%

問 32 問 31で「1」と回答した事業所におたずねします。

貴事業所では、L I F Eをどのような場面で活用していますか。(いくつでも○) (n=22)

1. ケアの質の向上に関わる方針の策定・実施	40.9%
2. 利用者状態の管理・課題把握	77.3%
3. 利用者状態の多職種での情報連携	27.3%
4. フィードバック票を用いた提供サービス・ケアの見直し	31.8%
5. フィードバック票を用いた利用者・家族への説明	4.5%
6. その他【具体的に：	9.1%
無回答	0.0%

問 33 ケアプランデータ連携システムを普及するにあたり、どのような支援に期待していますか。(いくつでも○) (N=101)

1. システム導入に関わる説明会や研修会の開催	51.5%
2. システム導入による効果測定・好事例の紹介	42.0%
3. 介護保険連絡協議会・分科会での説明	31.7%
4. 普及啓発を図るイベントの開催	22.8%
5. システム導入費用の補助	59.4%
6. 導入後の運用に関する継続的な支援	56.4%
7. その他【具体的に：	3.0%
無回答	0.0%

職員の処遇についておたずねします

問 34 令和6年は前年(令和5年)を100%とした場合にどの程度の収支状況でしたか。(1つに○) (N=101)

1. 大きく増えた(120%以上)	2.0%
2. 増えた(110%以上~120%未満)	5.9%
3. 少し増えた(100%超~110%未満)	30.7%
4. 変わらない(100%)	33.7%
5. 少し減った(90%以上~100%未満)	15.8%
6. 減った(80%以上~90%未満)	5.0%
7. 大きく減った(80%未満)	2.0%
8. 新規開設により前年と比較できない	5.0%
無回答	0.0%

4 介護サービス事業者調査

問 35 問 34で「1」~「3」、「5」~「7」と回答した方におたずねします。前年に比べ収支が増えた(減った)と考えられる最も大きな要因は何ですか。(1つに○) (n=62)

1. 利用者の増加(減少)	56.5%	4. 介護報酬改定による加算が利用できた(利用できなかった)	4.8%
2. 人件費の抑制(増加)	17.7%	5. その他【具体的に：	8.1%
3. 介護報酬単位の増額(減額)	12.9%	無回答	0.0%

問 36 事業所では、令和6年度までに「介護職員等処遇改善加算」を取得していますか。(1つに○) (N=101)

1. 取得(届出)している	⇒問 37 へ	56.4%
2. 取得(届出)していない	⇒問 38 へ	43.6%
無回答		0.0%

問 37 問 36で「1」と回答した方におたずねします。

加算を取得(届出)した効果はありましたか。(いくつでも○) (n=57)	
1. 職員の給与が上がった	87.7%
2. スキルアップ等の研修制度が充実した	10.5%
3. 職員の定着促進につながった	24.6%
4. その他【具体的に：	1.8%
無回答	0.0%

問 38 問 36で「2」と回答した方におたずねします。

現在、事業所が加算を取得(届出)していないのはどのような理由ですか。(いくつでも○) (n=44)	
1. 対象施設・事業所ではないため	90.9%
2. 事務作業が煩雑であるため	2.3%
3. 届出に必要な事務を行える職員がいないため	2.3%
4. 令和8年度以降の取扱いが不明であるため	2.3%
5. 利用者負担が発生するため	2.3%
6. 非常勤職員等の処遇上の問題があるため	0.0%
7. 賃金改善の必要性がないため	0.0%
8. キャリアパス等算定要件を達成できないため	0.0%
9. その他【具体的に：	4.5%
無回答	0.0%

問 39 介護職員の各種手当について、引き上げまたは新設を行ったものはありますか。(いくつでも○) (N=101)

1. 処遇改善手当	36.6%	5. 夜勤手当	1.0%
2. 資格手当	6.9%	6. 時間外手当	5.9%
3. 職務手当(役付手当等)	10.9%	7. その他【具体的に：	15.8%
4. 家族(扶養)手当	2.0%	8. 引き上げ、または新設なし	46.5%
無回答			0.0%

問 40 賃金改善以外での改善策はありますか。(処遇全般、教育・研修、職場環境等)
(いくつでも○) (N=101)

(処遇全般)	
1. 賃金体系等の人事制度の整備	19.8%
2. 非正規職員から正規職員への転換	28.7%
3. 短時間正規職員制度の導入	15.8%
4. 昇給又は昇格等の要件の明確化	18.8%
5. 休暇制度、労働時間等の改善	31.7%
6. 職員の増員による業務負担の軽減	27.7%
(教育・研修)	
7. 人材育成環境の整備	25.7%
8. 資格取得、能力向上のための支援	31.7%
9. 能力向上がみとめられた職員への処遇	19.8%
10. 配置への反映	7.9%
(職場環境等)	
11. 出産、子育て支援の強化	20.8%
12. ミーティング等による職場内のコミュニケーションの円滑化	38.6%
13. 事故、トラブル対応マニュアル等の作成	19.8%
14. 介護補助器具等の購入、整備等	11.9%
15. 健康診断、腰痛対策、こころの健康等の健康管理面の強化	30.7%
16. 職員休憩室、分煙対策等の整備	10.9%
17. 業務省力化対策	14.9%
18. 労働安全衛生対策の充実	19.8%
19. その他〔具体的に：	〕
無回答	0.0%

問 41 職員の処遇改善を行う上で、課題となることは何ですか。(いくつでも○)
(N=101)

1. 介護報酬改定では、職員への処遇改善にまでは回らない	39.6%
2. 事業所の経営の安定のためには、基本給までは手をつけられない	37.6%
3. 介護報酬改定後も経営状況は変わらないが、人材確保のために処遇改善せざるを得ない	23.8%
4. 処遇改善だけでは、人材確保や定着に結びついていない	51.5%
5. その他〔具体的に：	〕
無回答	0.0%

サービス提供における課題についておたずねします

問 42 貴事業所で、サービス提供をする上で困難だったことにあてはまるものをお答えください。(いくつでも○)
(N=101)

1. 一人暮らし、親族が遠方に暮らしている等で連絡が取りにくい	66.3%
2. 経済的な困難、障害など、介護以外の支援が必要な世帯が増えている	56.4%
3. キーパーソンがいない利用者が増えている	55.4%
4. 家族に障害や精神疾患がある	55.4%
5. 老老介護、認知介護の世帯が増えている	65.3%
6. 本人と家族の意見が合わず、調整困難なことが増えている	40.6%
7. 虐待を受けている、またはその疑いがある	18.8%
8. 病識がなくサービスの拒否がある	32.7%
9. 認知症等で利用者の意思が確認できない、繰り返し確認が必要なおことが多い	36.6%
10. 本人の経済的な理由で、必要なサービスを組み入れられない	40.6%
11. 医療機関とのスムーズな連携ができない	12.9%
12. 利用料を滞納している	13.9%
13. 身寄りのない方への支援	30.7%
14. 利用者やその家族からのハラコメント	17.8%
15. その他〔具体的に：	〕
無回答	5.9%
	0.0%

問 43 困難なケースについて、主にどのように対応していますか。(1つに○)
(N=101)

1. 地域包括支援センターに相談している	53.5%
2. 在宅療養連携支援センター(にしのみ)に相談している	3.0%
3. 保険者(市役所)に相談している	11.9%
4. 事業所内で解決できているので外部には相談していない	17.8%
5. 相談していない	4.0%
6. その他〔具体的に：	〕
無回答	9.9%
	0.0%

4 介護サービス事業者調査

問 44 認知症のある人へのサービス提供にあたって配慮していることとして、どのようなこと
 (N=101)
 がありますか。(いくつでも)

1. 認知症のある人とのコミュニケーション	87.1%
2. 認知症のある人のプライバシーの尊重・確保	69.3%
3. 本人や家族へのインフォームドコンセント	53.5%
4. 認知症のある人の生活歴や馴染みを大切にサービス提供体制	64.4%
5. 認知症のある人の不安を和らげる等、BPSDを予防する取組	54.5%
6. 他の利用者や家族、地域とのふれあい・交流の促進	29.7%
7. 認知症のある人が快適に過ごせる環境づくり(音・光、見当識支援など)	29.7%
8. 認知症ケアをチームで推進するための体制づくり	33.7%
9. 認知症への理解を深め、権利、虐待防止の研修等の充実	53.5%
10. 認知症ケアに関する最新情報のアップデート	27.7%
11. 他の事業所や地域包括支援センター等との連携	39.6%
12. さまざまな地域資源を生かした支援体制づくり	21.8%
13. 特にない	2.0%
14. その他【具体的に：	2.0%
無回答	0.0%

問 45 認知症のある人に対応する際に、心がけていることはありますか。(いくつでも)
 (N=101)

1. 相手の正面に立って、目を見ながら声をかける	58.4%
2. 優しい声で、声をかける	84.2%
3. 相手の正面に立って、相手の腕か手などに優しく触れる	41.6%
4. 相手の発言を肯定し、否定しない	83.2%
5. 認知症のある人が自己表現できるような質問の方法を工夫する	69.3%
6. メモや写真等の活用で記憶を支援しながら対応する	51.5%
7. BPSDなどの認知症の症状に寄り添い安心感を与える工夫をする	54.5%
8. その他【具体的に：	7.9%
無回答	0.0%

4 介護サービス事業者調査

問 46 【居宅介護支援事業所へお伺いします。】ケアプラン作成時に、介護事業所数もしくは
 定員など、(1)量的に不足していると感じるサービス、また、(2)ケアプランに組み
 入れにくいサービスはありますか。下記の介護保険サービスから選んでください。
 ((1)、(2)それぞれいくつでも)

(n=48)	(1) 量的に 不足している サービス	(2) ケアプランに 組み入れにくい サービス
1. 訪問介護	47.9%	0.0%
2. 訪問看護	4.2%	2.1%
3. 訪問リハビリテーション	10.4%	12.5%
4. 訪問入浴介護	2.1%	0.0%
5. 居宅療養管理指導	0.0%	2.1%
6. 通所介護	2.1%	0.0%
7. 通所リハビリテーション	4.2%	0.0%
8. 短期入所生活介護	8.3%	0.0%
9. 短期入所療養介護	6.3%	6.3%
10. 特定施設入居者生活介護	0.0%	4.2%
11. 福祉用具の貸与	0.0%	0.0%
12. 特定福祉用具購入	0.0%	0.0%
13. 住宅改修費の支給	0.0%	0.0%
14. 介護老人福祉施設	0.0%	0.0%
15. 介護老人保健施設	4.2%	2.1%
16. 地域密着型通所介護	2.1%	0.0%
17. 小規模多機能型居宅介護	6.3%	16.7%
18. 夜間対応型訪問介護	27.1%	12.5%
19. 看護小規模多機能型居宅介護	6.3%	20.8%
20. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	29.2%	22.9%
21. 認知症対応型通所介護	6.3%	0.0%
22. 認知症対応型共同生活介護	0.0%	0.0%
23. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	2.1%	0.0%
24. 特にない	4.2%	12.5%
無回答	31.3%	41.7%

地域生活課題への対応についておたずねします

問 47 事業所において行いたいと考える地域交流・地域貢献についてあてはまるものをお答えください。(いくつでも○) (N=101)

- | | |
|----------------------------------|-------|
| 1. 地域に施設・事業所を開放する | 34.7% |
| 2. 地域が行っているイベント(お祭りや運動会など)に参加する | 52.5% |
| 3. 地域が行っている防災訓練・避難訓練に参加する | 33.7% |
| 4. 町会・自治会に加入する | 4.0% |
| 5. 地域のボランティア活動に参加する | 23.8% |
| 6. 保育園、小・中学校などの子ども・学校施設と交流する | 35.0% |
| 7. 地域との交流会を主宰する | 17.8% |
| 8. 地域の方への勉強会や介護に関する情報を提供する会を主宰する | 24.8% |
| 9. 地域からの各種ボランティアの受け入れ | 36.6% |
| 10. 地域交流・地域貢献を行う予定はない | 5.9% |
| 11. その他〔具体的に： 〕 | 6.9% |
| 無回答 | 0.0% |

問 48 問 47で「10」と回答した場合は、その具体的な内容をお答えください。

問 49 利用者の生活支援をしていて、地域の課題だと思われることは何ですか。(3つまで○) (N=101)

- | | |
|--|-------|
| 1. 必要な介護サービスの身近で利用できない事業所が少ない | 12.9% |
| 2. 相談・支援窓口の認知度が低く、サービスが受けられない高齢者が多い | 23.8% |
| 3. 老老介護、8050問題、ダブルケアなど、支援が難しいケースが増えている | 52.5% |
| 4. 単身で身寄りのない高齢者が増えてきている | 50.5% |
| 5. 地域で孤立している高齢者や高齢者世帯が増えている | 30.7% |
| 6. 地域での見守り・支え合いが難しい | 27.7% |
| 7. インフォーマルサービスを含めた社会資源の情報提供が不足している | 16.8% |
| 8. 特になし | 5.0% |
| 9. その他〔具体的に： 〕 | 1.0% |
| 無回答 | 0.0% |

問 50 地域課題の解決のため、必要と思われることは何ですか。(3つまで○) (N=101)

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 1. 不足している介護サービスの提供が可能な介護事業所の誘致 | 22.8% |
| 2. 地域包括支援センターや市との連携強化 | 31.7% |
| 3. 医療と介護の連携強化(研修会の開催等) | 18.8% |
| 4. 介護をしている家族等への相談・支援の充実 | 43.6% |
| 5. 地域での見守り・支え合いのネットワークの構築 | 40.6% |
| 6. 高齢者の孤立化防止対策 | 45.5% |
| 7. インフォーマルサービスを含めた地域資源の把握と市民への情報提供 | 25.7% |
| 8. 特になし | 1.0% |
| 9. その他〔具体的に： 〕 | 2.0% |
| 無回答 | 0.0% |

災害時等の対応についておたずねします

問 51 地域に暮らす高齢者について、災害時におけるリスクは何だと思いますか。(いくつでも○) (N=101)

- | | |
|--|-------|
| 1. 先行きが見通せず、不安が高まるおそれがある | 60.4% |
| 2. 不安やストレスを周りに訴えず、ためこんでしまっておそれがある | 53.5% |
| 3. 必要な情報が入り手が難しい | 84.2% |
| 4. 一般避難所の環境で過ごすことが難しい | 72.3% |
| 5. 訪問系、通所系のサービスが途絶えると、在宅生活が成り立たなくなる | 70.3% |
| 6. 日中活動がなくなると、ADLなどが悪化するおそれがある | 62.4% |
| 7. 自宅にとどまった場合、どこにどんな人がいるかわからなくなるおそれがある | 49.5% |
| 8. 想定されるリスクはない | 0.0% |
| 9. その他〔具体的に： 〕 | 1.0% |
| 無回答 | 0.0% |

4 介護サービス事業者調査

西東京市への要望についておたずねします

問 52 今後保険者としての西東京市に対し、事業者として望むことは次のうちどれですか。(3つまで○)
(N=101)

1. 苦情相談への指導・助言・援助	16.8%	8. 被保険者・家族への制度の周知	23.8%
2. ケアプランの指導	4.0%	9. 事業者に対するサービスの質の評価	1.0%
3. 施設等の空き情報の提供	16.8%	10. 介護人材確保のための取組	45.5%
4. 処遇難ケースの指導・助言・援助	35.6%	11. 地域包括支援センターの機能の充実	11.9%
5. 介護保険制度の最新情報提供	34.7%	12. 特にない	4.0%
6. 研修会やケース検討会の開催	16.8%	13. その他【具体的に：】	3.0%
7. 医療と介護の連携	15.8%	無回答	0.0%

問 53 「介護保険制度」全体をよりよくするため西東京市が力を入れるべきだと思うことは、次のうちどれですか。(3つまで○)
(N=101)

1. サービス事業者の質の向上につとめること	9.9%
2. 介護支援専門員やヘルパーなどの人材を育成すること	24.8%
3. 在宅サービスの充実により力を入れること	23.8%
4. 住民主体による介護予防やサービス提供の取組を推進すること	5.0%
5. 介護保険外サービスの充実を図ること	18.8%
6. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)などの施設を増やしていくこと	3.0%
7. 高齢期になっても住み続けられるよう、多様な住まい方の施策を充実すること	24.8%
8. 利用料や保険料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減すること	21.8%
9. 介護保険の目的や利用について、市民への啓発・PRを進めること	20.8%
10. 褒たきりにならないよう、介護予防サービスに力を入れること	9.9%
11. 地域全体で介護を支援する仕組みを充実すること	31.7%
12. 困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと	26.7%
13. 市民、事業者等の意見を集約し、東京都や国に提言していくこと	17.8%
14. わからない	3.0%
15. 特にない	0.0%
16. その他【具体的に：】	1.0%
無回答	0.0%

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定のための医療機関アンケート調査 ご協力をお願い

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を計画期間として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和8年度に、令和9年度から11年度までの「高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」を策定します。

このアンケート調査は、市内の医療機関の方に、医療と介護の連携に関することなどについてご意見とご要望をお聞かせいただき、計画の策定に役立てるものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年11月

西東京市長 池澤 隆史

記入についてお願い

1. この調査は、令和7年11月1日現在でお答えください。
2. 回答は、貴医療機関としてのお考えを表明できる方がお答えください。
3. この調査は、インターネットによるご回答となります。

11月25日(火)までに ご回答ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時(土日・祝日を除く。)

★調査の内容について
株式会社 生活構造研究所 TEL 0120-650-276 (フリーダイヤル)

★調査の發信、インターネット回答方法について
西東京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810～2816 (直通)

(この調査は西東京市が株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。)

5 医療機関調査

貴医療機関についておたずねします

問1 記入者の職種は次のどれですか。(1つに○) (N=112)

1. 医師	35.7%	5. 医療ソーシャルワーカー	0.9%
2. 歯科医師	27.7%	6. 事務職	8.0%
3. 薬剤師	25.0%	7. その他〔具体的に: 〕	0.0%
4. 看護師	2.7%	無回答	0.0%

問2 貴機関を教えてください。(1つに○) (N=112)

1. 病院	1.8%
2. 一般診療所 (在宅療養支援診療所としての届出有)	22.3%
3. 一般診療所 (在宅療養支援診療所としての届出無)	21.4%
4. 歯科診療所 (在宅療養支援歯科診療所としての届出有)	7.1%
5. 歯科診療所 (在宅療養支援歯科診療所としての届出無)	21.4%
6. 薬局 (在宅患者訪問薬剤管理指導に関わる届出有)	24.1%
7. 薬局 (在宅患者訪問薬剤管理指導に関わる届出無)	0.9%
8. その他〔具体的に: 〕	0.9%
無回答	0.0%

問3 貴機関は、在宅医療の実施に関してどのようなようにお考えですか。(1つに○) (N=112)

1. 積極的に提供していきたい	25.9%	3. 提供したいが、できない	25.0%
2. 提供しているが、積極的ではない	33.0%	4. 提供するつもりはない	16.1%
無回答			0.0%

問4 貴機関について、在宅医療を実施する上での課題をお答えください。(3つまで○) (N=112)

1. 訪問するための時間が確保できない	63.4%
2. スタッフが不足している	58.0%
3. 患者からのニーズが少ない	16.1%
4. 実施するためのノウハウの不足	13.4%
5. 体力的に無理がある	34.8%
6. 採算がとれない	11.6%
7. 病院との連携が難しい	8.0%
8. 他の診療所(耳鼻科、眼科、皮膚科、歯科等)との連携が難しい	7.1%
9. 介護事業者との連携が難しい	9.8%
10. その他〔具体的に: 〕	8.9%
無回答	0.0%

在宅医療の取組状況についておたずねします

※ 西東京市民への在宅医療の取組状況（令和7年11月1日現在）についておたずねします。
 問5は一般診療所、問6は歯科診療所、問7は薬局の方がお答えください。

問5 一般診療所 (n=50)	行った	行わなかった	無回答
①訪問診療	48.0%	52.0%	0.0%
②住診	42.0%	58.0%	0.0%
③訪問看護ステーションへの訪問看護指示書の交付	80.0%	20.0%	0.0%
④在宅での看取り	30.0%	70.0%	0.0%
⑤居宅療養管理指導	34.0%	66.0%	0.0%

問6 歯科診療所 (n=33)	行った	行わなかった	無回答
令和7年10月中に以下の在宅医療を行いましたか。	18.2%	81.8%	0.0%
①訪問歯科診療	9.1%	90.9%	0.0%
②居宅療養管理指導			

問7 薬局 (n=29)	行った	行わなかった	無回答
令和7年10月中に以下の在宅医療を行いましたか。	48.3%	51.7%	0.0%
①在宅患者訪問薬剤管理指導	75.9%	24.1%	0.0%
②居宅療養管理指導			

問8 令和7年10月の1か月間における、貴機関の在宅医療患者数（実人数）について、居住地域別にご記入ください。(N=112)

	西東京市内	西東京市外
自宅	平均11.71人	平均0.49人
居住系施設※	平均4.00人	平均0.11人
介護老人福祉施設（特養）	平均4.10人	平均0.0人
介護老人保健施設	平均7.84人	平均0.0人
その他	平均1.71人	平均0.49人

※有料老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅等

問9 問8で「その他」と回答した場合は、その具体的な内容をお答えください。

問10 問8で記入した在宅医療患者数に対し、さらに何人程度の患者に対応できると考えますか。(1つに○)(N=112)

1. 0人	47.3%	4. 11人以上	10.7%
2. 1～5人	35.7%	5. 今よりも対応人数を減らしたい	0.9%
3. 6～10人	5.4%	無回答	0.0%

問11 貴機関は、在宅医療を行う区域や距離を決めていますか。決めている場合は、具体的な内容をご記入ください。(1つに○)(N=112)

1. 区域を決めている	13.4%
2. 距離を決めている	27.7%
3. 特に決めていない	49.1%
4. その他	9.8%
無回答	0.0%

⇒ [具体的に:]

問12 問11で「1」または「2」と回答した場合は、その具体的な内容をお答えください。

問13 貴機関は、在宅医療を行う時間帯を決めていますか。(1つに○)(N=112)

1. 24時間365日対応している	19.6%
2. 営業時間内（外来診療時間内・開局時間内）のみ対応している	18.8%
3. 営業時間外（外来診療時間外・開局時間外）のみ対応している	8.9%
4. 平日のみ対応している	3.6%
5. 曜日や時間を決めて対応している	15.2%
6. 特に決めていない	25.0%
7. その他（具体的に:]	8.9%

医療と介護の連携についておたずねします

問 14 貴機関を受診する患者への対応について、医療と介護は連携していると思いますか。(1つに○)
(N=112)

1. 十分連携していると思う	9.8%
2. ある程度連携していると思う	37.5%
3. 連携が十分であると思う	20.5%
4. ほとんど連携していないと思う	11.6%
5. わからない	20.5%
無回答	0.0%

問 15 問 14 で「1」「2」と回答した方におたずねします。
貴機関は、どのような方法で連携していますか。(いくつでも○) (n=53)

1. サービス担当者会議に参加している	52.8%
2. カンファレンスを行っている	24.5%
3. 日常的に顔の見える関係築くための会合を行っている	26.4%
4. 電話で行っている	77.4%
5. FAXで行っている	67.9%
6. 電子メールで行っている	24.5%
7. MCS (メディカルケアステーション) 等の ICT システムで行っている	62.3%
8. その他 [具体的に:]	5.7%
無回答	0.0%

問 16 問 14 で「3」「4」と回答した方におたずねします。
貴機関がそのように考える理由は何ですか。(3つまで○) (n=36)

1. 医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない	36.1%
2. お互いに多忙で連絡がとれない	36.1%
3. 個人情報保護の観点から情報が共有されない	13.9%
4. 交流の場がない	41.7%
5. 誰と連絡をとればいいのかわからない	30.6%
6. 医療関係者の介護に関する知識や理解が不足している	13.9%
7. 介護関係者の医療に関する知識や理解が不足している	8.3%
8. その他 [具体的に:]	8.3%
無回答	0.0%

問 17 貴機関を受診する患者への対応について、次の関係機関、職種との連携状況をお答えください。(ア～ソそれぞれ1つに○)
(N=112)

	連携している	少しは連携している	あまり連携していない	業務上関わりがない	無回答
ア. 病院	39.3%	31.3%	15.2%	4.5%	0.0%
イ. 一般診療所	28.6%	38.4%	17.9%	2.7%	0.0%
ウ. 歯科診療所	16.1%	17.9%	26.8%	8.9%	0.0%
エ. 薬局	42.0%	24.1%	17.9%	4.5%	0.0%
オ. 居宅介護支援事業所	24.1%	19.6%	22.3%	7.1%	0.0%
カ. 訪問看護事業所 (ステーション)	33.0%	17.0%	15.2%	9.8%	0.0%
キ. 訪問介護事業所	16.1%	21.4%	25.0%	10.7%	0.0%
ク. リハビリテーション施設	3.6%	13.4%	28.6%	14.3%	0.0%
ケ. 介護老人福祉施設 (特養)	7.1%	8.0%	20.5%	17.0%	0.0%
コ. 介護老人保健施設	3.6%	9.8%	17.9%	19.6%	0.0%
サ. 地域包括支援センター	22.3%	23.2%	22.3%	8.0%	0.0%
シ. 在宅療養支援センター	10.7%	11.6%	25.0%	14.3%	0.0%
ス. 保健所	8.0%	18.8%	31.3%	8.9%	0.0%
セ. 市役所	14.3%	25.9%	25.0%	8.0%	0.0%
ソ. 社会福祉協議会	4.5%	6.3%	33.9%	13.4%	0.0%

問 18 貴機関 (あなた) は市が医療と介護の連携を支援する機関として設置した「在宅療養連携支援センター」に「のわ」を知っていますか。(1つに○) (N=112)

1. 名称も内容も知っている	39.3%
2. 名称は聞いたことがある	25.9%
3. はじめて聞いた	34.8%
無回答	0.0%

問 19 「在宅療養連携支援センター にしのわ」に期待することは何ですか。

(いくつでも)	(N=112)
1. 地域の医療・介護資源の把握	55.4%
2. 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	35.7%
3. 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築	42.0%
4. 在宅医療・介護関係者の情報の共有支援	42.9%
5. 在宅医療・介護関係者に関する相談支援	42.9%
6. 医療・介護関係者の研修	26.8%
7. 在宅療養やACP等に関する地域住民への普及啓発	22.3%
8. 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村との連携	23.2%
9. その他〔具体的に： 無回答〕	8.9% 0.0%

問 20 市では今後とも医療と介護の連携を推進していく方針ですが、貴機関として今後の意向をお聞かせください。(1つに○)

(N=112)	
1. ぜひ協力したい	15.2%
2. できる限り協力したい	37.5%
3. 協力したいが多忙などの理由により難しい	34.8%
4. 協力したくない	2.7%
5. わからない	9.8%
無回答	0.0%

認知症についておたずねします

問 21 認知症のある人の受診・治療にあたって配慮していることとして、どのようなことがありますか。(いくつでも○)

(N=112)	
1. 認知症のある人とのコミュニケーション	69.6%
2. 認知症のある人のプライバシーの尊重・確保	46.4%
3. 本人や家族へのインフォームドコンセント	74.1%
4. 認知症のある人の生活歴や状況に配慮した受診・治療体制	45.5%
5. 認知症のある人が不安を和らげる等、BPSDを予防する取組	26.8%
6. 他の利用者や家族、地域とのふれあい・交流の促進	20.5%
7. 認知症のある人が快適に過ごせる環境の調整(音・光、見当識支援など)	12.5%
8. 認知症診療・ケアをチームで推進するための体制づくり	18.8%
9. 認知症対応力研修や民間の専門研修等の受講	17.9%
10. 認知症診療・ケアに関する最新情報のアップデート	23.2%
11. 認知症関連の資源や介護事業所、医療機関等との連携	26.8%
12. 特になし	3.6%
13. その他〔具体的に： 無回答〕	1.8% 0.0%

問 22 認知症のある人の治療にあたりどのような機関と連携をしていますか。

(いくつでも)	(N=112)
1. 認知症疾患医療センター	17.9%
2. もの忘れ外来などかある高齢者医療の専門機関	28.6%
3. 高齢者医療の専門機関ではないが、相当の設備を有する医療機関	10.7%
4. 診療経験の豊富な医師や専門職のいる医療機関・クリニック	24.1%
5. 特に連携していない	48.2%
6. その他〔具体的に： 無回答〕	0.9% 0.0%

問 23 今後、認知症のある人のためになる医療・介護の連携に大切なことは何だと思えますか。(いくつでも○)

(N=112)	
1. 認知症への偏見をなくし、正しい理解をふまえた連携を進めること	51.8%
2. 本人の立場から本人の意思決定に配慮した支援を行うこと	49.1%
3. 本人や家族への接し方や説明の仕方などに配慮していくこと	68.8%
4. 認知症の観点から本人の生活歴、心身・生活状況のアセスメントを行うこと	34.8%
5. 地域の関係者との関わりなど、医療・介護連携を地域ぐるみで進めること	33.0%
6. かかりつけ医とケアマネジャー、看護、介護との連携を進めること	48.2%
7. 認知症の進行段階ごとに医療・介護の連携方法を見直ししていくこと	42.9%
8. 入退院調整、BPSD対応等の医療・介護の連携に力を入れること	22.3%
9. その他〔具体的に： 無回答〕	2.7% 0.0%

看取りの状況についておたずねします

問 24 貴機関で、令和6年11月1日から令和7年10月31日までの1年間に在宅で看取った患者数は何人ですか。

平均 4.6 人

問 25 在宅での看取りが可能な条件は何ですか。(いくつでも○)

(N=112)	
1. 複数医師で診る体制づくり(他医院との連携体制などのチーム医療)	43.8%
2. 在宅看取りに関する情報交換、相談や支援を受けられる体制づくり	38.4%
3. 在宅看取りに関する研修会の充実	17.9%
4. 24時間対応訪問看護ステーションとの連携強化	53.6%
5. 患者・家族や住民への啓発・普及	46.4%
6. その他〔具体的に： 無回答〕	12.5% 0.0%

問 26 在宅での看取りに関する課題等は何ですか。(いくつでもO) (N=112)

1. 急変時や増悪時の後方支援病院等のバックアップ体制の確立	59.8%
2. 複数医師で診る体制づくり(他医院との連携体制などのチーム医療)	44.6%
3. 24時間対応訪問看護ステーションとの連携体制づくり	47.3%
4. 在宅医療に関する情報交換、相談や支援を受けられる体制づくり	31.3%
5. 在宅医療に関する研修会の充実	15.2%
6. 在宅介護従事者との連携体制づくり(訪問介護、通所サービス、短期入所など)	21.4%
7. 在宅医療従事者との連携体制づくり(訪問リハビリテーション、訪問歯科診療など)	21.4%
8. 患者家族や住民への啓発・普及	36.6%
9. その他【具体的に:]	8.9%
無回答	0.0%

問 27 貴機関は、ACP (アドバンス・ケア・プランニング) を実践したことがありますか。(1つにO) (N=112)

1. 実践したことがある	19.6%	2. 実践したことがない	80.4%
無回答		無回答	0.0%

問 28 貴機関が、ACP (アドバンス・ケア・プランニング) を進める上で必要と考えられることは何ですか。(3つまでO) (N=112)

1. 利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること	43.8%
2. 早いタイミングから行うこと	19.6%
3. 一度だけでなく、継続的に意向の確認や話し合いをすること	41.1%
4. 日頃から、気持ちを話せる雰囲気や人間関係をつくること	34.8%
5. 本人の意向を尊重し、最期まで意思決定支援を心がけること	30.4%
6. 適切なサービス調整や支援ができる多職種での連携を進めること	15.2%
7. 本人・家族との不一致、家族間の調整にも配慮すること	18.8%
8. その他【具体的に:]	8.0%
無回答	0.0%

災害時等の対応についておたずねします (N=112)

問 29 災害が発生した場合、貴機関では「診療を継続する」ための体制は整っていますか。(1つにO)

1. 備えており、一定期間の診療継続が可能だと考えている	8.0%
2. 一部の備えはあるが、十分とは言えない	46.4%
3. 診療継続は難しい(特に備えていない)	40.2%
4. わからない	5.4%
無回答	0.0%

問 30 災害時等の対応として貴機関が取り組んでいることについてお答えください。(いくつでもO) (N=112)

1. 災害対応マニュアル等を作成し、職員に周知している	25.9%
2. 災害対応マニュアル等を定期的に見直しし、内容を更新している	9.8%
3. 業務継続計画 (BCP) を策定している	24.1%
4. 災害発生時の対応について、患者や家族等に説明をしている	8.0%
5. 近隣の住民等と、災害時の協力関係を築いている	2.7%
6. 法人内で、災害時の応援体制ができています	6.3%
7. 他法人、他医療機関と災害時の応援・連携の協力体制を組んでいる	0.0%
8. 食料・水・医薬品等の必要な物資を備蓄している	24.1%
9. 停電に備えて、自家発電機を設置している	8.0%
10. 災害時対応の研修に職員が受講している	12.5%
11. 法人内または院内で災害時対応の研修を実施している	3.6%
12. 法人内または院内で災害訓練を実施している	4.5%
13. 特に取り組んでいない	42.0%
14. その他【具体的に:]	0.9%
無回答	0.0%

問 31 地域に暮らす高齢者について、災害時におけるリスクは何だと思いますか。(いくつでもO) (N=112)

1. 先行きが見通せず、不安が高まる可能性がある	65.2%
2. 不安やストレスを周りに訴えず、ためこんでしまう可能性がある	45.5%
3. 必要な情報を入力することが難しい	66.1%
4. 一般避難所の環境で過ごすことが難しい	62.5%
5. 訪問系、通所系のサービスが途絶えると、在宅生活が成り立たなくなる	43.8%
6. 日中活動がなくなると、ADLなどが悪化する可能性がある	57.1%
7. 自宅にとどまった場合、どこにどんな人がいるかわからなくなる可能性がある	40.2%
8. 想定されるリスクはない	0.0%
9. その他【具体的に:]	0.0%
無回答	0.0%

5 医療機関調査

身寄りのない方への支援についておたずねします

問 32 貴機関で、身寄りのない方の支援について、次のようなことで困ったことはありますか。(いくつでも○) (N=112)

1. 日常的な金銭管理・各種支払い	35.7%	8. 退院時の本人引き取り	9.8%
2. 身の回りの品の購入補助	21.4%	9. 亡くなった場合の遺体・遺品の引き取り	16.1%
3. 入院計画・医療行為の同意補助	25.9%	10. 緊急時の連絡先	36.6%
4. 受診付き添い	35.7%	11. 本人の意思が確認・推定できない	26.8%
5. 契約の補助	19.6%	12. 特になし	25.9%
6. 医療費の滞納時の補償	21.4%	13. その他〔具体的に： 〕	1.8%
7. 施設設備等の損壊の賠償保障	6.3%	無回答	0.0%

問 33 厚生労働省が出している「身寄りがいない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン及び事例集」を知っていますか。(1つに○) (N=112)

1. 知っていて、読んだことがある	4.5%
2. 知っているが、読んだことはない	17.0%
3. 知らない	78.6%
無回答	0.0%

西東京市の施策についておたずねします

問 34 地域包括ケアシステム推進に向けた課題は何だと思いますか。(1つに○) (N=112)

1. 必要な介護サービスを身近で利用できる事業所が少ない	8.9%
2. 相談・支援窓口の認知度が低く、サービスを受けられない高齢者が多い	21.4%
3. 介護事業所とのスムーズな連携ができていない	8.0%
4. 老老介護、8050問題など、支援が難しいケースが増えている	18.8%
5. 単身で身寄りのない高齢者が増えてきており、緊急時の対応等が難しい	25.9%
6. 集合住宅では、地域での見守り・支え合いが難しい	1.8%
7. インフォーマルサービスを含めた社会資源の情報提供が不足している	9.8%
8. その他〔具体的に： 〕	5.4%
無回答	0.0%

問 35 西東京市の在宅医療・介護連携や介護保険制度について、ご意見、ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

.....

.....

.....

.....

西東京市
高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第10期)・
認知症施策推進計画
策定のためのアンケート調査報告書

令和8年3月発行
発行:西東京市健康福祉部高齢者支援課
所在地:西東京市南町五丁目6番13号(田無第二庁舎)
電話番号:042(464)1311